業　績　目　録　集

解剖学第一講座

〈研究業績〉

原　著

1. Tanano A, Hamada Y, Takamido S, Kataoka Y, Watanabe J, Kamiyama Y and Yamada H（2005）Structural development of PGP9.5-immunopositive myenteric plexus in embryonic rats. Anat Embryol 209: 341–348
2. Kurokawa K, Tamura Y, Kataoka Y, Yamada H, Nakamura T, Taki K and Kudo M（2005）A mammalian dpy-19 homologue is expressed in GABAergic neurons. Med Mol Morphol 38: 79–83
3. Kataoka Y, Tamura Y, Cui Y and Yamada H（2005）Neural activity-dependent cellular proliferation in the rat cerebral cortex. Acta Histochem Cytochem 38: 93–98
4. 渡辺　淳，浅香庸子，高森康晴，山田久夫（2005）転写因子を観る．顕微鏡　40: 46–48
5. 井岡真基，片岡洋祐，山田久夫（2005）ラット妊娠母体に投与したゲニスタインが出生仔の精巣重量に与える影響. 医学のあゆみ　214: 1033–1034

学会発表

1. Kataoka Y（2005）Prostaglandins produced by neuronal activity-dependent COX-2 expression involve mental fatigue and the restoration. International Conference on Fatigue Science 2005, Karuizawa, Japan
2. Cui Y, Tamura Y, Yamada H and Kataoka Y（2005）Use-dependent induction of non-REM sleep by neuronal COX-2: A possible pathway for mental fatigue recovery. International Conference on Fatigue Science 2005, Karuizawa, Japan
3. 片岡洋祐，小田-望月紀子，田村泰久，山田久夫（2005）近赤外レーザー照射による中枢神経機能制御. 第25回レーザー学会学術講演会，京都
4. 片岡洋祐，池浦　司，崔　翼龍，田村泰久，山田久夫（2005）光酸化技術を用いた神経投射選択的な神経細胞死の誘導とその形態学的追跡．第110回日本解剖学会総会，富山
5. 高森康晴，田村泰久，片岡洋祐，山田久夫（2005）ラット脳におけるラミンB1陽性細胞の解析．第110回日本解剖学会総会，富山
6. 崔　翼龍，片岡洋祐，乾　　隆，田村泰久，高森康晴，望月貴年，尾上浩隆，松村　潔，裏出良博，山田久夫，渡辺恭良（2005）終脳皮質の過剰興奮による徐波睡眠の誘発について．第28回日本神経科学大会，横浜
7. 高森康晴，田村泰久，片岡洋祐，山田久夫（2005）海馬歯状回での神経系細胞の分化にともなう核ラミンの動態変化．第14回海馬と高次脳機能学会，山形
8. 池浦　司，高御堂祥一郎，田村泰久，崔　翼龍，片岡洋祐，山田久夫（2005）慢性膵炎モデルラットにおいて増生している膵内一次求心性神経線維の組織化学的解析. 第110回日本解剖学会総会，富山
9. 池浦　司，中野雅貴，田村泰久，崔　翼龍，片岡洋祐，山田久夫（2005）光酸化法を用いた選択的な神経細胞死の誘導．第46回日本組織細胞化学会総会・学術集会，京都
10. 田村泰久，片岡洋祐，崔　翼龍，高森康晴，仁平美果，山田久夫（2005）終脳皮質過剰興奮モデルにおける増殖細胞の性質について．第110回日本解剖学会総会，富山
11. 田村泰久，片岡洋祐，崔　翼龍，高森康晴，池浦　司，山田久夫（2005）中枢神経活動に依存して分裂・増殖する成獣ラット終脳皮質内前駆細胞の同定．第28回日本神経科学大会，横浜
12. 田村泰久，片岡洋祐，崔　翼龍，高森康晴，山田久夫（2005）成熟脳でのニューロン新生．第37回日本臨床分子形態学会総会（シンポジウム），大阪

13. 黒川　清，山田久夫，工藤　基（2005）MDPY-19マーカーとニューロンの分化．第37回日本臨床分子形態学会総会（シンポジウム），大阪
14. 片岡洋祐，池浦　司，崔　翼龍，田村泰久，山田久夫（2005）光感応性分子を用いた新しい神経トレーサー研究．第46回日本組織細胞化学会総会・学術集会（シンポジウム），京都

解剖学第二講座

〈研究概要〉

原著1　Enhanced hippocampal acetylcholine release in nociceptin-receptor knockout mice

Nociceptin（NOC）, an endogenous ligand of the opioid receptor-like 1 receptor, is thought to be involved in learning and memory processes. Since acetylcholine（ACh）is involved in hippocampal function, and the hippocampus plays a critical role on the learning and memory function, hippocampal ACh release in NOC-receptor knockout mice was examined using an in vivo microdialysis method. The release of hippocampal ACh was largely increased in the knockout mice. Furthermore, in the knockout mice, an enhanced hippocampal theta rhythm, which is known to be linked to hippocampal memory function, was also observed. Immunohistochemically, in septum, co-existence of NOC receptor with cholinergic, but not with GABAergic neurons, was verified. The findings demonstrate that the NOC receptor is involved in hippocampal cholinergic function.

原著2　新規イオンチャネル型受容体のクローニングと発現解析

リガンド作動性イオンチャネル型受容体ファミリーとして，グルタミン酸，GABA，グリシン，アセチルコリン，セロトニン受容体が知られている．このうちセロトニン受容体は，受容体タンパク質の精製より分子量の異なる数種のサブユニットから構成されると推定されているものの，それまでに報告されている遺伝子は，5HT3A，5HT3Bの2種類しか見つかっていなかった．新規受容体の存在を調べるために，5HT3A受容体アミノ酸配列をもとにヒトゲノムデータベースの検索を行った．その結果，“L2受容体”と名付けた新規イオンチャネル型受容体遺伝子をヒト第17番染色体上に同定しクローニングすることができた．このL2受容体遺伝子は5HT3A，5HT3Bと同じ9つのエクソンから構成され，そのタンパク質構造は，シグナルペプチド（exon 1）とCys-Cysループ（exon 5）を有する長い細胞外アミノ末端領域，4カ所の膜貫通領域（exon 7～9），長い第2細胞内ループ（exon 8，9）が認められ，リガンド作動性イオンチャネル型受容体としての特徴を有していた．興味深いことにL2受容体遺伝子のエクソン7から9部分は，その下流にコードされるexocyst complex component 7（EXOC7）遺伝子の3′非翻訳領域と相補鎖にそれぞれコードされていることが判明した．またクローニングの過程で，L2受容体遺伝子のエクソン3と4が欠失したものと，エクソン7の5′側55 bpが欠失した2種類のスプライシングヴァリアントが得られたが，いずれも欠失後のフレームシフトによりタンパク合成が停止するtruncated formをコードするものと考えられる．

RT-PCRによるmRNA発現解析から，5HT3A受容体は脳，心臓，胎盤，肺，腎臓，膵臓，骨格筋に，5HT3B受容体は脳，腎臓，骨格筋にそれぞれ発現が認められたのに対し，L2受容体mRNA発現は心臓，肺，肝臓，腎臓，膵臓，骨格筋，脳－海馬，線条体，扁桃体，視床－などに認められた．GFP融合タンパク質の培養細胞での発現解析から，L2受容体タンパクは細胞膜面上に局在し，糖鎖をもった膜タンパクであることを確かめた．また合成ペプチドに対するL2受容体特異的抗体により，ヒト海馬において，CA3野の錐体細胞と歯状回多型細胞層において免疫陽性を呈した．

マウス，ラットのゲノム配列を解析したところ，L2受容体の前後に位置する遺伝子（ガラニン受容体，EXOC7）は高度に保存されていたものの，当該受容体がコードされている領域においては塩基配列の保存性が低く，齧歯類においてL2受容体は発現していないものと考えられる．一方これまでに解析されつ

つある動物種においてはチンパンジー，イヌ，ウシ，オポッサムでオルソログ遺伝子の存在が確認できた．L2受容体が特定の動物種においてのみ発現する非常に興味深い遺伝子であると考えられる．

以上のことから，L2受容体は，ヒト中枢神経系での情報伝達においてイオンチャネル型受容体として機能し得ることが強く示唆された．

〈研究業績〉

原　著

1. Uezu K, Sano A, Sei H, Toida K, Houtani T, Sugimoto T, Suzuki-Yamamoto T, Takeshima H, Ishimura K and Morita Y（2005）Enhanced hippocampal acetylcholine release in nociceptin-receptor knockout mice. Brain Res 1050: 118–123
2. Houtani T, Munemoto Y, Kase M, Sakuma S, Tsutsumi T and Sugimoto T（2005）Cloning and expression of ligand-gated ion-channel receptor L2 in central nervous system. Biochem Biophys Res Commun 335: 277–285

学会発表

1. 水主知佳，樋田一徳，清蔭恵美，勢井宏義，山本登志子，宝谷剛志，杉本哲夫，石村和敬（2005）ノシセプチン受容体の脳内局在～視床下部・中隔・海馬～．第50回日本顕微鏡学会，福岡
2. 加瀬政彦，堤　俊之，佐久間覚，宝谷剛志，杉本哲夫（2005）ラット大脳皮質パルブアルブミン含有ニューロンにおける遺伝子発現プロファイリングの新たな手法．第28回日本神経科学大会，横浜
3. 堤　俊之，宝谷剛志，佐久間覚，加瀬政彦，杉本哲夫（2005）Precerebellar nucleiのコリン作動性神経終末―分布の部位差について．第110回日本解剖学会総会・全国学術集会，富山
4. 堤　俊之，宝谷剛志，佐久間覚，加瀬政彦，杉本哲夫，山下敏夫（2005）脳幹部コリン作動性ニューロンのシナプス局在と機能．第23回頭頸部自律神経研究会，大阪
5. 堤　俊之，宝谷剛志，佐久間覚，加瀬政彦，樋田一徳，杉本哲夫（2005）小胞膜アセチルコリントランスポーター陽性線維の橋核群への終止・局在．第81回日本解剖学会近畿支部学術集会，京都

生理学第一講座

〈研究概要〉

1）内向き整流Kチャネルの細胞外Kイオン依存性開閉機構

膜二回貫通型Kチャネル結晶のX線解析により，selectivity filterの入口付近にKイオンが結合していることがわかっている．この部位を同定するため，内向き整流Kチャネル（Kir2.1）の細胞外ループ（M1とH5，H5とM2の連結部）の酸性アミノ酸残基を中性化した．変異体遺伝子（D112N，D114N，E125Q，D152N，E153Q及びD112N/D114N）を導入した培養細胞（COS1細胞，HEK293細胞）では内向き整流K電流を記録できたが，D152N/E153Qを導入した細胞では内向き整流K電流を記録できなかった．野生型遺伝子（WT）あるいはE153Q1個とD152N/E153Q変異体遺伝子3個を直列に連結した遺伝子（WT-（D152N/E153Q）3，E153Q-（D152N/E153Q）3）を導入すると，内向き整流Kチャネル電流を記録できるようになったが，D152N-（D152N/E153Q）3を導入した細胞では内向き整流K電流を記録できなかった．したがってD152，E153の陰性電荷が細胞外Kイオンの結合とチャネルの活性化に関与していること，D152の場合は1つでよいが，E153の場合は2つ以上の陰性電荷が必要であることがわかった．またWT及び内向き整流性が弱いD172N/E224Sを導入した細胞でoutside-out法で電流記録を行うと，細胞外Kイオンがなくても外向き電流を記録することができた．細胞内から流出するKが細胞外結合部位に結合し，チャネルを活性化できると考えられる．

2）神経細胞表現形発達への神経活動の影響

脳の表現形の生後発達，すなわち神経細胞機能の発達には神経活動が影響するが，神経活動および受容体の活性化が，どのように神経細胞表現形を変化させるかは不明である．また近年の研究は，表現形の発達には活動の有無そのものではなく，周辺の細胞との差の重要性を示唆している．そこで，神経活動を細胞特異的，慢性的に抑制するため，EGFP及び内向き整流Kチャネル（Kir2.1）を長期間発現可能なレンチウイルスベクターを作成し，ラット海馬錐体細胞に感染，発現させ，その影響を電気生理学的に解析した．その結果，EGFP単独の発現は同細胞の表現形に影響を与えないが，Kir2.1の発現は，同細胞の内在性の活動性に影響を与えると共に，ノイズーフィルターとしての作用を有することが示唆された．

3）海馬における抑制性シナプス伝達の修飾

ラット海馬における$GABA_A$受容体電流の特性を，スライス標品を使用し，パッチクランプ法とカルシウムイメージング法を組み合わせて調べている．まず，抑制性電流の細胞内Ca^{2+}動員による修飾について研究し，$GABA_A$電流はATPその他のアゴニスト刺激後の細胞内Ca^{2+}濃度上昇によっては影響されず，カフェイン投与のみにより抑制されることを見出した．またこの$GABA_A$電流の抑制が細胞内Ca^{2+}濃度上昇に依存しないことを示した．現在，抑制系シナプス伝達についてさらに実験を進めている．中枢神経の抑制性情報伝達については，これまで興奮性のそれに比して知見の蓄積が少なかったが，近年ようやく研究の対象にされ，主要な抑制性シナプスである$GABA_A$シナプスも，興奮性のシナプス同様，刺激に応じてその伝達効率が変化すると考えられるに至っている．そこで，電気的あるいは薬理学的刺激等を行い，スライス中の細胞の細胞内カルシウム濃度変化をモニターしつつ，同時に抑制性シナプス電流に変化がみられるか否かを検討している．スライスパッチクランプ法を用いて測定した$GABA_A$自発電流は，シナプス後細胞の脱分極によっては一貫した増強，抑制を示さなかったが，テタヌス刺激後に増強することを観測し，この機序について，現在解析中である．

4）膵臓導管細胞に機能発現する内向き整流性Kチャネルの同定

膵臓は重炭酸イオンに富む膵液を分泌し，十二指腸に流入する胃酸を中和する．膵臓導管細胞のKチャネルは重炭酸イオン輸送の駆動力の維持に必須であるが，その分子基盤と制御機構は解明されていない．パッチクランプ法を用いてラット膵臓導管細胞の機能解析を試みたところ，内向き整流性K電流が観察され，その性質はKir2のファミリーと類似していた．RT-PCR法でKir2.1，Kir2.2およびKir2.4の発現を認めた．膵臓導管細胞ではこれらの分子がホモまたはヘテロで機能的チャネルを構成し，重炭酸イオン輸送に貢献している可能性が示唆された．

5）ミクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素の小胞体残留シグナル

ミクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素（msALDH）はC末端側の膜貫通領域（17疎水性アミノ酸残基）で小胞体膜にアンカーし，分子のほとんどを細胞質側に出す典型的なC末端アンカー型膜蛋白質である．このタンパク質の小胞体残留シグナルが膜貫通領域と細胞質ドメインに小胞体残留シグナルを有することは既に明らかにした．今回，NAD-結合ドメインと触媒ドメインからなる細胞質ドメインのどの部位に小胞体残留シグナルがあるのかを検討した．種々の変異体のCHO細胞内局在を間接蛍光抗体法および免疫電顕法を用いて解析した結果，NAD-結合ドメインと触媒ドメインがそれぞれ単独で小胞体残留機能を有することが示唆された．

〈研究業績〉

学会発表

1. 林美樹夫，松田博子（2005）マウス内向き整流Kチャネル（Kir2.1）細胞外ループの酸性アミノ酸中性化の影響．第82回日本生理学会大会，仙台

2. 武藤　恵，松田博子（2005）海馬抑制性シナプス電流の高頻度刺激による変化．第 82 回日本生理学会大会，仙台
3. 柾木龍一，山本章嗣（2005）The NAD-binding and catalytic domains of microsomal aldehyde dehydrogenase contain signals for retention in the endoplasmic reticulum．第 58 回日本細胞生物学会大会，さいたま

生理学第二講座

〈研究概要〉

我が講座の主たる研究目標は高次脳機能について少しでも明らかにしたいという願いである．その目標達成のため，サルを用い形態学的，行動学的および電気生理学的手法を駆使しつつ一歩，また一歩とたゆみない努力を日々続けている．さらに遺伝性小脳変性症モデルマウスを用いた小脳疾患の症状軽減に有用な治療法をめざす研究，および骨髄間質細胞の生理学的機能に関する研究も行っている．本年，講座スタッフによって行われた研究内容につき以下に述べる．

1. 骨髄間質細胞の生理学的解析

骨髄内の付着系細胞（間質細胞）に含まれる間葉系幹細胞は，骨・軟骨・心筋・脂肪・神経・骨格筋への多分化能を保持する体性幹細胞である．大人の骨髄にも含まれることから安全な自家移植の道を開いた再生医療の材料の一つとして注目され，生体組織の機能再建を目的とした研究並びに医療への応用が各方面で進められている．この細胞において機能するイオンチャネル・レセプターに関する研究を進める目的で，ラット大腿骨骨髄より採取し培養した骨髄間質細胞において，カルシウム蛍光色素 Fura-2 を用いた細胞内カルシウム濃度測定を行った．そして，細胞外ヌクレオチドで刺激した際の細胞内カルシウム濃度変化を測定したところ，ATP および UTP がカルシウム濃度上昇を引き起こすことを見出した．このカルシウム濃度上昇は細胞外液からカルシウムイオンを除去しても同様に起こった．さらに他の種類のヌクレオチドとの作用強度を比較検討した結果，G タンパク共役型プリン受容体の一つである $P2Y_2$ 受容体の存在が推定された．さらに抗体を用いた免疫組織化学的検討の結果，骨髄間質細胞における $P2Y_2$ 受容体の発現が確認できた．また，受容体を介したカルシウムシグナリングが細胞密度によって様々に変化することも判明し，現在これらに関して解析中である．本研究の結果を手掛かりとして，将来的には生体骨髄内環境の維持や造血幹細胞との連関における骨髄間質細胞の役割の一考察ができればと考えている．

2. 小胞体ストレスとミクログリアの神経変性症への関与についての研究

我々は，pcd（Purkinje cell degeneration）マウスという遺伝性小脳変性症モデルマウスの運動機能障害や神経細胞死を研究してきた．pcd マウスは小脳プルキンエ細胞が生後脱落し運動失調を呈するミュータントマウスである．小胞体ストレスとは，小胞体内腔に折りたたみ異常のタンパク質が過剰に蓄積するようなストレスの総称であるが，パーキンソン病をはじめ多くの神経変性疾患に関係していることが最近報告されている．pcd マウスにおける小脳プルキンエ細胞の神経細胞死に際してカスパーゼ 12 や CHOP という小胞体ストレスに特異的なカスパーゼや転写因子の活性化を観察し，この神経細胞死に小胞体ストレスが関与していることを報告した（Neurosci. Lett. 396: 91–96（2006））．また，小脳プルキンエ細胞の変性脱落期に多数の活動型ミクログリアが，小脳皮質の分子層に集中して認められた．活動型ミクログリアの出現部位周辺ではプルキンエ細胞が脱落，またはその樹状突起が顕著に脱落していた．一部のミクログリアでは誘導型一酸化窒素合成酵素が出現し，また，組織は著名な炎症反応を呈していた．神経細胞障害時には，ATP が漏出するといわれている．そこで小脳変性期に小脳スライス標本を作製し，特異的マーカーである B4 イソレクチンにより同定したミクログリアにて細胞内 Ca 測定を行った結果，ATP

の投与により著名な細胞内Ca濃度上昇が観察された.

3. サル7野の運動性および意欲依存性の活動

サルを訓練して自発性に手によるレバー上げ運動を行わせて7野を含む多くの大脳皮質の表面と2.0–3.0 mm深部に電極を埋め込み，大脳皮質電場電位を記録したが，その際レバーに荷重（最大400 g）をかけた．既に報告しているように，運動に約1 s先行する表面陰性－深部陽性の運動準備電位が運動前野，運動野，体性感覚野，5野および7野に出現した［1］．5野および7野の運動準備電位は，運動前野，運動野および体性感覚野と同様［2］，荷重の増加と共に増大した．これは荷重に対する頭頂連合野の予測制御を示唆する．さらにサルがレバー上げ運動を視覚刺激に応じて行えるようになるまでの学習期間中，大脳電場電位を記録した．学習早期の刺激と運動を結びつける認知学習期に，左前頭前野の弓状溝下行枝前壁近傍において表面陰性－深部陽性電位が出現した後，さらに左頭頂間溝後壁（7野）において表面陰性－深部陽性電位が出現して，学習の進展と共に増大した．その左7野の電位の生理的意義を調べるため，運動習熟後の左7野の電位振幅と反応時間の関係を検討した．その結果，電位振幅と反応時間の間には負の関係が見られ，各記録日の第1セッションは電位振幅が大きく反応時間は短いが，振幅の減少と共に反応時間が延びた．これは7野に意欲依存性活動のあることを示唆する．

［1］Gemba et al, Neurosci Lett 357: 68–72, 2004
［2］Hashimoto et al, Brain Res, 197: 415–423, 1984

4. サルにおける体性感覚誘発電位

体性感覚情報が大脳皮質の体性感覚野のみならず他の部位にも入力するのか，もし入力するのなら，潜時はどのくらいかを確かめるために，サル大脳皮質の様々な部位から体性感覚誘発電位（somatosensory evoked potential: SEP）を記録した．麻酔下でサルの正中神経を電気刺激し，大脳皮質両側の前頭前野，運動前野，運動野，体性感覚野および頭頂連合野（5野，7野）の表面と2.0–3.0 mm深部に慢性的に埋め込んだ対電極からSEPを同時記録した．電気刺激と対側の大脳皮質領野において，20 ms以下の潜時を持つSEPが潜時の短い方から体性感覚野，7野，運動野，5野，運動前野および前頭前野の順に記録された．最短潜時の体性感覚野のSEPは，潜時8 ms，表面―陽性，深部―陰性（surface-positive, depth-negative: s-P, d-N）の電位であった．一方，7野と前頭前野では表面―陰性，深部―陽性（surface-negative, depth- positive: s-N, d-P）電位であり，さらに運動野，5野および運動前野におけるSEPはs-P, d-N電位であった．刺激と同側の大脳皮質領野においては，最短潜時のSEPは体性感覚野から記録され，潜時13–20 msのs-N，d-P電位であった．これらの結果から比較的短潜時のSEPが体性感覚野や運動野だけでなく，頭頂連合野，前頭前野および運動前野からも出現することがわかった．さらに7野ではかなり短い潜時でs-N，d-P電位が記録されたことから，体性感覚野に加え，視床から直接7野に入力する体性感覚情報があると考えられる．

5. Nogo電位の発生機構に関する形態学的および電気生理学的研究

サルが手の運動を抑止する際に，前頭前野の主溝背側壁において，皮質表面で陰性，深部で陽性の大脳皮質フィールド電位（Nogo電位）の記録されることが知られている［1］．このような表面―陰性，深部―陽性の電位は浅層性視床大脳皮質投射により引き起こされるので，Nogo電位の視床における由来を調べるため，その電気刺激により主溝背側壁に表面―陰性，深部―陽性電位が引き起こされる視床部位を同定した．その結果，主に前腹側核と背内側核が主溝背側壁を含む46野に浅層性視床大脳皮質投射を送っていることが判明した．前腹側核から主溝背側壁への投射は主溝背側壁の尾側部に限局していた．これは視覚刺激に基づいて運動を抑止する際のNogo電位の出現部位に一致している．さらに，帯状回の電気刺激による大脳皮質フィールド電位を前頭前野において記録したところ，前部帯状回（24野）および後部帯状回（23野）に，その電気刺激が前頭前野に表面―陰性，深部―陽性電位を引き起こす部位が

見出された．これらの電位分布は，前腹側核および背内側核刺激による表面―陰性，深部―陽性電位の分布にほぼ一致していた．前腹側核と背内側核には，帯状回からの投射が形態学的に確認されていること考慮すれば，帯状回から視床（前腹側核あるいは背内側核）を介して前頭前野に至る経路により，Nogo電位が引き起こされるという可能性を，これらの結果は支持している．

［1］Sasaki K, Gemba H, Exp Brain Res 64: 603–606, 1986

〈研究業績〉

原　著

1. Seki T, Gemba H, Matsuzaki R and Nakao K（2005）Readiness potential and movement initiation in the rat. Jpn J Physiol 55(1): 1–9
2. Gemba H, Nakao K, Matsuzaki R and Kyuhou S（2005）The process from internal stimulus to movement initiation. Curr Trends Neurol 1: 109–123
3. Kyuhou S, Kato N and Gemba H（2006）Emergence of endoplasmic reticulum stress and activated microglia in Purkinje cell degeneration mice. Neurosci Lett 396: 91–96
4. 玄番央恵（2005）メディカルエシックス32．メディカルエシックス32（第32回医学系大学倫理委員会連絡会議）　32: 12
5. 玄番央恵（2005）メディカルエシックス33．メディカルエシックス33（第33回医学系大学倫理委員会連絡会議）　33: 89

総　説

1. 玄番央恵（2005）生物の多様性を知ることの意義．生理学女性研究者の会NEWSLETTER 20: 14
2. 玄番央恵（2005）小脳の基礎生理学．臨床脳波　47(7): 446–452

学会発表

1. Gemba H（2005）Cortical field potentials and cognitive functions. CME2005; The First International Conference on Complex Medical Engineering, Takamatsu
2. Kyuhou S, Kato N and Gemba H（2005）Involvement of ER stress and inflammation in neurodegeneration in pcd mice. 35th annual meeting of Society for Neuroscience, Washington DC
3. 中尾和子，玄番央恵，松崎竜一（2005）運動準備電位と運動開始．第121回関西医科大学学術集談会，守口市
4. 玄番央恵，中尾和子，松崎竜一（2005）サル7野の機能は視覚始動性上肢運動と自発性上肢運動とで異なる．第82回日本生理学会大会，仙台市
5. 松崎竜一，久寳真一，中尾和子，玄番央恵（2005）サル視床―前頭前野投射の電気生理学的研究．第82回日本生理学会大会，仙台市
6. 市川　純，玄番央恵（2005）骨髄間質細胞のカルシウムシグナリングは細胞密度に依存して変化する．第82回日本生理学会大会，仙台市
7. 玄番央恵，中尾和子，松崎竜一（2005）小脳切除後の運動野機能低下への後部頭頂連合野による代償．第28回日本神経科学学会大会，横浜市
8. 久寳真一，加藤伸郎，玄番央恵（2005）プルキンエ細胞変性マウスの神経細胞死への小胞体ストレスとミクログリアの関与．第28回日本神経科学学会大会，横浜市
9. 中尾和子，玄番央恵，松崎竜一（2005）サルにおける体性感覚誘発電位．第28回日本神経科学学会大会，横浜市
10. 市川　純，玄番央恵（2005）骨髄間質細胞の$P2Y_2$受容体を介したカルシウムシグナリングは細胞密度に依存して変化する．2005年度生理学研究所研究会「生理機能制御および病態におけるプリン作動性シグナリングの役割とその分子機構」，岡崎市
11. 玄番央恵，中尾和子，松崎竜一，雨夜勇作（2005）サル7野の運動性および意欲依存性の活動．第98回近畿生理学談話会，滋賀医科大学
12. 玄番央恵，中尾和子，松崎竜一，雨夜勇作（2005）頭頂連合野の荷重と回転速度に対する予測制御機能．第35回日本臨床神経生理学会学術大会，福岡市
13. 久寳真一，玄番央恵（2005）神経変性マウスの聴覚皮質における誘発電位の減弱と速波の出現．第35回日本臨床神経生理学会学術大会，

福岡市

14. 玄番央恵，中尾和子，松崎竜一，久寳真一，市川 純，雨夜勇作（2005）心の健康診断に唾液分泌・手掌発汗・心拍の計測が有用．第3回日本予防医学会学術総会，山口大学

著 書

1. Gemba H（2005）Cortical field potentials and cognitive functions. Complex Medical Engineering（Wu-JL, Ito K, Tobimatsu S, Nishida T, Fukuyama H eds）Springer（in press）
2. 玄番央恵（2005）女性医師からのメッセージ—医系キャリアアップの道しるべ—（津田喬子編）71–78頁，真興交易（株）医書出版部，東京都
3. 玄番央恵（2005）CBT準拠MCQによる生理学問題集（日本生理学会教育委員会編）（in press），文光堂，東京都

医化学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Tatsumi S, Mabuchi T, Katano T, Matsumura S, Abe T, Hidaka H, Suzuki M, Sasaki Y, Minami T and Ito S（2005）Involvement of Rho-kinase in inflammatory and neuropathic pain through phosphorylation of myristoylated alanine-rich C-kinase substrate（MARKS）. Neuroscience 131: 491–498
2. Abe T, Matsumura S, Katano T, Mabuchi T, Takagi K, Xu L, Yamamoto A, Hattori K, Yagi T, Watanabe M, Nakazawa T, Yamamoto T, Mishina M, Nakai Y and Ito S（2005）Fyn kinase-mediated phosphorylation of NMDA receptor NR2B subnit at Tyr1472 is essential for maintenance of neuropathic pain. Eur J Neurosci 22: 1445–1454
3. Muratani T, Doi Y, Nishimura W, Nishizawa M, Minami T and Ito S（2005）Preemptive analgesia by zaltoprofen that inhibits bradykinin action and cyclooxygenase in a post-operative pain model. Neurosci Res 51: 427–433
4. Ando A, Yamazaki Y, Kaneko S, Nambu R, Taomoto M, Unezaki A, Okuda-Ashitaka E, Okumura T, Ito S and Matsumura M（2005）Cytoprotection by nipradilol, an anti-glaucomatous agent, via down-regulation of apoptosis relates gene expression and activation o NF-κB. Exp Eye Res 80: 501–507
5. Matsumura S, Abe T, Mabuchi T, Katano T, Takagi K, Okuda-Ashitaka E,Tatsumi S, Nakai Y, Minami T and Ito S（2005）Rho-kinase mediates spinal nitric oxide formation by prostaglandin E2 via EP_3 subtype. Biochem Biophys Res 338: 550–557
6. Tsuji K, Kwon A-H, Yoshida H, Qiu Z, Kaibori M, Okumura T and Kamiyama Y（2005）Free radical scavenger（edaravone）prevents endotoxin-induced liver injury after partial hepatectomy in rats. J Hepatol 42（1）: 94–101
7. Yokoigawa N, Takeuchi N, Toda M, Inoue M, Kaibori M, Yanagida H, Tanaka H, Ogura T, Takada H, Okumura T, Kwon A-H, Kamiyama Y and Nakada H（2005）Enhanced production of IL-6 in peripheral blood monocytes stimulated with mucins secreted into the bloodstream. Clin Cancer Res 11（17）: 6127–6132

総 説

1. 南 敏明，辰巳真一，伊藤誠二（2005）プロスタノイドと痛み．リウマチ科 33（3）: 335–341
2. 松村伸治，阿部哲也，伊藤誠二（2005）プロスタグランジン受容体の機能・多様性と痛み機構．ペインクリニック 26（12）: 1639–1648
3. 南 敏明，辰巳真一，伊藤誠二（2005）アロディニアの発現と抑制．治療学

学会発表

1. Ito S, Okuda-Ashitaka E, Matsumura S, Mabuchi T, Abe T, Watanabe K and Minami T（2005）Diverse mechanisms of maintenance of chronic pain by prostaglandin E2 via different Ep sub-

types. International Eicosanoids Conference Basic Science & Clinical Applications, Beijing
2. Ito S, Tatsumi S, Mabuchi T, Katano T, Matsumura S, Takagi K, Endo H, Sasaki Y, Suzuki M and Minami T（2005）Involvement of prostaglandin E2 in neuropathic pain through phosphorylation of nyristoylated alanine-rich C-kinase substrate by rho-kinase. The 11th World Congress on Pain, Sydney
3. Matsumura S, Mabuchi T, Okuda-Ashitaka E, Abe T, Xu L, Minami T and Ito S（2005）Role of prostaglandin E receptor subtypes in nitric oxide production in the spinal cord. Society of Neuroscience 35th Annual Meeting, Washington DC
4. Nakai K, Kitagawa K, Yamada M, Habara K, Tokuhara K, Hamada Y and Okumura T（2005）Enhancement of intestinal adaptation by EGF following small bowel transplantation in rats. IXth International Small Bowel Transplantation Symposium, Brussels
5. Okazaki S, Nakai K, Kitagawa K, Yamada M, Habara K, Tokuhara K, Hamada Y and Okumura T（2005）EGF stimulates the induction of iNOS expression in the presence of inflammatory cytokine in intestinal epithelial cells. IXth International Small Bowel Transplantation Symposium, Brussels
6. 松村伸治，新谷紀人，馬渕圭生，高木邦夫，芦高恵美子，橋本　均，南　敏明，馬場道明，伊藤誠二（2005）神経損傷に伴うPACAPの発現誘導と疼痛発生機構．第78回日本薬理学会年会，横浜
7. 芦高恵美子，伊藤誠二（2005）ノシセプチンの産生・遊離をめぐる疼痛制御．第26回疼痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム，岐阜
8. 芦高恵美子（2005）同一前駆体タンパクに存在するノシセプチンとノシスタチンの産生・遊離機構からの痛覚制御．第10回病態と治療におけるプロテアーゼとインヒビター研究会，福岡
9. 伊藤誠二（2005）脊髄NO産生と痛み　神経因性疼痛の定量化と可視化の試み．薬理学サマーセミナー2005長崎，長崎
10. 芦高恵美子，南　敏明，松村伸治，竹島　浩，Rainer K, Reinscheid, Oliver C, 伊藤誠二（2005）Mediation by the opioid peptide nociceptin/orphanin FQ of prostaglandin E-$_2$-induced allodynia, tactile pain associated with never injury. 第78回日本生化学学会，神戸
11. Unezaki S, Nishizawa M, Okuda-Ashitaka E, Masu Y, Mukai M, Kobayashi S, Sawamoto K, Okano H and Ito S（2005）Characterization of the isoforms MOVO zinc finger protein, a mouse homologue of Drosophila Ovo, as transcription factors. 第78回日本生化学学会，神戸
12. 伊藤誠二（2005）In vino evidence that TNF-a-elicited expression of inducible NOS in hepatocytes is mediate by induction of TLR-4. 生理研研究会「痛みの分子メカニズムと治療戦略」，東京
13. 伊藤誠二（2005）W42 NMDA受容体のリン酸化に伴う神経可塑性に関与する機能分子の探索．公開シンポジウム「統合脳」，東京
14. 吉田秀行，權　雅憲，辻　勝成，奥村忠芳，上山泰男（2005）Free radical scavenger（edaravone）の肝細胞保護作用機序の検討―初代培養肝細胞のiNOS/NO産生に対する効果―．第44回京都肝疾患談話会，京都
15. 山田正法，海堀昌樹，羽原弘造，吉田秀行，松井康輔，尾崎　岳，濱田吉則，奥村忠芳，上山泰男（2005）肝臓のiNOS誘導に対する天然の抗酸化剤α-リポ酸の効果．第105回日本外科学会，名古屋
16. 羽原弘造，海堀昌樹，山田正法，吉田秀行，尾崎　岳，松井康輔，濱田吉則，西澤幹雄，奥村忠芳，上山泰男（2005）肝障害に対するスタチンpitavastatinの保護作用．第105回日本外科学会，名古屋
17. 吉田秀行，權　雅憲，海堀昌樹，辻　勝成，羽原弘造，山田正法，尾崎　岳，松井康輔，奥村忠芳，上山泰男（2005）肝細胞の誘導型一酸化窒素合成酵素に対するedaravoneの効果．第105回日本外科学会，名古屋
18. 柳田英佐，海堀昌樹，權　雅憲，奥村忠芳，上山泰男（2005）ラット肝虚血再灌流モデルにおける培養肝細胞を用いたiNOS誘導の解析．第105回日本外科学会，名古屋
19. 海堀昌樹，柳田英佐，肱川　健，内田洋一朗，

石崎守彦，權　雅憲，奥村忠芳，上山泰男（2005）硬変肝部分切除モデルにおけるrhHGF activator による肝内 HGF の活性化及び，肝再生促進効果の解析．第42回外科代謝栄養学会，大阪

20. 海堀昌樹，柳田英佐，肱川　健，内田洋一朗，權　雅憲，石崎守彦，奥村忠芳，上山泰男（2005）ラット肝虚血再灌流モデルにおける培養肝細胞を用いたiNOS誘導の解析．第42回外科代謝栄養学会，大阪
21. 羽原弘造，田　吉則，山田正法，吉田秀行，尾崎　岳，松井康輔，西澤幹雄，海堀昌樹，上山泰男，奥村忠芳（2005）肝細胞におけるiNOS誘導に対するスタチン pitavastatin の効果．第42回外科代謝栄養学会，大阪
22. 海堀昌樹，柳田英佐，尾崎　岳，山田正法，羽原弘造，吉田秀行，松井康輔，徳原克治，上山泰男，奥村忠芳（2005）ラット肝硬変モデルにおける rhHGF-activator の効果―内因性HGF 前駆体の活性化による肝再生の促進―．第11回肝細胞研究会，東京
23. 吉田秀行，權　雅憲，海堀昌樹，羽原弘造，山田正法，尾崎　岳，松井康輔，徳原克治，上山泰男，奥村忠芳（2005）肝臓保護作用をもつedaravoneのiNOS誘導への効果．第11回肝細胞研究会，東京
24. 松井康輔，川口雄才，松井陽一，尾崎　岳，羽原弘造，山田正法，吉田秀行，西澤幹雄，奥村忠芳，上山泰男（2005）AHCCの肝細胞における一酸化窒素の産生誘導への効果．第13回AHCC研究会，札幌
25. 尾崎　岳，山田正法，羽原弘造，吉田秀行，松井康輔，海堀昌樹，上山泰男，西澤幹雄，伊藤誠二，奥村忠芳（2005）肝細胞のiNOS誘導と臨床薬剤の影響―IL-1- レセプターの役割―．第52回日本生化学会近畿支部例会，神戸
26. 片野泰代，稲垣直之，井原康夫，伊藤誠二（2005）Characterization of an isoform of collapsing response mediator protein-2（CRMP-2）selectively expressed in spinal nerves peripheral to dorsal root ganglia. 末梢神経特異的な新しいCRMP-2（nCRMP-2）の解析．第78回日本生化学学会，神戸
27. 羽原弘造，濱田吉則，山田正法，徳原克治，海堀昌樹，上山泰男，西澤幹雄，伊藤誠二，奥村忠芳（2005）肝臓における一酸化窒素産生の誘導に対するピタバスタチンの効果．第78回日本生化学学会，神戸
28. 山田正法，西澤幹雄，中竹利知，吉田秀行，尾崎　岳，松井康輔，濱田吉則，上山泰男，伊藤誠二，奥村忠芳（2005）肝細胞におけるiNOS誘導下でのIL-1R1 isoformの役割．第78回日本生化学学会，神戸
29. 吉田秀行，權　雅憲，辻　勝成，海堀昌樹，羽原弘造，山田正法，上山泰男，西澤幹雄，伊藤誠二，奥村忠芳（2005）Effect of edaravone on iNOS gene expression stimulated by interleukin-1β in hepatocytes. 第78回日本生化学学会，神戸

著　書

1. 伊藤誠二（2005）II-8．神経損傷の生化学的分析―慢性化で生体の感受性はどう変わるのか．「慢性痛はどこまで解明されたか―臨床・基礎医学から痛みへのアプローチ」（菅原努監修・中井吉英編）103–116頁，昭和堂，京都

薬理学講座

〈研究概要〉

本教室では，細胞内クロライド濃度調節機構の解明を中心テーマとして，主に中枢神経系，循環器系，呼吸器系，免疫系，内分泌系疾患と関連させて研究を行っている．

1. クロライドイオン輸送機構とその制御

1）Cl^--ATPaseの構造解析

クロライドイオンは，中枢神経の過分極性抑制性シナプス伝達において中心的な役割を果たしている．

抗てんかん薬や鎮静薬は主に，このイオンの細胞内流入を促進することにより神経細胞の興奮性を抑制する．従って，神経細胞内クロライド濃度が低く保たれていることが，抑制性シナプス伝達やこれら薬物の効果発現に必須とされている．我々は，このクロライドイオン濃度維持に関与する分子として，ATPに依存してクロライドイオンの排出を担う分子，すなわちCl^--ATPaseを主に脳，および腎臓に見いだし，精製，構造決定を行っている．Cl^--ATPaseの機能体タンパク質は数種のサブユニットから成る約600 kDaの複合タンパク質として精製され，51 kDa タンパク質がリン酸化を受ける触媒サブユニットと考えられた．他のサブユニットの55 kDa 糖タンパク質を精製し，その部分アミノ酸配列を基にラット脳cDNA ライブラリーからcDNAクローンを得た．本タンパク質は504個のアミノ酸から成り，28個のシグナルペプチド領域，複数のミリストイル化部位などを含む新規タンパク質であった．この cDNA 配列を基にアンチセンスオリゴヌクレオチドを作成し，培養海馬神経細胞に導入したところ，55 kDa タンパク質生成を抑制すると共に，細胞内Cl^-イオン濃度を増加させた．免疫組織化学法および免疫電子顕微鏡による解析により，55 kDa タンパク質は主に神経細胞の細胞膜に局在することが確認された．これらの結果から，55 kDaタンパク質はCl^--ATPase活性を担うサブユニットのひとつと考えられた．

2）アルツハイマー病における神経細胞変性とCl^--ATPase活性

アミロイドβ蛋白（Aβ）の沈着を特徴とするアルツハイマー病の神経変性の原因として神経細胞の過興奮毒性が提唱されている．我々は，アルツハイマー病脳においてCl^--ATPase活性が低下していること，ラット海馬神経培養細胞へのAβ負荷により，神経細胞膜分画のイノシトールリン脂質（PI，PIP，PIP2）のレベルおよび Cl^--ATPase 活性が低下し，イノシトールの添加でこの活性が回復する事を見いだした．この回復はPI4 kinase（PI4K）阻害薬で抑制され，PI4P添加により回復し，細胞内Cl^-濃度も正常化したことから，AβによるPI4Pレベルの低下がCl^--ATPase活性を低下させると推測された．更に病態生理学的濃度のAβはPI4K type IIの活性を直接阻害することを見いだした．これらの知見からPI4K type IIがアルツハイマー病におけるAβの標的分子の一つである可能性が示唆された．

3）非ステロイド抗炎症薬の細胞内クロライドイオン濃度への影響：

非ステロイド抗炎症薬（NSAID）はアルツハイマー病の増悪を抑制すると言われているがその機構は不明である．我々はAβによって惹起される神経細胞障害に対するNSAIDの効果を検討した．その結果シクロオキシゲナーゼ（COX）-1あるいはCOX-2阻害薬によって，Aβによって惹起される細胞内クロライドイオン濃度の上昇は抑制され，Aβによるグルタミン酸細胞毒性の増強も減弱した．これらの結果からNSAIDはCOX-1あるいはCOX-2阻害の選択性に拘らず神経細胞保護作用を発現する可能性が示唆された．

4）アンモニア負荷による神経細胞内クロライド濃度上昇と神経細胞死：

高アンモニア血症は，肝性脳症におけるけいれんなどの中枢神経症状の原因のひとつと考えられている．我々は，ラット海馬神経培養細胞を用いアンモニア負荷によって細胞内クロライドイオン濃度が上昇し，抗不安作用を示すdihidrohonokiol BおよびGABAcアゴニスト（CACA）の同時添加によってこの上昇がGABAc受容体刺激を介して有意に抑制される事を報告している．またアンモニア負荷によって神経細胞のアポトーシスが起こることを見いだしている．このアポトーシスは細胞内カルシウム濃度の増加とカルシニューリンによるser^{155}リン酸化BADの減少が関与している事を明らかにした．

2. アミロイドβ蛋白（Aβ）による神経細胞死の機序解明

1）Akt/PKBによるグルタミン酸細胞毒性発現の調節

病態生理学的濃度のAβ負荷によりグルタミン酸細胞毒性が増悪する事を見いだしているがその機序については不明であった．我々はラット海馬初代神経培養細胞を用いAβ負荷によってセリン（ser^{473}）リン酸化Akt/PKBの発現量が減少し，グルタミン酸による細胞毒性が増強される事を明らかにした．PI3K

やAktの阻害薬を用いてAkt/PKBの活性を抑制するとAβ負荷の場合と同様にグルタミン酸細胞毒性が増加した．さらにPC-12細胞を用いた検討から，Aβ負荷による細胞毒性の増加はPC-12細胞が神経に分化する事によって著しく増強され，このときセリン（ser^{473}）リン酸化Akt/PKBの発現量が減少していることが明らかになった．これらの知見からAkt/PKBはAβ/グルタミン酸刺激による細胞毒性の発現に重要な分子である可能性が示唆された．

2）GABAc受容体を介する神経細胞保護作用の細胞内情報伝達経路の解明

我々は，GABAc受容体刺激によってAβ/グルタミン酸刺激によって惹起される神経細胞死がAキナーゼ（PKA）を介して抑制されることを明らかにした．一般にPKAは代謝型受容体刺激によって活性化されることから，クロライドチャネル内蔵型受容体であるGABAc受容体刺激によってチャネル活性化以外の経路を介してPKAを活性化している可能性を考え検討した．ウエスタンブロッティングによる解析の結果，GABAc受容体はAキナーゼアンカー蛋白（AKAP）およびPKAと複合体を形成しており，GABAc受容体刺激によりPKAが直接活性化されることを明らかにした．

3. 生理活性物質に対する細胞内情報伝達機構

1）プロテアーゼ活性化受容体刺激による呼吸器上皮細胞応答の解析：

プロテアーゼ活性化受容体（PAR）は，その細胞外特定領域がセリンプロテアーゼによって限定分解を受けることにより活性化されるG蛋白質共役型受容体で，炎症の発生および進展に関与する．我々はPAR2刺激したヒト肺胞上皮細胞において好中球の接着が亢進することを見い出しその細胞内機序を検討した．その結果，PAR2刺激により低分子量Rho蛋白結合キナーゼが活性化され，この細胞内シグナル分子がFAK（focal adhesion kinase）のリン酸化を伴うアクチン細胞骨格の再編成を介して好中球接着亢進を誘導する可能性を見い出した．また新規受容体であるPAR4に着目し，その情報伝達機構についてマウス培養肺上皮細胞を用いて細胞内Ca^{2+}濃度（$[Ca^{2+}]i$）の変化を指標に検討した．その結果，肺上皮細胞上に存在するPAR4をトロンビンまたは合成アゴニストペプチドで刺激すると，一過性の$[Ca^{2+}]i$の上昇が惹起されることをfura2蛍光観察から認めた．この反応はPLC阻害薬で抑制され，さらに細胞内貯蔵Ca^{2+}の枯渇や外液Ca^{2+}の除去下で消失または低下したことから，おそらくIP_3産生に由来する細胞内Ca^{2+}の動員により誘導される細胞外Ca^{2+}の流入を介して引き起こされると考えられた．

2）プロテインキナーゼC（PKC）による心筋細胞機能の調節機構：

約8種類のサブタイプで構成されるPKCは心機能の制御に重要な役割を果たしている．我々は特に虚血性心疾患への関与が指摘されるPKCαやεに着目して，これらの活性化機構と作用についてGFP融合PKCサブタイプを発現した心筋細胞を用いて検討した．PKCの活性化はGFP蛍光の細胞質から細胞膜への移行を共焦点レーザー顕微鏡を用いて経時的に画像化して観察した．炎症シグナルであるプロテアーゼ活性化受容体（PAR）1をトロンビンで刺激すると，PKCαやεの活性化が刺激早期から認められ，特にPKCαの活性化は少なくとも30分間持続した．また，PAR1刺激は心筋細胞内で細胞骨格タンパクであるFアクチンの再編成を惹起し，この反応はPKC阻害薬で抑制された．これらの結果から，炎症性刺激で活性化されたPKCαやεは細胞骨格構造の変化を惹起することにより，細胞肥大などの病的状態の発生に関与する可能性が示唆された．

4. 内分泌―免疫―神経系相互作用

内分泌系，免疫系，神経系の相互作用の解明に取り組んでいる．

1）成長ホルモン（GH）

ヒト成長ホルモン（GH）及びその受容体（GHR）が，ヒトリンパ球，特にB細胞で発現している事，

脳下垂体とは異なった分泌調節を受けている事, GH分泌を刺激するグレリン及びその受容体がヒトリンパ球で発現している事を明らかにした．免疫細胞自身がGHやグレリンを分泌し，autocrine/paracrine的に免疫機能を調節する機構が示唆された.

2）プロラクチン（PRL）

我々は原因不明の高プロラクチン（PRL）血症の約16%に，抗PRL自己抗体による高PRL血症を見いだした．臨床的特徴として，無月経や乳汁漏出は稀で，ブロモクリプチンによる治療無しでも妊娠分娩が可能であった．自己抗体結合部位として，PRL分子のN端とC端34アミノ酸が重要である事を明らかにした．この部位はPRL受容体に対する結合部位でもあり，自己抗体がPRLとPRL受容体の結合を阻害し，その生物作用を抑制する可能性が示唆された．ヒト脳下垂体PRLはセリンでリン酸化されており，血中で脱リン酸化される．自己抗体陽性患者血中PRLはセリンでリン酸化されたままであり，リン酸化PRLが抗原性を持って自己抗体産生をきたす可能性が示唆された.

3）γアミノ酪酸（GABA）

GABAは中枢神経における主な抑制性神経伝達物質であるが，GABAc受容体を介して，脳下垂体からのPRL分泌を促進する事を明らかにした. GABAは, 脳下垂体細胞でも合成, 分泌され, autocrine/paracrine的にPRL産生下垂体細胞に作用し，その分泌を調節する機構が示唆された.

5. 免疫細胞におけるクロライドチャネル発現とその生理作用

NPPB感受性クロライドチャネル（ClC-2）はp21経路を介して細胞周期を調節し，ClC-5は骨髄細胞から好中球への分化に関与していることを明らかにした.

〈研究業績〉

原　著

1. Liu B, Hattori N, Zhang NY, Wu B, Yang L, Kitagawa K, Xiong ZM, Irie T and Inagaki C（2005）Anxiolytic agent, dihydrohonokiol-B, recovers amyloid β protein-induced neurotoxicity in cultured rat hippocampal neurons. Neurosci Lett 384: 44–47
2. Sumita K, Hattori N and Inagaki C（2005）Effects of growth hormone on the differentiation of mouse B-lymphoid precursors. J Pharmacol Sci 97: 408–416
3. Hattori N, Ikekubo K, Nakayama Y, Kitagawa K and Inagaki C（2005）Immunoglobulin G subclasses and prolactin（PRL）isoforms in macroprolactinemia due to anti-PRL autoantibodies. J Clin Endocrinol Metab 90: 3036–3044

学会発表

1. 稲垣千代子（2005）脳のクロライド薬理学の展開．第78回日本薬理学会，横浜
2. 服部尚樹，稲垣千代子，中山靖久，北川香織，劉　　氷，住田元伸，（2005）プロラクチン自己抗体産生機序について．第78回日本薬理学会，横浜
3. 大谷ひとみ，矢木泰弘，安藤性實，稲垣千代子（2005）プロテアーゼ活性化受容体1により誘導されるラット心筋細胞の形態変化とPKC活性化．第78回日本薬理学会，横浜
4. 北川香織，岩田亮一，張　南雁，呉　　波，熊正梅，稲垣千代子（2005）培養ラット海馬神経細胞の低用量アミロイドβ蛋白毒性に対する非ステロイド性抗炎症薬の効果．第78回日本薬理学会，横浜
5. 中山靖久，楊　　麗，服部尚樹，稲垣千代子（2005）ヒト神経芽腫細胞株におけるアミロイドβ(25–35)/グルタミン酸刺激によるPI3K/GSK-3シグナル経路を介するアポトーシスについて．第78回日本薬理学会，横浜
6. 北川香織，呉　　波，張　南雁，熊　正梅，稲垣千代子（2005）アミロイドβ蛋白部分ペプチドによる低用量アミロイドβ蛋白毒性抑制効果．第107回日本薬理学会近畿部会，金沢
7. 服部尚樹（2005）プロラクチン（macro PRL）

血症におけるPRL自己抗体産生機序について．第78回日本内分泌学会，東京

8. 服部尚樹，中山靖久，北川香織，李　鉄松，稲垣千代子（2005）プロラクチン（PRL）分子内自己抗体結合部位の検討．第108回日本薬理学会近畿部会，西宮
9. 楊　　麗，中山靖久，服部尚樹，劉　　氷，稲垣千代子（2005）GABAc受容体／PKA複合体による神経細胞死の調節．第78回日本薬理学会，横浜
10. 張　南雁，北川香織，呉　　波，李　鉄松，稲垣千代子（2005）細胞内塩素イオン濃度依存性アミロイドβ蛋白誘発グルタミン酸神経毒性．第78回日本薬理学会，横浜
11. 劉　　氷，服部尚樹，張　南雁，北川香織，楊　　麗，呉　　波，中山靖久，稲垣千代子（2005）DHH-Bはアミロイドβ蛋白による神経細胞 Cl^--ATPase活性抑制を回復する．第78回日本薬理学会，横浜
12. 安藤性實，矢木泰弘，大谷ひとみ，大城明寛，河合健蔵，西川裕之，稲垣千代子（2005）PAR-2刺激下の肺胞上皮細胞への好中球接着増強におけるRhoシグナリングの関与．第78回日本薬理学会，横浜
13. 楊　　麗，中山靖久，服部尚樹，稲垣千代子（2005）GABAc receptor stimulation attenuates amyloid β/glutamate-induced neuronal apoptosis through a complex ρ/AKAP220/PKA/GSK3β．第107回日本薬理学会近畿部会，金沢
14. 安藤性實，大谷ひとみ，矢木泰弘，河合健蔵，荒木宏昌，稲垣千代子（2005）PAR-2刺激下の肺胞上皮細胞への好中球接着増強におけるRhoシグナリングの関与．第108回日本薬理学会近畿部会，西宮

病理学第一講座

〈研究概要〉

骨髄移植は，白血病，再生不良性貧血，先天性免疫不全症等の治療法として目覚ましい進歩を遂げている．さらに最近，欧米では自己免疫疾患の治療にも骨髄移植が開始されるようになり，骨髄移植の適応範囲が今後益々拡大するものと考える．しかしながら，移植片対宿主反応（GVHR）の問題や移植片の拒絶，放射線の副作用等解決されなければならない問題を抱えている．我々は，これらの問題を解決するための新しい骨髄移植方法（門脈から骨髄細胞を移植する方法と骨髄内へ直接骨髄細胞を移植する方法）を開発した．これらの方法によって誘導される免疫学的寛容の機序を解析し，ヒトの応用に向けて，基礎固めをする．

一方，臓器移植に関しても，拒絶反応を抑制するためには，長期間の免疫抑制剤投与が不可欠であるが，薬の副作用による種々の弊害も生じている．我々は，長期間の免疫抑制剤の投与なくして，永続的に免疫学的寛容を誘導する方法をマウスを用いて開発し，ヒトへの応用に向けてウサギ，ブタ，サル等の中～大動物を用いて基礎固めをする．

〈研究業績〉

原　著

1. Kikuchi K, Lian Z-X, Yang G-X, Ansari AA, Ikehara S, Kaplan M, Miyakawa H, Coppel RL and Gershwin ME（2005）Bacterial CpG induces hyper-IgM production in CD27+ memory B cells in primary biliary cirrhosis. Gastroenterology 128: 304–312
2. Minamino K, Adachi Y, Okigaki M, Ito H, Togawa Y, Fujita K, Tomita M, Suzuki Y, Zhang Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Matsubara H, Iwasaka T, Matsumura M and Ikehara S（2005）Macrophage colony-stimulating factor（M-CSF）, as well as granulocyte colony-stimulating factor（G-CSF）, accelerates neovascularization. Stem Cells 23: 347–354
3. Suzuki Y, Adachi Y, Minamino K, Zhang Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y and Ikehara S（2005）A new strategy for treatment of malignant tumor: Intra-bone marrow-bone marrow

transplantation plus CD4- donor lymphocyte infusion. Stem Cells 23: 365–370

4. Iwasaki M, Adachi Y, Minamino K, Suzuki Y, Zhang Y, Okigaki M, Nakano K, Taketani S, Takahashi H, Iwasaka T and Ikehara S（2005）Mobilization of bone marrow cells by G-CSF rescues mice from cisplatin-induced renal failure, and M-CSF enhances the effects of G-CSF. J Am Soc Nephrol 16: 658–666
5. Kusafuka K, Nakano K, Hirata Y, Shukunami C, Nagatsuka H, Nagai N, Takemura T, Sakaguchi Y, Okazaki K, Kusafuka M, Hisha H and Ikehara S（2005）Expression and localization of cartilage-specific matrix protein chondromodulin-I mRNA in salivary pleomorphic adenomas. Virchow Arch 446: 34–40
6. Yang GX, Lian ZA, Kikuchi K, Liu YJ, Ansari AA, Ikehara S and Gershwin ME（2005）CD4- plasmacytoid dendritic cells（pDCs）migrate in lymph bodes by CpG inoculation and represent a potent functional subset of pDCs. J Immunol 174: 3197–3203
7. Taira M, Inaba M, Takada K, Baba S, Fukui J, Ueda Y, Kwoh A-H, Hisha H, Kamiyama Y and Ikehara S（2005）Treatment of streptozotocin-induced diabetes mellitus in rats by transplantation of islet cells from two MHC-disparate rats in combination with intra-bone marrow injection of allogeneic bone marrow cells. Transplantation 79: 680–687
8. Minamino K, Adachi Y, Okamura A, Kushida T, Sugi M, Watanabe M, Muguruma K, Sugao H, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Wang J, Mukaide H, Zhang Y, Matsuda T, Matsumura M and Ikehara S（2005）An autopsy case of primary choriocarcinoma of the urinary bladder. Pathol Int 55: 216–222
9. Turkseven S, Kruger A, Mingone CJ, Kaminski P, Inaba M, Rodella LF, Ikehara S, Wolin MS and Abraham NG（2005）The antioxidant mechanism of heme oxygenase-1 involves an increase in superoxide dismutase and catalase in experimental diabetes. Am J Physiol Heart Circ Physiol 289: H701–707
10. Kaneda H, Adachi Y, Saito Y, Ikebukuro K, Machida H, Suzuki Y, Minamino K, Zhang Y, Iwasaki M, Imamura H and Ikehara S（2005）Long-term observation after simultaneous lung and intra-bone marrow-bone marrow transplantation. J Heart Lung Transplant 24: 1415–1423
11. Baba S, Inaba M, Iwai H, Taira M, Takada K, Hisha H, Yamashita T, and Ikehara S（2005）Intra-bone marrow-bone marrow transplantation facilitates hemopoietic recovery including dendritic cells. Immunobiology 210: 33–42
12. Matsushita M, Takakuwa H, Matsubayashi Y, Nishio A, Ikehara S, and Okawaki K（2005）Appendix is a priming site in the development of ulcerative colitis. Word J Gastroenterol 11: 4869–4874
13. Minamino K, Adachi Y, Yamada H, Higuchi A, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Kiriyama N, Shigematsu A, Matsumura M and Ikehara S（2005）Long-term survival of bone marrow-derived retinal nerve cells in the retina. Neuroreport 16: 1255–1259
14. Iwai H, Lee S, Inaba M, Baba S, Yamashita T and Ikehara S（2005）Bone marroe transplantation as a strategy for the treatment of autoimmune hearing loss in MRL/Mp-lpr/lpr mice. J Neuroimmunol 168: 76–82
15. Wang X, Hisha H, Taketani S, Inaba M, Li Q, Cui W, Song C, Fan T, Cui Y, Guo K, Yang G, Fan H, Lian Z, Gershwin ME and Ikehara S（2005）Neural cell adhesion molecule contributes to hemopoiesis-supporting capacity of stromal cell lines. Stem Cells 23: 1389–1399
16. Yang GX, Lian ZX, Kikuchi K, Moritoki Y, Ansari AA, Liu YJ, Ikehara S and Gershwin ME（2005）Plasmacytoid dendritic cells of different origins have distinct characteristics and function: Studies of lymphoid progenitors versus myeloid progenitors. J Immunol 175: 7281–7287
17. Fan TX, Day NK, Luangwedchakarn V, Chang Y, Ikehara S, Lerner DL and Haraguchi S（2005）The phosphorylation of phospholipase C-gamma1, Raf-1, MEK, and ERK12 induced by a conserved retroviral peptide. Peptides 26: 2165–

2174
18. Iwasaki M, Adachi Y, Nishiue T, Minamino K, Suzuki Y, Zhang Y, Nakano K, Koike Y, Wang J, Mukaide H, Taketani S, Yuasa F, Tsubouchi H, Gohda E, Iwasaka T and Ikehara S（2005）Hepatocyte Growth Factor（HGF）Delivered by Ultrasound-Mediated Destruction of Microbubbles Induces Proliferation of Cardiomyocytes, and Amelioration of Left Ventricle Contractile Function in Doxorubicin-Induced Cardiomyopathy. Stem Cells 23: 1589–1597
19. Takada K, Inaba M, Ichioka N, Ueda Y, Taira M, Baba S, Mizokami T, Wang X, Hisha H, Iida H, and Ikehara S（2006）Treatment of senile osteoporosis in SAMP6 mice by intra-bone marrow injection of allogeneic bone marrow cells. Stem Cells 24: 399–405
20. 鈴木康弘，足立　靖，安水良知，岡村明治，木村秀樹，鉢嶺大作，金　鉄南，南野桂三，岩崎真佳，池原　進（2005）生前に診断困難であった赤痢アメーバ感染症の2剖検例．診断病理　22: 25–28
21. 安達勝利，保坂直樹，高尾仁二，藤永一弥（2005）胸腺上皮性腫瘍に関する臨床病理学的検討．胸部外科　58: 119–122

総　説

1. Ikehara S（2005）Intra-bone marrow-Bone marrow transplantation. Ann N Y Acad Sci 1051: 1–9
2. 池原　進（2005）骨髄移植の最新動向．MMJ 1: 576–578
3. 稲葉カヨ，稲葉宗夫（2005）抗原認識と抗原提示細胞．免疫2005　66–74
4. 稲葉カヨ，稲葉宗夫（2005）樹状細胞の役割．バイオ研究マスターシリーズ『免疫学集中マスター』 93–104
5. 池原　進（2005）骨髄移植による自己免疫疾患の治療―革新的移植方法を用いて―．医学のあゆみ　213: 96–98

学会発表

1. Muraji T, Imai Y, Ysohida M, Hosaka N and Ikehara S（2005）Maternal microchimerism and its significance in Etiology of Biliary Atresia. 2005 American Academy of Pediatrics, Washington., D.C.
2. Iwasaki M, Adachi Y, Minamino K, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Iwasaka T and Ikehara S（2005）Hepatocyte growth factor delivered by ultrasound-mediated destruction of microbubbles induces proliferation of cardiomyocytes, and amelioration of left ventricle contractible function in doxorubicin-induced cardiomyopathy. American Heart Association Dallas, テキサス
3. 池原　進（2005）難病の革新的療法―移植と再生を利用して―．第4回日本組織移植学会，大阪
4. 池原　進（2005）難病の革新的治療法―移植と再生を利用して―．第67回日本血液学会第47回日本臨床血液学会，横浜
5. 池原　進（2005）新しい骨髄移植移植方法―臓器移植と再生医学への応用―．第41回日本移植学会，東京
6. 池原　進（2005）革新的骨髄異色法―臓器移植と再生医療への応用―．第20回日本生殖免疫学会，大阪
7. 池原　進（2005）肺難治性疾患の新しい治療法―再生再生と移植を用いて―．東京COPDシンポジウム，東京
8. 池原　進（2005）難病の革新的治療法―移植と再生を利用して―．幹細胞移植フォーラム，東京
9. 池原　進（2005）難病の革新的治療法―移植と再生を利用して―．第2回日本病理学会カンファレンス，愛媛
10. 池原　進（2005）幹細胞を用いた難病の革新的治療法．第37回日本臨床分子形態学会，大阪
11. 保坂直樹，龍　尭志，崔　文旻，李　　強，稲葉宗夫，池原　進（2005）胸腺移植を併用した新しい骨髄移植法の開発―Chimeric resistanceを示すMRL/lprマウスを用いて―．第94回日本病理学会総会，横浜
12. 保坂直樹，龍　尭志，崔　文昊，西田晃久，三宅　岳，稲葉宗夫，池原　進（2005）胸腺移植を併用した骨髄移植法の開発―Chimeric resistanceを示すMRL/lprマウスでの自己免疫疾患の治療―．第35回日本免疫学会総会，横浜

13. 比舎弘子，岡崎　智，溝上友美，宋　昌曄，草深公秀，池原　進（2005）放射線照射後に産生される骨髄ストローマ細胞走化因子の解析（II）．第94回日本病理学会総会，横浜
14. 比舎弘子，加藤純子，稲葉宗夫，李　　清，王暁麗，宋　昌曄，岡崎　智，溝上友美，池原進（2005）Comparison of bone marrow cells harvested from cynomolgus monkeys by conventional aspiration method with those by new perfusion method. 第35回日本免疫学会総会，横浜
15. 足立　靖（2005）サイトカインを用いたmobilizationによる再生医療．第94回日本病理学会総会，横浜
16. 稲葉宗夫，平　　充，馬場　奨，高田敬蔵，上田祐輔，池原　進（2005）骨髄内骨髄移植による疾患の治療．第15回　日本フローサイトメトリー学会・学術集会，名古屋
17. 崔　文旻，保坂直樹，王　暁麗，宋　昌曄，郭可泉，池原　進（2005）NudeマウスとthymectomyしたB6（TxB6）マウスを用いたトリプルキメラの作製及びその免疫寛容誘導の解析．第94回日本病理学会総会，横浜
18. 崔　文昊，保坂直樹，龍　尭志，西田晃久，三宅　岳，稲葉宗夫，池原　進（2005）Tolerance Induction from Triple Chimeric Mice Transplanted with Fully MHC Incompatible Bone Marrow Cells and Thymus. 第35回日本免疫学会総会，横浜
19. 岡崎　智，比舎弘子，溝上友美，宋　昌曄，草深公秀，池原　進（2005）十全大補湯（TJ-48）抽出物中の骨髄ストローマ細胞増殖刺激活性因子の解析：カニクイザルを用いて．第94回日本病理学会，横浜
20. 溝上友美，比舎弘子，岡崎　智，宋　昌曄，神崎秀陽，池原　進（2005）ヒト子宮内膜の増殖・再生に関わる幹細胞同定の試み．第94回日本病理学会，横浜
21. 宋　昌曄，比舎弘子，李　　強，崔　文昊，郭可泉，李　　銘，岡崎　智，溝上友美，稲葉宗夫，池原　進（2005）Fcilitating effect of co-grafted donor bones with IBM-BMT on hematopoietic recovery. 第94回日本病理学会，横浜
22. 宋　昌曄，比舎弘子，王　暁麗，李　　清，崔文昊，郭　可泉，李　　銘，溝上友美，岡崎智，稲葉宗夫，池原　進（2005）Intra-bone marrow-bone marrow transplantation（IBM-BMT）+bone grafts facilitates hemopoietic recovery. 第35回日本免疫学会，横浜
23. 岡崎　智，比舎弘子，溝上友美，王　暁麗，宋昌曄，李　　清，上山泰男，池原　進（2005）Comparison of liver allograft acceptance by either intra-venous or intra-bone marrow injection of donor bone marrow cells. 第35回日本免疫学会，横浜
24. 溝上友美，比舎弘子，岡崎　智，王　暁麗，宋昌曄，李　　清，神崎秀陽，池原　進（2005）Isolation and characterization of human endometrial mesenchymal stem cells. 第35回日本免疫学会，横浜
25. Mukaide H, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Kiriyama N, Shigematsu A, Kamiyama Y and Ikehara S（2005）Immunotherapy for malignant tumors using combination of IBM-BMT, DLI and dendritic cells. 第35回日本免疫学会，横浜
26. Nakano K, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Shigematsu A, Kiriyama N, Suzuki Y, Koike Y, Mukaide H and Ikehara S（2005）Mechanisms underlying acceleration of blood flow recovery in ischemic limbs by macrophage colony-stimulating factor（M-CSF）. 第35回日本免疫学会, 横浜
27. Kiriyama N, Minamino K, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide Hi, Matsumura M and Ikehara S（2005）Long-term survival of bone marrow-derived retinal nerve cells in recepient's retina. 第35回日本免疫学会, 横浜
28. 向出裕美，足立　靖，鈴木康弘，南野桂三，岩崎真佳，小池保志，王　剣峰，上山泰男，池原　進（2005）IBM-BMTとDLIとドナー骨髄由来樹状細胞を用いた悪性腫瘍の治療．第94回日本病理学会，横浜
29. 中野景司，足立　靖，南野桂三，鈴木康弘，岩崎真佳，小池保志，王　剣峰，向出裕美，小林陽之助, 池原　進（2005）M-CSFによるendothelial progenitor cell（EPC）mobilizationのメカニズム．日本再生医療学会，大阪
30. 上田祐輔，稲葉宗夫，高田敬蔵，平　　充，馬場　奨，福井淳一，郭　可泉，李　　銘，飯田

寛和，池原 進（2005）骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症発症機序の解析．第94回日本病理学会，横浜
31. 高田敬蔵，稲葉宗夫，上田祐輔，平 充，馬場 奨，福井淳一，津田雅庸，郭 可泉，李 銘，飯田寛和，池原 進（2005）骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症の治療：SAMP6マウスを用いて．第94回日本病理学会，横浜
32. 郭 可泉，稲葉宗夫，李 銘，王 剣峰，王 暁麗，宋 昌嘩，崔 雲澤，李 強，崔 文旻，高田敬蔵，平 充，馬場 奨，福井淳一，上田祐輔，池原 進（2005）Long-term donor-specific tolerance of rat cardiac allografts by IBM injection of donor BMC. 第94回日本病理学会，横浜
33. 福井淳一，稲葉宗夫，平 充，馬場 奨，高田敬蔵，上田祐輔，郭 可泉，李 銘，上山泰男，池原 進（2005）骨髄内骨髄移植法とドナーリンパ球骨髄内注入による移植片対宿主病抑制効果の検討．第94回日本病理学会，横浜
34. 津田雅庸，稲葉宗夫，坂口雄沢，福井淳一，上田祐輔，高田敬蔵，李 銘，郭 可泉，中谷壽男，池原 進（2005）Analyses of mechanism underlying granulocyte activation by dendritic cells. 第35回日本免疫学会，横浜
35. 上田祐輔，稲葉宗夫，高田敬蔵，李 銘，福井淳一，郭 可泉，津田雅庸，坂口雄沢，飯田寛和，池原 進（2005）Induction of osteoporosis in normal mice by intra bone marrow-bone marrow transplantation（IBM-BMT）from SAMP6. 第35回日本免疫学会，横浜
36. 郭 可泉，稲葉宗夫，李 銘，宋 昌嘩，崔 文，王 暁麗，崔 雲澤，高田敬蔵，上田祐輔，福井淳一，津田雅庸，坂口雄沢，池原 進（2005）Long-term donor-specific tolerance of rat cardiac allografts by intra-bone marrow injection of donor bone marrow cells. 第35回日本免疫学会，横浜
37. 福井淳一，稲葉宗夫，高田敬蔵，上田祐輔，坂口雄沢，津田雅庸，郭 可泉，李 銘，上山泰男，池原 進（2005）Suppression of GvHD by intra-bone marrow injection of allogeneic bone marrow cells with splenic T cells. 第35回日本免疫学会，横浜
38. 坂口雄沢，稲葉宗夫，津田雅庸，福井淳一，上田祐輔，高田敬蔵，李 銘，郭 可泉，岡崎和一，池原 進（2005）Autoimmune mechanisms are involved in pancreatitis and sialoadenitis in WBA/kob rats: Roles of CD4+/CD25+ cells. 第35回日本免疫学会，横浜
39. 龍 尭志，保坂直樹，崔 文旻，李 強，稲葉宗夫，池原 進（2005）胸腺移植を併用した新しい骨髄移植法の開発―過致死量放射線照射したマウスを用いて―．第94回日本病理学会総会，横浜
40. 徳山陽子，高木孝士，保坂直樹，早瀬ヨネ子，城戸秀典，池原 進（2005）腎糸球体に観察された特異的間管状構造について．第37回日本臨床分子形態学会総会，大阪
41. 李 強，龍 尭志，吾妻敬一，保坂直樹，池原 進，河本圭司（2005）CD34- bone marrow cells in adult mice appear as newron-like cells by ex vivo treatment. 第37回日本臨床分子形態学会総会，大阪
42. 龍 尭志，保坂直樹，崔 文昊，西田晃久，三宅 岳，稲葉宗夫，池原 進（2005）胸腺移植を併用した新しい骨髄移植法の開発―過致死量放射線照射したマウスを用いて―．第35回日本免疫学会総会，横浜
43. 草深公秀，坂口雄沢，草深美智，比舎弘子，岡崎和一，池原 進（2005）唾液腺由来上皮細胞におけるBMP遺伝子の発現と細胞外基質変化との関連．第94回日本病理学会，横浜
44. 王 暁麗，比舎弘子，崔 文昊，宋 昌嘩，郭 可泉，溝上友美，岡崎 智，李 清，崔 雲澤，池原 進（2005）Chracterization of mesenchymal stem cells isolated from mouse fetal bone marrow. 第35回日本免疫学会，横浜
45. 李 清，比舎弘子，王 暁麗，宋 昌嘩，岡崎 智，溝上友美，崔 文昊，郭 可泉，李 銘，池原 進（2005）Characterization of monkey bone marrow adherent cells expressing NCAM molecule. 第35回日本免疫学会，横浜
46. Suzuki Y, Adachi Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Shigematsu A, Kiroyama N and Ikehara S（2005）Treatment of autoimmune diseases in MRL/lpr by granulocyte-colony stimu-

lating factor-treatment followed by intra-bone marrow-bone marrow transplantation and donor lymphocyte infusion. 第35回日本免疫学会, 横浜

47. Koike Y, Adachi Y, Suzuki Y, Iwasaki M, Minamino K, Nakano K, Mukaide H, Shigematsu A, Kiriyama N, Kamiyama Y and Ikehara S (2005) Allogeneic intra-bone marrow-bone marrow transplantation (IBM-BMT) plus donor lymphocyte infusion (DLI) prevents hepatic metastasis of colorectal adenocarcinoma in rats. 第35回日本免疫学会, 横浜
48. Iwasaki M, Adachi Y, Suzuki Y, Nakano K, Koike Y, Mukaide H, Sigematsu A, Kiriyama N, Iwasaka T and Ikehara S (2005) HGF delivered by contrast echocardiography induced proliferation of cardiomyocyts and amelioration left ventricular contractile function in non-ischemic cardiomyopathy. 第35回日本免疫学会, 横浜
49. 岩崎真佳, 足立　靖, 南野桂三, 鈴木康弘, 中野景司, 小池保志, 向出裕美, 岩坂壽二, 池原　進 (2005) シスプラチンによる急性尿細管障害に対するG-CSFとM-CSFの効果. 第94回日本病理学会総会, 横浜
50. 鈴木康弘, 足立　靖, 南野桂三, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 向出裕美, 王　剣峰, 池原　進 (2005) Mild conditioning regimen を用いた新しいアロ骨髄移植法. 第94回日本病理学会総会, 横浜
51. 南野桂三, 足立　靖, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 向出裕美, 松村美代, 池原　進 (2005) M-CSFとG-CSFによる虚血肢血流回復の効果. 第94回日本病理学会総会, 横浜
52. 小池保志, 足立　靖, 鈴木康弘, 南野桂三, 張　玉明, 岩崎真佳, 王　剣峰, 向出裕美, 上山泰男, 池原　進 (2005) ラット同種間骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) と Donor lymphocyte infusion (DLI) を用いた抗腫瘍効果の検討. 第94回日本病理学会総会, 横浜
53. 張　玉明, 足立　靖, 南野桂三, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 中野景司, 王　剣峰, 向出裕美, 池原　進 (2005) G-CSFとM-CSFの併用による骨髄移植後の造血回復に対する効果. 第94回日本病理学会総会, 横浜
54. 岩崎真佳, 足立　靖, 南野桂三, 鈴木康弘, 中野景司, 小池保志, 王　剣峰, 向出裕美, 岩坂壽二, 池原　進 (2005) G-CSFとM-CSFのシスプラチンによる急性尿細管障害に対する効果. 日本再生医療学会, 大阪
55. 南野桂三, 足立　靖, 鈴木康弘, 岩崎真佳, 中野景司, 小池保志, 王　剣峰, 向出裕美, 松村美代, 池原　進 (2005) M-CSFによる虚血肢血流増加の機序. 日本再生医療学会, 大阪
56. 馬場　奨, 稲葉宗夫, 高田敬蔵, 上田祐輔, 平　充, 福井淳一, 郭　可泉, 岩井　大, 山下敏夫, 池原　進 (2005) マウス造血前駆細胞および樹状細胞サブセットの動態解析―骨髄内骨髄移植法を用いて―. 第94回日本病理学会総会, 横浜
57. 李　銘, 稲葉宗夫, 郭　可泉, 王　剣峰, 李　強, 王　暁麗, 宋　昌嘩, 崔　文, 平　充, 高田敬蔵, 馬場　奨, 上田祐輔, 福井淳一, 池原　進 (2005) 骨髄間葉系幹細胞から膵島細胞への分化, 誘導. 第94回日本病理学会総会, 横浜
58. 李　銘, 稲葉宗夫, 郭　可泉, 李　清, 崔　文, 崔　雲澤, , 宋　昌嘩, 高田敬蔵, 上田祐輔, 福井淳一, 津田雅庸, 坂口雄沢, 池原　進 (2005) Mesenchymal stem cells in mouse bone marrow can differentiate into insulin-producing cells in vitro. 第35回日本免疫学会, 横浜
59. 高田敬蔵, 稲葉宗夫, 上田祐輔, 福井淳一, 津田雅庸, 坂口雄沢, 郭　可泉, 李　銘, 飯田寛和, 池原　進 (2005) Treatment of senile osteoporosis in SAMP6 by intra-bone marrow (IBM)-bone marrow transplantation (BMT) from normal strains. 第35回日本免疫学会, 横浜

著　書

1. Inaba M, Iwai H, Ikehara S (2004) Prevention and treatment of age-associated disease in SAM by bone marrow transplantation with or without thymus grafts. The Senescence-Accelerated Mouse (SAM): An Animal Model of Senescence (Nomura Y, Takeda T, and Okuma Y) pp 117–121, Elsevier, International Congress Series, The Netherlands
2. Takada T, Inaba M, Ichioka N, Baba, S, Taira M,

Nakamura K, Iida H, Ikehara S（2004）revention of senile osteoporosis in SAMP6 mice by intra-bone marrow injection of allogeneic bone marrow cells. The Senescence-Accelerated Mouse（SAM）: An Animal Model of Senescence（Nomura Y, Takeda T, and Okuma Y）pp 117–121, Elsevier, International Congress Series, The Netherlands
3. Ikehara S（2004）Allogeneic hemopoietic stem cell transplantation in animal models of autoimmune diseases. Stem Cell Therapy for Autoimmune Disease（Richard K. Burt, Alberto M. Marmont）pp 245–252, Landes Bioscience, USA
4. 池原　進（2005）革新的骨髄移植法の開発．別冊医学のあゆみ・血液疾患（坂田洋一，小澤敬也編）556–558頁，医葉薬出版社，東京
5. 池原　進（2005）移植における革新的技術．別冊医学のあゆみ・免疫疾患（今西二郎，淀井淳司，湊長博，山本一彦編）422–426頁，医葉薬出版社，東京
6. 池原　進（2005）骨髄内骨髄移植．南山堂医学大辞典（相川直樹他編）865頁，Nanzando Company, Limited, Tokyo
7. 足立　靖（2005）血管再生治療．南山堂医学大辞典（相川直樹他編）695頁，Nanzando Company, Limited, Tokyo

病理学第二講座

〈研究概要〉

I. 天然エストロゲン様化学物質の思春期前暴露によるマウスへの影響

エストロゲン様化学物質のマウス胎仔期暴露は機能・形態的影響を引き起こす（Nikaido et al., 2004）．そこで，思春期前暴露による同様の実験を施行した．エストロゲン様化学物質であるGenistein, Resveratrol, Zearalenone, Zeranol, Bisphenol AやDiethystilbestrol（DES）のマウス思春期前暴露による発育への影響やエストロゲン標的臓器における作用強度を比較した[原著-3]．方法として，Genistein, Resveratrol, Zearalenone, Zeranol, Bisphenol Aは10 mg/kg，DESは10 μg/kgを15–18日齢の雌CD-1マウスに連日計4回皮下投与し，24週齢に至るまで無処置対照群と比較した．その結果，体重増加（発育）はいずれの被験化学物質の投与においても差を見なかったが，膣開口はGenistein, Zearalenone, Zeranol, DESで早発し，ResveratrolやBisphenol Aにはこの作用はみなかった．また，Zearalenone, Zeranol, DESでは発情期の延長を特徴とする発情周期のかく乱がみられ，8週齢ではZearalenoneのみに無排卵性卵巣をもつ個体がみられたが，24週齢では全例正常卵巣形態をみた．よって，Zearalenoneの内分泌かく乱作用は他の被検物質よりも強く，ResveratrolやBisphenol Aは弱い．

II. Enterolactoneによる大腸癌細胞株増殖抑制効果

癌抑制能をもつ天然化学物質の同定を続けてきたが[総説-1]，その一環として，亜麻仁に含まれるlignanより生体内で産生されるenterolactoneのcolo 201ヒト大腸癌細胞株に対する増殖抑制効果につき，in vitroのMTSアッセイにて検討したところ[原著-5]，濃度依存的に増殖抑制効果を見い出した（培養72時間におけるIC_{50}値：118.4 μM）．また，colo 201移植雄ヌードマウスに対して，移植1週前より週3回，全経過中，1 mg/kgあるいは10 mg/kg enterolactoneを皮下注射したところ，非注射群に比して，10 mg/kg enterolactone注射群では腫瘍増大が有意に抑制された．その機序みるべく，移植腫瘍のproliferating cell nuclear antigen（PCNA）標識率とTUNEL陽性率をみたところ，10 mg/kg enterolactone注射群は非注射群に比して，PCNA標識率の有意な減少とTUNEL陽性率の有意な増加をみた．さらに，Flow cytometryでは，培養colo 201細胞に対して，enterolactone添加により，アポトーシスに特有なG1分画の出現をみたが，細胞回転には影響をみなかった．次いで，アポトーシスに関わる分子を検索したところ，アポトーシス促進蛋白であるCaspase-3の発現亢進，アポトーシス抑制蛋白であるBcl-2と増殖に関わるPCNA蛋白の発現抑制をみた（p53, Bax, Bcl-$X_{L,S}$値の変動は見なかった）．よって，enterolactoneはin vivo，in vitroともに，ヒト

大腸癌細胞株の増殖を抑制したとこは，ヒト大腸癌に対して有効な分子であることが予測される．なお，その増殖抑制機序は，Caspase-3 と Bcl-2 の関与をみるアポトーシスの増加と細胞増殖の低下であることが判明した．

III. Nicotinamideによる*N*-methyl-*N*-nitrosourea誘発視細胞アポトーシスの制御機序

60 mg/kgの*N*-methyl-*N*-nitrosourea（MNU）の単回腹腔内投与により，1週間の経過で視細胞のアポトーシスによる消失をみる（Nakajima M et al., 1996）．このモデルは，ヒト網膜色素変性症の治療法開発モデルとして有用である[総説-3]．我々は，1000 mg/kgのnicotinamide（NAM）をMNUと同時に皮下投与すると，視細胞アポトーシスの完全抑制をみることを見い出した（Kiuchi K et al., 2002）．しかし，この傷害抑制機序については未だ検討されていない．（ADP-ribose）polymerase（PARP）の活性化はDNA傷害に対して重要な役割を担うことから，MNU投与に対するNAM処置の影響につき，Western blott法にてPARPとJun N-terminal kinase（JNK）/activator protein-1（AP-1）の発現変動につき検討した．MNU投与後7日間の網膜サンプルを経時的にみると，PARPの活性化，JNKやc-Junのリン酸化，AP-1（c-jun，c-fos）やBaxの発現亢進を視細胞の消失と平行してMNU投与後12時間から3日にかけて認めたが，NAMを併用することにより，視細胞アポトーシスは回避され，PARPの活性化はみられず，JNKとc-junのリン酸化やc-JunやC-FosならびにBaxの発現は抑制をみた（in press）．よって，NAMのMNU誘発視細胞アポトーシスの抑制機序は，PARPの活性化ならびにJNK/AP-1シグナル伝達経路の阻害であることが判明した．そこで，現在PARP阻害剤である3-aminobenzamideの効果につき検討中である．

〈研究業績〉

原　著

1. Kurokawa I, Nishijima S, Kusumoto K, Senzaki H, Shikata N and Tsubura A（2005）A case report of hidroacanthoma simplex with an immunohistochemical study of cytokeratins. Int J Dermatol 44: 775–776
2. Tsujita-Kyutoku M, Danbara N, Yuri T, Nikaido Y, Hatano T and Tsubura A（2005）Basal cell carcinoma arising from a keratinous cyst of the skin: a case report and review of the literature. Med Mol Morphol 38: 130–134
3. Nikaido Y, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Yuri T, Uehara N and Tsubura A（2005）Effects of prepubertal exposure to xenoestrogen on development of estrogen target organs in female CD-1 mice. In Vivo 19: 487–494
4. Danbara N, Shikata N, Kawamura H, Shintaku M and Tsubura A（2005）Eosinophilic cytoplasmic inclusions in papillary renal cell carcinoma. Med Mol Morphol 38: 262–266
5. Danbara N, Yuri T, Tsujita-Kyutoku M, Tsukamoto R, Uehara N and Tsubura A（2005）Enterolactone induces apoptosis and inhibits growth of colo 201 human colon cancer cells both in vitro and in vivo. Anticancer Res 25: 2269–2276
6. Kurokawa I, Mizutani H, Nishijima S, Kato N, Yasui K and Tsubura A（2005）Trichoadenoma: cytokeratin expression suggesting differentiation towards the follicular infundibulum and follicular bulge regions. Br J Dermatol 153: 1084–1086
7. Tsujita-Kyutoku M, Uehara N, Matsuoka Y, Kyutoku S, Ogawa Y and Tsubura A（2005）Comparison of transforming growth factor-β/Smad signaling between normal dermal fibroblasts and fibroblast derived form central and peripheral areas of keloid lesions. In Vivo 19: 959–963
8. Kurokawa I, Mizutani H, Nishijima S, Kusumoto K and Tsubura A（2005）Keratinizing squamous epithelium associated with syringocystadenoma papilliferum differentiates towards infrainfundibulum: case report with immunohistochemical study of cytokeratins. J Int Med Res 33: 590–593
9. Kiyozuka Y, Koyama H, Nakata M, Matsuyama T, Nikaido Y, Shimano N and Tsubura A（2005）Diagnostic cytopathology in type II angiosarcoma of the breast : a case report. Acta Cytol 49: 560–566
10. 辻田（久徳）美樹，段原直行，圦　貴司，上

原範久，高田秀穂，羽田尚彦，螺良愛郎（2005）共役ドコサヘキサエン酸によるKPL-1ヒト乳癌細胞株における増殖抑制効果．乳癌基礎研　14: 31–35

11. 圦　貴司，段原直行，辻田（久徳）美樹，上原範久，松岡洋一郎，四方伸明，螺良愛郎（2005）Perillyl alcoholのヒト乳癌細胞株に対する増殖抑制効果．乳癌基礎研　14: 17–21

総　説

1. Tsubura A, Uehara N, Kiyozuka Y and Shikata N（2005）Dietary factors modifying breast cancer risk and relation to time of intake. J Mammary Gland Biol Neoplasia 10: 87–100
2. Tsubura A, Yoshizawa k, Miki K, Oishi Y and Kiuchi K（2005）Animal models for human cataract with special emphasis on N-methyl-N-nitrosourea-induced rat cataractogensis. Anim Eye Res 24: 1–8
3. 義澤克彦，螺良愛郎（2005）メチルニトロソ尿素誘発網膜変性動物モデルの特徴とヒト網膜色素変性症治療法開発への応用．日眼　109: 327–337
4. 螺良愛郎（2005）厚生労働科学研究費補助金，化学物質リスク研究事業．内分泌撹乱物質と大豆等既存食品の発育・癌化及び内分泌撹乱作用の比較．総括・分担研究報告書　1–191
5. 螺良愛郎（2005）厚生労働科学研究費補助金，化学物質リスク研究事業．内分泌撹乱物質と大豆等既存食品の発育・癌化及び内分泌撹乱作用の比較．総括・分担研究報告書　1–316

学会発表

1. 上原範久，清塚康彦，松岡洋一郎，四方伸明，螺良愛郎（2005）経産後乳腺における発癌剤刺激応答と発癌抑制機構の解析．第94回日本病理学会，横浜
2. 圦　貴司，辻田（久徳）美樹，島野直人，上原範久，四方伸明，螺良愛郎（2005）外来性エストロゲンZeranolのヒト乳癌細胞株におよぼす濃度依存的増殖修飾作用．第94回日本病理学会，横浜
3. 松岡洋一郎，二階堂泰資，北川陽子，高取聡，宇波　明，大石裕司，堀伸二郎，畑埜武彦，螺良愛郎（2005）植物エストロゲンの乳癌抑制効果に関する基礎的研究．第13回日本乳癌学会，倉敷
4. 松岡洋一郎，上原範久，圦　貴司，津田洋幸，螺良愛郎（2005）植物由来エストロゲン様物質ゲニステインのエストロゲン非依存性乳癌の抑制効果に関する基礎的研究．第64回日本癌学会，札幌
5. 松岡洋一郎，塚本麗子，高取　聡，宇波　明，大石裕司，堀伸二郎，螺良愛郎（2005）大豆イソフラボンの乳癌抑制作用に関する基礎的研究．第15回乳癌基礎研，名護
6. 段原直行，塚本麗子，圦　貴司，三木克朗，岡崎和一，螺良愛郎（2005）Enterolactoneのヒト大腸癌細胞株COLO 201に対する抗腫瘍効果．第94回日本病理学会，横浜
7. 三木克朗，塚本麗子，二階堂泰資，上原範久，松岡洋一郎，螺良愛郎（2005）17β-エストラジオールによるMNU誘発視細胞変性の制御の可能性．第94回日本病理学会，横浜
8. 塚本麗子，段原直行，清塚康彦，松岡洋一郎，岡崎和一，螺良愛郎（2005）ヒト大腸癌細胞株colo201に対するルテオリンの抗腫瘍効果．第94回日本病理学会，横浜
9. 三木克朗，塚本麗子，義澤克彦，松岡洋一郎，四方伸明，螺良愛郎（2005）N-methyl-N-nitrosourea（MNU）誘発眼病変の長期観察．第46回日本組織細胞化学会，京都
10. 二階堂泰資，圦　貴司，辻田（久徳）美樹，島野直人，四方伸明，螺良愛郎（2005）エストロゲン様作用をもつ化学物質の思春期前曝露による雌CD-1マウスにおける影響．第94回日本病理学会，横浜
11. 二階堂任，小松優治，二階堂泰資，小路徹二，是枝　敬，松岡洋一郎，植村芳子，畑埜武彦，螺良愛郎（2005）乳腺葉状腫瘍の臨床病理学的検討．第13回日本乳癌学会，倉敷

著　書

1. 螺良愛郎（2005）8．乳癌前駆病変の分子生物学．良性乳腺疾患アトラス・乳腺診療の手引き（弥生恵司，井内康輝編）70–73頁，永井書店，大阪

微生物学講座

〈研究概要〉

微生物学講座では，代表的なヒトレトロウイルスである，ヒトT細胞白血病ウイルス（HTLV-1）とヒト免疫不全ウイルス（HIV-1）を対象とした研究を行っている．

HTLV-1は主に乳児の間に母乳を介して感染し，感染者は数十年の長い潜伏期を経た後に，5～10%の生涯発症率で悪性の白血病である成人T細胞白血病（ATL）を発症する．本邦には120万人以上の感染者が存在するが，ATL に対する治療法は未だ確立されていない．そこで，潜伏期における感染未発症者の個体レベルでのウイルス発現制御機構の解明を介して，ATL の発症を抑制する手段の開発を目指している．そのために，ヒト感染個体におけるウイルス発現動態を再現するマウスモデルを確立し，ウイルス発現制御機構を細胞内シグナル伝達及び遺伝子発現の観点から解析している．

また，我々はHTLV-1感染細胞における細胞内シグナル伝達を解析する過程で，特異的にチロシンリン酸化される宿主蛋白としてRNA結合蛋白Sam68を同定した．Sam68蛋白の機能解析の結果，細胞増殖制御における役割が示唆されたことから，その機構を解明する目的で，細胞内における標的RNAの同定を行ってきた．現在，Sam68によるこれら標的RNAの動態制御と細胞増殖調節との関連を解析することで，近年，注目が集まっているRNAを介した細胞機能制御機構を明らかにしようとしている．

一方，いまだ世界レベルでの拡大を続けているエイズの原因ウイルスであるHIV-1の感染に対しては，さらに幅広い抗ウイルス薬の開発が緊急の課題となっている．そこで，ウイルスの細胞侵入過程を標的とした新しい抗HIV剤の開発を目標として，HIV-1エンベロープ蛋白と宿主細胞側のウイルスレセプターとの相互作用を構造化学的な視点で詳細に解析している．

また，我々はHIV-1 RNAの核外輸送を制御するウイルス蛋白Revが，宿主側の抗ウイルス蛋白インターフェロンの mRNA 核外輸送を抑制することを見出した．そこで，Rev 機能を介した宿主免疫抑制機構の可能性を明らかにするため，現在，同mRNA核外輸送機序に関与する宿主因子の同定を進めている．

現在進行中のテーマは以下の通りである．

1）HTLV-1遺伝子の個体内での発現抑制における低酸素の影響

HTLV-1による細胞がん化に関与するウイルス遺伝子Taxの発現は，ウイルス感染個体内においては強く抑制されており，これがATL発症に至るまでの長い潜伏期を説明すると考えられている．我々はこれまでに，HTLV-1転写調節領域制御下にTaxと蛍光蛋白GFPとの融合蛋白（Gax）を発現するEL-4マウスT細胞株（EL-4 Gax）を同系マウス腹腔内に接種するモデル系を構築し，同マウスモデルがヒトにおける個体レベルでの免疫制御およびウイルス遺伝子発現制御を再現することを示した．そこで，この系での転写抑制と再活性化の機構を遺伝子レベルで解析したところ，個体内における低酸素状態がウイルス遺伝子の発現抑制に関与していることを見出した．現在，その詳細な分子機構に関して解析を進めている．

2）SCID-huを用いたHTLV-1モデルマウスの構築

HTLV-1感染未発症者における宿主免疫とウイルス動態の関係を明らかにし，これをATL発症予防ワクチンの開発・評価に応用する目的で，骨髄内骨髄移植の手法でヒト臍帯血を移植したSCIDマウス（SCID-hu）にHTLV-1感染細胞を移入して，ヒト血球系を背景に持つHTLV-1感染マウスを作製した．しかしながら，これまでのSCIDマウス（NOD-SCID）では，リンパ球の分化が不完全であることから，現在，さらに重度の免疫不全マウス（NOG-SCID）を用いた，感染マウスの作製を試みており，今後，同マウスでの感染細胞の腫瘍性増殖の誘導や，骨髄移植を基本とした新規ATL治療法の開発を目指している．

3）RNA結合蛋白Sam68による転写後調節の解析

HTLV-1感染細胞で強くチロシンリン酸化されている蛋白として同定したRNA結合蛋白Sam68が細胞周期のG2/M期進展に関与することを明らかにし，さらにその標的となる細胞RNAとして，β-アクチンおよびRNA結合蛋白hnRNP A2/B1のmRNAを証明した．そこで，Sam68のhnRNP A2/B1 mRNAに対する細胞内での結合を解析したところ，選択的スプライシング特異的な結合を示すことが明らかとなった．現在，選択的スプライシングおよび蛋白発現の調節における詳細な機構および，その細胞増殖制御における役割に関して，解析を進めている．

4）HIV-1受容体CCR5を介するウイルス侵入機構の経時的解析

これまでに，HIV-1受容体であるC-Cケモカイン受容体CCR5の点突然変異体を強制発現した細胞に対するルシフェラーゼ発現組換えHIV-1レンチウイルスベクターの感染性を解析し，CCR5の膜貫通領域がウイルスの侵入に重要な役割を果たすことを明らかにしてきた．一方，蛍光共振エネルギー転移（FRET）の原理を用いて，HIV-1の標的細胞への侵入過程における，ウイルス膜タンパク質Envと標的細胞表面CD4およびケモカイン受容体への段階的な結合，および，その結果生じる融合孔fusion poreの形成を経時的に解析する系を構築した．そこで，種々のCCR5点突然変異体とFRETの系を用いて，今後，HIV-1の細胞への侵入に必要なCCR5の構造変化の実体の解明および必要なアミノ酸配列の同定を進め，新規侵入阻害剤の開発に有用な知見を提供していく計画である．

5）mRNA核外輸送調節を介したインターフェロン発現制御機構の解明

これまで，HIV-1の調節蛋白Revが宿主の抗ウイルス蛋白であるインターフェロン-α1（IFN-α1），α2およびα13のmRNA核外輸送を抑制することを見出し，そのmRNA上に核外輸送責任塩基配列を同定した．そこで，これらIFN-α分子種mRNAの核外輸送の機構を明らかにする目的で，責任塩基配列に結合する新規RNAアダプター（結合）分子の同定を試みている．このRNAアダプター分子のクローニングと共に，本分子がウイルス感染に応答して発現する他の生体因子のmRNAに共通なアダプターとして機能する可能性に興味が持たれる．

〈研究業績〉

原　著

1. Yasui K, Furuta RA, Matsumoto K, Tani Y and Fujisawa J-I（2005）HIV-1-derived self-inactivating lentivirus vector induces megakaryocyte lineage-specific gene expression. Microbes Infect 7: 240–247
2. Yoshida K, Matsuzaki K, Mori S, Tahashi Y, Yamagata H, Furukawa F, Seki T, Nishizawa M, Fujisawa J and Okazaki K（2005）Transforming growth factor -β and platelet-derived growth factor signal via c-Jun N-terminal kinase-dependent smad2/3 phosphorylation in rat hepatic stellate cells after acute liver injury. Am J Pathol 166: 1029–1039
3. Nishikawa M, Takashima K, Nishi T, Furuta RA, Kanzaki N, Yamamoto Y and Fujisawa J-I（2005）Analysis of binding sites for the new small-molecule CCR5 antagonist TAK-220 on Human CCR5. Antimicrob Agents Chemother 49: 4708–4715

総　説

1. Kimura T and Hashimoto I（2004）Functional links between the steps in mRNA biogenesis and nuclear export. Recent Res Devel Mol Cell Biol 5: 197–208

学会発表

1. Kimura T, Hashimoto I, Fujisawa J-I（2005）CRM1-dependent nuclear export of *IFN-α1* mRNA is mediated through a structured target sequence that is conserved in *IFN-α2* and *IFN-α13* mRNAs. The American Society for Cell Biology 45th annual meeting, San Francisco
2. 稲田武文，蒋　時文，古田里佳，藤澤順一

（2005）個体内での HTLV-1 遺伝子発現抑制における酸素分圧の関与．第 64 回日本癌学会総会，札幌

3. 蒋　時文，稲田武文，伊藤道恭，古田里佳，藤澤順一（2005）HTLV-1の個体内潜伏感染機構の解析．第 58 回日本細菌学会関西支部総会，神戸
4. 古田里佳，藤澤順一（2005）FRET を用いた HIV-1 侵入時におけるレセプター間相互作用の解析．第 53 回日本ウイルス学会学術集会・総会，横浜
5. 西川正雄，高島勝典，古田里佳，神崎直之，藤澤順一（2005）新規HIV-1感染阻害剤TAK-220の感染阻害に必要なCCR5の構造. 第19回日本エイズ学会，熊本
6. 古田里佳，庄　　敏，巽　理恵，服部俊夫，藤澤順一（2005）SARS コロナウイルスＳタンパク質媒介膜融合機構の解析．第 28 回日本分子生物学会年会，福岡
7. 北野千晶，松崎恒一，関本　剛，巽　理恵，竹谷　茂，藤澤順一（2005）Smad2 欠損マウス胎児繊維芽細胞を用いた Smad2 部位特異的リン酸化の機能解析．第 28 回日本分子生物学会年会，福岡

衛生学講座

〈研究概要〉

1）ヒト臍帯血由来CD34抗原陰性造血幹細胞の同定とその幹細胞特性の解明

最近，私達の研究グループは，ヒト臍帯血中に極めて少数存在するCD34抗原陰性幹細胞の確実な同定に世界に先駆けて成功した（Blood 101: 2924-2931, 2003）．これまでの研究で，独自に開発した骨髄腔内直接移植（IBMI）法を応用することにより，分化抗原陰性，CD45抗原低発現，CD34抗原陰性細胞集団の中に長期に骨髄を再構築する幹細胞（SCID-repopulating cell, SRC）が存在することを明らかにした．さらに，このCD34抗原陰性SRCが，*in vivo* における高い自己複製能と増殖能・遊走能を保持していることを明らかにした（Int J Hematol 79: 328-333, 2004）．

平成17年度は，このCD34抗原陰性SRCの免疫特性に関して重点的に検討した．従来，未分化な幹細胞に作用すると報告されていた stem cell factor, flt3 ligand のチロシンキナーゼ受容体である c-kit, flt3 が，われわれが同定した CD34 抗原陰性 SRC に発現していないことを明らかにした（Blood 106（11）: 235a, 2005）．以上の研究により，現時点でヒトの最も未分化な造血幹細胞の免疫特性は，$Lin^{-}CD45^{low}CD34^{-}c\text{-}kit^{-}flt3^{-}$ と考えられた．

重要な発見として，このCD34抗原陰性SRCが骨髄腔内nicheへのホーミング能力が低いこと，さらにCD34抗原陽性SRCの中にもCD34陰性SRCと同様にCXCR4などのホーミング受容体の発現レベルの低いSRCが存在することを明瞭に示したことが挙げられる．このことは臨床的にも重要な意義をもっている．すなわち，現在の静脈内投与による造血幹細胞移植法では，これらのCD34抗原陰性及び陽性SRCは効率よく骨髄腔内nicheへホーミングできない．そこで，本学で開発中の骨髄内骨髄移植法を臨床応用することができれば，現在の同種造血幹細胞移植に革命的な変化をもたらすものと思われる．今年度は，本学のCOE研究の一貫として全国レベルの骨髄内骨髄移植研究会（代表世話人：池原進）を設立し，灌流法による骨髄採取の安全性を確認するための臨床第I相試験の研究実施計画書の作成準備を行った. 平成18年度には，本研究会を母体として骨髄内骨髄移植法の臨床応用を目指すとともに，灌流法で採取した骨髄細胞の幹細胞機能の評価を行う予定である．

2）CD45抗原陰性幹細胞の同定とその幹細胞特性の解明

ヒト臍帯血由来のCD34抗原陰性SRCに関連する研究を進展する過程で, 骨髄異形成症候群患者の骨髄あるいは末梢血中に非常に未分化な幹細胞と考えられる $CD45^{-}CD34^{-}CD38^{-}Lin^{-}$ 細胞を同定した（Stem Cells 23: 619-631, 2005）．現在，ヒト臍帯血あるいは骨髄中に存在する CD45 抗原陰性幹細胞の同定とそ

の幹細胞特性の解明に関する研究を進めている.

3）ヒト骨髄あるいは臍帯血に由来する幹細胞を用いるトランスレーショナルリサーチの展開

今後の基礎的研究として，NOD-Rag-1^{null}Prf-1^{null}マウスを用いる新たな異種間移植系の開発，幹細胞の骨髄腔内nicheへのホーミング機構の解明，その増殖分化機構（特に，自己複製機構）や可塑性（分化転換能）の解明，*ex vivo*増幅系の開発，さらに，ヒト造血幹細胞の本体の解明（そのhierarchy上の位置付けやCD45$^-$CD34$^-$組織幹細胞（TCSC）との関連）などに取り組む予定である．さらに，これらの基礎的研究成果を細胞治療・移植医療に応用するために，骨髄内骨髄移植研究会を中心として臨床試験研究を推進したいと考えている.

4）骨髄性ポルフィリア症の分子機構

ヘム合成系の終末段階の酵素であるフェロケラターゼ活性の欠損は，プロトポルフィリンの蓄積による骨髄性プロトポルフィリア症を引き起こす．骨髄性プロトポルフィリア症の患者は正常の20–30%のフェロケラターゼ活性を示す．このような低活性を生じる分子機構を解明する目的で，変異型および野生型フェロケラターゼを単独または同時に大腸菌に大量発現させ，形成されたホモおよびヘテロ二量体の活性を解析した．その結果，野生型フェロケラターゼのホモ二量体のみが高い活性を示したが，変異型のホモ二量体は全く活性が認められなかった．また，変異型と野生型のヘテロ二量体は低活性であり，安定性の顕著な低下が認められた（Hum Mol Genet 14: 324-337, 2005）.

5）摂取エネルギー制限に関する疫学研究

諸民族の間のエネルギー代謝の違いが報告されている．しかし，このことが遺伝的要因により決定されるものなのか，もしくは短期的な機能馴化によるものなのかは解明されていない．今回我々は，短期的な摂取エネルギー制限がエネルギー代謝や他の生理機能にどのような影響をおよぼすかについて検討した.

労働者の健康増進を目的として，食事や運動指導を行っている企業がある．本研究は，企業の健康増進活動に参加したものを対象として行われた．対象者を中等度または軽度摂取エネルギー制限の二群に分け，他の健康指導は両群とも同じとした．エネルギー制限の結果，基礎代謝量は減少し，その程度は中等度制限群において軽度制限群より大きかった．また，基礎代謝の変化は体重の変化よりも大きかった．さらに動物を用いた実験系で検証した結果，短期の絶食により代謝系を含む種々の生理機能が変化することが観察された.

6）アレルギーの一次予防に関する基礎研究

実験動物において，摂取エネルギーを制限すると寿命が延長することや種々の疾病が抑制されることが知られている.

今回は，動物モデルを用いて摂取エネルギー制限がアレルギー疾患におよぼす影響について血液，免疫学的に検討した．その結果，短期のエネルギー制限により，NC/Ngaマウスの遅延型接触性皮膚炎が抑制されることを確認した．さらに，短期のエネルギー制限により種々のサイトカインが影響を受けること，局所や末梢側の免疫細胞が影響を受けること等が確認された.

7）産業保健に関する研究

ポリウレタンの原料であるイソシアネート類は呼吸器および皮膚アレルギーの原因物質であるが，代替物が存在せず，今後も生産が継続されるため，その対策が課題である．イソシアネート類により皮膚アレルギー反応を惹起したモデルマウスを作成し，惹起後に短期絶食を行ったところアレルギー性炎症の抑制効果を観察した（昨年10th International Conference on Occupational Respiratory Diseases, Beijingで

発表).

歯科技工士は歯科医師と同様に，各種重金属に暴露することが報告されている．大阪府歯科技工士会の協力を得て歯科技工士の各種がん罹患リスクを研究中である.

医療従事者の喫煙は禁煙教育推進上重要な問題であるがわが国ではこれまで歯科医師の喫煙状況の調査は乏しかった．複数の県歯科医師会の協力を得てアンケート調査を実施し，年齢階層別に補正して比較したところ，男性歯科医師の喫煙率は，一般市民よりは低いものの，医師よりも高い傾向を示した（昨年にJpn J Dent Prac Adminに掲載).

〈研究業績〉

原　著

1. Ogata K, Satoh C, Tachibana M, Hyodo H, Tamura H, Dan K, Kimura T, Sonoda Y and Tsuji T (2005) Identification and Hematopoietic Potential of $CD45^-$Clonal Cells with Very Immature Phenotype ($CD45^-CD34^-CD38^-Lin^-$) in Patients with Myelodysplastic Syndromes. Stem Cells 23: 619–630
2. Ishihara H, Wenying F, Kouda K, Nakamura H, Kohno H, Nishio N and Sonoda Y (2005) Effects of dietary restriction on physical performance in mice. J Physiol Anthropol Appl Human Sci 24: 209–213
3. Kouda K (2005) Interrelationships among whole-body coordination, functional potentiality, and environmental adaptability. J Physiol Anthropol Appl Human Sci 24: 241–242
4. Ohgari Y, Sawamoto M, Yamamoto M, Kohno H and Taketani S (2005) Ferrochelatase consisting of wild-type and mutated subunits from patients with a dominant-inherited disease, erythropoietic protoporphyria, is an active but unstable dimer. Hum Mol Genet 14: 324–337
5. Nishio N and Imamura T (2005) Smoking prevalence among dentists in Hyogo, Japan. Jpn J Dent Prac Admin 40: 170–175

総　説

1. 薗田精昭（2005）造血幹細胞のホーミングとmobilizationの分子機構. 医学のあゆみ　別冊：血液疾患―State of arts ver.3 21–25

学会発表

1. Nishio N, Kouda K, Kono H, Ishihara H, Nakamura H and Sonoda Y (2005) Suppressive effects on hypersensitivity by dietary restriction in isocyanate sensitized mice. 10th international conference on occupational respiratory diseases, Beijing, China
2. Sonoda Y (2005) Identification of a novel class of CD34-negative hematopoietic stem cells and their stem cell characteristics. Catholic International Symposium, Seoul, Korea
3. Sonoda Y, Kimura T, Asada R, Wang J, Kimura T, Ishihara H, Kouda K, Sasaki Y, Tsuji T and Ikehara S (2005) Identification and Long-Term Repopulating Potential of Human Cord Blood-Derived $CD34^-Flt3^-$ Cells with Very Immature Phenotype Using Intra-Bone Marrow Injection. The 47th Annual Meeting of American Society of Hematology, Atlanta, U.S.A.
4. Sonoda Y (2005) Identification of a novel class of human cord blood-derived CD34-negative hematopoietic stem cells using the intra-bone marrow injection. Seminar at Jamaes Graham Brown Cancer Center, Louisville, U.S.A.
5. 薗田精昭（2005）体性幹細胞の再生医療への応用　―臍帯血を用いるトランスレーショナルリサーチの展開―. 第121回関西医科大学学術集談会，大阪
6. 薗田精昭（2005）ヒト臍帯血由来CD34抗原陰性造血幹細胞の同定―骨髄腔内直接注入法を用いる新しい造血幹細胞移植療法の開発とその意義―. 第13回近畿臍帯血幹細胞移植研究会，大阪
7. 薗田精昭（2005）ヒト造血幹細胞の本態はどこまで解明されたのか. 第2回滋賀輸血療法研究会，滋賀
8. 薗田精昭，木村貴文，王　剣鋒，辻　　孝，池原　進（2005）ヒトCD34抗原陰性造血幹細胞におけるFLT3発現とその幹細胞特性．文部科

学省特定領域研究（幹細胞の可塑性と未分化性維持機構）平成16年度第2回公開班会議，東京
9. 木村貴文，LotharKanz，RobertMohle，薗田精昭（2005）スフィンゴシン1-リン酸受容体活性化による造血幹細胞のホーミング促進効果．第4回日本再生医療学会総会，大阪
10. 甲田勝康，石原敬康，河野比良夫，中村晴信，西尾信宏，薗田精昭（2005）食餌制限：絶食がラット肝臓の遺伝子発現におよぼす影響．第75回日本衛生学会総会，新潟
11. 木村貴文，王　剣鋒，佐々木豊，辻　　孝，池原　進，薗田精昭（2005）ヒト未分化造血幹細胞におけるFLT3発現とその幹細胞特性．第3回幹細胞シンポジウム，淡路
12. 薗田精昭（2005）SDF-1非遊走性SCID-repopulating cellの同定とその幹細胞特性―骨髄内直接移植法の臨床的意義について―．第6回細胞移植・遺伝子治療セミナー，宇都宮
13. 西尾信宏，今村知明（2005）某県歯科医師会会員の喫煙状況の検討．第46回日本歯科医療管理学会総会，東京
14. 木村貴文，LotharKanz，RobertMohle，薗田精昭（2005）免疫抑制剤FTY720による造血幹細胞のホーミング促進効果．第15回日本サイトメトリー学会学術集会，名古屋
15. 木村貴文，浅田留美子，佐々木豊，石原敬康，甲田勝康，辻　　孝，池原　進，薗田精昭（2005）ヒト未分化造血幹細胞におけるFLT3発現とその幹細胞特性．第67回日本血液学会総会ワークショップ，横浜

著　書

1. 薗田精昭（2005）幹細胞の可塑性と分化．細胞医療（高上洋一編）15–45頁，医薬ジャーナル社，大阪

公衆衛生学講座

〈研究概要〉

教室の方針として，教室一丸となって1つのテーマに集中するよりも，様々な領域の研究を並行して行うことにより，広範囲にわたる公衆衛生学の教育分野に対応できると考えている．本教室が扱っている研究テーマは，多方面に渡っており，スタッフの数以上の研究内容となっています．したがって，ここでは教室が扱う研究の流れを述べる．

1番目：西山（教授）は，感染症の疫学と予防に関する研究として国際保健医療として開発途上国における健康被害や健康管理に関する研究．熱帯病とくに熱帯感染症の診断と予防に関する研究．海外渡航者の健康管理に関する研究やストレスが引き起こす疾病とそれに対する一次予防への取り組みを行っている．

2番目：神田（講師）は，発生生物学的な見地から難病疾患における再生医学を応用した研究を分子生物学的な遺伝子分野や感染防御学の面からも研究を行っている．

3番目：田近（助手）は，近年増加傾向にある精神疾患の一次予防への取り組みとして海外渡航者のメンタルヘルスに関する研究を行っている．

4番目：西山，田近は，社会学的研究の一環として，高齢者の身体，精神，社会面にわたる調査研究であるが，まず，高齢化社会に伴う健康の維持増進に関わる身体的機能の究明として身体機能低下を予防する運動療法や理学療法的な面からの研究を行っている．また，高齢者介護に関して上田元講師と共同研究を継続的に行っている．

5番目：西山，神田は，栄養学的な研究として内分泌かく乱物質に関する研究を行っている．

以上のようにあらゆる観点から人々の健康にかかわる研究を広範囲にわたって行っています．また，大学院生や研究員も多数在籍しており，上記テーマの範囲で，それぞれ疫学的，および実験的テーマを

設定して研究しています．社会人大学院生も多数研究に参加して，当講座では，とりまく社会や医療現場における諸問題を様々な角度，視点でとらえ，幅広い研究を遂行して，社会還元することを目標にしています．

2005年度の研究概要については，以下の研究業績を参照されたい．

〈研究業績〉

原　著

1. Hayashi I, Kanda S, Yoshidome A, Ishida T and Nishiyama T（2005）The study of ASCARIS and ulcerative colotis Part 2:localization of mucin 12 on ASCARIS lumbricoides hominis. Tropical Medicine and Health 33（1）: 47
2. Yoshidome A, Kanda S, Hayashi I and Nishiyama T（2005）The study of antigen for the new tuberculosis diagnosis and application to the serodiagnosis. Toropical Medicine and Health 33（1）: 62
3. Nishiyama T, Hayashi E, Ishida T, Lee K, Handou K and Sisontone B, Amano H（2005）The study of health status for the inhabitants of rural ares on vientiane province in Lao P.D.P. Toropical Medicine and Health 33（1）: 82
4. Kojima M, Fukunaga K, Sasaki M, Nakamura M, Tsuji M and Nishiyama T（2005）Evaluation of estrogenic activities of pesticides using an in vitro reporter gene assay. Int J Environ Heal Res 15（4）: 271–280
5. Kojima M, Manabe M, Kanda S, Fukunaga K, Nakamura M, Tsuji M and Nshiyama T（2005）Additive Effevts of Estrogenic Activity by the Combinatuion of E_2 and Pesticides. J Kansai Med Univ 57（2･3･4）: 165–170
6. Sugihara A, Fukunaga K, Nishiyama T and Yoshida M（2005）Effect of Intermittent Supplementation with Selenate on Selenium Status of Rats Fed Selenium-Deficient Diet. J Nutr Sci Vitaminol 51: 478–481
7. 三宅眞理，保津真一郎（2005）心の介護・ダイバージョナルセラピー（略称DT）．大阪体育研究　43: 65–75
8. 小嶋美穂子，辻　元宏，西山利正，福永健治（2005）滋賀県における農産物中残留農薬の動向．食生活研究　25: 28–32
9. 田近亜蘭，杉山祐夫，福島正人，村上貴栄，服部裕子，柿永佳良子，有木永子，砂原千穂，北代麻美，木下利彦，西山利正（2005）デイケア中断に関与する要因の検討．最新精神医学　10（4）: 409–416
10. 玉田育子，神田靖士，西山利正（2005）プランルカスト（オノン®）ドライシロップが有用であった乳児気管支喘息の1例．新薬と臨床 54（3）: 96–101
11. 西山利正，三宅眞理，田近亜蘭，佐々木真理，保津真一郎，相澤　徹（2005）廃用性痴呆を予防するための定期的な運動と認識活動の効果についての研究～要介護高齢者が積極的に健康習慣の取り組みを復活させるために～．大阪ガスグループ福祉財団研究調査報告書 18: 135–143

総　説

1. 古賀才博，濱田篤郎（2005）トラベルクリニックの運営（解説）．クリニカルプラクティス 24（1）: 64–67
2. 石田高明，西山利正（2005）輸入寄生虫感染症．モダンフィジシャン　25（5）: 615–620
3. 仁木　稔，眞鍋真理，西山利正（2005）消化管寄生虫（原虫，蠕虫）．臨床看護　31（2）: 181–185
4. 古賀才博，濱田篤郎（2005）任意接種対象疾患　狂犬病ワクチン．臨床と微生物　32（5）: 492–496
5. 古賀才博（2005）海外出張者の健康問題．海外勤務と健康　21: 2–3
6. 古賀才博（2005）海外勤務者のための出発前に知っておくべき医療情報．グローバル人づくり　23（4）: 22–28

学会発表

1. Nobuhara K, Okugawa G, Minami T, Sugimoto T, Takase H, Tajika A, Yagyu T, Sawasa A and Kinoshita T（2004）Effects of ECT on structural

connectivity in late-life depression: A Magnetic Resonance Diffusion Tensor Imaging Study. 8th International Congress of Biological Psychiatry, Sydney

2. Isotani A, Yamada K, Irisawa S, Yoshimura M, Tajika A, Saito N, Yagyu T, Saito A and Kinoshita T（2004）EEG source gravity center location changes after a single dose of atypical antipsychotic in healthy volunteers. International Society for Brain Electromagnetic Topography（ISBET）, Urayasu, Chiba, Japan
3. 織田裕行，田近亜蘭，加藤正樹，吉村匡史，三井　浩，杉本達哉，山田圭造，有木永子，吉野真紀，中平暁子，磯谷俊明，木下利彦（2004）関西医科大学附属病院における性同一性障害治療の現状．第17回日本総合病院精神医学会総会，京都
4. 西山利正（2004）寄生虫症（原虫症・蠕虫症）に対する感染症対．第19回日本国際医療保健学会総会　ワークショップ，東京
5. 中平暁子，吉野真紀，中島　文，有木永子，田近亜蘭，織田裕行，木下利彦（2004）性同一性障害患者の心理検査による検討～ WAIS-R, MMPI を中心に～．第24回日本精神科診断学会，大阪
6. 吉野真紀，中平暁子，中島　文，有木永子，織田裕行，田近亜蘭，木下利彦（2004）性同一性障害患者のWAIS-R，MMPIの検討．第17回日本総合病院精神医学会総会，東京
7. 田近亜蘭，仁木　稔，西山利正（2005）単科精神病院に勤務する女性看護師のストレス対処行動に関する研究．第64回日本公衆衛生学会総会，札幌
8. 神田靖士，玉田育子，西山利正（2005）マウスES細胞を用いた神経細胞への分化誘導の検討．第4回日本再生医療学会総会，大阪
9. 田近亜蘭，仁木　稔，西山利正（2005）中近東に在留する邦人の精神的健康度の調査～2種類の心理テストを用いた比較検討．第9回海外渡航者の健康を考える会大会，大阪
10. 西山利正，濱田篤郎（2005）旅行医学とイミグラントメディスンの黎明．第46回日本熱帯医学大会，京都
11. 石田高明，山本加奈子，天野博之，福永健治，Sommone Phounsavath, Viengavanh Phanmanivong，西山利正（2005）ラオス国で使用されているメベンダゾールについての検討．第46回日本熱帯医学大会，京都
12. 吉野真紀，中平暁子，織田裕行，田近　文，有木永子，田近亜蘭，木下利彦（2005）性同一性障害患者の心理的特性～ WAIS-R・MMPI・ロールシャッハテストから～．第18回総合病院精神医学会総会，松江
13. 嶽北佳輝，田近亜蘭，織田裕行，西田圭一郎，木下利彦（2005）短パルス矩形波を用いた修正型電気痙攣療法の痙攣時間に関与する要因についての検討．第18回総合病院精神医学会総会，松江
14. 阿保　宏（2005）ボリビア僻地の医療状況．第8回近畿熱帯医学研究会，大阪
15. 仁木　稔，田近亜蘭，西山利正（2005）海外巡回健康相談業務をとおしてみた海外在留邦人の心身医学的状況．第64回日本公衆衛生学会総会，札幌
16. 玉田育子，神田靖士，西山利正（2005）マウスES細胞から下垂体由来ホルモン産生細胞への分化誘導．第4回日本再生医療学会総会，大阪
17. 眞鍋真理，神田靖士，小嶋美穂子，堀慎二郎，西山利正（2005）複数農薬共存農作物におけるエストロゲン活性の複合影響．第121回関西医科大学学内学術集談会，大阪
18. 仁木　稔，田近亜蘭，西山利正（2005）海外在留邦人への心身医学的役割．第9回海外渡航者の健康を考える会大会，大阪
19. 伊藤健一，木村　穣，上田加奈子，高尾奈那，山本哲史，岩坂壽二，田近亜蘭，西山利正（2005）膝関節軟骨部の超音波所見と体格・下肢アライメント・下肢筋力の関係　一般女性における中年・高齢者間の検討．第22回臨床運動療法研究会，さいたま
20. 古賀才博（2005）海外での交通事故・災害時の医療について．第8回交通安全講演会　日本交通医学工学研究会，名古屋
21. 小嶋美穂子，山中　直（2005）基本健康診査成績と生活習慣病発症との関連について．第35回滋賀県公衆衛生学会，滋賀
22. 甲斐輝彦，吉田宗弘，福永健治，岡田敏英，西

山利正（2005）亜鉛強化酵母に含有される亜鉛の性質と動物代謝実験による吸収性の検討．第59回日本栄養・食糧学会大会，東京
23. 山根愛子，吉田宗弘，福永健治，岡田敏英，西山利正（2005）亜鉛強化スプラウトに含有される亜鉛の有効評価．第59回日本栄養・食糧学会大会，東京
24. 岡田敏英，吉田宗弘，福永健治，西山利正（2005）ジメチルヒドラジンによって惹起したマウス大腸リンパ球浸潤反応に対するセレン強化スプラウトの抑制効果．第59回日本栄養・食糧学会大会，東京
25. 福永健治，吉田宗弘，西山利正（2005）ラット大腸癌発症におよぼすコレステロールおよびイコサペンタンエン酸投与の効果．第59回日本栄養・食糧学会大会，東京
26. 吉田宗弘，三木篤史，太田祥江，吉武　裕，児玉直子，西牟田守（2005）大豆に含有されるモリブデンの化学形態と成人女性における吸収率．第59回日本栄養・食糧学会大会，東京
27. 上田照子，西山利正（2005）在宅要介護高齢者における息子による虐待　―介護環境と発生要因の検討―．第64回日本公衆衛生学会総会，札幌
28. 大隅泰則，八木正夫，河本光平，朝子幹也，栗山博道，柴田清児，米田元胤，神田靖士，西山利正，山下敏夫（2005）老人性難聴モデルマウスにおける蝸牛神経核および下丘の遺伝子発現解析．第50回日本聴覚医学会総会・学術講演会，東京
29. 山本加奈子，天野博之，石田高明，黒田千加，川口伸浩，Sisauthong Keo, Banouvong Virasack, Phanmanivong Viengsavanh, Phounsavath Sommone, 西山利正（2005）ラオス国ルアンパバール県学童における消化管寄生虫症実相調査．第46回日本熱帯医学大会，京都
30. 角　泰人，西渕光昭，中口義次，西山利正，石田高明（2005）近畿熱帯医学研究会のこれまでの歩みと今後の展望．第46回日本熱帯医学大会，京都
31. 北川陽子，高取　聡，田中之雄，西川淳一，西原　力，西山利正，堀伸二郎（2005）CoA-BAP法を用いたイソフラボン類のエストロゲン様作用の評価．第8回環境ホルモン学会，東京
32. 岡田敏英，福永健治，西山利正，吉田宗弘（2005）セレン強化スプラウトの抗腫瘍効果．ジメチルヒドラジンによって惹起されるマウス大腸リンパ球浸潤反応への影響．第22回微量栄養素研究会シンポジウム，京都

著　書

1. 古賀才博（2005）海外で働く方に必要な感染症予防のための知識と対策．健康教育・健康管理のレシピ（神田　晃，谷原真一，亀田高志編）64–68頁，南山堂，東京

法医学講座

〈研究概要〉

（1）DNA解析による新しい血液型判定法の開発の検討

Se式血液型遺伝子の判定法について，温度勾配ゲル電気泳動法を応用し，ヘテロ二重鎖の生成の条件と電気泳動パターンについて検討を始め，効率的なDNA解析法が確立できた．さらに同方法をABO式血液型に応用し，良好な結果をおさめたことを発表した．

（2）乱用薬物検査キットTriageの胃内容物への応用

市販されているTriage検査キットは尿を対象とした検査キットである．しかし事例によっては尿が採取できない場合がある上に，薬物の進入経路および服用経過時間を推測する資料とするために，胃内容および血清を検査試料に加えることの有用性について検討した．その結果，薬物による急死事例では尿中に排泄されることなく絶命し，尿検査では偽陰性になる可能性があることが判明した．経口投与される薬物の場合は，高濃度の薬物が残存する可能性のある胃内容を用いたTriage検査が有効であった．

(3) アセトニトリル-NaCl抽出法のベゲタミンの分析への応用

ベゲタミンの成分であるフェノバルビタール，プロメタジンおよびクロルプロマジンはNaCl-アセトニトリル法でアセトニトリル相に選択的に抽出された．この抽出液は濃縮処理することなく紫外検出器-高速液体クロマトグラフで定量することが可能で，分析の簡便化と迅速化を図ることができた．同定では220，250および300 nmの波長で測定したピーク面積を比較することでバルビツール酸系薬物とフェノチアジン系の違いが認められ，薬物の同定に応用可能だった．また，異なる波長のクロマトグラムを比較することで定量精度を向上させることができた．

(4) 呈色反応を用いた尿中馬尿酸濃度の簡易定量法の改良

トルエン濫用を証明する予備試験として，尿中馬尿酸を赤色調に呈色する簡易検査法を考案した．短所として馬尿酸濃度が低濃度の場合，黄色味を帯び判定誤差になる可能性があった．これを改善する方法として呈色操作の最後に加えた純水を1%アンモニア水に代えることで，黄色調を帯びない赤色調に呈色することが可能となり，肉眼的に判定が容易となった．

(5) 呈色反応の検出限界を用いた簡易定量法の試み

呈色反応を用いた簡易検査法では呈色標準表と比較して定量するため，予め標準表を作成する必要がある．これを改善する方法として呈色の検出限界を用いた定量法を尿中馬尿酸を対象として検討した．その結果，検体を希釈する倍率によってトルエン濫用陽性（馬尿酸濃度 1 mg/ml 以上），注意域（0.5 ～ 1.0 mg/ml），正常域（0.5 mg/ml以下）の3段階に判定することが可能だった．これを高速液体クロマトグラフィーの定量値と比較したところ，予備試験として実用性ある結果を得た．

(6) 脳波自動解析システムの小児を含めた脳死判定への応用

脳死判定の際の感度を上げて測定される脳波検査ではノイズの混入が問題となるが，従来から脳死患者に試行してきた脳波自動解析システムではノイズ問題を克服して脳波を定量的に解析できるため，実用性の検討を続けている．さらに，現在小児の脳死判定基準が発表されているが，この脳死判定基準でも除外されている 6 歳未満の小児についても脳波自動解析システムを導入して脳死判定の検討を行ったところ，成人同様に客観的に平坦脳波を判定することが可能であった．

(7) 脳死判定における脳波解析用ソフトウェアの簡便な実用化

脳死判定の実用化に向け，平坦脳波を確認する目的で脳波の等価電位解析を行ってきたが，従来から使用している脳波自動解析システムと，市販のソフトウェア「ATAMAP II for Windows」とで解析結果を比較検討した．平坦脳波における等価電位はいずれのシステムでも全部位の各周波数領域で1 μV以下で，ほぼ同様の成績が得られた．このソフトウェアを用いれば，等価電位解析による脳死補助診断が可能な上に，今まで蓄積してきたデータを参考資料として活用できるものと考えられた．

(8) 溺死診断のためのプランクトン検査法の検討

水死体の臓器からプランクトンを検出することにより溺死の診断をしているが，薬品の組合せや手順について検討を加えてより簡便な検査法を開発し，実務に応用可能であることを確認中である．

(9) 医学部学士編入学を想定した総合試験問題の試作と検討

大学入試センター研究開発部との共同研究で，医学部への学士編入学を想定し，記憶に頼る学力試験と異なり受験者の資質を総合的に判断するための総合試験問題を試作し，実際に関西医科大学において本学学生を含む近隣大学（医学部以外を含む）の学生を被験者として受験させ，問題の適否の検討を行った．その結果，問題文に誤解を生じる表現がある場合は設問として不適当で，学部系統により解答傾向

に差異があることも判明した．これらの成果は学術論文として発表予定である．

〈研究業績〉

原　著

1. Yoshida M, Akane A, Mitani T and Watabiki T（2005）Simple colorimetric semiquantitation of hippuric acid in urine for determination of toluene abuse. Legal Med 7: 198–200
2. Mizukami H, Akane A, Nakayashiki N, Aoki Y and Shiono H（2005）Systematic classification of alleles of the glycophorin A（MN blood group）gene. J Human Genet 50: 667–670
3. Mitani T and Akane A（2005）Detection of single nucleotide polymorphism in the FUT2 gene by temperature gradient gel electrophoresis. Legal Med 7: 217–221
4. 沖井　裕，河本圭司，赤根　敦，岩瀬正顕，吉岡正太郎，大石哲也，中谷壽男（2005）脳波自動解析システムを用いた平坦脳波の経時的に解析した1例．Neurosurgical Emergency 10: 107–111
5. 福永龍繁，鈴木　修，大澤資樹，吉田謙一，久保真一，池田典昭，青木康博，赤根　敦，近藤稔和（2005）法医学教室の教職員の配置および経費配分の実態調査報告．日法医誌　59: 272–275

学会発表

1. 沖井　裕，河本圭司，赤根　敦，岩瀬正顕，吉岡正太郎，中谷壽男（2005）32例の平坦脳波の自動解析．第10回日本脳神経外科救急学会，名古屋
2. 沖井　裕，赤根　敦，河本圭司，岩瀬正顕，吉田　学，吉村澄孝，時安太久磨，三谷友亮，綿引利充（2005）脳波自動解析システムで解析した平坦脳波．第89次日本法医学会総会，高松
3. 吉田　学，赤根　敦，西川眞弓，綿引利充，三谷友亮，沖井　裕，吉村澄孝，時安太久磨，土橋　均（2005）UV-HPLCによるベゲタミンの分析法の検討．第89次日本法医学会総会，高松
4. 赤根　敦，三谷友亮，吉田　学，沖井　裕，吉村澄孝，時安太久磨（2005）ドラム缶コンクリート詰め死体の解剖例2例．第89次日本法医学会総会，高松
5. 赤根　敦，三谷友亮（2005）擬父，擬母不在家系の親子鑑定における肯定確率の意義．日本DNA多型学会第14回学術集会，前橋
6. 吉田　学，赤根　敦，三谷友亮（2005）尿中馬尿酸の簡易検査法．日本法科学技術学会第11回学術集会，大阪
7. 吉田　学，赤根　敦，三谷友亮，時安太久磨，吉村澄孝，沖井　裕（2005）胃内容を用いたTriage検査が有効であった事例．第52回日本法医学会近畿地方会，神戸
8. 沖井　裕，赤根　敦，河本圭司，橋本孫一，吉村澄孝，時安太久磨，三谷友亮，吉田　学（2005）当教室で使用している脳波自動解析システムと他のシステムとの比較．第52回日本法医学会近畿地方会，神戸
9. 三谷友亮，赤根　敦，小林哲哉，時安太久磨，吉村澄孝，沖井　裕，吉田　学，綿引利充（2005）温度勾配電気泳動法によるABO遺伝子の多型解析．第89次日本法医学会総会，高松
10. 三谷友亮，赤根　敦，小林 哲哉（2005）温度勾配電気泳動法によるABO遺伝子のSNP解析．日本DNA多型学会第14回学術集会，前橋

著　書

1. 赤根　敦（2005）中毒死体の見方．死体検案ハンドブック（的場梁次，近藤稔和編）137–160頁，金芳堂，京都
2. 赤根　敦（2005）遺伝形質（血液型）．臨床のための法医学（第5版）137–141頁，朝倉書店，東京
3. 赤根　敦（2005）DNA多型．臨床のための法医学（第5版）142–146頁，朝倉書店，東京
4. 赤根　敦（2005）親子鑑定．臨床のための法医学（第5版）147–150頁，朝倉書店，東京

分子遺伝学部門

〈研究業績〉

原 著

1. Kinashi T（2005）Intracellular signaling controlling integrin activation in lymphocytes. Nat Rev Immunol 5: 546–559
2. Kinashi T and Katagiri K（2005）Regulation of immune cell adhesion and migration by regulator of adhesion and cell polarization enriched in lymphoid tissues. Immunology 116: 164–171
3. Kanemitsu N, Ebisuno Y, Tanaka T, Otani K, Hayasaka H, Kaisho T, Akira S, Katagiri K, Kinashi T, Fujita N, Tsuruo T and Miyasaka M（2005）CXCL13 is an arrest chemokine for B cells in high endothelial venules. Blood 106: 2613–2618

学会発表

1. 木梨達雄，片桐晃子（2005）Regulation of lymphocyte adhesion and cell polarity by RAPL signaling. 第35回日本免疫学会，横浜

内科学第一講座

〈研究概要〉

樹状細胞は生体に広く分布し，抗原特異的にT細胞を活性化，免疫応答を誘導する抗原提示細胞であり，近年免疫ネットワークを多方面から統御する細胞として注目を浴びている．樹状細胞は，自然免疫賦活剤として，抗腫瘍免疫療法の臨床試験も開始されてるが，臨床疾患における樹状細胞の側面からの免疫学的アプローチはHIV感染症等ごく限られた疾患においてのみなされており，樹状細胞と各臨床疾患との関わり，特に免疫異常を来す病態においての樹状細胞の関わりは未解明のままである．

樹状細胞は，その単離が難しいこと，生体内各組織における分布細胞密度が必ずしも高くないことなどにより，ヒトにおいては正常状態での解析も十分になされていなかった．しかしながら，我々が確立した方法により末梢血を循環する樹状細胞をそのままの状態で解析することが可能になり，これらを用いて，我々は，免疫異常を呈する難治性疾患の病態を，樹状細胞の性状と機能の面から解析することにより，これまで不明とされていた疾患の病態を把握し，さらには治療に役立つ戦略の確立を目的とし現在研究を行っている．

血液部門：

同種造血幹細胞移植は，血液疾患の治療のみならず他の固形癌に対する治療戦略の一つとなりうることが示されつつあり，今後ますます重要な治療法になると考えられる．同種造血幹細胞移植の中心理念はアロ抗原や腫瘍抗原に対する免疫反応による腫瘍根絶（graft-versus-tumor effect）であるが，この免疫反応は両刃の剣であり host の組織障害性に作用し，しばしば致死的となるGVHD（graft-versus-host disease）が依然大きな問題となっている．当教室では同種造血幹細胞移植に関連して生じるこれらのダイナミックな免疫系の動態を多角的に解析することにより，graft-versus-tumor effect と GVHD の発生機序およびその相違を明らかにし，より効果的に前者を誘導し同時に後者を抑制する新しい治療戦略の開発を目的として検討を行っている．同種造血幹細胞移植を受けた造血器腫瘍患者では急性GVHD発症時にはミエロイド系樹状細胞とリンパ系樹状細胞の双方が末梢血において著しく減少していることを明らかにした．GVHD組織の免疫染色により，この減少は組織への能動的な動員によることが示された．これはドナーの樹状細胞がアロ抗原を提示することにより急性GVHDを惹起する可能性を示唆している．一方，慢性GVHD発症時には急性GVHDでみられたような末梢血樹状細胞の減少は認めなかった．しかしながら移植後慢性期にある患者では慢性GVHDの発症の有無に関わらずIFN-γおよびTNF-α産生性のエフェクターT細胞の増加を認めた．これらの患者では腫瘍の再発を認めていないことより，これらの

エフェクターT 細胞が graft-versus-tumor effect を担っている可能性がある．また興味深いことに慢性GVHDの発症時にはIL-4産生性のCD8+T細胞が必ず出現することが明らかとなった．すなわちこのIL-4産生性のCD8+T細胞は慢性GVHDの発症病態に深く関わっていることが示唆される．

呼吸器部門：

肺結核は高齢者のみならず，多くの若年者にも発症者が報告されており，現在最も重要視されている感染症のひとつである．結核菌に対する感染防御機構については，現在までに多くの研究がなされてきているが，当教室では抗原提示細胞として感染防御に重要である樹状細胞に焦点を当て検討を行っている．私たちはこれまで，肺結核患者では末梢血のミエロイド系樹状細胞が減少し選択的に結核組織に移行し Th1 応答を誘導していることを見いだした．また私たちは，結核と同様の肉芽腫性疾患に属するサルコイドーシスに注目し，その発症・疾患の進展の機序を，樹状細胞を含めた免疫応答のシステムの観点から解析することを試みている．サルコイドーシス患者ではミエロイド系樹状細胞のみならずリンパ系樹状細胞も末梢血において著しく減少していることを突き止めている．すなわち，同じ肉芽腫性疾患でも結核とサルコイドーシスでは樹状細胞の動態が異なることが明らかにされた．

免疫部門：

近年における免疫学の進展は著しく，その中でも当科が注目し研究対象としている樹状細胞は，生体免疫応答の要に位置する極めて重要な細胞といえ，各種感染症に対する防御免疫を担う中心的な存在として位置づけられる一方で，炎症性アレルギー性疾患，自己免疫疾患，悪性腫瘍等の発症・進展のメカニズムにおいても重要な意味をもつことが明らかにされつつある．また樹状細胞によって制御されているエフェクターT 細胞も Th1，Th2，regulatory T などの亜群により様々な疾患病態に関与すると考えられている．我々はヒト樹状細胞亜群ならびに制御性 T 細胞を含むエフェクターT 細胞亜群の解析を行っており，ヒトにおける免疫制御機構のデータを蓄積している．これらの結果から我々は免疫異常を呈する難治性疾患の病態解明，さらには治療に役立つ戦略の確立を目的とし日々，研究を行っている．

〈研究業績〉

原　著

1. Kaibori M, Kishimoto Y, Yanagida H, Yokoigawa N, Yamamoto H, Kitade H, Fukuhara S, Egawa H, Tanaka K and Kamiyama Y（2005）Living donor liver transplantation in a recipient with anti-Fya and Jka antibodies. Hepato-Gastroenterology 52: 610–612
2. Miyawaki S, Sakamaki H, Ohtake S, Emi N, Yagasaki F, Mitani K, Matsuda S, Kishimoto Y, Miyazaki Y, Asou N, Matsushima T, Takahashi M, Ogawa Y, Honda S and Ohno R（2005）A randomized, postremission comparison of four courses of standard-dose consolidation therapy without maintenance therapy versus three courses of standard-dose consolidation with maintenance therapy in adults with acute myeloid leukemia. Cancer 104: 2726–2734
3. Nakai K, Kanda Y, Fukuhara S, Sakamaki H, Okamoto S, Kodera Y, Tanosaki R, Takahashi S, Matsushima T, Atsuta Y, Hamajima N, Kasai M and Kato S（2005）Value of chemotherapy before allogeneic hematopoietic stem cell transplantation from an HLA-identical sibling donor for myelodysplastic syndrome. Leukemia 19: 396–401
4. Inami N, Nomura S, Kimura Y, Sutani Y, Yamada K, Nakamori H, Takahashi N,Tsuda N, Fukuhara S and Iwasaka T（2005）Association of leukocyte activation, but not the common cold, with restenosis after percutaneous coronary intervention in patients with angina pectoris. Pathophysiol Haemost Thromb 34: 13–17
5. Miyaji M, Jin ZX, Yamaoka S, Amakawa R, Fukuhara S, Sato SB, Kobayashi T, Domae N, Mimori T, Bloom ET, Okazaki T and Umehara H（2005）Role of membrane sphingomyelin and ceramide in platform formation for Fas-mediated apoptosis.

J Exp Med 202: 249–259
6. Nakamura K, Amakawa R, Takebayashi M, Son Y, Miyaji M, Tajima K, Nakai K, Ito T, Matsumoto N, Zen K, Kishimoto Y and Fukuhara S.（2005）IL-4-producing CD8+ T cells may be an immunological hallmark of chronic GVHD. Bone Marrow Transplantation 36: 639–647
7. Inami N, Nomura S, Kimura Y, Sutani Y, Yamada K, Nakamori H, Takahashi N, Tsuda N, Fukuhara S and Iwasaka T（2005）Association of leukocyte activation, but not the common cold, with restenosis after percutaneous coronary intervention in patients with angina pectoris. Pathophysiology of Haemostasis and Thrombosis 34: 13–17
8. 岸本裕司，岡前文子，寺嶋由香利，有元美代子，細川美香，阿部　操，山岡　学，大谷哲司，寺西節子，宗像眞智子，高橋伯夫，福原資郎（2005）交差適合試験を実施しない時間外緊急輸血マニュアル．日本輸血学会雑誌 51: 571–577
9. 細川美香，岸本裕司，阿部　操，山岡　学，大谷哲司，松崎龍典，寺西節子，福原資郎（2005）当院における貯血式自己血輸血の現況と課題．自己血輸血　18: 84–90
10. 中道尚人，中井邦久，田嶋健一郎，谷川　昇，松本憲明，全勝　浩，野村昌作，岸本裕司，尼川龍一，澤田　敏，福原資郎（2005）ステロイド難反応性の急性移植片対宿主病（acute graft-versus-host disease: aGVHD）に対する局所的ステロイド動脈内注入療法．無菌生物 35: 127–130
11. 石井一慶，山本義尚，野村昌作（2005）ALK陽性，CD30陰性のびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫．臨床血液　45: 501–506
12. 福原資郎（2005）悪性リンパ腫の分子基盤（解説）．Sysmex Journal 28: 13–22

総　説

1. 岸本裕司（2005）慢性骨髄性白血病の最新治療．血液診療　3: 32–37
2. 中村謙吾，中井邦久，福原資郎（2005）MDSに対する同種造血幹細胞移植における移植前化学療法の意義．血液腫瘍科　51: 497–502

学会発表

1. Tanaka A, Namba M, Ozeki Y, Uehata S, Nishida Y, Sakamoto T and Nomura S（2005）Elevated platelet derived microparticles and lesion morphology in acute coronary syndrome. XXth Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasism, Sydney
2. 岸本裕司，岡前文子，寺嶋由香利，有元美代子，細川美香，阿部　操，山岡　学，大谷哲司，寺西節子，福原資郎（2005）交差適合試験を実施しない時間外緊急輸血の検討．第53回日本輸血学会総会，千葉
3. 坂尾将幸，廣原淳子，高橋　悠，上ノ山由理，梅原秀人，池田耕造，是枝ちづ，関　寿人，岡崎和一，植村芳子，岸本裕司，海堀昌樹，上山泰男（2005）肝移植を施行した自己免疫性溶血性貧血合併原発性胆汁性肝硬変の1例．第36回日本肝臓学会西部会，三重
4. 森眞一郎，植村芳子，木村　卓，中道尚人，市吉　浩，中井邦久，松本憲明，全勝　弘，尼川龍一，岸本裕司，福原資郎（2005）末梢血EBV-DNA増加を伴った加齢性EBV関連リンパ増殖疾患．第45回日本リンパ網内系学会総会，福岡
5. 尾崎吉郎，孫　瑛洙，竹林匡史，永濱美紀，福原資郎（2005）シェーグレン症候群の罹病期間における末梢血樹状細胞数の変動．第49回日本リウマチ学会総会・学術集会，横浜
6. 竹林匡史，孫　瑛洙，永濱美紀，尾崎吉郎，福原資郎（2005）蛋白漏出性胃腸症で発症し，ヒトパルボウィルスB19感染の関与が疑われたSLEの一例．第49回日本リウマチ学会総会・学術集会，横浜
7. 野村昌作，出原正康，水野　礼，嶋本佳子，石井一慶（2005）骨髄破壊的前処置による同種臍帯血移植を実施した若年発症ATLの一例．第67回日本血液学会・第47回日本臨床血液学会合同総会，横浜
8. 野村昌作，石井一慶，稲見則仁，魚嶋伸彦，北山　等，林　邦雄（2005）同種幹細胞移植後の血管性合併症における細胞由来マイクロパーティクルの意義．第15回日本サイトメトリー学会，名古屋
9. 稲見則仁，野村昌作，生水　晃，尾本清太郎，

木村　穣，高橋延行，田中　篤，難波雅司，小田恭弘，岩坂壽二（2005）2型糖尿病におけるピタバスタチンのアディポネクチンへの影響．第26回日本肥満学会，札幌
10. 野村昌作（2005）Fireside Seminar：新しい活性化血小板のモニタリング．第69回日本循環器学会総会，横浜
11. 野村昌作（2005）活性型血小板と虚血性心疾患．第11回日本心臓リハビリテーション学会ランチョンセミナー，大阪
12. 野村昌作（2005）抗血小板療法の落とし穴-アスピリンレジスタンス．第5回日本心血管カテーテル治療学会ランチョンセミナー，岐阜
13. 谷岡理恵，宮地理彦，森眞一郎，中道尚人，中井邦久，松本憲明，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2005）発症時より形質細胞腫を合併したCasleman病の1例．第177回日本内科学会近畿地方会，大阪
14. 孫　瑛洙，伊藤量基，尾崎吉郎，谷尻　力，横井　崇，中村謙吾，尼川龍一，福原資郎（2005）Plasmacytoid dendritic cellにおけるprostaglandin E2の免疫的影響について．第16回樹状細胞研究会，福岡
15. 安室秀樹，木下有紀子，孫　瑛洙，竹林匡史，永濱美紀，尾崎吉郎，福原資郎，谷内昇一郎（2005）関節リウマチおよび強皮症様の皮膚硬化を認めたBruton型見無ガンマグロブリン血症の1例．第177回日本内科学会近畿地方会，大阪
16. 中道尚人，竹林匡史，尾崎吉郎，松本憲明，清水俊樹，中村竜也，福原資郎（2005）多発性筋炎の経過中に気胸を伴う膿胸にて急性発症した肺ノカルジア症の一例．第79回感染症学会総会，名古屋
17. 中道尚人，尼川龍一，松崎恒一，植村芳子，中井邦久，松本憲明，森眞一郎，全勝　弘，岸本裕司，福原資郎（2005）H. Pylori除菌療法により消退した耳下腺MALTリンパ腫の1例．第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会総会　合同総会，横浜
18. 中道尚人，中井邦久，田嶋健一郎，谷川　昇，松本憲明，全勝　浩，野村昌作，岸本裕司，尼川龍一，澤田　敏，福原資郎（2005）ステロイド難反応性の急性移植片対宿主病（acute graft-versus-host disease: aGVHD）に対する局所的ステロイド動脈内注入療法．第38回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会，大阪
19. 横井　崇，尼川龍一，伊藤量基，谷尻　力，孫瑛洙，中村謙吾，清水俊樹，福原資郎（2005）BCGによる樹状細胞の機能変換―アレルギー性疾患の治療を目指して―．第16回日本樹状細胞研究会，福岡
20. 横井　崇，尼川龍一，伊藤量基，谷尻　力，孫瑛洙，中村謙吾，清水俊樹，福原資郎（2005）BCGによる樹状細胞の機能変換―アレルギー性疾患の治療を目指して―．第35回日本免疫学会総会・学術集会，横浜
21. 谷　尻力，清水俊樹，尼川龍一，福原資郎（2005）ホジキン病細胞株KM-H2の細胞外基質刺激による形態・機能的変化の解析．日本癌学会64回総会，札幌
22. 谷尻　力，清水俊樹，横井　崇，孫　瑛洙，尼川龍一，福原資郎（2005）ホジキン病細胞株KM-H2による制御型T細胞の誘導．日本血液学会・日本臨床血液学会総会，横浜
23. 谷尻　力，清水俊樹，横井　崇，孫　瑛洙，中村謙吾，尼川龍一，福原資郎（2005）ホジキン病細胞株KM-H2を用いたTh2偏向能の検討．日本リンパ網内系学会，福岡
24. 杉本博是，太田麻衣子，木村　卓，矢木泰弘，清水俊樹，山口和之，米津精文，福原資郎（2005）両側胸水と完全型Heerfordt症候群を認めた空洞形成サルコイドーシスの1例．第65回日本呼吸器学会近畿地方会，京都
25. 寺西節子，岸本裕司，寺嶋由香利，有元美代子，細川美香，阿部　操，岡前文子，山岡学，大谷哲司，松崎龍典，福原資郎（2005）第53回日本輸血学会総会，千葉
26. 中村謙吾，森眞一郎，藤田真也，中道尚人，谷岡理恵，中井邦久，宮地理彦，松本憲明，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2005）間質性肺炎を伴ったリンパ形質細胞性リンパ腫の一例．第84回近畿血液学地方会，滋賀
27. 藤田真也，森眞一郎，中道尚人，谷岡理恵，中井邦久，宮地理彦，松本憲明，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2005）EBV関連肝原発リンパ腫の一剖検例．第83回近畿血液学地方会，大阪

28. 藤田真也，森眞一郎，中道尚人，谷岡理恵，中井邦久，宮地理彦，松本憲明，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2005）局所放射線療法およびリツキシマブ維持療法が奏効した膿胸関連リンパ腫の一例．第178回日本内科学会近畿地方会，京都

著　書

1. 岸本裕司（2005）濃厚血小板を輸血後，供血者がHBV NAT陽性と判明した症例．症例に学ぶEBM指向輸血検査・治療（大戸　斉編）177–180頁，医師薬出版株式会社，東京
2. 竹林匡史，中道尚人，福原資郎（2005）多発性筋炎の経過中に急性発症した肺ノカルジア症の一例．症例から学ぶ感染症治療のポイント（品川長夫，竹山廣光編）73–76頁，医薬ジャーナル社，大阪

内科学第二講座

〈研究概要〉

循環器

循環器学では，心筋虚血，心不全の病態解明についての基礎研究とともに，虚血性心疾患や不整脈の患者予後に直接還元できる臨床研究を主体としてきた．同時に新しい再生医療としての骨髄移植療法やNOGAシステムの臨床応用など，今後の新しい医療と，QOLを重要視した臨床治療の確立を研究目標においている．

1. 動物実験による心筋虚血再灌流障害の研究

心臓超音波法の進歩にともない，非侵襲的局所心機能評価が可能となってきた．特に，組織ドプラ法を用いれば定量的な局所心機能評価が可能となってきている．そこで，心房細動および虚血性心疾患を対象に，組織ドプラ法による心機能評価の有用性について検討し報告してきた．また，動物実験において，心筋虚血再灌流時の心筋障害の評価において，新たな生化学的マーカーの開発とともに，局所心機能の面から検討を行うため，従来の摘出還流心モデルを，ワーキングモードで還流できるシステムを導入した．その結果，局所壁運動の評価を前述の組織ドップラーを用い評価することが可能となった．新たな心筋障害の生化学マーカーとしてアクロレインの評価を行い，心筋虚血再灌流時の新たなマーカーになることを報告した．同時に，心筋虚血再灌流時の局所心機能の回復過程を組織ドプラ法にて検討した結果，局所心機能は，生化学的指標の変化に遅れて出現することを証明し得た．このことは，臨床上の治療効果の判定においえも重要であると考えられた．今後，摘出還流心のワーキングモデルを用い，新たな薬剤，治療法による局所心機能の変化を検討し，臨床治療に応用を試みていく予定である．

2. 心臓リハビリテーション・運動療法に関する研究

心臓リハビリテーションは，EBMにもとづく心筋梗塞後の再梗塞，心不全の予防医学として確立されてきた．当科においても，健康科学センターを中心に，心筋梗塞，狭心症リハビリテーションとして，積極的な運動，食事，カウンセリングによる2次予防に取り組み，特に冠動脈再検術後の再狭窄においても良好な結果が得られ，その具体的機序を明らかにしているところである．この最狭窄の予防効果は，インスリン抵抗性，血小板機能，血管内皮機能，自律神経機能などさまざまな機序により得られ，今後，病態によりどの作用が主体であるかを解明し，より確実な再狭窄予防効果を，個々の症例に合った心臓リハビリテーションとして確立させているところである．また心不全の評価として化学受容体感受性の機能評価を交感神経機能活性として用い，心不全の評価，および心臓リハビリテーションの効果としての有用性を報告した．この化学受容体感受性は，心不全のみならず，肥満や糖尿病においても変化が認められ，今後，生活習慣病の新たな重症度，予後の指標として研究していく予定である．運動療法に関

しては，肥満，高血圧，糖尿病，高脂血症において注目されると思われる．

その他の生活習慣病治療として，肥満外来を開設し，心理的指標による分析・治療，遺伝子レベルでの解析としてアドレナリンβ3受容体多型，レプチンによる評価を行い，個々の肥満の病態を明らかにしてきた．また，高血圧運動療法においては，降圧剤の併用薬として，Ca拮抗剤，ACE阻害剤の運動時の血管作動性交感神経機能による評価を行い，ACE 阻害薬において，運動時の自律神経機能の改善を証明し，臨床面での薬剤選択基準の一つとして評価されている．運動時の血行動態，特に末梢循環動態においては，測定が困難であり今まで詳細な検討は少なかったが，今回我々はインピーダンス法を用い，自転車運動時の下肢血行動態の解析に成功した．その結果，運動強度の増加により下肢末梢循環量が変化していく過程で，有酸素運動閾値を越えてから新たな血液シフト（血流再分布）の出現の可能性が示唆され，今後我々の開発したインピーダンス法による運動時の詳細な血行動態の解明が期待される．
健康科学センターとしては，心臓リハビリテーションを中心に，高血圧，糖尿病，高脂血症，肥満症において，運動，栄養，心理的介入方法を積極的に開発し，生活習慣病治療・予防の研究を行う予定である．

3. 慢性心不全例における交感神経活動に関する研究

慢性心不全において交感神経活動の亢進は予後を左右する上で重要な指標である．交感神経活動の測定は血中noradrenaline，心拍変動スペクトラムなどが一般的であったが，我々は筋交感神経活動（MSNA）の測定方法を会得し，交感神経活動を直接的に測定している．慢性心不全例における交感神経活動の亢進に関与する因子としてはarterial baroreflex，cardiopulmonary baroreflex，metaboreflex，chemoreeflexの4 つの圧受容体反射機能が関与していると報告されており，本施設において全て測定可能となっている．現在，これらの圧受容体反射機能と MSNA を用いて慢性心不全例における交感神経活動亢進の病態について検討している．さらに，ACE阻害薬，AngII拮抗薬などの交感神経活動に対する影響を比較検討中である．

4. 核医学を用いた冠動脈疾患における心筋灌流に関する研究

核医学を用いた心筋灌流イメージングは血管造影では評価できない心筋微小循環を非侵襲的のに評価可能である．急性心筋梗塞症に対する冠動脈血行再建術後の心筋微小循環傷害の定量的評価法を確立した．加えて，心筋微小循環傷害に対するverapamilの有効性を証明した．最近開発された心電図同期SPECTを用いることにより（1）心筋梗塞後の血流－収縮乖離（Stunned myocardium）の検出，（2）再灌流後の局所心機能回復における残存心筋血流の関与を明らかにしていく．

5. 心筋微少循環の再生と評価

超音波造影剤の開発，心エコー装置の改良により，超音波造影剤を経静脈的投与することによっても心筋コントラストエコーが可能とった．経静脈心筋コントラストエコー（MCE）撮像の至適条件と臨床的意義は明らかになっていない．急性心筋梗塞慢性期に MCE を施行し，心筋微小循環障害と心機能改善・左室再構築の関連を検討中である．また，虚血性心疾患に対する骨髄細胞移植による新生血管の定量的評価をMCEを用いてを検討中であり，その結果の一部を報告した．さらに，超音波造影剤投与下に強度の超音波照射を行うとbioeffectにより毛細血管が破壊される事が明らかとなってきた．このbioeffectを利用しMCEによるdrug-delivery, cell- deliveryの基礎検討を開始している．

6. 心筋組織性状と心機能の非侵襲的評価

梗塞心筋における心筋内膜外膜側の組織性状の変化が左室形態維持に及ぼす影響は明らかにされていない．心筋Integrated backscatter（IBS）により，心筋内膜側・外膜側のviabilityが個別に解析可能となった．初回心筋梗塞の心筋内膜側と外膜側の IBS を記録し，その変動量と変動パターンを解析し，心筋内膜側と外膜側の IBS と左室形態との関連について検討中であり，その結果の一部を報告した．また，心

外膜脂肪沈着が心機能に及ぼす影響は検討されていない．MRI，心エコー図を用いて心外膜脂肪の定量評価を行い，心外膜脂肪沈着が左室拡張能におよぼす影響を検討中である．さらに脂肪沈着群の心筋組織性状診断をIBSにて解析し*fatty heart*の概念を確立することを目的として検討を加えている．

7. 心臓カテーテル部門

循環器領域における観血的検査法および治療法に関する検討

近年の我が国における，食生活の欧米化や高齢化社会の到来は，生活習慣病を基盤とする動脈硬化疾患の増加をもたらし，循環器領域においては冠動脈硬化による狭心症，心筋梗塞，閉塞性動脈硬化症を始めとする末梢血管疾患が年々増加の傾向にある．一方，カテーテルによる冠動脈形成術（PCI）は薬物溶出性ステント（Drug Eluting Stent: DES）の登場により，その治療成績は飛躍的に向上した．しかしながら，急性心筋梗塞に対するPCI後に生じる微小循環障害は生命予後に関わる重大な合併症であり，PCIあるいはCABGによっても血行再建困難な末期冠動脈疾患に対する再生医療，年々増加する慢性腎疾患合併例に対するカテーテル検査や治療に伴う造影剤性腎炎の問題，増加する閉塞性動脈硬化症をはじめとする末梢血管疾患に対するカテーテル治療の確立など，多くの課題を抱えており．われわれは，これらの問題を克服すべく，精力的に臨床研究に取り組んでいる．

現在進行中の臨床研究

1. 急性心筋梗塞に対するPCI時の微少循環障害の予防

前処置としてhalf dose tPAに引き続き血栓吸引療法を行った後にステント留置を行う群と直接ステント留置を行う対照群との二重盲検試験を行い，slow flowの頻度，TMP grade，遠隔期予後などの評価項目について検討を行っている．

2. 造影剤性腎炎

腎保護作用があるとされるhANPや重炭酸による造影剤性腎炎の予防効果を二重盲検試験にて検討中

3. 再生医療

カテーテルを用いた骨髄単核球細胞移植による重症狭心症例への臨床試験が進行中．

計画中の臨床研究

課題：冠動脈硬化進展の予測に関する検討

血管内音波検査により，冠動脈疾患患者の非有意狭窄（内腔狭窄50%以下）のプラークの性状診断とその経時性状変化を観察し，動脈硬化進展予測が可能かを検討する．

方法：待機的に薬物溶出性ステント留置を行う労作性狭心症例（左室駆出率 >40%）で，標的病変の近位部に非有意狭窄を有する100例を対象とする．患者登録期間は2年．PCI時に血管内超音波検査を施行し，非有意狭窄病変の性状診断を行う．脂質含量によってプラークを

1. lipid rich plaque（脂質成分の多いもの），
2. mixed plaque（lipid rich plaque，fibrous plaqueの中間型）
3. fibrous plaque（脂質成分のないもの）

に分類し，1年後のプラーク性状の変化と臨床経過を追跡調査する．

1）一次評価項目

プラーク性状の変化

1. 1年後に血管内超音波検査を再検し，プラーク性状の変化を観察する
2. 観察対象となった非有意狭窄病変に起因する心事故が生じた場合には，可能な限り血管内超音波検査を施行し，プラーク診断を行う．

2）二次評価項目

観察対象となった非有意狭窄病変に起因する心事故率をプラーク性状分類ごとに評価する．

1. 狭心症の再発
2. 心筋梗塞の発症

3. 心臓死
4. 再血行再建術（PCI，CABG）

3）サブ解析として

1. 動脈硬化進展抑制作用があると考えられている，スタチン，ARB，ACE，Ca拮抗薬がプラーク性状の変化に与える影響
2. 糖尿病例におけるプラーク性状の変化の検討
3. 性差とプラーク性状の変化

■下肢閉塞性動脈硬化症に対する塩酸サルポグレラートの作用機転について血漿，全血セロトニン濃度を用いた検討

【背景】動脈硬化性疾患では動脈硬化部位の血管内皮細胞に障害が生じ，血小板が活性化され種々の血液凝固促進因子が放出される．セロトニン（5-hydroxytryptamine, 5-HT）は活性化された血小板から放出され，血管トーヌスの調節，血管平滑筋の増殖，血小板の活性化，凝集などの作用を有する．これらの作用に着目し，現在，本邦ではセロトニン受容体 5-HT_2 拮抗薬として塩酸サルポグレラートが閉塞性動脈硬化症の治療薬として承認されている．動脈硬化性疾患の病態把握，薬効評価などに血中セロトニン濃度の測定がなされてきたが，これまでの測定方法では測定値が不安定であり，詳細な臨床的評価が困難であった．2004 年に原，高橋らにより血中セロトニン濃度について採血手技と測定方法の詳細な検討がなされ，初めて安定的に測定できる手法が開発された．また臨床的評価に有用な指標として血漿/全血セロトニン濃度比（Serotonin ratio（P/WB））が考案された．塩酸サルポグレラートの作用機序をセロトニン濃度，塩酸サルポグレラート血中濃度を用いて解明することは極めて重要であるが，未だ報告はない．そこで，この方法が動脈硬化症患者における病態診断と治療効果判定に利用できるかどうかの試験研究を企画した．

【目的】下肢閉塞性動脈硬化症患者に対する塩酸サルポグレラートの臨床効果と血漿中 / 全血中セロトニン濃度比の関係について比較検討すること．

【実施期間，予定症例数】2005年初めから約1年間，目標例数50例

【対象と方法】安静時ABPI（Ankle Brachial Pressure Index）が0.9以下である

下肢閉塞性動脈硬化症患者を対象とする．塩酸サルポグレラート服用前，2 週間後，2ヶ月後の臨床症状，臨床的指標（Fontaine分類，ABPI，%MAP，UT），血漿，全血セロトニン濃度とその比率（P/WB×100）を計測した．【結果】全症例（18 例，男性 14 例，女性 4 例，平均年齢 72±8 歳）で 2 週間の塩酸サルポグレラート投与前後においてFontaine分類，ABPI，%MAP，UTに有意な差は認めなかった．全血セロトニン濃度は前：518.4±143.1 nmol/l，後：542.5±133.9 nmol/l と前後で差はなかったが，血漿セロトニン濃度は前：6.9±3.4 nmol/l，後：3.5±2.8 nmol/l，P/WB×100 は前：1.49±1.08%，後：0.60±0.36%と有意に低下した（$p<0.05$）．【考察】塩塩酸サルポグレラートがASO患者に投与された場合，早期に血小板活性が抑えられ，血漿セロトニン濃度が低下することが臨床的に初めて明らかとなった．2週間では臨床症状の改善には至らなかったが，血漿中セロトニンの 5-HT2 受容体を介する血管平滑筋の収縮の抑制効果が続けば長期投与での改善が期待できる．動脈硬化性疾患の安定した血小板活性化指標として全血，血漿セロトニン濃度，P/WB×100測定は有意義であると考えられた．

■カテーテルトレーニングキットの開発

【背景】本邦では高齢化社会，食生活の欧米化などにより，心血管系に動脈硬化病変をもつ患者が増加している．そのような患者の治療として現在ではカテーテル検査が日常的に一般病院で行なわれる普通の検査となってきた．このためカテーテル検査，治療に習熟した医師が求められている．医師は研修期間を終えて，循環器科等の専門科に所属してから初めてカテーテル検査，手術などの手技を研修している．これまでは教科書などで勉強し，指導医の手技を真似てカテーテル検査手技を学んでいたが，精巧なシミュレーターが存在しないため，いきなり実際の症例で研修するといった方法で手技を学んでいる．しかし昨今の未経験，経験不足の医師による手術手技がもたらした医療事故などが社会問題となっており，

精巧なシミュレーターが求められている.

マルチスライスCTの性能も向上しており，診断カテーテル検査の数そのものが減少することが予想され，これから研修する医師の手技数が減少する可能性がある．また薬剤溶出性ステントの開発により再狭窄症例は激減しており，症例数の経験が少ない医師がいきなり複雑病変の経皮的冠血管形成術（PCI）を施行せねばならないような状況が現実に起こってきている．これらのことからも初心者のみならず，中級者，上級者と幅広いオペレーターが研修可能なカテーテルトレーニングキットの開発が必要である.

【目的】カテーテルトレーニングキットの開発

【研究成果】2005年にメーカーと共同研究を開始．シリコン樹脂をベースとしたカテーテルトレーニングキットを開発した．特に冠動脈部分の作成，PCIのトレーニングが出来るように設計されている．実際の人体の血管内でのカテーテル操作の感触をリアルに再現できるように工夫した.

2006年小倉ライブデモンストレーションにおいて，PCIシミュレーターコースにおいてhands on trainingを開催した.

今後さらに検討を重ねヴァージョンアップを考えている.

また関西医科大学心臓血管病センターにおけるカテーテル研修にはカテーテルトレーニングキットを採用し，研修指導する予定である.

■PCIにおける新しいコンセプトのワイヤーサポートカテーテルの検討

【研究内容】側枝入口部，クランク病変でのwire selectionにおけるワイヤーサポート性に適したカテーテルの開発

2005年にメーカーと共同研究を開始．現在in vitroでの開発，実験動物（豚）を用いた実験を行なっている.

8. 超音波を用いた心筋微少循環の再生と評価

超音波造影剤の開発，心エコー装置の改良により，超音波造影剤を経静脈的投与することによっても心筋コントラストエコーが可能とった．急性心筋梗塞慢性期にMCEを施行し，心筋微小循環障害と心機能改善・左室再構築の関連を検討中である．また，虚血性心疾患に対する骨髄細胞移植による新生血管の定量的評価をMCEを用いてを検討中であり，その結果の一部を報告した．さらに，超音波造影剤投与下に強度の低周波超音波照射を行うとbioeffectにより毛細血管が破壊される事が明らかとなってきた. このbioeffectを利用したMCEによるdrug-delivery, cell- deliveryの基礎検討を開始している．骨髄細胞移植は新たな血管・心筋再生治療法として有望であるが，このMCEによるcell- deliveryを用いると非常に効率のよい虚血・梗塞心筋への骨髄細胞移植が可能であることが明らかとなり，結果の一部を報告した．今後，安全性を含め，臨床応用に向けた基礎検討の蓄積を行っていく予定である.

9. 循環器疾患のデータベース構築

Evidence-based Medicineの普及に伴い，従来のメカニズムのみに基づく医療より，死亡など患者にとって重要なoutcomeを実際に減少させる事が証明された医療が重要視されてきている．そのためのデータベースとして急性心筋梗塞による死亡，致死性不整脈による死亡，心房細動に伴う血栓塞栓症の発症，Brugada症候群の予後などの循環器疾患における重要な患者outcomeについてのデータベースを構築し，一部の結果を報告した.

10. 脳性利尿ペプチド（BNP）の臨床応用についての検討

血漿脳性利尿ペプチド（BNP）値は，心不全のマーカーとして広く臨床応用されているが，臨床所見との不一致もしばしば認められる．BNP値の臨床応用について，その有効性と限界について各種の循環器疾患にて検討し，一部結果を報告した．また，心房性BNPと心室性BNPとの差についても検討中である.

内分泌・代謝

内分泌・甲状腺外来，内分泌・代謝外来で，甲状腺疾患をはじめとする種々の内分泌・代謝疾患患者の診療を行うと共に，これらの臨床的ならびに基礎的研究を行っている．

①基礎研究分野

基礎的研究では，甲状腺ホルモン代謝酵素であるtype 1（D1）及びtype 2 iodothyronine deiodinase（D2）の発現調節機構及び生理的意義に関する研究をしている．甲状腺から分泌されるT4は，D1及びD2により，生物学的により活性なホルモンであるT3に転換される．D1は，血中にT3を供給し，D2は，局所でのT3含量を調節する．すなわち，D2が発現する局所では，独自のT3含量の調節系が働いていることになる．

ヒト大動脈血管平滑筋細胞（HASMC）に，D2が発現することを明らかにした．HASMCは，甲状腺ホルモンの標的臓器であると考えられる．更に，HASMCのD2の発現が，platelet-derived growth factor及びbasic fibroblast growth factorなど，血管平滑筋細胞（VSMC）の増殖因子によりup-regulationされることを明らかにし報告した．動脈硬化症の重要な病変であるVSMCの増殖に，D2及び甲状腺ホルモンがどのように関与しているのか研究を進めている．重症消耗性疾患患者では，下垂体¯甲状腺機能が正常であっても，血清中T3濃度はしばしば低下する．このように，血中T3濃度の低下した状態をlow T3症候群と呼ぶ．Low T3症候群の発現機序及び治療の是非に関してモデル動物を用いて研究している．

②臨床研究分野

悪性眼球突出症について，臨床的にステロイドパルス療法や照射療法を行うと共に，その病態を研究している．

糖尿病

①基礎研究分野

糖尿病分野での基礎研究としては，糖尿病性合併症の成因を明らかにすることを目的に研究をおこなっています．これまで糖尿病性合併症の進展因子としてはポリオール系代謝，Cキナーゼ活性，糖化蛋白および酸化ストレスなどの関与が報告されています．現在我々は糖化蛋白の受容体のひとつであるRAGE（receptor for advanced glycation endproducts）のシグナル伝達様式の解明および，その新規リガンドであるS100関連蛋白の糖尿病性合併症への関与を，分子生物学的および発生工学的手法を用い検討しています．

②臨床研究分野

糖尿病は，それによる3大合併症である網膜症，神経障害，腎症のみならず，動脈硬化症の進展を基盤として，心筋梗塞，狭心症，脳卒中など，生命予後やQOLを規定する様々な病態を引き起こす危険因子の大きなものひとつです．これらを有機的に予防・治療するため当科では糖尿病専門外来，糖尿病教育を含む入院治療の連携で，きめ細かい診療を実施しています．糖尿病教室では，医師・薬剤師・看護師・栄養士・心理士がそれぞれ協力して患者さんの指導を行い糖尿病性合併症の予防と治療に力を注いでおります．合併症発症後は当科心臓・循環器や腎臓・透析グループおよび当院眼科と共にその管理治療を行っています．糖尿病治療の最近の特徴は，種々のインスリン製剤や経口血糖降下剤の開発により個々の病状に合わせた，よりオーダーメード的治療が可能となってきたことです．しかし本邦において頻度の高い2型糖尿病の治療の基本は食事療法および運動療法であり，日常診療においてはこれら生活習慣の改善ができない事による血糖コントロールの不良例も多数みられます．現在我々はこれらの血糖コントロールの不良例とその行動習慣，性格，情緒，社会的要因などの関連性について調査し，それらへの行動科学的介入法を確立してゆく予定です．

次に糖尿病性合併症の治療への新しい試みとして，糖尿病性末梢神経障害や慢性閉塞性動脈硬化症が明らかでない糖尿病性足部潰瘍へ自家末梢血単核球細胞移植治療を行ってゆく予定です．他稿にありますように，当科においてこれまで多数の下肢慢性閉塞性動脈硬化症およびビュルガー病の方へ骨髄およ

び末梢血単核球細胞移植による血管新生治療が行われ良好な臨床成績が得られています．今後，我々は下肢の微小血管障害に由来して発症または増悪すると考えられている糖尿病性末梢神経障害や糖尿病性足部潰瘍への自家末梢血単核球細胞移植治療の有効性を検討してゆく予定です．

腎臓・高血圧

腎臓

①基礎研究分野

1）超音波音波造影剤（マイクロバブル）による腎局所への遺伝子導入

急増する末期腎不全抑制に対し，慢性腎障害進展抑制の新規治療法が必要である．その一つとして，安全かつ繰り返し可能な腎局所への腎保護遺伝子の導入は開発意義が大きい．安全性に疑問が出現したウイルスベクターに代わって，超音波造影剤（マイクロバブル）による遺伝子導入が注目を浴びている．同法では，超音波照射を組合わすことにより局所臓器に安全な遺伝子導入が可能である．そこで，現在，我々はラット腎炎モデルに腎保護作用を有するアンジオテンシン2型受容体（AT2）や催線維化作用のあるTGF-βの細胞内シグナルを抑制するSmad7等の遺伝子導入を試みている．

2）慢性腎障害における骨髄・末梢血単核球移植による腎微小血管再生

慢性腎障害進展抑制の更なる試みとして，骨格筋でその効果がヒトにおいても明らかとなった骨髄・末梢血単核球移植をラット腎炎モデルに施行する．慢性腎障害の予後規定因子である間質線維化に対して，尿細管周囲細血管網の再生により，その進展を抑制する試みである．

②臨床研究分野

1）超音波音波造影剤（マイクロバブル）による腎局所血流評価

現在，腎局所とりわけ腎機能保持に重要な腎皮質血流を安全かつ簡便にベッドサイドで評価し，モニタリングし得る方法はない．私たちはすでに正常腎機能者に超音波音波造影剤を用いて，その評価法を新規に確立した．さらに機能的変化が定量的に観察できることをドパミン負荷の腎皮質血流増加描出により確認した．また，アンジオテンシン受容体拮抗薬（ARB）による腎皮質血流量の増加も観察した．今後，糖尿病性腎症やIgA腎症などの代表的な病的腎での血流異常状態の評価とARBなどの薬効評価の新しい検査法として確立する．

2）降圧薬併用による至適高血圧治療に関する臨床トライアル

関西医大付属3病院，関連病院，関連医院・診療所を含めた降圧治療に関する臨床トライアルを行う．一般実地臨床に即した形でアンジオテンシン受容体拮抗薬（ARB）＋利尿剤，ARB＋カルシウム拮抗薬の併用療法間での予後判定を試みる．

高血圧

1）高血圧に関する研究

高血圧の成因に関して，特に中枢性血圧調節機構の詳細について臨床研究および基礎的研究を行った．すなわち，脳内におけるレニン・アンジオテンシン系の慢性的亢進が血圧や水分・電解質バランスに及ぼす影響についての検討をトランスジェニックマウスを作成し，解析することにより行った．また，延髄血管運動中枢への動脈による圧迫が高血圧の成因における役割についての検討を行った．

さらに，各種降圧薬（カルシウム拮抗薬，アンジオテンシン受容体拮抗薬，およびアンジオテンシン受容体拮抗薬とアンジオテンシン変換酵素阻害薬の併用）の臓器保護効果（特に腎保護効果と血管保護効果）についての体系的な検討も行った．

2）高脂血症に関する研究

スタチン系薬剤の効果および副作用についての検討を行った．

3）慢性腎疾患に関する研究

慢性腎疾患，特に透析患者においては動脈硬化性疾患の合併率および死亡率が極めて高く社会的，医

学的な問題となっている．そこで，透析患者の動脈硬化性疾患の適切な診断法および治療法についての臨床的検討を行った．

血液浄化

①臨床研究分野

維持透析患者の心血管合併症に関する研究．

- 心筋シンチグラムを用いた「透析心」の発症のメカニズムおよび早期診断・重症度診断法の開発に関する研究を実施している．
- 透析患者の重要な合併症に慢性閉塞性動脈硬化症（ASO）が存在する．本疾患は進行すると四肢切断に至る重篤な合併症である．残念ながら既存の治療法の臨床効果は不十分である．そこで，我々は独自に開発した自己骨髄細胞移植を用いた血管新生療法を開発し，透析患者のASOに対する臨床有効性の検討を実施している．

②基礎研究分野

腹膜中皮細胞再生に関する研究．

腹膜透析法は有効な維持透析療法として確立しているが，腹膜機能の劣化の問題で実施できる期間に限りがあるという大きな問題がある．我々はこの問題を解決する方法として，自己骨髄細胞を用いた腹膜再生法を検討している．

動脈硬化・血管再生

①基礎研究分野

動脈硬化発症の分子メカニズムの解明に関する研究

動脈硬化発症には，VEGF, HGFなどの血管内皮成長因子の作用が重要であるが，最近私達は炎症性サイトカインIL-1が動脈硬化巣で産生され，そのIL-1がVEGF, HGF産生を刺激し，動脈硬化の進展をもたらすことをみいだした．また，IL-1の作用発現は，PYK2などの細胞内のチロシンキナーゼ活性化が重要であることも見いだした．

②臨床研究分野

2001年7月よりすでに自己骨髄細胞移植を用いた血管新生療法を開発し，ASOに対する臨床試験を開始し，その臨床有効性を2002年LANCETに報告した．現在も症例を蓄積し，更なる有効性と安全性の確認を実施するとともに，治療適応条件因子の検索・評価をおこなっている．

さらに，虚血性心疾患を対象疾患とした自己骨髄細胞移植を用いた血管新生療法の臨床試験を開始し，2例に実施してその有効性と安全性を報告している．今後，多施設共同臨床試験として症例の蓄積をおこなう予定である．

〈研究業績〉

原　著

1. Inami N, Nomura S, Kimura Y, Sutani Y, Yamada K, Nakamori H, Takahashi N, Tsuda N, Fukuhara S and Iwasaka T（2005）Association of leukocyte activation, but not the common cold, with restenosis after percutaneous coronary intervention in patients with angina pectoris. Pathophysiol Haemost Thromb 34: 13–17
2. Inami N, Nomura S, Kajiura T, Yamada K, Nakamori H, Takahashi N, Tsuda N, Fukuhara S and Iwasaka T（2005）Significance of alpha（IIb）beta（3）in subacute stent thrombosis after percutaneous coronary intervention. Clin Appl Thromb Hemost 11: 455–459
3. Nomura S, Ishii K, Kanazawa S, Inami N, Uoshima N, Ishida H, Yoshihara T, Kitayama H and Hayashi K（2005）Significance of elevation in cell-derived microparticles after allogeneic stem cell transplantation: transient elevation of platelet-derived microparticles in TMA/TTP. Bone Marrow Transplant 36: 921–922

4. Yamada K, Tsuji H, Tokunaga S, Kurimoto K, Maeba H, Matsuhisa S, Inami N and Iwasaka T (2005) Effect of beta-blockers on the mortality of Japanese patients with myocardial infarction. Int J Cardiol 108: 309–313
5. Mimura J, Yuasa F, Yuyama R, Kawamura A, Iwasaki M, Sugiura T and Iwasaka T (2005) The effect of residential exercise training on baroreflex control of heart rate and sympathetic nerve activity in patients with acute myocardial infarction. Chest 127: 1108–1115
6. Shibasaki Y, Nishiue T, Masaki H, Tamura K, Mori Y, Nishikawa M, Matsubara H and Iwasaka T (2005) Impact of the Angiotensin II receptor antagonist, losartan, on myocardial fibrosis in patients with End-stage renal disease : Assessment by ultrasonic integrated backscatter and biochemical markers. Hypertension Research 28: 787–795
7. Iwasaki M, Adachi Y, Nishiue T, Minamino K, Suzuki Y, Zhang Y, Nakano K, Koike Y, Wang J, Mukaide H, Taketani S, Yuasa F, Tsubouchi H, Gohda E, Iwasaka T and Ikehara S (2005) Hepatocyte growth factor delivered by ultrasound-mediated destruction of microbubbles induces proliferation of cardiomyocytes and amelioration of left ventricular contractile function in doxorubicin-induced cardiomyopathy. Stem Cells 23: 1588–1597
8. Fukui M, Mori Y, Takehana K, Masaki H, Motohiro M, Sakamoto N, Kitamura T, Yoshida S, Nakamura S, Baden M, Nishikawa M and Iwasaka T (2005) Assessment of coronary artery disease in hemodialysis patients with delayed systolic blood pressure response after exercise testing. Blood Purification 23: 466–472
9. Kurihara H, Nakamura S, Takehana K, Fukui M, Sawanishi T, Maeba H, Ueyama T, Hatada K, Sugiura T and Iwasaka T (2005) Scintigraphic prediction of left ventricular functional recovery early after primary Coronary angioplasty using single-injection quantitative electrocardiographic gated SPECT. Nucl Med Commun 26: 505–511
10. Uchiyama-Tanaka Y, Mori Y, Kishimoto N, Fukui M, Nose A, Kijima Y, Yamahara H, Hasegawa T, Kosaki A, Matsubara H and Iwasaka T (2005) Comparison of the effects of quinapril and losartan on carotid artery intima-media thickness in patients with Mijd-to-moderate arterial hypertension. Kidney Blood Press Res 28: 111–116
11. Mori Y, Kishimoto N, Yamahara H, Kijima Y, Nose A, Uchiyama Y, Fukui M, Kitamura T, Tokoro T, Masaki H, Nagata T, Umeda Y, Nishikawa M and Iwasaka T (2005) Predominant tubulointerstitiak nephritis in a patient with systemic lupus nephritis. Clin Exp Nephrol 9: 79–84
12. Shiroto K, Otani H, Yamamoto F, Huang CK, Maulik N and Das DK (2005) MK2-/- gene knockout mouse hearts carry anti-apoptotic signal and are resistant to ischemia reperfusion injury. J Mol Cell Cardiol 38: 93–97
13. Sumida T, Otani H, Kyoi S, Okada T, Fujiwara H, Nakao Y, Kido M and Imamura H (2005) Temporary blockade of contractility during reperfusion elicits a cardioprotective effect of the p38 MAP kinase inhibitor SB-203580. Am J Physiol 288: H2726–2734
14. Okada T, Otani H, Wu Y, Uchiyama T, Kyoi S, Hattori R, Sumida T, Fujiwara H and Imamura H (2005) Integrated pharmacological preconditioning and memory of cardioprotection: the role of protein kinase C and phosphatidylinositol 3-kinase. Am J Physiol 289: H761–767
15. Wakeno-Takahashi M, Otani H, Nakao S, Imamura H and Shingu K (2005) Isoflurane induces second window of preconditioning through upregulation of inducible nitric oxide synthase in rat heart. Am J Physiol 289: H2585–2591
16. Das S, Otani H, Maulik N and Das DK (2005) Lycopene, tomatoes, and coronary heart disease. Free Radic Res 39: 449–455
17. Okada T, Otani H, Wu Y, Kyoi S, Enoki C, Fujiwara H, Sumida T, Hattori R and Imamura H (2005) Role of F-actin organization in p38 MAP kinase-mediated apoptosis and necrosis in neonatal rat cardiomyocytes subjected to simulated ischemia and reoxygenation. Am J Physiol 289:

H2310–2318
18. Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Nishikawa M and Iwasaka T（2005）Long-term treatment with nifedipine modulates procoagulant marker and C-C chemokine in hypertensive patients with type 2 diabetes mellitus. Thrombosis Research 115(4): 277–285
19. Hasegawa T, Kosaki A, Shimizu K, Matsunara H, Mori Y, Masaki H, Toyoda N, Inoue-Shibata M, Nishikawa M and Iwasaka T（2005）Amelioration of diabetic peripheral neuropathy by implantation of hematopoietic mononuclear cells in streptozocin-induced diabetic rats. Expeimental Neurology 1–7
20. 森本　聡，長村智子，矢野　豊，槙　　系，澤田克徳（2005）血液透析患者の閉塞性動脈硬化症に対する LDL アフェレーシス療法. Pharma Medica　23: 89–91
21. 森本　聡，長村智子，矢野　豊，槙　　系，澤田克徳（2005）高血圧合併血液透析患者における塩酸エホニジピンの心拍数に及ぼす影響について．腎と透析　59: 145–148
22. 豊田長興，天野佐織，西川光重（2005）脱ヨード酵素と甲状腺ホルモン代謝．日本臨床　63増刊：36–40
23. 天野佐織，豊田長興，西川光重（2005）サイログロブリン．日本臨床　63増刊：267–270
24. 今村洋二，大谷　肇（2005）心疾患に対する系統的治療戦略―保護から再生へ―．大阪医薬品協会会報　675: 1–15
25. 森島景子，鋳谷俊夫，竹花一哉，小野山攻，湯浅文雄，酢谷保夫，木村　穣，岩坂壽二（2005）完全右脚ブロックに合併した心筋梗塞症例の急性期心電図変化について．ハートナーシング　18: 124–127
26. 稲見則仁，木村　穣，岩坂壽二，野村昌作（2005）マイクロパーティクル．Angiology Froniter　4: 313
27. 梅村茂雄，塚　芳明，中村誠志，塚未奈子，北村哲也，吉田　進，杉浦哲朗，馬殿正人，岩坂壽二（2005）ステント留置17ヶ月後に遅発性血栓性閉塞によって発症した急性心筋梗塞の1例．Journal of Cardiology　45: 205–211
28. 矢内洋次，山本哲史，土手絹子，栗本晃二，元廣将之，岩坂壽二，正木茂美，木崎和美，安本マリ（2005）今月の心電図―CCU から興味ある波形―広範な ST 上昇を伴う胸痛発作．Heart Nursing　18: 4
29. 正木浩哉，今田崇裕，菊池早苗，酢谷保夫，高橋伯夫，松原弘明，岩坂壽二（2005）糖尿病性細小血管症．日本臨床　63: 6
30. 岩坂壽二，木村　穣，宮坂陽子，拝殿未央，居原田善司，秋田雄三，松久　治，辻本悟史，元廣将之，丸山勝也，酢谷保夫（2005）Brugada（ブルガダ）症候群―突然死を見据えて―．Heart Nursing　18: 5
31. 森田　寛（2005）いまさら聞けない PCI テクニック「ワイヤーサポートカテーテルの種類と使い方」．Coronary Intervention　1: 25–34

総　説

1. 森本　聡（2005）新しい高血圧治療ガイドライン（JSH2004）の概説．～慢性腎疾患合併例を中心として～．大津市医師会誌　28: 15–17
2. 森本　聡（2005）form PWV/ABI の診療応用（私のやり方）．外来透析．Arterial Stiffness　8: 98–99
3. 西川光重，豊田長興，天野佐織（2005）甲状腺ホルモンの合成・分泌・代謝―診断と治療のための基礎知識―．Medical Practice　22(4): 581–587
4. 西川光重，豊田長興，天野佐織（2005）甲状腺機能検査．Medicina　42(7): 1166–1169
5. 西川光重（2005）生活習慣病と血管合併症．布施医師会雑誌　66: 43
6. 福井政慶，西川光重，岩坂壽二（2005）透析医学と漢方医学：慢性維持透析患者の倦怠感．大阪透析研究会雑誌　23(2): 113–116

学会発表

1. Otani H, Okada T, Yue W, Enoki C, Tatsumi K, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoi S, Imamura H and Iwasaka T（2005）Role of phosphatidylinositol 3-kinase-p70S6 kinase cascade in self-renewal of bone marrow-derived stem cells. Scientific Session of American Heart Association 2005, Dallas, USA
2. Tatsumi K, Otani H, Enoki C, Adachi Y, Taniuchi

S, Kaneko K, Imamura H and Ikehara S（2005）Granulocyte-colony stimulating factor increases donor mesenchymal stem cells in bone marrow and their mobilization into peripheral circulation but does not repair dystrophic heart after bone marrow transplantation. Scientific Session of American Heart Association 2005, Dallas, USA

3. Kosaki A, Mori Y, Kimura T, Nishikawa M and Iwasaka T（2005）S100A12: a potential new marker for accelerated atherosclerosis in end stage renal disease patients with diabetes mellitus. 65th American Diabetes Association Scientific Sessions, San Diego
4. Park H, Morita Y, Kamihata H, Kimura Y, Iwasaka T, Yamamoto Y, Sakuma T, Mizumoto T and Adachi K（2006）The Management of Acute Limb Ischemia: Fluoroscopically Assisted Hybrid Thrombectomy. The 5th Korea-Japan Joint Symposium on Critical Care Medicine, Seoul, Korea
5. Imada T, Masaki H, Kikuchi S, Fukui M, Tokoro T, Mori Y, Nishikawa M, Takahashi H and Iwasaka T（2005）Regeneration of Peritoneal Mesothelial cell by Autologus Bone Marrow Mononeuclear Cells Implantation in a Peritoneal Daialysis Rats. ASN 38th Annnual Renal Week Meeting highlight at Renal Week, USA
6. Yamahara H, Mori Y, Kishimoto N, Uchiyama-Tanaka Y, Imada T, Mukoyama M, Kosaki A and Iwasaka T（2005）TGF-beta, and High Glucose-Induced CTGF Expression in Peritoneal Mesothelial Cells: Involvement of MAP Kinase Pathway. 米国腎臓学会学術集会・総会，USA
7. 稲見則仁，野村昌作（2005）高脂血症患者におけるピタバスタチンの抗血小板効果とアディポネクチンへの影響．日本動脈硬化学会，東京
8. 稲見則仁，野村昌作（2005）高脂血症患者におけるピタバスタチンのアディポネクチンに対する作用について．日本肥満学会，札幌
9. 稲見則仁，野村昌作（2005）significance of αIIbβ3 in SAT after PCI. 日本インターベンション学会
10. 竹花一哉（2005）各種負荷薬剤による心臓核医学検査の有用性．第10回山形心臓核医学懇話会，山形
11. Takehana K（2005）Relation between regional washout of ^{99m}Tc-sestamibi and regional systolic function in patients with dilated cardiomyopathy. 33th Annual Meeting of Society of Nuclear Medicine, Toronto
12. 竹花一哉（2005）日常臨床における心臓核医学の役割2.「PCIでの応用」心筋梗塞後の管理．第4回ミッドサマー心臓核医学研究会，大阪
13. 竹花一哉（2005）心臓核医学検査の臨床応用～心筋血流から心機能まで～．第11回心臓核医学懇話会，郡山
14. 西川光重，赤木繁夫，伊東秀文，大谷ひとみ，小森康央，古賀愛人，藤井　茂，藤澤順一，松田公志，西本秀充，高井　俊（2005）本学でのチュートリアル教育：導入1年のまとめ．第37回日本医学教育学会，東京
15. Otani H, Manabe K, Kyoi S, Nakao Y, Fujiwara H, Kido M, Iwasaka T and Imamura H（2005）Reintroduction of contractile force during reperfusion converts myocyte apoptosis to necrosis. 第69回日本循環器学会，横浜
16. Okada T, Otani H, Enoki C, Hattori, Kyoi S and Imamura H（2005）Phosphatidylinositol-3 kinase differentially regulates cardiomyogenic differentiation of bone marrow stem cells in single culture and co-cultute with cardiomyocytes. 第69回日本循環器学会，横浜
17. Morimoto S, Osamura T, Imai K, Dohi O, Yano Y, Mano A, Natsuhara A, Tatsukawa H, Maki K and Sawada K（2005）Increase in blood sugar levels by atorvastatin. The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Yokohama
18. 森本　聡，長村智子，矢野　豊，槙　　系，澤田克徳（2005）本態性高血圧患者におけるテルミサルタンの腎保護作用および血管内皮機能改善効果に関する検討．第48回日本腎臓学会学術総会，横浜市
19. 森本　聡，佐々木享，松原弘明，Curt D. Sigmund（2005）ヒトレニンおよびヒトアンジオテンシノーゲン遺伝子を過剰発現する高血圧マウスの血圧上昇機序に関する検討．第48回

日本腎臓学会学術総会，横浜市
20. 森本　聡，佐々木享，松原弘明，Curt D. Sigmund（2005）脳内レニン・アンジオテンシン系の慢性的亢進は飲水量，食塩嗜好および尿量の増加を呈する．第48回日本腎臓学会学術総会，横浜市
21. 森千容子，中谷友香，竹久孝子，堀　智子，岡田典子，井狩美佐枝，森本　聡，澤田克徳（2005）透析患者のフットケアについて～足病変の改善を目指して～．第50回日本透析医学会総会，横浜市
22. 森本　聡，長村智子，矢野　豊，槙　　系，澤田克徳，津川拓也，川口信之，青木　茂（2005）右鎖骨下静脈および腕頭静脈の高度狭窄に対し経皮的血管形成術（PTA）施行後透析用カテーテル留置が可能となった症例．第50回日本透析医学会総会，横浜市
23. 矢野　豊，森本　聡，長村智子，槙　　系，澤田克徳（2005）Toe-brachial index低値と各種背景因子の関連についての検討．第50回日本透析医学会総会，横浜市
24. 森本　聡，長村智子，矢野　豊，槙　　系，澤田克徳（2005）下肢末梢動脈狭窄病変を呈する血液透析患者の特徴について．第50回日本透析医学会総会，横浜市
25. 森本　聡，長村智子，矢野　豊，全　　完，立川弘孝，槙　　系，澤田克徳（2005）本態性高血圧患者におけるテルミサルタンの臓器保護に関する検討．第28回日本高血圧学会総会，旭川市
26. 森本　聡，玉垣圭一，長村智子，矢野　豊，全　　完，立川弘孝，槙　　系，澤田克徳（2005）本態性高血圧患者におけるアンジオテンシン受容体拮抗薬と変換酵素阻害薬併用療法の血管内皮機能改善効果に関する検討．第28回日本高血圧学会総会，旭川市
27. 森本　聡，佐々木享，正木浩哉，岩坂壽二，松原弘明，Curt D. Sigmund（2005）レニン・アンジオテンシン系過剰発現マウスは脳内レニン・アンジオテンシン系の慢性的亢進を介して高血圧を呈する．第28回日本高血圧学会総会，旭川市
28. 森本　聡，青田泰子，居原田善司，佐々木享，岩坂壽二（2005）延髄への動脈による圧迫解除により血圧と交感神経活動の低下を示した高血圧の1例．第42回日本臨床生理学会総会，東京
29. 天野佐織，豊田長興，井上　恵，長谷川隆正，小崎篤志，岩坂壽二，西川光重（2005）ラット褐色脂肪に発現する甲状腺ホルモン活性化酵素に及ぼすPPARα及びPPARγ agonistの影響．第48回日本糖尿病学会年次学術集会，神戸
30. 天野佐織，豊田長興，岩坂壽二，西川光重（2005）Angiotensin　IIはラット大動脈中膜Type2 iodothyronine deiodinase活性を増加する．第78回日本内分泌学会学術総会，東京
31. 天野佐織，豊田長興，岩坂壽二，西川光重（2005）ラット褐色脂肪Type2　iodothyronine deiodinase活性に及ぼすPPARγ agonistの影響．第78回日本内分泌学会学術総会，東京
32. 豊田長興，天野佐織，野村恵巳子，岩坂壽二，西川光重（2005）ラット大動脈中膜Type2 iodothyronine deiodinase活性に及ぼすglucocorticoidの影響．第48回日本甲状腺学会，東京
33. 近藤八重子，豊田長興，野村恵巳子，城ひろみ，片瀬香織，井上　恵，長谷川隆正，小崎篤志，西川光重，岩坂壽二（2005）成人発症の偽性副甲状腺機能低下症1b型が考えられた1例．第177回日本内科学会近畿地方会，大阪
34. 小崎篤志，森　泰清，浦上昌也，長谷川隆正，四馬田恵，豊田長興，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二（2005）糖尿病性腎症による維持透析患者における血中S100A12（EN-RAGE）蛋白質濃度の検討．第48回日本糖尿病学会年次学術集会，神戸
35. 長谷川隆正，小崎篤志，松原弘明，四馬田恵，森泰清，木村　穣，豊田長興，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二（2005）難治性糖尿病性末梢神経障害に対する末梢血単核球細胞移植の検討．第48回日本糖尿病学会年次学術集会，神戸
36. 四馬田恵，小崎篤志，馬場天信，田嶋佐和子，長谷川隆正，天野佐織，豊田長興，木村　穣，佐藤　豪，西川光重，岩坂壽二（2005）2型糖尿病患者における血糖コントロールと心理特性との関連性について．第48回日本糖尿病学会年次学術集会，神戸
37. 天野佐織，豊田長興，四馬田恵，長谷川隆正，

小崎篤志，岩坂壽二，西川光重（2005）ラット褐色脂肪に発現する甲状腺ホルモン活性化酵素に及ぼす PPARα 及び PPARγ agonist の影響. 第48回日本糖尿病学会年次学術集会，神戸
38. 田嶋佐和子，有川愼子，小崎篤志，上田加奈子，四馬田恵，木村　穣，岩坂壽二，西川光重（2005）ホームページ（HP）を利用した栄養指導における画像評価の妥当性．第48回日本糖尿病学会年次学術集会，神戸
39. Hatada K, Ruiz M, Watson DD, Iwasaka T, Takehana K, Beller GA and Glover DK（2005）Diltiazem attenuated adenosine-mediated coronary flow increase and reduced regional flow disparity and sestamibi defect magnitude in canine coronary stenosis model. 第69回日本循環器学会総会，横浜
40. Yamamoto S, Kamihata H, Sutani Y, Morita Y, Motohiro M, Kurimoto K, Iharada Y, Isono T, Kyoi S, Akita Y, Park HN, Senoo T, Takehana K, Maeba H, Sawanishi T, Kurihara H, Ueyama T, Inami N and Iwasaka T（2005）Intravenous recombinant tissue type plasminogen activator administration prior to thrombectomy can improve coronary perfusion in patients with acute myocardial infarction. 第69回日本循環器学会総会，横浜
41. Kurihara H, Takehana K, Nakamura S, Hatada K, Maeba H, Sawanishi T, Iwasaka T（2005）Combined assessment of regional perfusion and systolic function can predict functional recovery after revascularization therapy in patients with ischemic cardiomyopathy. 第69回日本循環器学会総会，横浜
42. Sawanishi T, Takehana K, Maeba H, Ueyama T, Kurihara H, Hatada K, Kamihata H, Iwasaka T（2005）Scintigraphic assessment of direct infarct artery stenting without predilatation in patients with acute myocardial infarction: comparison with conventional stenting strategy. 第69回日本循環器学会総会，横浜
43. 澤西高佳，竹花一哉，栗原裕彦，前羽宏史，上山敬直，岩坂壽二（2005）拡張型心筋症における ^{99m}Tc-sestamibi の局所 washout と局所収縮能の関連．第13回日本心臓核医学会，横浜
44. 前羽宏史，竹花一哉，栗原裕彦，澤西高佳，上山敬直，岩坂壽二（2005）急性心筋梗塞における心筋障害と冠動脈血管径の関係についての検討．第13回日本心臓核医学会，横浜
45. 森島景子，竹花一哉，拝殿未央，山下浩司，神畠　宏，岩坂壽二（2005）Schönlein-Henoch紫斑病を合併した拡張型心筋症の一例．第98回日本循環器学会近畿地方会，大阪
46. 澤西高佳，竹花一哉，前羽宏史，上山敬直，栗原裕彦，畑田憲吾，神畠　宏，岩坂壽二（2005）心筋梗塞発症時の Direct stent 治療の Scintigraphic no-reflowに与える影響．第25回心筋梗塞研究会，東京
47. 藤井ゆず子，竹花一哉，山本哲史，神畠　宏，塩見圭佑，岩坂壽二，今村正浩，藤井弘史，今村洋二，大迫茂登彦，貝谷和昭（2005）右心房原発血管肉腫に対して集約的治療を行った一例．第177回日本内科学会近畿地方会，大阪
48. 竹花一哉，前羽宏史，上山敬直，栗原裕彦，岩坂壽二（2005）拡張型心筋症患者における ^{99m}Tc-sestamibi の局所 washout と局所収縮能の関連．第45回日本核医学会総会，東京
49. 上山敬直，竹花一哉，前羽宏史，吉田美智，吉田　進，岩坂壽二（2005）ジピリダモール負荷中の血行動態と罹患冠動脈枝数の関係．第45回日本核医学会総会，東京
50. 上山敬直，竹花一哉，前羽宏史，吉田美智，吉田　進，岩坂壽二（2005）運動負荷中にST上昇を認め，心電図変化のある時点で核種の投与を行ったがSPECT上正常集積を認めた1例．第14回日本心臓核医学会総会，東京
51. 住本貴美，竹花一哉，拝殿未央，前羽宏史，森口　暁，服部怜治，今村洋二，岩坂壽二（2005）動脈管開存症に感染性心内膜炎を合併した高齢女性の一例．第100回日本循環器学会近畿地方会，奈良
52. 森田　寛，朴　幸男，神畠　宏，岩坂壽二，山本克浩，佐久間孝雄，峯園浩二，水元　亨，安達勝利，畑中克元（2005）四肢急性動脈閉塞症におけるX線透視下血栓塞栓摘除術の有用性．第32回日本集中治療医学会学術集会，東京
53. Morita Y, Kamihata H, Sutani Y, Park H, Iwasaka T, Yamamoto Y, Sakuma T, Minezono K, Mizumoto T and Adachi K（2005）Fluoroscopi-

cally assisted hybrid thrombectomy: An improved method for treating acute limb ischemia. The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 横浜
54. Yamamoto S, Kamihata H, Sutani Y, Morita Y, Iwasaka T (2005) Intravenous Recombinant Tissue Plasminogen Activator (Rt-PA) Administration Prior to Thrombectomy Can Improve Coronary Perfusion in Patients with Acute Myocardial Infarction. The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 横浜
55. 山本哲史，神畠　宏，酢谷保夫，森田　寛，元廣将之，岩坂壽二(2005) Better Myocardial Reperfusion can be Achieved by Intravenous Thrombolysis Prior to Thrombectomy in Patients with Acute Myocardial Infarction. 第14回日本心血管インターベンション学会総会，東京
56. 朴　幸男，森田　寛，神畠　宏，岩坂壽二，原克子，高橋伯夫，廣渡祐史（2005）下肢閉塞性動脈硬化症に対する塩酸サルポグレラートの作用機転について血漿，全血セロトニン濃度を用いた検討．第53回日本心臓病学会学術集会，大阪
57. 朴　幸男，森田　寛，神畠　宏，岩坂壽二，原克子，高橋伯夫，廣渡祐史（2005）下肢閉塞性動脈硬化症に対する塩酸サルポグレラートの作用機転について血漿，全血セロトニン濃度を用いた検討．第42回日本臨床生理学会総会，東京
58. 菊池早苗，正木浩哉，山原秀樹，今田崇裕，早川　敬，所　敏子，森本　聡，西川光重，岩坂壽二（2005）交通性陰嚢水腫をきたした腹膜透析患者の一例．第19回CAPD研究会，大阪
59. 菊池早苗，山原英樹，北村哲也，今田崇裕，早川　敬，所　敏子，中嶋章貴，森本　聡，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二（2005）ワーファリンのみによる抗凝固療法にて維持透析が可能であったSLE, 抗リン脂質抗体症候群患者の一例．第65回大阪透析研究会，大阪
60. Maeba H, Nakatani S, Mimura J, Nakanishi N, Ogino H, Kitakaze M, Iwasaka T and Miyatake K (2005) Discordant Recovery of Pulmonary Artery Pressure and Compliance after Pulmonary Thromboendarterectomy in Patients with Chronic Thromboembolic Pulmonary Hypertension. 第69回日本循環器学会学術総会，横浜
61. 妹尾　健，木村　穣，秋田　雄三，居原田善司，山本　哲史，真鍋　憲市，岩坂　壽二（2005）心拍数パワースペクトルから見た睡眠時無呼吸の評価　―心不全，非心不全例での検討―．第11回日本心臓リハビリテーション学会，大阪
62. 妹尾　健，森田　寛，神畠　宏，山本哲史，居原田善司，栗本晃二，秋田雄三，朴　幸男，稲見則仁，上山敬直，松久誠治，真鍋憲市，岩坂壽二(2005) No/Slow flowに対しLumine Infusion Catheterを用いて救命しえた重症急性心筋梗塞症の二症例．第5回日本心血管カテーテル治療学会学術集会
63. 妹尾　健，森田　寛，山本哲史，居原田善司，松久誠治，朴　幸男，上山敬直，真鍋憲市，湯浅文雄，神畠　宏，岩坂壽二（2005）Cypher Stent留置後，Late thrombusにてAMIを発症した一例．第177回日本内科学会近畿地方会
64. 妹尾　健，木村　穣，真鍋憲市，稲見則仁，秋田雄三，居原田善司，山本哲史，岩坂壽二（2005）睡眠時無呼吸症候群を合併した肥満患者における運動時換気応答の検討．第26回日本肥満学会，北海道
65. Imada T, Masaki H, Kikuchi S, Fukui M, Tokoro T, Mori Y, Nishikawa M, Takahashi H and Iwasaka T (2005) egeneration of Peritoneal Mesothelial cell by Autologus Bone Marrow Mononeuclear Cells Implantation induces the recover of Peritoneal function in a Peritoneal Daialysis model of Rats. 日本透析学会，横浜
66. 今田崇裕，正木浩哉，菊池早苗，山原英樹，早川　敬，所　敏子，森本　聡，西川光重，岩坂寿二（2005）自己骨髄単核球細胞移植による腹膜再生の可能性について．第11回腹膜透析研究会
67. Imada T, Masaki H, Kikuchi S, Inami N, Kimura M, Takahashi H and Iwasaka T (2005) Effect of Anti-platelet Drugs at Angiogenic Cell Therapy. 第69回日本循環器学会，横浜
68. 野村惠巳子，生水　晃，小川善史，西川光重，岩坂壽二（2005）糖尿病性神経障害に対するエパルレスタットの効果．第48回日本糖尿病

学会年次学術総会，神戸

69. 山原英樹，森 泰清，岸本典子，内山葉子，菊池早苗，北村哲也，来島泰秋，今田崇裕，福井政慶，能勢敦子，早川 敬，所 敏子，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二，向山政志，横井秀基（2005）腹膜中皮細胞におけるCTGF発現～glucose, TGF-βによる刺激効果～．日本透析学会学術集会・総会
70. 山原英樹，森 泰清，北村哲也，岸本典子，能勢敦子，所 敏子，梅田幸久，岩坂壽二（2005）再発性多発性軟骨炎に膜性腎症を合併したと考えられる一例．日本腎臓学会西部学術大会，横浜
71. 稲見則仁，野村昌作，木村 穣（2005）健常若年者群と健常高齢者群においてHOMA-Rとadiponectinとの関係について．日本肥満学会，札幌
72. Matsuhisa S, Otani H, Kyoi S, Akita Y, Manabe K, Fujiwara H, Sumida T, Enoki C, Imamura H, Kamihata H and Iwasaka T（2005）Inhibition of p38 MAP kinase ameliorates heart failure but dissipates ischemic tolerance in cardiomyopathic heart. 第69回日本循環器学会，横浜
73. Akita Y, Otani H, Kyoi S, Matsuhisa S, Manabe K, Fujiwara H, Sumida T, Enoki C, Kido M, Imamura H, Kamihata H, Kimura Y and Iwasaka T（2005）Regular exercise promotes ischemic tolerance by upregulating iNOS. 第69回日本循環器学会，横浜
74. Sutani Y, Kamihata H, Morita Y and Iwasaka T（2005）Is It Appropriate to Implant Additional Drug Eluting Stent in the Moderate Lesion of the Vessel Subjected to Coronary Intervention? The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society，横浜
75. Motohiro M, Kamihata H, Sutani Y, Morita Y and Iwasaka T（2005）Relationship between Effectiveness of Statin Therapy on In-stent Restenosis and Arterial Remodeling in Patients with Acute Coronary Syndrome; 3D-IVUS Study. The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 横浜
76. Motohiro M, Kamihata H, Sutani Y, Morita Y and Iwasaka T（2005）Effect of Statin Therapy on In-stent Neointimal Proliferation after Coronary Stent Implantation; 3D-Volumetric Intrevascular Ultrasound Study. The 69th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, 横浜
77. 澤西高佳，竹花一哉，元廣将之，山本哲史，五十野剛，居原田善司，栗本晃二，酢谷保夫，森田 寛，神畠 宏，岩坂壽二（2005）Scintigraphic assessment of direct stenting without predilatation in patients with acute myocardial infarction: comparison with conventional stenting strategy. 第14回日本心血管インターベンション学会総会，東京
78. 吉田美智，酢谷保夫，森田 寛，寺柿政和，三嶋正芳，林 英宰，松浦泰彦，木島祥行，中島 伯，吉丸清道，土橋雅行，星田四朗，岩坂壽二（2005）急性心筋梗塞症例の院内早期予後についての検討―東大阪急性冠症候群（EACS）研究会―．第53回日本心臓病学会学術集会，大阪

内科学第三講座

〈研究業績〉

原 著

1. Matsushita M and Okazaki K（2005）Why did colonic abscess occur? Gastrointest Endosc 61: 499
2. Matsushita M and Okazaki K（2005）Atypical EUS features of gastric inflammatory fibroid polyps. Gastrointest Endosc 61: 637–638
3. Matsushita M and Okazaki K（2005）Characteristic endoscopic features of gastric inflammatory fibroid polyps. J Gastroenterol Hepatol 20: 1310
4. Matsushita M, Takakuwa H, Matsubayashi Y, Nishio A, Ikehara S and Okazaki K（2005）Appendix is a priming site in the development of ulcerative colitis. World J Gastroenterol 11: 4869–4874

5. Matsushita M and Okazaki K (2005) Pyogenic liver abscess and occult colon cancer. Am J Gastroenterol 100: 2596–2597
6. Matsushita M and Okazaki K (2005) Pedunculated hyperplastic polyps in the cervical esophagus: EMR vs snare polypectomy. Gastrointest Endosc 62: 646
7. Matsushita M, Uchida K and Okazaki K (2005) Management of primary early gastric cancers. Gastrointest Endosc 62: 995–996
8. Yamagata H, Matsuzaki K, Mori S, Yoshida K, Tahashi Y, Furukawa F, Sekimoto G, Watanabe T, Uemura Y, Sakaida N, Yoshioka K, Kamiyama Y, Seki T and Okazaki K (2005) Acceleration of Smad2 and Smad3 phosphorylation via c-Jun NH(2)-terminal kinase during human colorectal carcinogenesis. Cancer Res 65: 157–165
9. Tanano A, Hamada Y, Takamido S, Kataoka Y, Watanabe J, Kamiyama Y and Yamada H (2005) Structural development of PGP9.5-immunopositive myenteric plexus in embryonic rats. Anat Embryol (Berl) Apr; 209(4): 341–348
10. Yoshida K, Matsuzaki K, Mori S, Tahashi Y, Yamagata H, Furukawa F, Seki T, Nishizawa M, Fujisawa J and Okazaki K (2005) Transforming Growth Factor-β and Platelet-Derived Growth Factor Signal via c-Jun N-Terminal Kinase-Dependent Smad2/3 Phosphorylation in Rat Hepatic Stellate Cells after Acute Liver Injury. Am J Pathol 166: 1029–1039
11. Fujii T, Takaoka M, Tagawa Y, Kitano T, Ohmiya M, Hashimoto Y and Okazaki K (2005) A Case of Pneumatosis Cytoides Intestinalis Successfully Treated by Inhalation of High Concentration Oxygen. JMAJ 48: 513–517
12. Danbara N, Yuri T, Tsujita-Kyutoku M, Tsukamoto R, Uehara N and Tsubura A (2005) Enterolactone induces apoptosis and inhibits growth of Colo 201 human colon cancer cells both in vitro and in vivo. Anticancer Res 25(3B): 2269–2276
13. Danbara N, Shikata N, Kawamura H, Shintaku M, Tsubura A (2005) Eosinophilic cytoplasmic inclusions in papillary renal cell carcinoma. Med Mol Morphol 38(4): 262–266
14. Nikaido Y, Danbara N, Tsujita-Kyutoku M, Yuri T, Uehara N and Tsubura A (2005) Effects of prepubertal exposure to xenoestrogen on development of estrogen target organs in female CD-1 mice. In Vivo 19(3): 487–494
15. Ohashi S, Nishio A, Nakamura H, Kido M, Ueno S, Uza N, Inoue S, Kitamura H, Kiriya K, Asada M, Tamaki H, Matsuura M, Kawasaki K, Fukui T, Watanabe n, Nakase H, Yodio J, Okazaki K, Chiba T (2005) Protective roles of redox-active protein thioredoxin-1 for severe acute pancreatitis. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol Dec1
16. Okazaki K, Uchida K, Matsushita M and Takaoka M (2005) Autoimmune Pancreatitis. Internal Medicine 44(12): 1215–1223
17. Nakase H, Nishio A, Tamaki H, Matsuura M, Asada M, Chiba T and Okazaki K (2005) Specfic Antibodies Against Recombinant Protein of Insertion Element900 of Mycobacterium avium subspecies paratuberculosis in Japanese Patients With Crohn's Disease. Inflamm Bowel Dis 12(1): 62–69
18. Kubota Y, Yamamoto S and Okazaki K (2005) PERORAL CHOLANGIOSCOPY AND INTERADUCTAL ULTRASONOGRAPHY IN THE DIAGNOSIS OF BILIARY LESIONS – PERORAL CHOLANGIOSCOPY:AN IMPROVED PROCEDURE-. Digestive Endoscopy 17: s60–62
19. Danbara N, Shikata N, Kawamura H, Shintaku M and Tsubura A (2005) Eosinophilic cytoplasmic inclusions in papillary renal cell carcinoma. Med Mol Morphol 38(4): 262–266
20. Tsujita-Kyutoku M, Danbara N, Yuri T, Nikaido Y, Hatano T and Tsubura A(2005) Basal cell carcinoma arising from a keratinous cyst of the skin: a case report and review of the literature. Med Mol Morphol 38: 130–133
21. Danbara N, Uehara N, Shikata N, Takada H, Hada T and Tsubura A (2005) Dietary effects of conjugated docosahexaenoic acid on N-methyl-N-nitrosourea-induced mammary carcinogenesis in female Sprague-Dawley rats. Oncol Rep 12(5): 1079–1085

22. Abe T, Furue M, Kondow A, Matsuzaki K and Asashima M (2005) Notch signaling modulates the nuclear localization of carboxy-terminal-phosphorylated smad2 and controls the competence of ectodermal cells for activin A. Mech dev 122: 671–680
23. Matsushita M, Takakuwa H, Matsubayahi Y and Okazaki K (2005) Management of anomalous pancreaticobiliary union. Endoscopy 37(7): 682
24. Matsushita M, Takakuwa H, Matsubayashi Y and Okazaki K (2005) Distally migrated and impacted biliary metallic stents: removal versusu trimming. Endoscopy 37(7): 677
25. Matsushita M, Takakuwa H, Matsubayashi Y, Kido M, Shimeno N and Okazaki K (2005) Handcrafted two-channel colonoscope for grasping-forceps-assisted resection of giant pedunculated polyps. Gastrointet Endosc 62(1): 132–6
26. Matsushita M and Okazaki K (2005) Serologic test for the deagnosis of subclinical gastric anisakiasis. Gastorintest Endosc 61(7): 931
27. Kawasaki K, Nishio A, Nakamura H, Uchida K, Fukui T, Ohana M, Yoshizawa H, Ohashi S, Tamaki H, Matsuura M, Asada M, Nishi T, Nakase H, Toyokuni S, Liu W, Yodoi J, Okazaki K and Chiba T (2005) Helicobacter felis-induced gastritis was suppressed in mice overexpressing thioredoxin-1. Laboratory Investigation Jun20: 1–14
28. Kusafuka K, Nakano K, Hiraki Y, Shukunami C, Nagatsuka H, Nagai N, Takemura T, Sakaguchi Y, Okazaki K, Kusafuka M, Hisha H and Ikehara S (2005) Expression and localization of cartilage-specific matrix protein chondromodulin-I mRNA in salivary pleomorphic adenomas. Virchows Arch 446(1): 34–40.
29. Shimatani M, Tsuji K, Aze Y, Yamamoto S, Shibatani N, Imai Y, Takamido S, Kubota Y and Okazaki K (2005) Effects of obstructive jaundice on neutrophil production and acquisition of chemotactic activity in the bone marrow. J Gastroenterol Hepatol 20(1): 117–25
30. Okazaki K (2005) Autoimmune pancreatitis: etiology, pathogenesis, clinical findings and treatment. The Japanese experience. JOP 13;6(1): 89–96
31. Imai Y, Kubota Y, Yamamoto S, Tsuji K, Shimatani M, Shibatani N, Takamido S, Matsushita M and Okazaki K (2005) Neutrophils enhance invasion activity of human cholangiocellular carcinoma and hepatocellular carcinoma cells:an in vitro study. J Gastroeterol Hepatol 20(2): 287–93
32. Taniguchi T, Okazaki K, Okamoto M, Seko S, Nagashima K, Yamada Y, Iwakura T and Seino Y (2005) Autoantibodies against the exocrine pancreas in fulminant type 1 diabetes. Pancreas 30(2): 191–2
33. Matsushita M, Okazaki K (2005) Why did colonic abscess occur? Gastrointest Endosc 61(3): 499
34. Fukui T, Okazaki K, Yoshizawa H, Ohashi S, Tamaki H, kawasaki K, Masuura M, Asada M, Nakase H, Nakashima Y, Nishiho A and Chib T (2005) A case of autoimmune pancreatitis associated with sclerosing cholangitis,retroperitoneal fibrosis and Sjogren's syndrome. Pncreatology 5(1): 86–91
35. Matsushita M and Okazaki K (2005) Esophageal,submucosal,gland duct adenoma:role of EUS for endoscopic removal. Gastrointest Endosc 61(6): 790–791
36. Matsuura M, Okazaki K, Nishio A, Nakase H, Tamaki H, Uchida K, Nishi T, Asada M, Kawasaki K, Fukui T, Yoshizawa H, Ohashi S, Inoue S, Kawanami C, Hiai H, Tabata Y and Chiba T (2005) Therapeutic Effects of Rectal Administration of Basic Fibroblast Growth Factor on Exerimental Murine Colitis. Gastroenterology 128: 975–986
37. Yoshida K, Matsuzaki K, Mori S, Tahashi Y, Yamagata H, Furukawa F, Seki T, Nishizawa M, Fujisawa J and Okazaki K (2005) TGF-β and PDGF signal via JNK-dependent Smad2/3 phosphorylation in rat hepatic stellate cells after acute liver injury. American Journal of Pathology 166: 1029–39
38. 松下光伸，島谷昌明，岡崎和一（2005）緊急処置が必要な胆道疾患．Medicina 42: 1367–

1370
39. 松下光伸，島谷昌明，岡崎和一（2005）早期膵癌の診断・治療の進歩：ERCP・MRCP. Mebio　22: 49–55
40. 井口亮輔，関　寿人，梅原秀人，玉井　徹，池田耕造，高橋　悠，坂尾将幸，山口隆志，福島慎太郎，是枝ちづ，岡崎和一（2005）経皮的ラジオ波熱焼灼療法後に急速な肝外発育型の再発進展を来した肝細胞癌の1例. 肝臓　46: 215–223
41. 是枝ちづ，武田聖子，水野孝子，関　寿人，岡崎和一（2005）網内系機能と肝実質機能の核医学的検討によるNASHの病態解明. 薬理と治療　33: S9–S14
42. 岡崎和一，高御堂祥一郎，池浦　司，内田一茂，松下光伸（2005）原発性硬化性胆管炎と自己免疫性膵炎の最前線．消化器画像　7巻3号：347–352
43. 松崎恒一（2005）ヒト肝線維化過程におけるTGF-bシグナル伝達の解析と治療への応用. Liver forum in Kyoto　7: 7–17
44. 松崎恒一（2005）肝癌とサイトカイン．臨床消化器内科　20: 303–310
45. 大西三朗，廣原淳子，仲野俊成，関　寿人，岡崎和一（2005）原発性胆汁性肝硬変全国調査（第25報）．厚生労働科学研究補助金（難治性疾患克服研究事業）難治性の肝疾患に関する調査研究平成16年度研究報告書　65–67
46. 岡崎和一，内田一茂，松下光伸，島谷昌明，高岡　亮（2005）自己免疫性肝炎．肝胆膵　51: 281–288
47. 藤井寿仁，高岡　亮，田川善啓，吉田勝紀，大宮美香，奥野雅史，小倉徳裕，高田秀穂，橋本可成，岡崎和一（2005）巨大十二指腸ブルンネル腺腫の1例．消化器科　41: 190–194
48. 岡崎和一，内田一茂，松下光伸，高岡　亮（2005）自己免疫性膵炎の診断基準とその問題点．胆と膵　26: 741–744
49. 岡崎和一，松下光伸，川股聖二，島谷昌明，藤井寿仁（2005）Pouchitisとその治療．日本臨床　63: 885–889
50. 藤井寿仁，高岡　亮，田川善啓，吉田勝紀，大宮美香，奥野雅史，小倉徳裕，高田秀穂，橋本可成，岡崎和一（2005）巨大十二指腸ブルンネル腺腫の1例．消化器科　41: 190–194
51. 岡崎和一，川　茂幸，神澤輝美，成瀬　達，田中滋城，西森　功，大原弘隆，伊藤鉄英，桐山勢生，乾　和郎，下瀬川徹，小泉　勝，須田耕一，白鳥敬子，山口武人，山口幸二，杉山政則，大槻　眞（2005）自己免疫性膵炎診断基準の改定案．膵臓　20(6): 560–563
52. 岡崎和一，内田一茂，松下光伸，高岡　亮（2005）自己免疫性膵炎の診断基準とその問題点．胆と膵　26(9): 741–744
53. 藤井寿仁，高岡　亮，田川善啓，吉田勝紀，大宮美香，奥野雅史，小倉徳裕，高田秀穂，橋本可成，岡崎和一（2005）巨大十二指腸ブルンネル腺腫の1例．消化器科　41: 190–194
54. 西森　功，岡崎和一，須田耕一，川　茂幸，神澤輝実，田中滋城，大原弘隆，白鳥敬子，成瀬　達，伊藤鉄英，小泉　勝，大槻　眞（2005）自己免疫性膵炎の治療　―厚生労働省難治性疾患克服研究事業　難治性水疾患調査研究班の自己免疫性膵炎の治療に関するコンセンサス―．膵臓　vol.20　no.4: 343–348
55. 岡崎和一，川股聖二，松下光伸，斉藤一文字，西尾彰功，仲瀬裕志，千葉　勉，乾　賢一，田畑泰彦（2005）潰瘍性大腸炎患者におけるデキサメサゾン含有ポリ乳酸マイクロカプセルの有効性に関する研究．厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業　炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究　平成16年度分担研究報告書　平成17年3月
56. 岡崎和一，松下光伸，川股聖二，島谷昌明，藤井寿仁（2005）Pouchitisとその治療．日本臨床　63巻5号: 885–889
57. 岡崎和一，高御堂祥一郎，池浦　司，松下光伸，山本　伸，久保田佳嗣（2005）自己免疫性膵炎とは―その現状と治療―．日本医師会雑誌　133巻3号：361–364
58. 岡崎和一，松下光伸（2005）吐血，下血．消化器疾患最新の治療　2005–2006: 77–82
59. 岡崎和一，古川富紀子，山本　伸，久保田佳嗣（2005）CA－19高値で胆管癌を疑った閉塞性黄疸の1例．消化器画像　7: 7–10
60. 岡崎和一，松下光伸（2005）潰瘍性大腸炎における虫垂の役割．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業　難治性炎症性腸

管障害に関する調査研究平成16年度　分担研究報告書　平成17年3月
61. 西森　功，岡崎和一，須田耕一，川　茂幸，神澤輝実，田中滋城，大原弘隆，白鳥敬子，成瀬　達，伊藤鉄英，小泉　勝，大槻　眞（2005）自己免疫性膵炎の治療についてのコンセンサス―実態調査を踏まえて―．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業　難治性膵疾患に関する調査研究　平成16年度　総括・分担研究報告書　平成17年3月：223–234
62. 岡崎和一，須田耕一，川　茂幸，神澤輝美，若林時夫，澤武紀雄，田中滋城，西森　功，大原弘隆，乾　和郎，伊藤鉄英，白鳥敬子，小泉　勝，大槻　眞（2005）自己免疫性膵炎の病態解明と診断基準の指針に関する研究．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業　難治性膵疾患に関する調査研究　平成16年度　総括・分担研究報告書　平成17年3月：209–213
63. 岡崎和一，高御堂祥一郎，池浦　司，松下光伸，久保田佳嗣，片岡洋祐，山田久夫（2005）慢性膵炎における膵内神経の支配様式．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業　難治性膵疾患に関する調査研究　平成16年度　総括・分担研究報告書　平成17年3月：182–183
64. 真弓俊彦，大槻　眞，荒田慎寿，伊藤鉄英，乾　和郎，三好広尚，岡崎和一，片岡慶正，神澤輝実，川　茂幸，北川元二，黒田嘉和，小泉　勝，税所宏光，澤武紀雄，下瀬川徹，武田和憲，竹山宜典，田中滋城，広田昌彦（2005）急性膵炎における初期診療のコンセンサスの作成．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業　難治性膵疾患に関する調査研究　平成16年度　総括・分担研究報告書　平成17年3月：44–49
65. 大槻　眞，田代充生，西森　功，伊藤鉄英，須賀俊博，下瀬川徹，神澤輝実，吉田　仁，丸山勝也，岡崎和一，成瀬　達，税所宏光（2005）慢性膵炎の全国疫学調査．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業　難治性膵疾患に関する調査研究　平成14年度～16年度　相互研究報告書　平成17年3月：125–29
66. 岡崎和一，西森　功，川　茂幸，神澤輝実，須田耕一，若林時夫，澤武紀雄，田中滋城，大原弘隆，乾　和郎，伊藤鉄英，白鳥敬子，小泉　勝，大槻　眞（2005）自己免疫膵炎の病態解明と診断基準の指針に関する研究．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業　難治性膵疾患に関する調査研究　平成14年度～16年度　相互研究報告書　平成17年3月：156–160
67. 西森　功，岡崎和一，須田耕一，川　茂幸，神澤輝実，田中滋城，大原弘隆，白鳥敬子，成瀬　達，伊藤鉄英，小泉　勝，大槻　眞（2005）自己免疫性膵炎の治療についてのコンセンサス．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業　難治性膵疾患に関する調査研究　平成14年度～16年度　相互研究報告書　平成17年3月：161–172
68. 朴　勤植，仲野俊成，宮本正喜（2005）連載：医療情報セミナー第3回情報技術者のための医学・医療；医療・社会医学．医療情報学　24: 5
69. 森　茂生，岡崎和一（2005）アカラシアの治療　薬物療法は有効か（Ca拮抗薬，亜硝酸剤）．臨床に直結する消化管疾患治療のエビデンス　40–42
70. 森　茂生，岡崎和一（2006）胃潰瘍．MEDICAMENT NEWS　1–4
71. 森　茂生　Smad3 リンカー部リン酸化を介したTGF-βとHGFシグナル伝達のクロストーク機構の解明．関西医科大学医学会雑誌　in press
72. 岡崎和一，森　茂生，田橋賢也（2005）H.pylori除菌と消化性潰瘍・関連疾患．日本臨床　63: 354
73. 岡崎和一，内田一茂，森　茂生（2006）Helicobacter pyloriと胃MALTリンパ腫．日本検査血液学会雑誌　7: 1
74. 藤高啓祐，中村誠志，梅村茂雄，塚　芳明，馬殿正人，森　茂生（2005）s状結腸癌に対する大腸ステント留置術によってQOLの改善を認めた一例．宝塚医師会学術誌　9: 60

総　説

1. 関　寿人（2005）肝細胞癌に対する経皮的局所治療の現状と展望. Journal of Microwave Surgery　23: 25–29

2. 岡崎和一，内田一茂，松下光伸，島谷昌明，高岡　亮(2005)自己免疫性膵炎. 肝胆膵　51(2): 281–288
3. 是枝ちづ，武田聖子，水野孝子，関　寿人，岡崎和一，河　相吉（2005）網内系機能と肝実質機能の核医学的検討によるNASHの病態解明．薬理と治療(JPT)　33: 9–14
4. 岡崎和一，森　茂生，田橋賢也（2005）H.pylori除菌と消化性潰瘍・関連疾患―基礎・臨床研究のアップデート―．日本臨床　63: 354–360
5. 岡崎和一，高御堂祥一郎，池浦　司，松下光伸（2005）自己免疫性膵炎．日本医師会雑誌特別号(1)　わかりやすい免疫疾患　134特別号(1): 259–262
6. 岡崎和一，内田一茂，松下光伸（2005）自己免疫性膵炎―概念と病態の最近の動向―. Frontiers in Gastroenterology　10(3): 12–22
7. 久保田佳嗣，山本　伸，岡崎和一（2005）代2章胆道癌　4. 画像診断　(7) 経皮経肝胆道鏡. 臨床消化器内科　20(7): 227–232
8. 岡崎和一，池浦　司，内田一茂，島谷昌明，松下光伸（2005）自己免疫性膵炎におけるIgG4の診断的意義．肝胆膵　50(4): 567–571
9. 岡崎和一，池浦　司，内田一茂，島谷昌明，松下光伸（2005）免疫担当細胞：自己免疫性膵炎の発症機序．細胞　37(8): 22–25
10. 岡崎和一（2005）自己免疫性膵炎．専門医のための消化器病学　568–574
11. 岡崎和一，松下光伸（2005）炎症性腸疾患とサイトカインネットワーク. Medical Practice　vol.22 No.5: 797–802
12. 岡崎和一（2005）消化管悪性リンパ腫．疾患別最新処方　308–311
13. 岡崎和一（2005）内視鏡検査．講義録　消化器学　91–97
14. 岡崎和一（2005）味覚異常．症状から診る内科疾患　217–218
15. 岡崎和一（2005）女性の右季肋部痛―Fits-Hugh-Curtis症候群．腹痛診療のコツと落とし穴　154
16. 岡崎和一（2005）自己免疫性膵炎の診断と治療．日本医事新報　4211: 123

学会発表

1. Matsuzaki K（2005）Smad Signaling via JNK in Human Colorectal Adenoma-carcinoma Sequence. Keystone Symposia, Keystone
2. 松下光伸，岡崎和一（2005）潰瘍性大腸炎患者の虫垂リンパ球サブセットの検討．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成16年度第2回総会，東京
3. 大宮美香，吉田勝紀，崎谷和重，田川善啓，藤井壽仁，須永匡彦，高岡　亮，奥野雅史，高田秀穂，立岩二朗，岡崎和一（2005）結腸瘻を形成した原発性空腸癌の1例. 第82回日本消化器病学会近畿支部例会，京都市
4. 藤井壽仁，高岡　亮，田川善啓，吉田勝紀，大宮美香，奥野雅史，小倉徳裕，高田秀穂，播磨敬三，久保田佳嗣，岡崎和一（2005）腹部血管造影が診断に有用であった回盲部動静脈奇形の1例. 第82回日本消化器病学会近畿支部例会，京都市
5. 大宮美香，吉田勝紀，崎谷和重，田川善啓，藤井寿仁，須永匡彦，高岡　亮，奥野雅史，高田秀穂，立岩二朗，岡崎和一（2005）結腸瘻を形成した原発性空腸癌の1例. 第82回日本消化器病学会近畿支部例会，京都
6. 山縣英生，松崎恒一，森　茂生，吉田勝紀，田橋賢也，古川富紀子，関　寿人，岡崎和一(2005) JNKを介するSmad2/3のリン酸化が，ヒト大腸の癌化過程において亢進する．第121回関西医科大学学内学術集談会，大阪
7. 松崎恒一（2005）ヒト肝線維化過程におけるTGF-bシグナル伝達の解析と治療への応用. 第7回Liver Forum in Kyoto，京都
8. 吉田勝紀，高岡　亮，藤井壽仁，田川善啓，大宮美香，崎谷和重，上田創平，北出浩章，小倉徳裕，奥野雅史，高田秀穂，久保田佳嗣，水野孝子，岡崎和一（2005）逸脱した胆管チューブステントが十二指腸穿孔を来した一例．第74回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，大阪
9. 田川善啓，高岡　亮，藤井寿仁（2005）ビデオワークショップ2　胆膵疾患における内視鏡的治療法の実際と工夫．悪性肝門部胆管閉塞に対するJOSTENTを用いた内視鏡的肝両葉ドレナージ法．第74回日本消化器内視鏡学会

近畿地方会，大阪市
10. 藤井寿仁，高岡　亮，田川善啓，吉田勝紀，大宮美香，須永匡彦，上田創平，森　　毅，高田秀穂，立岩二朗，久保田佳嗣，岡崎和一（2005）卵巣癌大腸転移の一例．第74回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，大阪市
11. 吉田勝紀，高岡　亮，藤井寿仁，田川善啓，大宮美香，崎谷和重，上田創平，北出浩章，小倉徳裕，奥野雅史，高田秀穂，久保田佳嗣，水野孝子，岡崎和一（2005）逸脱した胆管チューブステントが十二指腸穿孔を来した一例．第74回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，大阪市
12. 藤井寿仁，高岡　亮，田川善啓，吉田勝紀，大宮美香，須永匡彦，上田創平，森　　殻，高田秀穂，立岩二朗，久保田佳嗣，岡崎和一（2005）卵巣癌大腸転移の一例．第74回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，大阪
13. 段原直行，塚本麗子，圦　貴司，三木克朗，岡崎和一，螺良愛郎（2005）Enterolactoneのヒト大腸癌細胞株COLO201に対する抗腫瘍効果．第94回日本病理学会，横浜
14. 塚本麗子，段原直行，清塚康彦，松岡洋一郎，岡崎和一，螺良愛郎（2005）ヒト大腸癌細胞株colo201に対するルテオリンの抗腫瘍効果．第94回日本病理学会，横浜
15. 是枝ちづ，武田聖子，村田美樹，梅原秀人，池田耕造，福島慎太郎，松崎恒一，水野孝子，関　寿人，岡崎和一（2005）網内系機能と肝実質細胞機能の核医学的検討によるNASHの病態解明．第13回肝病態生理研究会，大阪
16. 門田洋一，福島慎太郎，中橋佳嗣，宮崎浩彰，山口隆志，坂尾将幸，高橋　悠，上ノ山由里，佐藤行永，梅原秀人，池田耕造，関　寿人，岡崎和一（2005）薬物性肝障害の診断におけるスコアリングの有用性と薬疹合併症例の検討．第41日本肝臓学会総会総会，大阪
17. 吉田勝紀，松崎恒一，田橋賢也，古川富紀子，森　茂生，山縣英生，関本　剛，関　寿人，岡崎和一（2005）Disse腔から障害肝組織への肝星細胞の遊走過程におけるJNK/Smadを介するシグナル伝達の検討．第41回日本肝臓学会総会，大阪
18. 門田洋一，福島慎太郎，中橋佳嗣，宮崎浩彰，山口隆志，坂尾将行，高橋　悠，上ノ山由里，佐藤行永，梅原秀人，池田耕造，関　寿人，岡崎和一（2005）薬物性肝障害の診断におけるスコアリングの有用性と薬疹合併症例の検討．第41回日本肝臓学会　総会，大阪
19. 是枝ちづ，武田聖子，水野孝子，關　壽人，池田耕造，梅原秀人，村田美樹，松崎恒一，福島愼太郎，岡崎和一，河　相吉（2005）網内系機能と肝実質機能の核医学的検討によるNASHの病態解明．第13回肝病態生理研究会，大阪
20. 松下光伸，岡崎和一（2005）潰瘍性大腸炎における虫垂粘膜リンパ球サブセット・サイトカインプロファイルの解析．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」平成17年度第1回総会，東京
21. 高御堂祥一郎，池浦　司，松下光伸，内田一茂，片岡洋祐，山田久夫（2005）慢性膵炎における膵内神経支配の変化と疼痛症状について．厚生労働省特定疾患対策研究事業　難治性膵疾患に関する調査研究班　平成17年度第1回研究打ち合わせ会，東京
22. 高御堂祥一郎，池浦　司，松下光伸，片岡洋祐，山田久夫（2005）慢性膵炎時における膵内神経の支配様式の変化と疼痛症状について．第36回日本膵臓学会大会，東京
23. 川股聖二，松崎恒一，山縣英生，森　茂生，吉田勝紀，関本　剛，村田美樹，岡崎和一（2005）ヒト大腸の癌化過程におけるJNK依存性Smadのリン酸化を介するシグナル伝達．第42回日本臨床分子医学会，京都
24. 松崎恒一（2005）ヒト大腸癌化過程におけるTGF-bシグナル伝達機構．第8回no Side GI Conference in 堂島，大阪
25. 廣原淳子（2005）原発性胆汁性肝硬変の理解と療養生活について．高槻市保健所原発性胆汁性肝硬変講演会，大阪府高槻市
26. 松下光伸，高鍬　博，岡崎和一（2005）潰瘍性大腸炎における虫垂粘膜リンパ球サブセット・サイトカインプロファイルの解析．第42回日本消化器免疫学会総会，東京
27. 松下光伸，高鍬　博，岡崎和一（2005）潰瘍性大腸炎における虫垂粘膜リンパ球サブセッ

ト・サイトカインプロファイルの解析．第3回関西消化器・肝疾患研究会，大阪
28. 吉田勝紀，高岡　亮，藤井壽仁，田川善啓，大宮美香，崎谷和重，北野貴弘，須永匡彦，久保田佳嗣，水野孝子，立岩二朗，岡崎和一（2005）閉塞性黄疸で発症したGroove pancreatitisの一例．第83回日本消化器病学会近畿支部例会，大阪
29. 藤井寿仁，高岡　亮，田川善啓，吉田勝紀，大宮美香，小倉徳裕，高田秀穂，岡崎和一（2005）穿孔性腹膜炎をきたした肺扁平上皮癌小腸転移の一例．第83回日本消化器病学会近畿支部例会，大阪市
30. 是枝ちづ，武田聖子，梅原秀人，村田美樹，池田耕造，関　寿人，岡崎和一（2005）Kuppfer細胞機能評価における造影エコーの有用性―核医学的検討との対比―．第11回関西超音波造影剤研究会，大阪
31. 内田洋一郎，海堀昌樹，石崎守彦，肱川　健，斉藤隆道，今村　敦，廣原淳子，上山泰男（2005）自己免疫性溶血性貧血を合併した原発性胆汁性肝硬変に対する生体部分肝移植術の1例．第41回日本移植学会総会，新潟
32. 吉田勝紀，高岡　亮，藤井壽仁，田川善啓，大宮美香，崎谷和重，北野貴弘，須永匡彦，久保田佳嗣，水野孝子，立岩二朗，岡崎和一（2005）胆管チューブステント逸脱例の検討．第70回日本消化器内視鏡学会総会，神戸
33. 高岡　亮，藤井寿仁，久保田佳嗣（2005）ワークショップ4　胆道癌のIVRならびに内視鏡治療；up to date．悪性肝門部胆管閉塞に対するメタリックステントを用いた内視鏡的肝両葉ドレナージ法の検討．第70回日本消化器内視鏡学会総会（DDW-Japan 2005），神戸市
34. 藤井寿仁，高田秀穂（2005）大動脈炎症候群の経過中に潰瘍性大腸炎を併発した一例．第60回日本大腸肛門病学会総会，東京
35. 内田一茂，松下光伸，岡崎和一（2005）自己免疫性膵炎の病態とその周辺疾患．第13回日本消化器関連学会週間，神戸
36. 是枝ちづ，武田聖子，關　壽人，池田耕造，梅原秀人，村田美樹，岡崎和一，河　相吉（2005）Kuppfer細胞機能評価における造影エコーの有用性―核医学的検査との対比―．第11関西超音波造影剤研究会，大阪
37. 是枝ちづ，関　寿人，岡崎和一（2005）NASH診断における肝シンチグラフィの有用性．第36回日本肝臓学会西部会，鈴鹿
38. 福島慎太郎，関　寿人，梅原秀人，池田耕造，池田広記，門田洋一，中橋佳嗣，岡崎和一（2005）C型慢性肝炎に対するIFN中断症例の検討．第36回日本肝臓学会西部会，鈴鹿
39. 是枝ちづ，關　壽人，岡崎和一（2005）NASH診断における肝シンチグラフィの有用性．第36回日本肝臓学会西部会（ワークショップ），三重
40. 仲野俊成，渡辺　淳，大村直人，澤田　敏，新宮　興，福泉利彦，廣川陽介（2005）小型Layer3スイッチで構成するDICOM画像配信環境とその評価．第6回日本医療情報学会秋季学術大会，横浜
41. 仲野俊成，渡辺　淳，河本慶子，西上尚志，松尾信昭，新宮興，川満貴子，山口　力，堀井俊洋（2005）電子カルテシステムにおける“PHYXAM”適用の試み．第6回日本医療情報学会秋季学術大会，横浜
42. 渡辺　淳，仲野俊成，田中裕子（2005）医療情報システムへの電磁妨害（EMI）の影響．第6回日本医療情報学会秋季学術大会，横浜
43. 川上洋一，安永　晋，笹井浩介，稲田　紘，木内貴弘，黒田知宏，坂本憲広，竹村匡正，田中　博，玉川裕夫，仲野俊成，朴勤植，平松治彦，松村泰志，宮本正喜（2005）症例データベースから抽出した医学的知識のレポーティングシステムへの応用．第6回日本医療情報学会秋季学術大会，横浜
44. 松崎恒一，村田美樹，関本　剛，吉田勝紀，川股聖二，関　寿人，岡崎和一（2005）HCV持続感染に伴う慢性炎症が肝細胞での上皮―間質移行を促した結果，C型慢性肝炎は肝硬変を経て肝癌に至る．第13回浜名湖シンポジウム，浜松
45. 森　茂生（2005）エビデンスに基づく「日本人」の酸関連疾患に対する治療戦略．Famotidine’s Rsearch & Evaluation，大阪
46. 梅原秀人，関　寿人，池田耕造，井口亮輔，山口隆志，坂尾将幸，高橋　悠，岡崎和一（2005）多方向展開型注入針を用いた経皮的エタノー

ル注入療法（PEIT）の基礎的検討―生体豚肝，摘出牛肝を用いて―．第41回日本肝癌研究会，幕張
47. 梅原秀人，古川富紀子，関　寿人，池田耕造，是枝ちづ，福島慎太郎，島谷昌明，岡崎和一，森田美佳，海堀昌樹，吉岡和彦，上山泰男，坂井田紀子，植村芳子（2005）大腸転移をきたした肝細胞癌の1例．第41回日本肝癌研究会，幕張
48. 梅原秀人，關　壽人，池田耕造，山口隆志，高橋　悠，坂尾将幸，福島慎太郎，是枝ちづ，玉井　徹，井口亮輔，岡崎和一（2005）生体豚肝を用いた還流型マイクロ波電極による組織凝固の基礎的検討．第41回日本肝臓学会総会，大阪
49. 梅原秀人，関　寿人，池田耕造，池田広記，村田美樹，坂尾将幸，高橋　悠，岡崎和一（2005）転移性肝癌に対する経皮的局所治療（PMCT，PRFA）の有用性の検討．第24回Microwave Surgery研究会，名古屋
50. 北野千晶，松崎恒一，関本　剛，巽　理恵，竹谷　茂，藤澤順一（2005）Smad2欠損（–/–）マウス胎児繊維芽細胞を用いたSmad2部位特異的リン酸化の機能解析．第28回日本分子生物学会，福岡
51. 田川善啓，高岡　亮，藤井寿仁（2005）悪性肝門部胆管閉塞に対するJOSTENTを用いた内視鏡的肝両葉ドレナージ法．第74回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，大阪
52. 桑田さおり，川股聖二，山科雅央，川村梨那子，高御堂祥一郎，山縣英生，松本隆之，中橋佳嗣，廣原淳子，岡崎和一（2005）多発胃潰瘍，逆流性食道炎を来した原発性十二指腸癌の一例．日本内科学会近畿地方会，大阪
53. 高橋　悠，古川富紀子，關　壽人，池田耕造，梅原秀人，是枝ちづ，福島慎太郎，島谷昌明，岡崎和一，森田美佳，海堀昌樹，吉岡和彦，上山泰男，坂井田紀子，植村芳子（2005）大腸転移をきたした肝細胞癌の一例．第41回日本肝癌研究会，千葉
54. 山科雅央，中山新士，松下光伸，島谷昌明，中橋佳嗣，池浦　司，川村梨那子，関　寿人，岡崎和一（2005）胆管狭窄に対してステロイド・パルス療法が有効であった自己免疫性膵炎の一例．第2回肝・消化器・代謝・栄養研究会，大阪
55. 吉田勝紀，松崎恒一，田橋賢也，古川富紀子，森　茂生，山縣英生，関本　剛，関　寿人，岡崎和一（2005）Disse腔から障害肝への肝星細胞の遊走過程におけるJNK/Smadを介するシグナル伝達の検討．第41日本肝臓学会総会 総会，大阪
56. 池田耕造，関　寿人，梅原秀人，井口亮輔，山口隆志，坂尾将幸，高橋　悠，岡崎和一，谷川　昇（2005）転移性肝癌に対する経皮的局所治療の有用性の検討．第41回日本肝癌研究会，幕張
57. 高橋　悠，松本隆之，坂尾将幸，山科雅央，福井由理，関本　剛，森　茂生，島谷昌明，川股聖二，松下光伸，岡崎和一（2005）クローン病の病態把握にダブルバルーン小腸内視鏡が有用であった一例．第11回北大阪消化器病勉強会，大阪
58. 高橋　悠，田橋賢也，坂尾将幸，梅原秀人，高御堂祥一郎，池田耕造，関　寿人，岡崎和一（2005）両側眼内炎を合併した肝膿瘍の一例．第177回日本内科学会近畿地方会，大阪
59. 山科雅央，松下光伸，福井由理，高橋　悠，坂尾将幸，池浦　司，島谷昌明，内田一茂，関寿人，岡崎和一（2005）自己免疫性膵炎に伴うと考えられる胆管空腸吻合部狭窄に対してステロイド・ミニパルス療法が有効であった一例．第83回日本消化器病学会近畿支部例会，大阪
60. 山科雅央，中山新士，松下光伸，島谷昌明，中橋佳嗣，池浦　司，川村梨那子，高橋　悠，関寿人，岡崎和一（2005）ステロイド内服にて軽快しなかった胆管狭窄に対してステロイド・ミニパルス療法が有効であった自己免疫性膵炎の一例．第75回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，大阪
61. 福井由理，島谷昌明，松下光伸，川股聖二，松本隆之，坂尾将幸，関　寿人，岡崎和一，渡辺敏彦（2005）腹部症状により発症したSchönlein-Henoch紫斑病の一成人例．第75回日本消化器内視鏡学会近畿地方会，大阪
62. 富山　尚，門田洋一，徳原満雄，福井由理，山科雅央，中山新士，松本隆之，森　茂生，福島慎太郎，宮崎浩彰，中橋佳嗣，坂井田紀子，

植村芳子，尼川龍一，関　寿人，岡崎和一（2005）単純ヘルペスウイルスによる血球貪食症候群を契機に劇症肝炎を発症した1例. 第36回日本肝臓学会　西部会，鈴鹿

63. 高橋　悠，松本隆之，坂尾将幸，門田洋一，福島愼太郎，中橋佳嗣，関　寿人，岡崎和一，森眞一郎，福原資郎（2005）リツキサン（リツキシマブ）投与によるB型肝炎急性増悪に対しラミブジン投与が有効であった一例．第36回日本肝臓学会西部会，鈴鹿
64. 坂尾将幸，廣原淳子，高橋　悠，梅原秀人，池田耕造，是枝ちづ，関　寿人，岡崎和一，植村芳子，岸本裕司，海堀昌樹，上山泰男（2005）肝移植を要した原発性胆汁性肝硬変と自己免疫性溶血性貧血を合併した1例. 第36回日本肝臓学会西部会，鈴鹿
65. 坂尾将幸，廣原淳子，高橋　悠，上ノ山由里，梅原秀人，池田耕造，是枝ちづ，関　寿人，岡崎和一，植村芳子，岸本裕司，海堀昌樹，上山泰男（2005）肝移植を施行した自己免疫性溶血性貧血合併原発性胆汁性肝硬変の1例．第36回日本肝臓学会西部会地方会，鈴鹿

著　書

1. Seki T（2005）Microwave coagulation therapy for liver tumors. Tumor Ablation: Principles and Practice（Eric vanSonnenberg MD and William McMullen eds）pp 218–227, SPRINGER-VERLAG, New York
2. Okazaki K（2005）AUTOIMMUNE PANCREATITIS - RECENT CONCEPT. Toxicology of the Pancreas（Parviz M Pour ed）pp 459–473, Taylor & Francis
3. 関　寿人（2005）ラジオ波焼灼療法，マイクロ波凝固療法，エタノール注入療法．今日の治療指針2005（山口　徹，北原光夫編）672–674頁，医学書院，東京
4. 関　寿人（2005）転移性肝癌．消化器疾患診療実践ガイド　診察室ですぐに役立つ卓上リファレンス（千葉　努，井廻道夫編）672–674頁，文光堂，東京
5. 広原淳子，仲野俊成，関　寿人，岡崎和一（2005）原発性胆汁性肝硬変．臨床消化器病学（石井裕正，朝倉　均，税所宏光，幕内博康編）470–475頁，朝倉書店，東京
6. 森　茂生，岡崎和一（2005）薬物療法は有効か？（Ca拮抗薬・亜硝酸剤）．臨床に直結する消化管疾患治療のエビデンス　40–42頁，文光堂，東京
7. 岡崎和一（2005）消化器内視鏡ガイドライン．消化器疾患診療実践ガイド―診察室ですぐに役立つ卓上リファレンス―　842–848頁，文光堂，東京

心療内科学講座

〈研究概要〉

心療内科の研究は，身体疾患を対象に，身体と心の関係性についての病態解明と，診断および治療法に関するものが中心である．身体とこころの関係性は，概念としては一応分離しているものの，本質的には極めて複雑であり，従来のような「病原体→感染症」のようシンプルな生物医学モデルに基づく科学的解析が困難なことが多い．理論的にはSystem論，または構成論的な病態の成り立ちをしめすと考えられ，このため行動科学的手法，質的研究法，カオス理論などの従来医学領域では適用されなかった手法を用いて研究を行なっている．

○自覚的ストレスと生理学的ストレスレスポンスと病態との関連

暗算などのストレス負荷中の皮膚電気抵抗，筋電図，心電図，皮膚温などの生理反応と自覚的なストレスとの関係性と心身症の病態との関係を研究している．反応パターンには診断名で規定されないパターン分類があり，アレキシシミア，アレキシソミアといった心身医学的病態との関連が推測される．

○消化器疾患に関する心身医学的研究

厚生省班会議の一員として，FD（functional dyspepsia）の病態解明を行なっている．FD患者の胃機能測定に胃電図や胃内pHセンサーを用い，さまざまなストレスを負荷することによって，情動と胃運動機能との関係を研究している．結果の分析には胃電図のカオス解析も試みている．さらにFDの簡便な検査法として透視像のビデオ記録により，症状と機能の関係を評価できないか検討している．このほか食道機能，腸管機能，胆嚢機能についての同様の研究や，消化性潰瘍，慢性膵炎，潰瘍性大腸炎などの心身医学的研究を行っている．

○慢性疼痛に関する心身医学的研究

慢性疼痛は心理社会的要因が密接に関与し，治療においては多面的統合的なアプローチが必要である．現在まで患者自身の病因帰属が治療経過に及ぼす影響や，治療経過と患者自身の心理パターンとの関係を行動学的立場から検討している．今後，急性疼痛の慢性化因子に焦点をあて因子の解析と予防法の研究を計画している．

○サイコオンコロジー（精神腫瘍学）に関する心身医学的研究

関連病院との共同研究により肺癌患者の心身医学的因子の研究を行っている．

○代替医療に関する心身医学的研究

米国では西洋医学理論に基づかない治療以外はすべて代替医療とされ，われわれ心療内科領域の治療も多くが代替医療の範疇ということになる．当科では，代替医療研究グループが，自律訓練法の心身症への治療効果やがん患者へのアロマセラピーの効果について研究を行っている．

〈研究業績〉

原　著

1. Kitamura K and Seki N（2005）心身症患者に対するグループアートセラピーの試み．Jagp（日本集団精神療法学会誌）21: 135–139
2. Natui K, Tanaka K, Suda M, Yasoda A, SakumaY, Ozasa A, Ozaki S and Nakao K（2006 Epub 2005 May11）Highdose glucocorticoid tretment induces rapid loss of trabecular bone mineral density and lean body mass. Osteoporosis Int 17（1）: 105–108
3. Imbe H, Abe T, Okamoto K, Sato M, Ito H, Kumabe S and Senba E（2004）Increase of galanin-like immunoreactivity in rat hypothalamic arcuate neurons after peripheral nerve injury. Neurosci Lett 368: 102–106
4. Mabuchi T, Kojima H, Abe T, Takagi K, Sakurai M, Ohmiya Y, Uematsu S, Akira S, Watanabe K and Ito S（2004）Membrane-associated prostaglandin E synthase-1 is required for neuropathic pain. Neuroreport 15: 1395–1398
5. Tatsumi S, Mabuchi T, Abe T, Xu L, Minami T and Ito S（2004）Analgesic effect of extracts of Chinese medicinal herbs Moutan cortex and Coicis semen on neuropathic pain in mice. Neurosci Lett 370: 130–134
6. Abe T, Matsumura S, Katano T, Mabuchi T, Takagi K, Xu L, Yamamoto A, Hattori K, Yagi T, Watanabe M, Nakazawa T, Yamamoto T, Mishina M, Nakai Y and Ito S（2005）Fyn kinase-mediated phosphorylation of NMDA receptor NR2B subunit at Tyr1472 is essential for maintenance of neuropathic pain. Eur J Neurosci 22: 1445–1454
7. Tatsumi S, Mabuchi T, Katano T, Matsumura S, Abe T, Hidaka H, Suzuki M, Sasaki Y, Minami T and Ito S（2005）Involvement of Rho-kinase in inflammatory and neuropathic pain through phosphorylation of myristoylated alanine-rich C-kinase substrate（MARCKS）. Neuroscience 131: 491–498
8. Matsumura S, Abe T, Mabuchi T, Katano T, Takagi K, Okuda-Ashitaka E, Tatsumi S, Nakai Y, Hidaka H, Suzuki M, Sasaki Y, Minami T and Ito

S (2005) Rho-kinase mediates spinal nitric oxide formation by prostaglandin E(2) via EP3 subtype. Biochem Biophys Res Commun 338: 550–557
9. Okamoto A, Kuriyama H, Watanabe S, Aihara, Tadai Y, Imanishi J and Fukui K (2005) The effect of aromatherapy massage on mind depression:A pilot study. Psychiatry Clin Neurosci 59-3: 363
10. Akamizu T, Shinomiya T, Irako T, Fukunaga M, Nakai Yoshihide, Nakai Yoshikatsu and Kangawa K (2005) Separate measurement of plasma levels of acylated and desacyl ghrelin in healthy subjects using a new direct ELISA assay. J Clin Endocrinol & Metab 90: 6–9
11. Shinomiya T, Fukunaga M, Akamizu T, Irako T, Yokode M, Kangawa K, Nakai Yoshihide and Nakai Yoshikatsu (2005) Plasma acylated ghrelin levels correlate with subjective symptoms of functional dyspepsia in female patients. Scand J Gastroenterol 40: 648–653
12. 水野泰行，福永幹彦，中井吉英（2005）慢性疼痛患者とその他の心身症患者との比較―治療にともなう心理的変化の前向き研究―．慢性疼痛　24: 89–94
13. 山本玉雄，中井吉英（2005）5．月経前症候群への対応　3）心療内科における対応．臨婦産　59: 986–989
14. 福永幹彦（2005）医師は心理士に何を求めるか　心療内科医の立場から．心身医　45: 663–673
15. 神原憲治，四宮敏章，福永幹彦，石野振一郎，三谷有子，中井吉英（2005）24時間食道内圧モニタリングとPsychophysiological Stress Profileの関係についての予備的検討．消心身医 12: 12–24
16. 神原憲治，三谷有子，福永幹彦，石野振一郎，竹林直紀，中井吉英（2005）心身症患者におけるPsychophysiological Stress Responseの特徴．心身医　45: 685–695
17. 所　昭宏，河原正明，中井吉英（2005）がん医療現場でのストレスとその対応．緩和ケア　15: 609–613
18. 深尾篤嗣，奥見裕邦，佐藤純香，六浦裕美，高松順太，宮内　昭，隈　寛二，中井吉英，花房俊昭（2005）因果性と共時性：2種類の心身相関について．日心療内誌　9: 122–126
19. 深尾篤嗣，後山尚久，奥見裕邦，和田教義，岡山征史朗，高松順太，黒川順夫，宮内　昭，隈　寛二，中井吉英，花房俊昭（2005）内分泌代謝系心身症におけるジェンダーの意義について．心療内科　9: 367–373
20. 竹林直紀（2005）臨床研究の新しい見方―要素還元主義からシステム論的健康観へ―．環境と健康　18(2): 112–133
21. 竹林直紀（2005）米国での統合医療の現状第1部．環境と健康　18(5): 348–362
22. 竹林直紀（2005）米国での統合医療の現状第2部．環境と健康　18(6): 425–442
23. 竹林直紀，中井吉英（2005）もう一つの心身医療―米国でのIntegrative Medicine（統合医療）の動き―．心身医　45(7): 495–503
24. 竹林直紀，相原由花，垣内晶代，有城幸男，中井吉英（2005）大学附属病院での補完・代替医療の試み―新しい医療システムとしての「統合医療」の提言―．心身医　45(8): 567–574
25. 竹林直紀，神原憲治，三谷有子，中井吉英（2005）臨床精神生理学の可能性　―研究から実践への架け橋―．バイオフィードバック研　32: 27–32
26. 平井啓，所昭宏，中宣敬，小河原光正，河原正明（2005）肺がん患者の外来化学療法移行の意思決定に関する探索的研究．肺癌　45: 105–110
27. 松原英俊，西山順滋，田中努，寺田雅彦，三ツ浪健一（2005）胃食逆流症（GERD）治療を行った「のど」症状を主訴とする23例の新来患者の検討　3年間の治療前アンケート調査より．耳鼻と臨　51: 139–143
28. 中野良信，中井吉英（2005）口腔不定愁訴を有する患者の心理社会的背景　Life Events調査表による検討．心療内科　9: 447–453
29. 西田愼二，西本　隆（2005）出産後の抑うつ・強迫症状と便秘などに温経湯が有効であった一例．日本東洋心身医学研究　20: 48–50
30. 計屋典子，水野泰行，四宮敏章，福永幹彦，中井吉英（2005）2型糖尿病治療における主体的参加への動機づけ．心療内科　9: 424–428

31. 村上典子，瀬藤乃理子（2005）遺族へのグリーフケア．治療（増刊号）　87: 786–788
32. 村上典子（2005）心療内科医の視点から考えるグリーフケア．緩和ケア　15: 308–309
33. 西山順滋，田中努，松原英俊，三ッ浪健一，中井吉英（2005）心因性腰下肢痛の治療-心身医学的アプローチの利用-．骨・関節・靭帯　18: 909–914
34. 橋爪　誠（2005）心療内科からみた気管支喘息の診断と治療．大阪内科医会誌　14: 36–44
35. 橋爪　誠，榎木博茂，中井吉英（2005）健康生成論からみた慢性疼痛．慢性疼痛　24: 27–32
36. 橋爪　誠（2005）ドイツにおける心身医学の現状．心身医　45: 505–509
37. 橋爪　誠（2005）サルートジェネシス論からみた消化器心身医学．Mod　Physician　25: 1519–1522
38. 中井吉英（2005）〈癒し〉のメカニズムと水1部．環境と健康　18: 284–297
39. 中井吉英（2005）〈癒し〉のメカニズムと水第2部．環境と健康　18: 363–371
40. 中井吉英（2005）〈癒し〉のメカニズムと水第3部．環境と健康　18: 407–424
41. 中井吉英（2005）いのちの科学プロジェクトシリーズ　文理融合の科学をめざして　なぜいま全人的医療学が必要か．環境と健康　18: 461–475
42. 中井吉英（2005）現場で出会った方へのスピリチュアルケア　沈黙という言葉．緩和ケア　15: 407–409
43. 中井吉英，町田英世（2005）関節リウマチの治療　概論的事項　慢性疼痛の治療．日臨　63: 459–462
44. 中井吉英，福永幹彦，橋爪　誠，竹林直紀，町田英世，山本玉雄（2005）心身医学が進むべき方向　関西医科大学心療内科より―全人的医療学の臨床・教育・研究を通して―．心身医　45: 289–296

総　説

1. 町田英世（2005）慢性疼痛患者への心療内科的アプローチ．日本関節運動学的アプローチ医学会誌　6: 11–14
2. 町田英世，中井吉英（2005）抗うつ薬，抗痙攣薬による慢性疼痛の治療．ストレスと臨　24: 30–33
3. 仁木　稔，眞鍋真理，西山利正（2005）消化管寄生虫（原虫，蠕虫）．臨看　31(2): 181–185
4. 水野泰行，福永幹彦，中井吉英（2005）腰下肢痛の心療内科的療法．ペインクリニック　26: 182–190
5. 水野泰行，中井吉英（2005）慢性疼痛．カレントテラピー　23: 101
6. 水野泰行，中井吉英（2005）心理的要因の関与する疼痛の病態および診断．治療学　39: 831–834
7. 松村伸治，阿部哲也，伊藤誠二（2005）プロスタグランジン受容体の機能・多様性と痛み機構．ペインクリニック　26: 1639–1648
8. 福永幹彦，神原憲治，阿部哲也，中井吉英（2005）統合医療からみた消化器心身医学. mod physician 25: 1513–1517
9. 福永幹彦（2005）心身症と消化管機能異常．消内視鏡　17: 1040–1045
10. 福永幹彦，神原憲治，阿部哲也，中井吉英（2005）注目される消化器疾患：機能性胃腸症．綜合臨　54: 2401–2407
11. 竹林直紀（2005）バイオフィードバック．臨看　31(3): 329–332
12. 竹林直紀，相原由花，中井吉英（2005）統合医療におけるアロマセラピーの役割―心療内科とホリスティックアロマセラピー―．日本アロマセラピー会誌　4(1): 28–34
13. 西田愼二（2005）うつ病．漢方と最新治療　14: 125–130
14. 相原由花・竹林直紀・中井吉英・黒丸尊治（2004）心身症の治療　40．アロマセラピー．心療内科　8(5): 347–353

学会発表

1. Nomura K, Machida H, Takebayashi N, Asano H, Takahashi M and Ikuno T（2005）Activities of Eating Disordera Network of Japan. Academy for Eating Disorders 2005 International Conference, Monntreal
2. Nishiyama J, Tanaka T, Matsubara H, Terada M, Mitsunami K andNakai Y（2005）Medical Inter-

view Training with Simulated Patients Playing Difficult Patients: An Approach to Holistic Medical Care Education for Undergraduate Medical Students. 18th World Congress on Psychosomatic Medicine, Kobe
3. Nishida S, Koyama A, Ishino S, Hirano T, Jinnai R, Iwagami K and Tochihara K（2005）A patient with anorexia nervosa who died of hemorrhagic necrotizing enteritis. 18th World Congress on Psychosomatic Medicine, Kobe
4. Murakami N, Ozasa Y andMuramatsu T（2005）The experience as a phychosomatic physician in the disaster area, Kobe. 18th World Congress on Psychosomatic Medicine, Kobe
5. 橋爪　誠（2005）Salutogenesisからみた慢性疼痛．第34回日本慢性疼痛学会，東京
6. 中井吉英（2005）会長講演，私の全人的医療学．第46回日本心身医学会総会，奈良
7. 橋爪　誠（2005）健康生成論の観点からみた心身症治療. 第46回日本心身医学界総会, 奈良
8. 橋爪　誠（2005）総合医療と健康生成論．第11回日本実存療法学会，東京
9. 中井吉英（2005）パネルディスカッション―全人的医療とは何か―　心療内科の立場から．第28回日本プライマリ・ケア学会学術集会，京都
10. 黒丸尊治（2005）パネルディスカッション―全人的医療とは何か―　緩和ケアの立場から．第28回日本プライマリ・ケア学会学術集会，京都
11. Hashizume M and Nakai Y（2005）Psychosomatic Medicine from the Viewpoint of Salutogenesis. 18th World Congress on Psychosomatic Medicine, 神戸
12. 中井吉英（2005）教育講演「全人的医療の診かた―病者の“からだ”，“こころ”，“いのち”からの信号を読みとる―．第67回日本臨床外科学会総会，東京
13. 西田愼二，保田佳苗，陣内里佳子，平野智子，小山敦子（2005）心療内科における補剤の役割．第9回日本心療内科学会学術大会，仙台
14. 西田愼二，保田佳苗，陣内里佳子，平野智子，小山敦子，西本　隆，中井吉英（2005）女性心身症患者の東洋医学的治療．第39回日本心身医学会近畿地方会，大阪
15. 西田愼二，西本　隆（2005）出産後の抑うつ・強迫症状と便秘などに温経湯が有効であった一例．第41回日本東洋心身医学研究会学術総会，東京
16. 町田英世（2005）「慢性疼痛」症例ディスカッション．第46回日本心身医学界総会，奈良
17. 西山順滋，田中　努，松原英俊，寺田雅彦，三ッ浪健一，中井吉英（2005）「困難な患者」との医療面接から学ぶこと―模擬患者参加型医療面接実習を利用した全人的医療教育―．第46回日本心身医学会総会ならびに学術講演会，奈良
18. 竹林直紀，相原由花，中井吉英（2005）ナラティブ・ベイスド・メディスンにおける研究手法―アロマセラピーの症例検討を通じて―．第46回日本心身医学会総会，奈良
19. 竹林直紀（2005）生老病死をたおやかに生きる．第46回日本心身医学会総会―市民公開講座―，奈良
20. 福永幹彦，山本玉雄，四宮敏章，石野振一郎，北村香奈，中井吉英（2005）チュートリアルにおける全人医療教育．第46回日本心身医学会総会，奈良
21. 西山順滋，田中　努，松原英俊，寺田雅彦，三ッ浪健一（2005）総合診療部における心療内科外来の報告？―心療内科外来と総合診療外来の患者比較検討を通じて―．第13回日本総合診療医学会学術集会，京都
22. 福永幹彦，北村香奈，山本玉雄，安部哲也，水野泰行，中井吉英（2005）PBLチュートリアルにおける全人医療教育．第37回日本医学教育学会，東京
23. 竹林直紀，神原憲治，三谷有子，中井吉英（2005）シンポジウム：臨床精神生理学の可能性　―研究から実践への架け橋―．第33会日本バイオフィードバック学会，東京
24. 町田英世，野村佳絵子，浅野浩子，高橋美智子，竹林直樹，生野照子（2005）教育現場でのネットワークの構築を目指して開業医の立場から．第1回日本摂食障害学会，大阪
25. 西山順滋，田中　努，松原英俊，三ッ浪健一（2005）滋賀医科大学の現代的教育ニーズ取組支援プログラムの初期成績：診療所特性と学

生による評価．第19回日本プライマリケア学会近畿地方会，大津
26. 西山順滋，田中　努，松原英俊，三ッ浪健一（2005）プライマリ・ケアの現場でできる心身医学的アプローチ．第19回日本プライマリケア学会近畿地方会，大津
27. 竹林直紀，相原由花，垣内晶代，有城幸男，足立比呂美，中井吉英（2004）Mind-Body Medicineとしての心療内科―統合医療（Integrative Medicine）という新しい枠組から―．第8回日本心療内科学会，大分
28. 竹林直紀，中井吉英（2004）パネルディスカッション：心身医学（心療内科）の枠組みからみた補完・代替医療―Mind-Body-Spirit Medicineとしての統合医療とは―．第37回日本心身医学会近畿地方会，彦根
29. 竹林直紀，相原由花，垣内晶代，有城幸男，足立比呂美，中井吉英（2004）シンポジウム：心身医学（心療内科）の枠組みからみた補完・代替医療―Mind-Body-Spirit Medicineとしての統合医療とは―．第17回神戸心身医学会，神戸
30. 竹林直紀，相原由花，中井吉英（2004）心療内科におけるアロマセラピーの役割―ホリスティックチーム医療として―．日本アロマセラピー学会関西地方会，京都
31. 竹林直紀，相原由花，垣内晶代，有城幸男，足立比呂美，中井吉英（2004）パネルディスカッション：大学附属病院での補完・代替医療の試み―新しい医療システムとしての「統合医療」の提言―．第45回日本心身医学会総会，小倉
32. 竹林直紀，中井吉英（2004）パネルディスカッション：もう一つの心身医療―米国でのIntegrative Medicine（統合医療）の動き―．第45回日本心身医学会総会，小倉
33. 竹林直紀，相原由花，中井吉英（2004）医学生に対する統合医療教育の試み―心身医学における全人的医療教育の枠組みの中で―．第45回日本心身医学会総会，小倉
34. 竹林直紀，中井吉英（2004）シンポジウム：大学附属病院での統合医療の臨床―心療内科の枠組の中で．第4回日本統合医療学会，札幌
35. 竹林直紀，相原由花（2004）ナラティブ・ベイスト・メディスンとしての臨床アロマセラピー―心身医学領域における統合医療の試みとして―．第7回日本アロマセラピー学会総会，東京
36. 六浦裕美，深尾篤嗣，中井吉英（2005）パーソナリティチェンジを促すアプローチ―心身医学の可能性―．第46回日本心身医学学術総会，奈良
37. 仁木　稔，田近亜蘭，西山利正（2005）海外在留邦人への心身医学的役割．第9回海外渡航者の健康を考える会大会，大阪
38. 仁木　稔，田近亜蘭，西山利正（2005）海外巡回健康相談業務をとおしてみた海外在留邦人の心身医学的状況．第64回日本公衆衛生学会総会，札幌
39. 村上典子，小笹裕美子（2005）当院心療内科におけるコンサルテーションリエゾンサービス―チームとしての全人的医療をめざして―．第9回日本心療内科学会学術大会，仙台
40. 相原由花，竹林直紀，中井吉英（2005）乳がん患者に対する全人的ケアとしてのアロマセラピーの試み―3つの症例を通して―．第9回日本心療内科学会，仙台
41. 深尾篤嗣，奥見裕邦，佐藤純香，六浦裕美，高松順太，宮内　昭，隈　寛二，中井吉英，花房俊昭（2005）因果性と共時性：2種類の心身相関について．第9回日本心療内科学会学術大会，仙台
42. 小笹裕美子，村松知子，村上典子（2005）定年退職後に身体症状出現し心療内科受診に至った男性患者2例．第39回日本心身医学会近畿地方会，大阪
43. 永岡三穂，水野泰行，北澤勇人，福永幹彦，中井吉英（2005）診察医から得た安心感で症状が速やかに改善した胃食道逆流症の一例．第39回日本心身医学会，大阪
44. 有城幸男，竹林直紀，中井吉英（2005）「自律訓練法」の自己練習継続への動機付けを高める手法の検討（第1報）―「簡易温度計」による指尖皮膚温フィードバツクの活用―．第39回日本心身医学会近畿地方会，大阪
45. 足立比呂美，竹林直紀，中井吉英（2005）カラーセラピーを試みたうつ状態を伴うパーキンソン病女性の一症例．第39回日本心身医学会近畿地方会，大阪

46. 相原由花，竹林直紀，中井吉英，加藤文恵（2005）女性患者におけるホリスティックアロマセラピー併用の有用性と意義．第39回日本心身医学会近畿地方会，大阪
47. 堀　裕典，四宮敏章，北澤勇人，福永幹彦，中井吉英（2005）遷延した胃癌術後腹痛が検査と病態説明により軽快に至った1例. 第39回日本心身医学会近畿地方会，大阪
48. 計屋典子，四宮敏章，和田教義，福永幹彦，中井吉英（2005）患者の自己決定を重視することにより治療意欲が芽生えた2型糖尿病の一例．第39回日本心身医学会近畿地方会，大阪
49. 村上典子（2005）災害や事件における全人的ケア―被災地の心療内科医としての経験から―．第18回神戸心身医学会，神戸
50. 村上典子，小笹裕美子，村松知子（2005）災害における全人的ケア―阪神淡路大震災，新潟県中越地震の現場の経験から―．第46回日本心身医学会総会，奈良
51. 小笹裕美子，村松知子，村上典子（2005）災害救護における医療援助者のメンタルヘルス―2004年の自然災害救護参加者へのアンケート調査より―．第46回日本心身医学会総会，奈良
52. 神原憲治，福永幹彦，三谷有子，石野振一郎，竹林直紀，中井吉英（2005）シンポジウムⅡ　心身医学の研究方法の開発を目指して―要素還元主義による研究を乗り越えて―心身相関を如何にとらえるか―当科研究室における取り組み．第46回日本心身医学会総会，奈良
53. 足立比呂美，竹林直紀，中井吉英（2005）カラーセラピーを行なった軽度知能障害をもつ転換性障害患者の一症例．第46回日本心身医学会総会，奈良
54. 相原由花，竹林直紀，中井吉英（2005）乳がんのサポートケアにおけるホリスティックアロマセラピーの役割―3つの症例から学ぶもの―．第46回日本心身医学会総会，奈良
55. 有城幸男，竹林直紀，中井吉英（2005）統合医療としての気功法の有用性について―心療内科の集団療法での気功法の意義―．第46回日本心身医学会総会，奈良
56. 中尾一泰，須田道雄，渡部仁美，八城正知，松原欣也，中村吉昭，吉政孝明（2005）透析中副甲状腺機能亢進症の心機能と骨密度―副甲状腺摘出術（PTX）後のBNPと心機能―．第50回日本透析学会学術集会・総会，横浜
57. 北村香奈，関　則雄（2005）心身症患者に対するグループアートセラピーの試み．第22回日本集団精神療法学会，札幌
58. 須田道雄（2005）肝不全を来した摂食障害―肝不全にリポPGE1を使用した症例―. 第40回日本心身医学会近畿地方会，和歌山
59. 堀　裕典，水野泰行，神原憲治，福永幹彦，中井吉英（2005）消化管機能の病態説明が家族システムの好転や症状改善へのきっかけとなった1症例. 第40回日本心身医学会近畿地方会，和歌山
60. 計屋典子，水野泰行，阿部哲也，北澤勇人，福永幹彦，中井吉英（2005）治療関係の確立が困難であった慢性疼痛の一例．第40回日本心身医学会近畿地方会，和歌山
61. 永岡三穂，水野泰行，蓮尾英明，福永幹彦，中井吉英（2005）系統的脱感作法という枠組みにより患者の能動性を引き出せた1症例. 第40回日本心身医学会近畿地方会，和歌山
62. 松田能宣，小林政司，笹田真滋，福永幹彦，中井吉英（2005）のう胞状の気管支拡張をきたしたcytic adenocarcinomaの1例. 呼吸器気管支鏡学会近畿地方会，大阪
63. 神原憲治，福永幹彦，竹林直紀，中井吉英（2005）心身症患者における身体感覚の逸脱とバイオフィードバック．第33回日本バイオフィードバック学会学術総会，東京
64. 村上典子，小笹裕美子，村松知子（2005）災害における全人的ケア―阪神淡路大震災，新潟県中越地震での経験から―．第41回日本赤十字社医学会総会，松江
65. 有城幸男，四宮敏章，六浦裕美，竹林直紀，中井吉英（2005）「自律訓練法」で「食道アカラシア」の症状が改善した症例．第28回日本自律訓練学会大会，名古屋
66. 相原由花，竹林直紀，中井吉英（2005）医療従事者自身のヘルスプロモーション．第8回日本アロマセラピー学会，大阪
67. 相原由花，竹林直紀，中井吉英（2005）乳がんにおけるホリスティックアロマセラピーの役割．第8回日本アロマセラピー学会，大阪

68. 須田道雄，吉政孝明（2005）バセドウ病・甲状腺中毒症の骨密度．第48回日本甲状腺学会学術集会，品川
69. 相原由花，竹林直紀，四宮敏章，宮川眞一，中井吉英（2004）ホリスティックアロマセラピーの実践―3つの症例から学ぶもの―．第8回日本心療内科学会，大分
70. 相原由花，四宮敏章，竹林直紀，中井吉英（2004）末期がん患者におけるホリスティックアロマセラピーの役割．第37回日本心身医学会近畿地方会，彦根
71. 足立比呂美，黒丸尊治，中井吉英（2004）カラーセラピーにより心理状態に変化がもたらされた乳がん患者の一症例．第37回日本心身医学会近畿地方会，彦根
72. 相原由花，竹林直紀　中井吉英（2004）シンポジウム：心療内科におけるホリスティックアロマセラピーの実践．第17回神戸心身医学会，神戸
73. 垣内晶代，竹林直紀，水野泰行，石野振一郎，六浦裕美，小笹裕美子，中井吉英（2004）シンポジウム：難治性慢性疼痛患者に対する統合医療的アプローチ―「びわ温灸療法」併用の効果と意義―．第17回神戸心身医学会，神戸
74. 足立比呂美，竹林直紀，黒丸尊治，中井吉英（2004）シンポジウム：カラーセラピー．第17回神戸心身医学会，神戸
75. 相原由花，四宮敏章，竹林直紀，中井吉英（2004）末期がん患者におけるホリスティックアロマセラピーの役割．第17回日本サイコオンコロジー学会，福岡
76. 相原由花，黒丸尊治，柴田恵子，竹林直紀，中井吉英（2004）終末期におけるアロマセラピーの意義―人生最後のメッセージ―．日本アロマセラピー学会関西地方会，京都
77. 相原由花，竹林直紀，四宮敏章，中井吉英（2004）心身医学領域におけるホリスティックアロマセラピーの可能性と実践．第45回日本心身医学会総会，小倉
78. 垣内晶代，竹林直紀，水野泰行，石野振一郎，六浦裕美，小笹裕美子，中井吉英（2004）難治性慢性疼痛患者に対する統合医療的アプローチの続報―「びわ温灸療法」併用の効果と意義―．第45回日本心身医学会総会，小倉
79. 有城幸男，竹林直紀，中井吉英（2004）「簡易温度計」を使った「自律訓練法」指導の試み―指尖皮膚温フィードバックにより練習継続を促進する―．第27回日本自律訓練学会，徳島
80. 足立比呂美，中井吉英，黒丸尊治（2004）カラーセラピーにより心理状態に変化がもたらされた乳がん患者の一症例．第37回日本心身医学会近畿地方会，大津

著　書

1. 神原憲治，竹林直紀（2005）バイオフィードバック．統合医療　基礎と臨床（日本統合医療学会編）207–211頁，日本統合医療学会，東京
2. 中井吉英，竹林直紀（2005）心理療法（精神療法）．統合医療　基礎と臨床（渥美和彦編）199–202頁，日本統合医療学会，東京
3. 神原憲治，竹林直紀（2005）バイオフィードバック．統合医療　基礎と臨床（渥美和彦編）207–211頁，日本統合医療学会，東京
4. 中井吉英（2005）心身症とストレス．疾患とストレス　114–116頁
5. 中井吉英（2005）ストレス病・ストレス関連性疾患の診療．ストレスの事典（河野友信，石川俊男編）291–297頁，朝倉書店，東京
6. 中井吉英（2005）消化器疾患による胸痛の診断と病態．胸痛心療のコツと落とし穴（野々木宏編）158頁，中山書店，東京
7. 中井吉英（2005）心療内科における胸痛の診断法．胸痛心療のコツと落とし穴（野々木宏編）163頁，中山書店，東京
8. 相原由花，竹林直紀，中井吉英（2004）各論16．香りとストレス―Topics, B.「心療内科からのコメント」, C.「心療内科からの症例呈示」．皮膚心療内科（宮地良樹，久保千春編）259–264頁，診断と治療社，東京

神経内科学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Ito H, Ito H, Nagano M, Nakano S, Shigeyoshi Y and Kusaka H（2005）In situ identification of Hepatitis C Virus RNA in muscle. Neurology 64: 1073–1075
2. Wate R, Takahashi S, Ito H, Kusaka H, Kubota Y, Suetomi K, Sato H and Okayasu R（2005）Radiosensitivity of the cells from amyotrophic lateral sclerosis model mice transfected with human mutant SOD1. J Radiat Res 46: 67–73
3. Wate R, Ito H, Zhang JH, Ohnishi S, Nakano S and Kusaka H（2005）Expression of an endoplasmic reticulum-resident chaperone, glucose-regulated stress protein 78, in the spinal cord of a mouse model of amyotrophic lateral sclerosis. Acta Neuropathol 110: 557–562
4. Nakano S, Shinde A, Ito H, Ito H and Kusaka H（2005）Messenger RNA degradation may be inhibited in sporadic inclusion body myositis. Neurology 65: 420–425
5. Wate R, Ito H, Zhang JH, Ohnishi S, Nakano S and Kusaka H（2005）Calnexin and calreticulin immunoreactivity in ALS model mouse with human mutant SOD1. Neuropathology 25: A29
6. Zhang JH, Ito H, Nakano S, Wate R, Ohnishi S and Kusaka H（2005）The immunohistochemical investigation of substrates of nucleocytoplasmic transport in ALS model mice. Neuropathology 25: A29
7. Nakano S, Shinde A, Ito H, Ito H and Kusaka H（2005）Abnormal distribution of ribosomal RNA in neuromuscular diseases: Analysis in the in situ hybridization method. Neuropathology 25: A34
8. Minamino K, Adachi Y, Okigaki M, Ito H, Togawa Y, Fujita K, Tomita M, Suzuki Y, Zhang Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Matsubara H, Iwasaka T, Matsumura M and Ikehara S.（2005）Macrophage colony-stimulating factor（M-CSF）, as well as granulocyte colony-stimulating factor（G-CSF）, accelerates neovascularization. Stem Cells 23: 347–354
9. 伊藤　恒，守田純一，中野　智，伊東秀文，日下博文（2005）Parkinson病の首下がりに対するボツリヌス毒素治療．神経内科　62: 369–373
10. 藤田賢吾，中野　智，山本博之，伊藤　恒，伊東秀文，後藤葉一，日下博文（2005）心筋症を合併した先天性筋線維型不均等症の成人例．臨神経　45: 380–382
11. 伊藤　恒，守田純一，中野　智，伊東秀文，日下博文（2005）高用量のbotulinum toxin type Aを必要とした眼瞼攣縮の1例．神経治療　22: 655–657

総　説

1. 日下博文（2005）Kluver-Bucy症候群．Clin Neurosci 23: 69-71
2. 日下博文（2005）Parkinson病の臨床．日内会誌　94: 95–99
3. 伊東秀文，中野　智，日下博文（2005）臨床医のための神経病理　封入体筋炎．Clin Neurosci 23: 730–731
4. 伊東秀文（2005）パーキンソン病と睡眠障害．とれもろ　52: 11
5. 伊藤　恒，日下博文（2005）髄液検査．Clin Neurosci 23: 744–745

学会発表

1. 中野　智，新出明代，伊藤　恒，伊東秀文，日下博文（2005）神経・筋疾患の筋組織におけるribosomal RNA: in situ hybridizationによる検討．第46回日本神経病理学会総会学術研究会，宇都宮
2. 新出明代，中野　智，伊東秀文，日下博文，菅原正伯，豊島　至（2005）Desmin A337P変異例におけるunfolded protein responseとaggresome形成．第46回日本神経学会総会，鹿児島
3. 中野　智，新出明代，伊藤　恒，伊東秀文，日下博文（2005）筋炎におけるRNA結合蛋白HuRの異常発現．第46回日本神経学会総会，鹿児島
4. 伊藤　恒，伊東秀文，中野　智，日下博文（2005）パーキンソン病の運動障害に対するプ

ラミペキソールの効果の特徴．第46回日本神経学会総会，鹿児島

5. 伊藤　恒，守田純一，藤田賢吾，中野　智，伊東秀文，日下博文（2005）軸性ジストニア6例の治療経験．第23回日本神経治療学会総会，鳥羽
6. 中野　智，新出明代，菅原正伯，伊東秀文，豊島　至，日下博文（2005）Desmin myopathy骨格筋組織の免疫組織学的，超微形態学的観察．第37回日本臨床分子形態学会総会，大阪
7. 新出明代，中村聖香，和手麗香，大西静生，張　建華，中野　智，伊東秀文，日下博文（2005）硬膜移植後クロイツフェルト・ヤコブ病の一例．第33回臨床神経病理懇話会，金沢
8. 張　建華，伊東秀文，中野　智，和手麗香，大西静生，日下博文（2005）筋萎縮性側索硬化症（ALS）モデルマウスにおける核-細胞質間蛋白輸送基質の免疫組織化学的検討．第46回日本神経病理学会総会学術研究会，宇都宮
9. 和手麗香，伊東秀文，張　建華，大西静生，中野　智，日下博文（2005）変異SOD1トランスジェニックマウスの脊髄におけるcalnexin/calreticulinの免疫組織化学的検討．第46回日本神経病理学会総会学術研究会，宇都宮
10. 張　建華，伊東秀文，中野　智，和手麗香，大西静生，日下博文，松本禎之，平野朝雄（2005）筋萎縮性側索硬化症（ALS）におけるkaryopherin β familyの検討．第46回日本神経学会総会，鹿児島
11. 和手麗香，伊東秀文，張　建華，大西静生，新出明代，伊藤　恒，中野　智，日下博文（2005）筋萎縮性側索硬化症（ALS）モデルマウスにおけるedaravone投与効果の検討．第46回日本神経学会総会，鹿児島
12. 大西静生，伊東秀文，鈴木康弘，足立　靖，和手麗香，張　建華，中野　智，日下博文，池原　進（2005）萎縮性側索硬化症モデルマウスにおける骨髄内骨髄移植の試み．第23回日本神経治療学会総会，鳥羽
13. 木下芳美，新出明代，林　知子，三宅浩介，伊藤　恒，中野　智，伊東秀文，日下博文（2005）CBD様の臨床像を呈し，プリオン蛋白遺伝子232番コドンに点突然変異を認めた1例．日本神経学会第83回近畿地方会，大阪
14. 八木彩香，三宅浩介，國枝武伸，和手麗香，新出明代，伊藤　恒，中野　智，伊東秀文，日下博文（2005）脳・脊髄に非連続性病変を認めた特発性肥厚性硬膜炎の一例．第28回日本脳神経CI学会総会，高松
15. 井上肇一，新出明代，朝山真哉，國枝武伸，八木彩香，伊藤　恒，中野　智，伊東秀文，日下博文（2005）転移性脊髄髄内腫瘍で発見された肺癌の一例．第28回日本脳神経CI学会総会，高松
16. 三宅浩介，伊藤　恒，八木彩香，國枝武伸，新出明代，中野　智，伊東秀文，日下博文（2005）脳性麻痺に伴う頸部ジストニアに対するボツリヌス毒素治療の経験．第23回日本神経治療学会総会，鳥羽
17. 上嶋浩順，伊藤　恒，樋口麻衣子，武尾真宏，三宅浩介，守田純一，八木彩香，中野　智，伊東秀文，日下博文（2005）γグロブリン大量静注療法（IVIg）を反復した傍腫瘍性感覚性ニューロパシーの1例．第23回日本神経治療学会総会，鳥羽
18. 三宅浩介，新出明代，國枝武伸，朝山真哉，長島正人，八木彩香，伊藤　恒，中野　智，伊東秀文，日下博文，楠　　進（2005）急速に呼吸筋麻痺を来たし抗GD1a/GD1b抗体陽性を認めたGuillain-Barré症候群（GBS）の一例．日本神経学会第82回近畿地方会，大阪

著　書

1. 日下博文（2005）III．神経疾患各論　B．変性疾患　4．運動ニューロン疾患．神経内科学テキスト　改訂第2版（江藤文夫，飯島　節編）184–195頁，南江堂，東京
2. 日下博文（2005）III．神経疾患各論　H．脊髄疾患．神経内科学テキスト　改訂第2版（江藤文夫，飯島　節編）245–257頁，南江堂，東京

精神神経科学講座

〈研究業績〉

1. Lehmann D, Faber PL, Galderisi S, Herrmann WM, Kinoshita T, Koukkou M, Mucci A, Pascual-Marqui RD, Saito N, Wackermann J, Winterer G, Koenig T（2005）EEG microstate duration and syntax in acute medication-naïve, first-episode schizophrenia: a multi-center study. Psychiatry Research: Neuroimaging 138(2): 141–156
2. Okugawa G, Nobuhara K, Sugimoto T, Kinoshita T（2005）Diffusion tensor imaging study of the middle cerebellar peduncles in patients with schizophrenia. The Cerebellum 4(2): 123–127
3. Kato M, Ikenaga Y, Wakeno M, Okugawa G, Nobuhara K, Fukuda T, Fukuda K, Azuma J, Kinoshita T（2005）Controlled clinical comparison of paroxetine and fluvoxamine considering the serotonin transporter promoter polymorphism. International clinical psychopharmacology 20(3): 151–156
4. Okugawa G, Nobuhara K, Kitashiro M, Kinoshita T（2005）Perospirone for treatment of dissociative identity disorder. Psychiatry and clinical neurosciences. 59(5): 624
5. Tamagaki C, Sedvall GC, Jonsson EG, Okugawa G, Hall H, Pauli S, Agartz I（2005）Altered white matter/gray matter proportions in the striatum of patients with schizophrenia: a volumetric MRI study. The American journal of psychiatry 162(12): 2315-2321
6. 奥川　学，延原健二，南　智久，SedvallGC，木下利彦（2005）統合失調症の神経回路網異常に対する抗精神病薬の効果．精神薬療研究年報　37: 177–182
7. 北代麻美，吉野真紀，守田　稔，砂原千穂，有木永子，中平暁子，木下利彦（2005）被虐待経験のある思春期症例の精神療法過程．精神科　6(3): 280–284
8. 田近亜蘭，杉山祐夫，福島正人，村上貴栄，服部裕子，柿永佳良子，有木永子，砂原千穂，北代麻美，木下利彦，西山利正（2005）デイケア中断に関与する要因の検討．最新精神医学　10(4): 409–416
9. 吉村匡史，織田裕行，加藤正樹，吉田常孝，杉本達哉，松田郷美，守田　稔，今井亜紀子，入澤　聡，橋本孫一，磯谷俊明，木下利彦（2005）炭酸リチウム中毒による意識障害を来した一症例．臨床脳波　47(5): 335–339
10. 磯谷俊明，入澤　聡，吉村匡史，山田圭造，塚本紗千，西田圭一郎，斎藤朱実，木下利彦（2005）健常者における非定型抗精神病薬の空間的脳電位活動への影響．臨床脳波　47(9): 537–546
11. 嶽北佳輝，奥川　学，加藤正樹，越智友子，中村　康，西田圭一郎，北代麻美，織田裕行，延原健二，木下利彦（2005）Milnacipranが腰椎圧迫骨折治癒後疼痛に著効した1例．精神科治療学　20(5): 511–515
12. 有木永子，砂原千穂，中平暁子，吉野真紀，田近　文，木下利彦（2005）抑うつと強迫行為を呈し過量服薬に至ったアスペルガー障害の1症例．臨床精神医学　34(9): 1253–1260
13. 延原健二，奥川　学，南　智久，杉本達哉，木下利彦（2005）うつ病患者における電気けいれん療法による脳内変化とその臨床的意義―拡散テンソル画像研究．精神医学　47(11): 1219–1224
14. 砂原千穂，山本幸良，木下利彦（2005）単科精神科病院における高機能広汎性発達障害の診断と治療．日本精神科病院協会雑誌　24(11): 1153–1158
15. 吉村匡史，吉田常孝，木下利彦（2005）高齢者と運転　免許更新における問題―法的なことも含めて―．老年精神医学雑誌　16(7): 802–808
16. 谷万喜子，鈴木俊明，高田あや，柳生隆視，木下利彦（2005）統合失調症治療中に発症した重度の軸性ジストニアに対する鍼治療効果．精神神経学雑誌　107(8): 802–810
17. 分野正貴，奥川　学，加藤正樹，嶽北佳輝，延原健二，木下利彦（2005）抗うつ薬の選択と薬物療法の実際．老年医学　43(10): 1585–1588
18. 奥川　学，延原健二，高瀬勝教，斉藤幸子，木下利彦（2005）拡散テンソル画像．臨床精神

医学　34(10): 1468–1469
19. 織田裕行，北代麻美，山田圭造，守田　稔，吉野真紀，中平暁子，有木永子，木下利彦（2005）性同一性障害患者のWAIS-Rに対する検討．日本性科学会雑誌　23(1): 47–52
20. 織田裕行，木下利彦（2005）【男性更年期障害】精神医学（心身医学）からみた男性更年期障害．Pharma Medica 23(5): 37–39
21. 織田裕行，北代麻美，山田圭造，守田　稔，吉野真紀，中平暁子，有木永子，鈴木美佐，木下利彦（2005）性同一性障害の診かたと治療ジェンダークリニックの取り組みと実態　関西医科大学．Modern Physician 25(4): 409–413
22. 織田裕行，北代麻美，山田圭造，守田　稔，吉野真紀，中平暁子，有木永子，鈴木美佐，木下利彦（2005）性同一性障害の診かたと治療患者さんからよくある質問　ジェンダークリニック．Modern Physician 25(4): 453
23. 織田裕行，北代麻美，山田圭造，守田　稔，吉野真紀，中平暁子，有木永子，鈴木美佐，山田妃沙子，木下利彦（2005）脳と性　性同一性障害の臨床　精神科における対応．HORMONE FRONTIER IN GYNECOLOGY 12(3): 269–274
24. 織田裕行，中平暁子，木下利彦（2005）clozapineによりQOLが改善した統合失調症の1例．臨床精神薬理　8(12): 2032–2035
25. 吉野真紀，織田裕行，砂原千穂，有木永子，中平暁子，田近　文，木下利彦（2005）WAIS-Rにおいてディスクレパンシーを認めた強迫性障害の1症例．強迫性障害の研究　6: 85–90
26. 守田　稔，磯谷俊明，杉本達哉，松田郷美，織田裕行，加藤正樹，吉田常孝，吉村匡史，北代麻美，木下利彦（2005）「ぼかした告知」とパロキセチンの投与が有効であったパニック障害を有する終末期癌患者の1症例．Pharma Medica 23(4): 125–128

総　説
1. 木下利彦（2005）精神科クリニカル・パス．最新精神医学　10(6): 561–562
2. 齊藤幸子，延原健二，奥川　学，高　教，加藤正樹，木下利彦（2005）運転と薬．臨床精神医学　34（増刊）: 154–159

学会発表
1. Kato M，Okugawa G，Takekita Y，Nobuhara K，Wakeno M，Fukuda T，Yamashita M，Azuma J，Kinoshita T（2005）Possible Effects of the Serotonin Receptor 3A and 3B Gene Polymorphisms on Paroxetine and Fluvoxamine Efficacy in Major Depression. The European Biological Psychiatry Associations Joint Meeting, Marseille
2. Okugawa G, Nobuhara K, Takase K, Minami T, Kinoshita T（2005）Reliability of measurement for tissue class volume in the human brain. 8th World Congress of Biological Psychiatry, Wien
3. Kato M, Wakeno M, Fukuda K, Okugawa G, Fukuda T, Yamasita M, Takekita Y, Ikenaga Y, Nobuhara K, Azuma J, Kinosita T（2005）Effects of the serotonin receptor gene polymorphism on paroxetine and fluvoxamine efficacy and adverse events in major depression. 12th Annual Meeting of Pacific Rim Association for Clinical Pharmacogenetics, Kyoto
4. Kinoshita T, Okugawa G, Yoshimura M, Isotani T（2005）QEEG Changes of Atypical Antipsychotics. 8th World Congress of Biological Psychiatry, Wien
5. Yoshida T, Ssngkil Ha-Kawa, Yoshimura M, Nobuhara K, Minami T, Nishida K, Suzuki M, Sawada S and Kinoshita T（2005）BRAIN PERFUSIONAL SPECT IN MILD COGNITIVE IMPAIRMENT RELATED TO EFFICACY OF DONEPEZIL. 16th Meeting of the International Society for Brain Electromagnetic Topography, Bern
6. Wakeno M, Katou M, Okugawa G, Tkekita Y, Fukuda T, Fukuda K, Yamashita M, Azuma J and Kinoshita T（2005）A series of case reports on abnormal sensation on eye movement associatecl with paroxetumbe discontinuation. 12th Annual Meeting of Pacific Rim Association for Clinical Pharmacogenetics, Kyoto
7. Tsukamoto S, Isotani T, Irisawa S, Yamada K, Nishida K, Yoshimura M, Kikuchi M, Koening T, Kinoshita T（2005）EEG microstate changes after a single dose of atypical antipsychotics in healthy volunteers. 16th Meeting of the International

Society for Brain Electromagnetic Topography, Bern
8. Yoshino M, Nakadaira A, Oda H, Ariki N, Tajika A, Kinoshita T（2005）Psychological Characteristics of Gender Identity Disorder: Comparison with Japanese Norms using Rorschach Variables. XVIII International Congress of Rorschach and Projective Methods, Barcelona
9. Nakadaira A, Yoshino M, Tajika A, Ariki N, Oda H, Kinoshita T (2005) Conformity to Invert Gender Increases Psychological Stability in Gender Identity Disorder: Correlation between Rorschach Variables Multiphasic Personality Inventry. XVIII International Congress of Rorschach and Projective Methods, Barcelona
10. Yoshimura M, Koenig T, Kikuchi M, Isotani T, Irisawa S, Yamada K, Yoshida T, Nishida K, Tsukamoto S, Kinoshita T, Strik WK, Dierks T（2005）EEG frequency analysis and centroid location of antipsychotic drugs in healthy volunteers. 16th Meeting of the International Society for Brain Electromagnetic Topography, Bern
11. Katayama H, Isotani T, Gianotti LRR, Faber PL, Sasada K, Kinoshita T, Lehmann D（2005）EEG microstates during light and deep hypnosis viewed in the framework of altered states of consciousness. 16th Meeting of the International Society for Brain Electromagnetic Topography, Bern
12. Kikuchi M, Koenig T, Komuro R, Oka H, Kidani T, Hanaoka A, Strik WK, Yoshimura M, Koshino Y, Dierks T（2005）EEG microstate analysis in drug-naïve patients with panic disorder. 16th Meeting of the International Society for Brain Electromagnetic Topography, Bern
13. 織田裕行，北代麻美，吉野真紀，中平暁子，鈴木美佐，木下利彦（2005）関西医科大学附属病院における性同一性障害患者の動向．第101回日本精神神経学会，大宮
14. 奥川　学，延原健二，玉垣千春，高瀬勝教，木下利彦（2005）Olanzapine increased volumes of the caudate nucleus in patients with schizophrenia.第28回日本神経科学大会，横浜
15. 加藤正樹，分野正貴，奥川　学，延原健二，福田和大，山下恵実，福田剛史，東　純一，木下利彦（2005）Paroxetine，Fluvoxamine の臨床効果に及ぼすセロトニン受容体遺伝子多型に影響．第28回日本神経科学会，横浜
16. 織田裕行，山田圭造，北代麻美，守田　稔，吉野真紀，中平暁子，有木永子，木下利彦（2005）性同一性障害における MMPI とテストステロン値に関する検討．第 16 回日本性機能学会学術総会，東京
17. 織田裕行，山田圭造，守田　稔，北代麻美，吉野真紀，中平暁子，鈴木美佐，山田妃沙子，有木永子，木下利彦（2005）性同一性障害の初診患者に対する検討．第 25 回日本精神科診断学会，新潟
18. 加藤正樹，奥川　学，嶽北佳輝，延原健二，分野正貴，福田剛史，山下恵実，東　純一，木下利彦（2005）SSRIsの臨床効果に及ぼすセロトニン関連候補分子の遺伝子多型．第 15 回日本臨床精神神経薬理学会，東京
19. 織田裕行，山田圭造，守田　稔，北代麻美，吉野真紀，中平暁子，有木永子，木下利彦（2005）FTM における MMPI とテストステロン値に対する検討．第25回日本性科学会，東京
20. 織田裕行，山田圭造，守田　稔，北代麻美，吉野真紀，中平暁子，鈴木美佐，山田妃沙子，磯谷俊明，木下利彦（2005）性同一性障害患者の治療段階に対する検討．第 18 回日本総合病院精神医学会，松江
21. 南　智久，織田裕行，加藤正樹，吉田常孝，杉本達哉，分野正貴，嶽北佳輝，中谷壽男，木下利彦（2005）頭部外傷の急性期における通過症候群の経過．第 18 回日本総合病院精神医学会，松江
22. 杉本達哉，平川昭彦，村尾佳則，波柴尉充，梶本心太郎，岩瀬正顕，中谷壽男，吉田常孝，織田裕行，加藤正樹，木下利彦（2005）自殺企図例における救命救急センター常勤精神科医の役割．第27回日本中毒学会総会，川崎
23. 杉本達哉，平川昭彦，村尾佳則，波柴尉充，梶本心太郎，岩瀬正顕，中谷壽男，南　智久，吉田常孝，織田裕行，加藤正樹，木下利彦（2005）救命センターにおける常勤精神科医の役割．第33回日本救急医学会総会，大宮
24. 織田裕行，北代麻美，中平暁子，吉野真紀，有

木永子，鈴木美佐，木下利彦（2005）性同一性障害患者のWAIS-Rに対する検討．第24回日本性科学学会，東京
25. 織田裕行（2005）若年層の当事者が直面する諸問題と支援―関西の医療機関における若年層の当事者について―．第7回性同一性障害研究会，神戸
26. 有木永子，砂原千穂（2005）青年期アスペルガー障害のロールシャッハ事例―診断確定まで2度実施した結果から―．第9回日本ロールシャッハ学会，山形
27. 有木永子（2005）メールカウンセリングの効用と限界―臨床心理士の立場から―．第9回海外渡航者健康学会学術集会，大阪
28. 磯谷俊明，入澤　聡，吉村匡史，山田圭造，塚本紗千，西田圭一郎，木下利彦（2005）統合失調症とその治療薬の脳波変化―健常者における非定型抗精神病薬の空間的脳電位活動への影響―．第8回日本薬物脳波学会，横浜
29. 奥川　学，高瀬勝教，延原健二，玉垣千春，南　智久，木下利彦（2005）脳画像解析プログラムBRAINS2における脳体積測定の信頼性に関する検討．第27回日本生物学的精神医学会，大阪
30. 西田圭一郎，吉村匡史，吉田常孝，加藤正樹，入澤　聡，玉垣千春，延原健二，木下利彦（2005）「大うつ病性障害軽快後，FTD様症状が顕在化した一症例」．淀川精神神経学会，大阪
31. 西田圭一郎，笛木孝明，吉村匡史，吉田常孝，嶽北佳輝，織田裕行，加藤正樹，入澤　聡，高瀬勝教，玉垣千春，延原健二，木下利彦（2005）「大うつ病性障害の再燃と考えられたが，最終的にFTLDが疑われた二症例」．第20回日本老年精神医学会，東京
32. 西田圭一郎，吉村匡史，入澤　聡，山田桂造，塚本紗千，磯谷俊明，木下利彦（2005）「健常者における非定型抗精神病薬がMicrostateにおよぼす影響」．第8回日本薬物脳波，横浜
33. 分野正貴，加藤正樹，嶽北佳輝，奥川　学，福田剛史，山下恵実，細井夕香，東　純一，木下利彦（2005）Paroxetineの退薬症状として眼球運動時の知覚異常を認めた3症例の薬理遺伝学的検討．第15回日本臨床精神神経薬理学会，東京
34. 嶽北佳輝，分野正貴，加藤正樹，奥川　学，福田剛史，山下恵美，細井夕香，東　純一，木下利彦（2005）Paroxetine治療によりせん妄を呈した症例に対する薬理遺伝学的検討．第15回日本臨床精神神経薬理学会，東京
35. 嶽北佳輝，田近亜蘭，織田裕行，西田圭一郎，木下利彦（2005）短パルス矩形波を用いた修正型電気痙攣療法の痙攣時間に関与する要因についての検討．第18回　日本総合病院精神医学会，松江
36. 嶽北佳輝，吉田常孝，吉村匡史，加藤正樹，杉本達哉，塚本紗千，奥川　学，木下利彦（2005）123I-IMZ-SPECTを実施した複雑部分発作の1例．第1回日本てんかん学会近畿地方会（第2回近畿てんかん研究会），大阪
37. 高田あや，谷万喜子，井上博紀，赤川淳一，吉野真紀，鈴木俊明，若山育郎，吉田宗平，柳生隆視，木下利彦（2005）鍼治療が頸部ジストニア患者の心理的問題に与える影響．第54回　全日本鍼灸学会学術大会，福岡
38. 谷万喜子，高田あや，赤川淳一，鈴木俊明，玉垣千春，柳生隆視，木下利彦（2005）うつ病治療中に発症した下肢ジストニア患者に対する鍼治療効果．第54回　全日本鍼灸学会学術大会，福岡
39. 吉野真紀，砂原千穂，北代麻美，有木永子，中平暁子，田近　文，井上雅晴，木下利彦（2005）「場にそぐわないことを口走ってしまう」を主訴に受診した成人の一症例」～アセスメントをめぐって～．第33回近畿児童青年精神保健懇話会，大阪
40. 田近　文，中平暁子，吉野真紀，有木永子，織田裕行（2005）樹木画テストにおける性同一性障害の心理的特性．日本樹木画テスト・描画療法学会第15回大会，仙台
41. 山田妃沙子，鈴木美佐，織田裕行，山田圭造，守田　稔，北代麻美，吉野真紀，中平暁子，有木永子，木下利彦（2005）関西医科大学附属病院における性同一性障害治療費の患者負担と病院収益．第18回日本総合病院精神医学会，松江
42. 服部裕子，山根　寛，杉山祐夫，村上貴栄，有木永子，木下利彦（2005）言語的コミュニケー

ションの困難な症例への関わり―日記と活動を介して―. 第39回日本作業療法学会, つくば
43. 岡村宏美（2005）女性の自然観に関する心理学的研究―自然の中の大いなる存在との出会いを通して―. 日本心理学会第69回大会, 東京
44. 中平暁子, 吉野真紀（2005）性同一性障害患者の心理的特性～ WAIS-R, MMPI, ロールシャッハテストの結果から～. 日本心理臨床学会　第24回大会, 京都
45. 中平暁子, 岡村宏美, 奥居由香, 岩嵜恵子, 西村美登利, 福永千佳子, 澤谷佳美, 兵頭紀子, 阪口博保, 松岡悦子, 廣田育彦, 木下利彦（2005）精神科領域の治験への他職種CRCの関わり. 第26回　日本臨床薬理学会年会, 別府
46. 吉野真紀, 中平暁子, 織田裕行, 田近　文, 有木永子, 田近亜蘭, 木下利彦（2005）性同一性障害患者の心理的特性～ WAIS-R・MMPI・ロールシャッハテストから～. 第18回　日本総合病院精神医学会, 松江
47. 枷場美穂（2005）アイデンティティと地域性～熊本県球磨郡五木村頭地代替地の高齢者を対象とした調査報告～. 第24回日本心理臨床学会大会, 京都

小児科学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Kaneko K, Yamashiro Y, Yamataka A and Miyano T (2005) Nephrectomy for multicystic dysplastic kidneys: a new therapeutic option. Pediatr Nephrol 20: 690–691
2. Kaneko K, Someya T, Nishizaki N, Shimojima T, Ohtaki R and Kaneko K (2005) Simplified quantification of urinary protein excretion using a novel dipstick in children. Pediatr Nephrol 20: 834–836
3. Someya T, Kaneko K, Yamada T and Yamashiro Y (2005) Effect of a novel free radical scavenger, edaravone, on puromycin aminonucleoside induced nephrosis in rats. Pediatr Nephrol 20: 1430–1431
4. Ohtomo Y, Fujinaga S, Takada M, Murakami H, Akashi S, Shimizu T, Kaneko K and Yamashiro Y (2005) High-dose mizoribine therapy for childhood-onset frequently relapsing steroid-dependent nephrotic syndrome with cyclosporin nephrotoxicity. Pediatr Nephrol 20: 1744–1749
5. Fujinaga S, Kaneko K, Ohtomo Y, Takada M, Kobayashi K, Tada M and Yamashiro Y (2005) Acute renal failure due to obstructive uric acid stones associated with rotavirus gastroenteritis. Pediatr Nephrol 20: 239–240
6. Fujinaga S, Kaneko K, Ohtomo Y, Murakami H, Takada M, Akashi S, Hira M and Yamashiro Y (2005) Induction therapy with low-dose intravenous cyclophosphamide, oral mizoribine, and steroids for severe lupus nephritis in children. Pediatr Nephrol 20: 1500–1503
7. Fujinaga S, Kaneko K, Takada M, Ohtomo Y, Akashi S and Yamashiro Y (2005) Preprandial C2 monitoring of cyclosporine treatment in children with nephrotic syndrome. Pediatr Nephrol 20: 1359–1360
8. Fujinaga S, Kaneko K, Ohtomo Y, Murakami H, Takemoto M, Takada M, Shimizu T and Yamashiro Y (2005) Thin basement membrane nephropathy associated with minimal change disease in a 15-year-old boy. Pediatr Nephrol 20: Epub.
9. Yamataka A, Satake S, Kaneko K, Ohtomo Y, Okada Y, Lane GJ, Yamashiro Y and Miyano T (2005) Outcome and cost analysis of laparoscopic or open surgery versus conservative management for multicystic dysplastic kidney. J Laparoendosc Adv Surg Tech A 15: 190–193
10. Taniuchi S, Hattori K, Yamamoto A, Sasai M, Hatano Y, Kojima K, Kobayashi Y, Iwamoto H and Yaeshima T (2005) Administration of Bifidobacterium to Infants with Atopic Dermatitis: Changes in Fecal Microflora and Clinical Symptoms. J Appl Res 5: 387–396
11. Taniuchi S, Masuda M, Teraguchi M, Ikemoto Y,

Komiyama Y, Takahashi H, Kino M and Kobayashi Y (2005) Polymorphism of Fcgamma RIIa may affect the efficacy of gamma-globulin therapy in Kawasaki disease. J Clin Immunol 25(4): 309–313

12. Taniuchi S, Masuda M, Fujii Y, Izawa K, Kanegane H and Kobayashi Y (2005) Role of a mutation of the CXCR4 gene in twin sisters with WHIM syndrome. Haematologica 90: 1271–1272
13. Yasui K, Kobayashi N, Yamazaki T, Koike K, Fukushima K, Taniuchi S and Kobayashi Y (2005) Neutrophilic inflammation in childhood bronchial asthma. Thorax 60: 704–705
14. Ogino H, Tanaka S, Komura E, Kobayashi Y, Nakamura Y, Yashiro M and Yanagawa H (2005) A Study of Patients With Kawasaki Disease Who Required Additional Immunogloburin Therapy: Analysis Based on the 17th Nationwide Survey (2001–2002) in Japan. Abstracts of Eighth International Kawasaki Disease Symposium 119
15. Japanese circulation society joint research group (Harada K, Kato H, Akagi T, Karasawa K, Kitamura S, Saji T, Suzuki A, Baba K, Fujiwara H, Ayusawa M, Okada T, Ogawa S, Ogino H and Nishigaki K) (2005) Guidelines for diagnosis and management of cardiovascular sequelae in Kawasaki disease (Japan Today). Pediatr Int 47(6): 711–732
16. Takaya J, Isozaki Y, Hirose Y, Higashino H, Noda Y and Kobayashi Y (2005) Long-term follow-up of a girl with primary aldosteronism: effect of potassium supplement. Acta Paediatr 94(9): 1336–1338
17. Takaya J, Mine K, Hasui M, Ikemoto Y, Teraguchi M, Kobayashi Y and Kaneko K (2005) Reply to professor Shulman. Acta Paediatr 94(11): 1694
18. Takaya J, Kobayashi K, Ohashi A,Ushikai M, Tabata A, Fujimoto S, Yamato F, Saheki T and Kobayashi Y (2005) Variant clinical courses of 2 patients with neonatal intrahepatic cholestasis who have a novel mutation of SLC25A13. Metabolism 54(12): 1615–1619
19. Ikemoto Y, Ogino H, Teraguchi M and Kobayashi Y (2005) Evaluation of Preclinical Atherosclerosis by Flow-Mediated Dilatation of the Brachial Artery and Carotid Artery Analysis in Patients with a History of Kawasaki Disease. Pediatr Cardiol 26(6): 782–786
20. Ishizaki Y, Ishizaki T, Ozawa K, Fukai Y, Hattori Y, Taniuchi S and Kobayashi Y (2005) Psychosocial problems among siblings of children with disabilities in Japan: psychosocial association between mothers and siblings. J Dev Physical Disabil 17: 119–132
21. Ishizaki Y, Kobayashi Y, Yamagata Z, Eto T, Hoshika A, Kano Y, Koeda T, Miike T, Oki J, Tanaka H and Watanabe H (2005) Research on Promotion of Management of Children with Psychosomatic and Psychosocial Disorders in Japan. Pediatr Int 47: 352–237
22. Yamato F, Takaya J, Higashino H, Yamanouchi Y, Suehara H and Kobayashi Y (2005) Slipped capital femoral epiphysis during the treatment of precocious puberty with a gonadotropin-releasing hormone-agonist:aetiological considerations. Eur J Pediatr: 164(3): 173–174
23. Watanabe M, Kohdera U, Kino M, Haruta T, Nukuzuma S, Suga T, Akiyoshi K, Ito M, Suga S and Komada Y (2005) Detection of adenovirus DNA in clinical samples by SYBR Green real-time polymerase chain reaction assay. Pediatr Int 47: 286–291
24. Ohashi R, Takaya J, Tsuji S, Yamato F, Hasui M, Kinoshita Y and Kobayashi Y (2005) Prognostic usefulness of lymphocyte V beta receptor determination in toxic shock syndrome. Eur J Pediatr 164(11): 703–704
25. 高屋淳二，金子一成（2005）胎児とマグネシウム．Clincal Calciumu　15(11): 1867–1871
26. 藤永周一郎，金子一成，高田　大，大友義之，冠木智之，大石　勉，村上仁彦，平満也子，赤司俊二，山城雄一郎（2005）造影剤腎症を合併した若年性特発性関節炎（JIA）の 1 例．日小児腎誌　18: 15–20
27. 藤永周一郎，金子一成，高田　大，大友義之，村上仁彦，平満也子，赤司俊二，山城雄一郎（2005）アンギオテンシン変換酵素阻害薬およびアンギオテンシン受容体拮抗薬の併用療法

が有効と思われた特発性膜性腎症の1例．日小児腎誌　18: 9–13
28. 海野大輔，金子一成，田中聡子，大瀧理佐子，金子堅一郎（2005）トラニラストによるアレルギー性膀胱炎の1例：本邦小児のアレルギー性膀胱炎の臨床的検討．日小児腎誌　18: 123–126
29. 西崎直人，石川明道，金子一成，山城雄一郎（2005）乳児尿路感染症における髄液細胞数増多に関する検討．日児誌　109: 1252–1253
30. 藤永周一郎，大友義之，高田　大，竹本満也子，清水俊明，山城雄一郎，金子一成（2005）小児のステロイド依存性ネフローゼ症候群におけるミゾリビン大量療法．日小児腎誌　18: 97–100
31. 根岸佳慧，大野綾子，藤井志織，有井直人，金子一成，金子堅一郎（2005）中枢神経ループス類似の神経合併症で発症した混合性結合織病の1女児例．小児臨　58: 1553–1557
32. 木下　洋，八木理絵，高橋雅也（2005）先天性心疾患を合併したDown症候群児における血小板数の臨床的検討．周産期医　35(2): 287–289
33. 大橋　敦，木下　洋（2005）PIカテーテルを用いた輸血療法の安全性に関する基礎的検討．周産期医　35(10): 1419–1423
34. 大橋　敦，木下　洋（2005）性感染症（梅毒血清学的検査を含めて）．小児内科　37（増）: 532–535
35. 木本倫代，村尾浩平，山田麻起子，寺口正之，大橋　敦，竹安晶子，中尾慎一，新宮　興（2005）呼吸管理に難渋した18トリソミーを有する患者の臍帯ヘルニア根治術の麻酔経験．麻酔　54(3): 295–297
36. 清沢伸幸，近藤富雄，安田　正，衛藤義勝，大竹正俊，大林一彦，大山昇一，岡崎富男，奥村秀定，小田島安平，片桐真二，加藤達夫，木野　稔，高橋豊，富樫武弘，豊田　茂，福重淳一郎，松平隆光，中谷祐貴子（2005）平成16年度診療報酬改定における「特例小児科時間外加算」と「地域連携小児夜間・休日診療料」の影響．医事新報　4262: 53–58
37. 近藤富雄，清沢伸幸，安田正，衛藤義勝，大竹正俊，大林一彦，大山昇一，岡崎富男，奥村秀定，小田島安平，片桐真二，加藤達夫，木野　稔，高橋豊，富樫武弘，豊田　茂，福重淳一郎，松平隆光，中谷祐貴子（2005）平成16年度診療報酬改定における「小児入院管理料と新生児入院医療管理加算」の影響．医事新報　1254: 59–64
38. 田中智子，荻野廣太郎，岡本真道，河村栄美子，藤原　亨，鹿浦砂智子（2005）特発性縦隔気腫におけるHamman's signの成因について．日小児会誌　109(12): 1452–1456
39. 橋本裕一郎，吉田多恵子，古林万木夫，宮澤いずみ，高畑能久，田辺創一，谷内昇一郎（2005）醤油原料における小麦アレルゲンおよび大豆アレルゲンの分解・除去機構の解明．醤油の研究と技術　31(6): 347–351
40. 橋本裕一郎，古林万木夫，宮澤いずみ，高畑能久，田辺創一，谷内昇一郎（2005）特異抗体を用いた醤油原料（大豆，小麦）の分解機構の検討．醤油の研究と技術　31(4): 217–222
41. 藤井喜充（2005）小児腸重積の診断に想う．大阪救急　71: 42–43
42. 村上貴孝（2005）各種小児てんかんに対するClobazamの効果．大阪てんかん研会誌　16(1): 13–15
43. 村上貴孝，喜多俊二，居原田安奈，藤井喜充，奥田晃司，目黒敬章，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2005）二次救急施設におけるけいれんに対する初期治療の検討．日小児会誌　109(12): 1439–1443
44. 吉田多恵子，橋本裕一郎，古林万木夫，高畑能久，森松文毅，谷内昇一郎（2005）市販ELISAキットを用いた醤油中の小麦アレルゲンの定量．日本醤油研究所雑誌　30: 219–224

総　説

1. 金子一成（2005）【数値から見る小児の成長と発達】尿中カルシウム排泄量．小児科　別冊: 25–27
2. 金子一成（2005）Henoch-Schönlein紫斑病．日臨　63 Suppl 5: 346–351
3. 金子一成（2005）医局紹介（関西医科大学小児科学講座）．DOCTOR'S MAGAZINE　11月: 43
4. 金子一成（2005）教授就任にあたって．茶崖順天堂大学医学部同窓会誌　第119号：7–8

5. 金子一成（2005）教授就任にあたってのご挨拶．地域医療連携室ニュース　NO.03: 6
6. 金子一成（2005）教授就任のご挨拶．学士会会報　新潟大学医学部学士会　第84号：5
7. 金子一成（2005）就任挨拶　同窓会のみなさまへ．おとづれ　関西医科大学同窓会　第123号：26–27
8. 金子一成（2005）小児高血圧への対応を考える．Medical Tribune　10月27日：70
9. 金子一成，林　崇（2005）そこが知りたい小児臨床検査のポイント：ナトリウム，カリウム，クロール，カルシウム，リン，マグネシウム．小児内科　37（増刊）: 241–247
10. 金子一成（2005）病型に応じたきめ細かい治療を．産経新聞　病気に克つ小児編　11月21日
11. 金子一成（2005）ヘノッホ・シェーンライン紫斑病．リウマチ科　34: 74–79
12. 金子一成（2005）学校検尿の目的とその実態．香川小児会誌　26: 22–27
13. 金子一成（2005）学校検尿は本当に必要!? 小児臨　58: 2322–2324
14. 金子一成（2005）学校検尿制度による小児腎疾患の診断と治療．Sysmex Journal Web　6: 1–11
15. 金子一成（2005）教授の旬・日記．小児臨 58: 2114–2117
16. 金子一成（2005）小児健性特定疾患治療研究事業の制度改定について/医師からみた改正点の問題と期待．育療　33: 22–25
17. 金子一成（2005）小児腎臓病における尿試験紙による微量アルブミン測定の有用性．AUT10N TOMORROW　2005版：6–11
18. 金子一成（2005）小児腎泌尿器疾患における画像診断のトピックス/(1) 膀胱尿管逆流現象の超音波診断．小児科　46: 133–141
19. 金子一成（2005）小児腎泌尿器疾患における画像診断のトピックス/(2) 先天性腎尿路奇形の診断におけるMR尿路造影．小児科　46: 268–274
20. 金子一成（2005）小児腎泌尿器疾患における画像診断のトピックス/(3) 小児腎泌尿器疾患における腎核医学検査の実際．小児科　46: 419–428
21. 金子一成（2005）代替医療は21世紀の医療になりうるか？　腎と透析　58: 813–814
22. 金子一成（2005）米国小児医学教育の現状．日児誌　109: 1524–1532
23. 金子一成，亀井宏一，関根孝司，帆足英一，久野正貴，服部元史（2005）保育保健の基礎知識/腎臓．保育と保健　11: 59–63
24. 木下　洋（2005年）小さな命救う“最後のうけざら”．産経新聞　病気に克つ小児編　5月9日
25. 谷内昇一郎，小林陽之助（2005）抗好中球抗体．日臨　63: 611–614
26. 谷内昇一郎（2005）自己免疫性好中球減少症．日本臨床　63: 466–470
27. 谷内昇一郎（2005）自己免疫性好中球減少症．小児内科　36(10): 1625–1629
28. 寺口正之（2005）先天性心疾患のカテーテル治療―トロント小児病院での経験―．大阪小児科医会会報　133: 7–8
29. 石崎優子（2005）Myオピニオン．ストレスとトラウマと…？　チャイルドヘルス　9: 2
30. 石崎優子（2005）思春期を迎える慢性疾患児の心理的問題．小児看護　28: 190–193
31. 石崎優子（2005）思春期以降の子どもへのインフォームド・コンセントは家族と子どもの両方が基本．治療　87: 784–785
32. 大橋　敦，金子一成（2005）パリビズマブ（シナジスTM）適応拡大に向けての投与法に関する実践的工夫　―当科における3年間の経験と投与方法の現状―．小児内科　58(11): 2159–2164
33. 大橋　敦，金子一成（2005）パリビズマブ（シナジスTM）適応拡大に向けての投与法に関する実践的工夫　―当科における3年間の経験と投与方法の現状―．小児臨　58(11): 2159–2164
34. 木野　稔（2005）臨床内科医にとっての小児救急とは．大阪府内科医会会誌　14: 125–132
35. 藤井喜充（2005）親子の健康教室「子どもの便秘の種類」．灯台　540: 94–95
36. 伊藤太一，木下　洋（2005）低出生体重児，新生児の血糖弄機構，低血糖の病態，原因．小児診療　68(10): 1813–1817
37. 田中聡子，金子一成（2005）【育児における水

分補給】水分補給Q&A．チャイルドヘルス 8: 512
38. 海野大輔，金子一成（2005）小児に与える飲料は何が適当か？　小児内科　37: 580–582

学会発表

1. Taniuchi S, Masuda M, Teraguchi M, Hatano Y, Kobayashi Y and Kaneko K（2005）Polymorphism of Fcgamma RIIa may affect the efficacy of gamma-globulin therapy in Kawasaki disease. 14th World Allergy Organization Congress, Munich
2. Ogino H, Tanaka S, Komura E, Kobayashi Y, Nakamura Y, Yashiro M and Yanagawa H（2005）A Study of Patients With Kawasaki Disease Who Required An Additional Immunoglobulin Therapy: An Analysis Based on the 17th Nationwide Survey（2001–2002）in Japan. 8th International Kawasaki Disease Symposium, San Diego
3. Takaya J, Yamato F, Higashino H and Kobayashi Y（2005）The relation of birth weight to intracellular magnesium of cord-blood platelets. Gordon Research Conference, Ventura
4. Takaya J, Yamato F, Higashino H and Kaneko K（2005）Impact of Intracellular Magnesium on Insulin Resistance in Neonates. 1st Congress of Asian Society for pediatric Research, Tokyo
5. Teraguchi M, Ikemoto Y, Yoshimura K and Kaneko K（2005）Prevalence of CD36 deficiency in various cardiac diseases in Japanese children. 1st Congress of Asian Society for Pediatric Research, Tokyo
6. Ishizaki Y, Wakamiya E, Kino M, Oguni T, Obayashi K, Kobayashi Y, Taniuchi S and Kaneko K（2005）Pediatrician's Perspectives for the Common Psychosocial Problems of Children in Japan. The 1st Congress of Asian Society for Pediatric Research, Tokyo
7. Tatsumi K, Otani H, Enoki C, Adachi Y, Taniuchi S, Kaneko K, Ikehara S and Imamura H（2005）Granulocyte-Colony Stimulating Factor Increases Donor Mesenchymal Stem Cells in Bone Marrow and Their Mobilization into Peripheral Circulation but Does Not Repair Dystrophic Heart after Bone Marrow Transplantation. American Heart Association Scientific Sessions 2005, Dallas
8. Uchiyama T, Kohdera U, Kino M, Teraguchi M and Kaneko K（2005）The incidence of coronary artery abnormality and intravenous immuneglobulin therapy in patient with atypical Kawasaki disease. 1st Congress of Asian Society for Pediatric Research, Tokyo
9. Yamato F, Takaya J and Kaneko K（2005）Slipped capital femoral epiphysis during the treatment of precocious puberty with a gonadotropin-releasing hormone-agonist:aetiological considerations. ESPE/LWPES 7th Joint Meeting Paediatric Endocrinology, Lyon
10. Yamato F, Takaya J, Yasuhara A, Teraguchi M and Kaneko K（2005）Increased intracellular calcium of neutrophils in patients with Down syndrome. 1st Congress of Asian Society for pediatric Research, Tokyo
11. Hatano Y, Taniuchi S,Kobayashi Y, Masuda M and Kaneko K（2005）Phagocytosis of heat-killed staphylococcus aureus in eosinophils: comparison with neutrophils. 14th World Allergy Organization Congress, Munich
12. Nagahama T, Matsushima K, Ishizaki Y, Kitamura N, Kobayashi Y and Kaneko K（2005）Prevalence of maternal depression among mothers of infants treated in a neonatal intensive care unit. The 1st Congress of Asian Society for Pediatric Research, Tokyo
13. 金子一成（2005）小児の腎疾患管理システム．第73回予防医学協会技術研修会，東京
14. 金子一成（2005）総合臨床研修医の小児科での教育はどうあるべきか　米国における初期研修プログラムと小児科研修．第108回日本小児科学会，東京
15. 金子一成（2005）学校検尿の意義―こどもの腎炎とは？―．大阪府済生会野江病院，大阪
16. 金子一成（2005）小児の夜尿症の病態と治療．第4回小児腎疾患カンファレンス，大阪
17. 金子一成（2005）米国における初期研修プログラムと小児科研修．日本外来小児科学教育検討会，兵庫

18. 金子一成（2005）小児期に見られる血管炎：川崎病を中心に．徳島小児腎膠原病研究会，徳島
19. 金子一成（2005）小児の腎泌尿器疾患における画像検査法の進歩．守口・門真外来小児科勉強会，大阪
20. 金子一成（2005）小児期に見られる血管炎：その診断と治療．寝屋川小児科懇話会，大阪
21. 金子一成（2005）学校検尿陽性児童の取り扱いについて―小児腎臓病専門医の立場から―．ユリナリシスセミナー，大阪
22. 金子一成（2005）慢性腎疾患のこどもの学校での対応．養護教諭研究フォーラム研究会，大阪
23. 金子一成（2005）小児科学の未来．関西医科大学高校生公開講座，大阪
24. 金子一成（2005）小児の腎泌尿器疾患における画像検査法の進歩．第10回広島小児腎疾患カンファレンス，広島
25. 金子一成（2005）小児の血管炎の診断と治療．第44回小児科懇話会，大阪
26. 金子一成（2005）腎疾患の医療と学校保健．平成17年度国立特殊教育総合研究所第二期短期研修，神奈川
27. 金子一成（2005）学校検尿の意義―こどもの腎炎とは？―．枚方市医師会，大阪
28. 金子一成（2005）小児の夜尿症の対処法．門真医師会・関西医大医師会，大阪
29. 金子一成（2005）学校検尿の意義～こどもの腎炎とは～．第1回北・中河内腎高血圧プライマリーケアセミナー，大阪
30. 金子一成（2005）川崎病に対する新しい療法．平成17年度日本医師会生涯教育講座（小児科），守口
31. 金子一成（2005）学校検尿：事後処理と問題点．第35回日本腎臓学会東部学術大会，新潟
32. 金子一成（2005）学校検尿の目的と意義：腎臓病のこども管理．枚方市医師会，大阪
33. 金子一成（2005）子供の夜尿症へのアプローチ．第37回守口・門真外来小児科勉強会，大阪
34. 金子一成（2005）小児科診療におけるアメニティーの考え方．枚方市医師会と関西医科大学との懇親会，大阪
35. 金子一成（2005）経口補水療法の実際．山梨県小児科医会学術講演会，山梨
36. 金子一成（2005）小児喘息におけるマクロライド系抗生剤の役割．北河内小児科勉強会，大阪
37. 金子一成（2005）小児の腎泌尿器疾患における画像検査法の進歩．日本小児科学会大阪地方会　教育講演，大阪
38. 木下　洋（2005）新生児脳障害に対する低体温療法．平成17年度日本医師会生涯教育講座（小児科），守口
39. 木下　洋（2005）新生児蘇生法の研修プログラムの作成と研修システムの構築とその効果に関する研究．平成16年度厚生労働省班研究会議，白馬
40. 木下　洋（2005）新生児の蘇生アルゴリズム．大阪府医師会平成17年度第1回新生児の蘇生講習会，大阪
41. 木下　洋（2005）新生児の蘇生アルゴリズム．大阪府医師会平成17年度第2回新生児の蘇生講習会，大阪
42. 木下　洋（2005）新生児の蘇生アルゴリズム．大阪府医師会平成17年度第3回新生児の蘇生講習会，大阪
43. 木下　洋（2005）新生児蘇生法の研修プログラムの作成と研修システムの構築とその効果に関する研究．平成17年度厚生労働省班研究会議，東京
44. 谷内昇一郎（2005）小児気管支喘息QOL調査．平成16年温仁会総会，守口
45. 谷内昇一郎（2005）小児気管支喘息に最近の話題．加多乃会勉強会，守口
46. 谷内昇一郎（2005）小児気管支喘息におけるテオフィリンの功罪．平成17年度日本医師会生涯教育講座（小児科），守口
47. 谷内昇一郎（2005）食物アレルギーとその対応．寝屋川保健所保護者勉強会，寝屋川
48. 谷内昇一郎，寺口正之，池本裕実子，木野稔，小林陽之助（2005）川崎病における大量γ-グロブリン療法とFcγ受容体の遺伝子多型との関連．第108回日本小児科学会，東京
49. 谷内昇一郎，畑野泰子，岡崎仁志，小野　厚，卯西　元，辻美代子，山本明美，原田佳明（2005）小児喘息患者の実態―関西医科大学関連施設における検討．第17回日本アレルギー学会春期臨床大会，岡山

50. 谷内昇一郎，辻　章志，蓮井正史，伊藤太一，小林陽之助，金子一成（2005）慢性肉芽腫症患児におけるブドウ球菌貪食刺激下の好中球一酸化窒素産生量に関する検討．第13回食細胞機能異常症研究会，東京
51. 荻野廣太郎（2005）我が国における川崎病免疫グロブリン療法の実際と追加投与を要した症例の背景について―第 15 ～ 17 回（1997 ～ 2002年）全国調査資料から―．第7回西京・乙訓小児疾患懇話会，京都
52. 荻野廣太郎（2005）今原点に還って川崎病を考える―最新の治療ガイドラインと管理基準を含めて―．第 1 回「川崎病治療を考える」，京都
53. 荻野廣太郎（2005）川崎病急性期の治療最前線　ES1-5：免疫グロブリンの至適投与病日はあるのか？「病日選択の必要性」，―第15～17回（1997～2002年）全国調査資料から―．第108回日本小児科学会，東京
54. 荻野廣太郎，田中智子（2005）川崎病に対する免疫グロブリン療法の治療成績について―第15～17回川崎病全国調査資料から―．平成17年度西京医師会症例報告会，京都
55. 荻野廣太郎（2005）第 18 回川崎病全国調査成績の概要．第 8 回西京・乙訓小児疾患懇話会，京都
56. 荻野廣太郎（2005）免疫グロブリン製剤を投与するに当たって―上手なインフォームドコンセント―　4.　免疫グロブリン療法を行うにあたってのインフォームドコンセント．第25回日本川崎病研究会，東京
57. 寺口正之（2005）小児におけるCD36欠損症と心筋疾患．第121回関西医科大学学内学術集談会，守口
58. 寺口正之，吉村　健，池本裕実子，今村洋二（2005）One and one half ventricular repairを行った肺動脈閉鎖の 11 歳男児例―自律神経機能解析を含めた術後の評価―．第 14 回日本小児循環器学会，東京
59. 寺口正之（2005）心疾患と運動をめぐる問題―突然死を含めて―「川崎病と運動をめぐる問題」．平成17年度　学校保健・循環器講習会講演，大阪
60. 寺口正之（2005）先天性心疾患に対する非手術治療．平成 17 年度日本医師会生涯教育講座（小児科），守口
61. 荒木　敦（2005）ジクロル酢酸ナトリウム投与により臨床症状が改善したLeigh脳症の1症例．第47回日本小児神経学会，熊本
62. 荒木　敦（2005）医療的ケアを必要とするこどもの基礎講座．2005 年度大阪養護教育と医療研究会，守口
63. 荒木　敦（2005）重度重複障害児の理解と指導．大阪府教育センター肢体不自由教育研修，大阪
64. 安原昭博，堀あいこ，荒木　敦，畑中武志，北村直行（2005）新生児期における ABR, VEP, SSEP, Blink Reflex の発達による変化．第35回日本臨床神経生理学会，福岡
65. 石崎優子（2005）小児科心身症外来でみる母子の心身医学的問題―母子密着にいかに対応するか―．第二回子どものメンタルヘルス関連合同医学会シンポジウム，東京
66. 石崎優子（2005）向精神薬の特徴と使用上の留意点．第32回日本小児臨床薬理学会，東京
67. 石崎優子，小林陽之助，長濱輝代，松島恭子（2005）超未熟児への早期のホールディングが母親の心理面に与える効果．第 52 回日本小児保健学会，山口
68. 石崎優子，宮島　祐，大澤真木子，林　北見，深井善光，宮地泰士，田中英高（2005）小児神経，小児心身および小児精神神経学会会員の向精神薬の適性使用に関する意識調査．第32回日本小児臨床薬理学会，東京
69. 石崎優子（2005）外来診療における小児心身症患者への対応．第15回日本外来小児科学会，大阪
70. 池本裕実子（2005）DIC をきたした新生児メレナの1例．第58回河北地区周産期研究会，守口
71. 池本裕実子（2005）胎児不整脈の1例．第60回河北地区周産期研究会，守口
72. 池本裕実子（2005）血性羊水吸引後PPHNをきたした1例．第61回河北地区周産期研究会，守口
73. 池本裕実子，藤井喜充，吉村　健，荻野廣太郎（2005）単心室に対するFontan術14年後に合併した肝線維症の1例．第41回日本小児循環器学会，東京

74. 池本裕実子（2005）羊水過多を呈した臍帯内ヘルニア・大動脈弓離断・VSDの1例．第62回河北地区周産期研究会，守口
75. 池本裕実子，大橋　敦，北村直行，辻　章志，黒柳裕一，寺西顕司，木下　洋，金子一成（2005）大量羊水吸引症候群に合併した新生児遷延性肺高血圧症に対するフローランの使用経験．第4回フローラン治療研究会，東京
76. 池本裕実子（2005）出血性ショック・DICをきたした帽状腱膜下血腫の1例．第55回河北地区周産期研究会，守口
77. 中村彰利，崔　信明，端　里香，荻野廣太郎（2005）発熱を認めず，冠動脈瘤を形成した主要症状3/6の川崎病不全型の1例．第25回日本川崎病研究会，東京
78. 吉村　健，寺口正之，池本裕実子，野木俊二，松村正彦（2005）ステロイド療法が有効であったGlenn術後の蛋白漏出性胃腸症の1例．第41回日本小児循環器学会，東京
79. 大橋　敦，木下　洋，北村直行，辻　章志，伊藤太一，金子一成（2005）インターネットに依る情報交換が診断に有用であったRestrictive Dermopathyの1例．第50回日本未熟児新生児学会，名古屋
80. 大橋　敦，木下　洋，北村直行，池本裕実子，辻　章志，伊藤太一，畑埜泰子，金子一成（2005）インターネットによる情報交換が診断に有用であったRestrictive Dermopathyの1例．第50回日本未熟児新生児学会，名古屋
81. 大橋　敦，辻　章志，木下　洋，金子一成（2005）当院に置けるパリビズマブ投与の現状と効率的対応に関する検討．第50回日本未熟児新生児学会，名古屋
82. 大橋　敦，辻　章志，木下　洋，金子一成（2005）当院におけるパリビズマブ接種の現状と効率的対応に関する検討．第50回未熟児新生児学会，名古屋
83. 辻　章志，木下　洋，池本裕実子，北村直行，辰巳貴美子，大橋　敦，伊藤太一，竹安晶子，畑埜泰子，金子一成（2005）好中球エラスターゼ阻害剤：シベルスタットが有効であった胎便吸引症候群の3例．第41回日本周産期・新生児医学会，福岡
84. 辻　章志，木下　洋，池本裕実子，北村直行，辰己貴美子，大橋　敦，伊藤太一，竹安晶子，畑野泰子，金子一成（2005）好中球エラスターゼ阻害剤：シベルスタットが有効であった急性肺障害の3新生児例．第19回大阪サーファクタント研究会，大阪
85. 辻　章志，木下　洋，池本裕実子，北村直行，辰巳貴美子，大橋　敦，伊藤太一，竹安晶子，畑埜泰子，金子一成（2005）好中球エラスターゼ阻害剤：シベレスタットが有効であった胎便吸引症候群の3例．第19回大阪サーファクタント研究会，大阪
86. 畑埜泰子，谷内昇一郎（2005）好酸球の細菌貪食能―好中球との比較―．第17回日本アレルギー学会春期臨床大会，岡山
87. Nakano K, Adachi Y, Minamino K, Iwasaki M, Shigematsu A, Kiriyama N, Suzuki Y, Koike Y, Mukaide H, Kazunari K and Ikehara S（2005）Mechanisms Underlying Acceleration of Blood Flow Recovery in Ischemic Limbs by Macrophage Colony-Stimulating Factor（M-CSF）. 第35回日本免疫学会，横浜
88. 中野景司，足立　靖，南野桂三，鈴木康弘，岩崎真佳，小池保志，王　剣峰，向出裕美，小林陽之助，池原　進（2005）M-CSFによるendothelial progenitor cell（EPC）mobilization のメカニズム．第4回再生医療学会，大阪
89. 山戸史子，高屋淳二，東野博彦，金子一成（2005）ステロイド性低身長をきたしたSLE男児における成長ホルモンの治療効果．第37回発育異常研究会，大阪
90. 木野　稔（2005）臨床内科医にとっての小児救急医療とは．大阪内科医会学術講演会，大阪
91. 木野　稔，圀府寺美，村上貴孝，藤田安奈，奥田晃司，藤井喜充，目黒敬章，中野博光（2005）小児救急病院の受診実態から1次と2次を分離する救急医療体制を検証する．第108回日本小児科学会，東京
92. 木野　稔，圀府寺美，村上貴孝，中野博光（2005）小児専門開放型病院における病診連携の実態と意義．第16回日本小児科医会セミナー，札幌
93. 木野　稔，圀府寺美，村上貴孝，目黒敬章，藤井喜充，奥田晃司，喜多俊二，大橋鈴子，中野博光（2005）小児救急告示（2次救急）病院

における1次救急診療の実態と問題点. 第19回日本小児救急医学会，仙台
94. 木野　稔（2005）コメディカルのためのリサーチ入門講座　―何でも調べてみよう―．第15回日本外来小児科学会，大阪
95. 木野　稔，佐賀麻衣子（2005）養育力の不足した家庭に対する急性期医療保育の意義．第9回日本医療保育学会，広島
96. 圀府寺美（2005）インフルエンザの話題．守口門真外来小児科勉強会，守口
97. 圀府寺美（2005）細菌性髄膜炎の臨床的検討―初期病像を中心に．第4回北河内感染症研究会，大阪
98. 圀府寺美（2005）QOLアンケート調査のまとめ―非ホジキンリンパ腫．日本小児白血病研究会（JACLS）白血病セミナー，大分
99. 村上貴孝，大橋鈴子，喜多俊二，藤井喜充，奥田晃司，目黒敬章，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2005）夜驚様症状に対しClobazamが有効であった特発性部分てんかんの1例. 第18回近畿小児科学会，京都
100. 村上貴孝（2005）三次救急施設への転送を要したけいれん重積例の検討．第39回日本てんかん学会，旭川
101. 村上貴孝（2005）小児てんかんに対するclobazam単剤投与の効果．第47回日本小児神経学会，熊本
102. 藤井喜充（2005）川崎病の肝病変，右腎静脈走行異常を合併した一例．第31回大阪市東部小児談話会，大阪
103. 藤井喜充（2005）慢性便秘における腹部超音波検査の有用性．第15回大阪小児栄養消化器病懇話会，大阪
104. 藤井喜充，木野　稔，中野博光（2005）宿便性イレウスにおける腹部超音波検査の有用性．第19回日本小児救急医学会，仙台
105. 内山敬達，大橋鈴子，奥田晃司，目黒敬章，藤井喜充，村上貴孝，圀府寺美，木野　稔，中野博光，棚野晃秀，徳原克治，高田晃平，浜田吉則，今中康文（2005）横隔膜ヘルニア；日常診療での遭遇．第166回大阪小児科学会，大阪
106. 内山敬達，圀府寺美，木野　稔，寺口正之，金子一成（2005）川崎病非典型例に対するガンマグロブリン大量療法（IVGG）の意義に関する検討：冠動脈異常の発生予防効果について．第25回日本川崎病研究会，東京
107. 内山敬達，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2005）RSウイルスのよる乳幼児下気道感染症入院例の後方視的検討（04/05シーズン）：臨床症状を中心に．第37回日本小児感染症学会，津
108. 奥田晃司，内山敬達，寺口正之，村上貴孝，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2005）2度のγグロブリン投与後に関節炎をきたした川崎病例．第167回大阪小児科学会，大阪
109. 原田佳明（2005）検尿で見つかったデント病の3歳男児の1例. 第14回寝屋川小児科懇話会，寝屋川
110. 原田佳明，卯西　元，小野　厚，木野　稔，薗田典明，辻　美代子，原　統子，松井哲雄（2005）抗菌剤使用に対する小児科患者保護者への意識調査．第15回外来小児科学会，大阪
111. 原田佳明（2005）脳浮腫を伴う意識障害で発症した糖尿病ケトアシドーシスの1歳男児例．第13回寝屋川小児科懇話会，寝屋川
112. 小島崇嗣，小島俊巳，谷内昇一郎，金子一成（2005）上顎洞エコー検査法を用いた副鼻腔炎診断の有用性―副鼻腔レントゲン像との比較．第42回日本小児アレルギー学会，福井
113. 森　喜造，木下　洋，大橋　敦，北村直行，中野崇秀，辻　章志，竹安晶子，小林陽之助（2005）抗HLA抗体に依る新生児血小板減少症の1例．第18回近畿小児科学会，京都
114. 森　喜造，池本裕実子，北村直行，小林陽之助（2005）胸腹水の多量貯留がみられた先天性リンパ管異形成―オクトレオチドの有効性について―．第108回日本小児科学会学術集会，東京
115. 森　喜造（2005）EBウイルスが原因と考えられた血球貪食症候群の一例．第32回大阪市東部小児談話会，大阪
116. 森　喜造，荒木　敦，高屋淳二，鈴木健介，金子一成，緒方　肇（2005）MRI拡散強調画像で後頭部に病変を認めたHHV6脳症の2症例．第38回日本小児神経学会近畿地方会，大阪
117. 森　喜造，高屋淳二，荒木　敦，金子一成（2005）MRI拡散強調画像で後頭部に病変を認めたHHV6脳症の1例．第168回大阪小児科学

会，大阪

118. 喜多俊二，舟木克枝，岡崎仁志，荒木　敦（2005）インフルエンザ脳症による片側半球性浮腫をきたした脳梁欠損症の1例. 第37回日本小児神経学会近畿地方会，神戸

119. 田中幸代，辻美代子，藤原　亨（2005）ESWTを施行した小児腎結石の1例. 第31回大阪市東部小児談話会，大阪

120. 崔　信明，端　里香，中村彰利，佐藤正人，小松優治，二階堂任，畑埜武彦（男山外科）（2005）Congenital hemangiopericytomaの1例. 第399回小児科学会京都地方会，京都

121. 今井雄一郎，高屋淳二，金子一成（2005）経口補水療法の奏功した偽性低アルドステロン症I型の乳児例. 第27回小児体液研究会，東京

122. 今井雄一郎，高屋淳二，金子一成（2005）経口補水療法の奏功した偽性低アルドステロン症I型の乳児例. 第32回近畿小児科腎臓病研究会，大阪

123. 藤本幸子，今井雄一郎，寺口正之，蓮井正史，金子一成（2005）不適切な指導で重症脱水をきたしたロタウイルス胃腸炎の1例：経口補液の重要性. 第27回日本小児体液研究会，東京

124. 寺西顕司，大橋　敦，辻　章志，池本裕実子，北村直行，中野崇秀，木下　洋，金子一成（2005）一過性骨髄増殖症の1例. 第247回NMCS例会，大阪

125. 大橋鈴子，辻　章志，池本裕実子，北村直行，大橋　敦，黒柳裕一，寺西顕司，木下　洋，金子一成（2005）Apert症候群の1例. 第248回NMCS例会，大阪

126. 高田晃平，辰己喜美子，渡辺健太郎，徳原克治，棚野晃秀，北村直行，木下　洋，濱田吉則（2005）抜管に難渋している巨大臍帯ヘルニアの1例―第2報―. 第53回小児外科わからん会，大阪

127. 藤田　位，日野利治，木下　洋（2005）ワークショップ「診断技法を学び直そう」. 第15回日本外来小児科学会，大阪

128. 濱田梨恵，豆板律子，長濱輝代，杉村省吾，石崎優子，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2005）心因性発熱の3例. 第2回日本心身医学会関西地方会，大阪

129. 乾　一郎，木野　稔，圀府寺美（2005）民間小児病院における地域連携診療と新しい試みについて. 第13回大阪小児科医会病診連携懇談会，大阪

130. 佐賀麻衣子，藤井千絵，木野　稔（2005）急性期病院における遊びの支援のあり方について. 第9回日本医療保育学会，広島

131. 濱田梨恵，藤井宏弥，杉村省吾，石崎優子，木野　稔，中野博光（2005）開放型病院において心理的援助の地域連携を行う意義. 第23回日本小児心身医学会，大分

132. 元山宏行，辻美代子，藤原　亨，田中幸代（2005）当科におけるサルモネラ腸炎とカンピロバクター腸炎との比較検討. 第32回大阪市東部小児談話会，大阪

133. 豆板律子，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2005）日常感染症で再入院を繰り返す児の特性分析. 第52回日本小児保健学会，下関

134. 古林万木夫，田辺創一，谷内昇一郎（2005）醤油醸造における小麦アレルゲンの消失. 第42回日本小児アレルギー学会，福井

135. 豆板律子，石崎優子，圀府寺美，木野　稔，中野博光（2005）箱庭に表現された小児白血病児の内的世界. 第21回日本小児がん学会，宇都宮

著　書

1. 金子一成（2005）小児の腎臓病. 腎臓疾患の子どもの教育支援に関するガイドライン（国立特殊教育総合研究所編）共同執筆，国立特殊教育総合研究所，神奈川

2. 金子一成（2005）ピッツバーグジャパンプログラムに望むもの/Faculty Development Workshopを受講して. アメリカ・カナダへの医学・看護留学へのパスポートvol.2.（日米医学医療交流財団編）281–287頁，はる書房，東京

3. 田村正徳，木下　洋（2005）小児科医，一般産科医，助産師，看護師向けの新生児心肺蘇生法の研修プログラムの作成と研修システムの構築とその効果に関する研究. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金分担研究報告書（藤村正哲編）113–116頁

4. 中島　諭，内田美恵子，木下　洋，田村正徳（2005）効果的な講習方法の開発に関する研究―1―. 平成16年度厚生労働科学研究費補助金

分担研究報告書（藤村正哲編）117–119頁
5. 内田美恵子，野村雅子，清水健二，木下　洋，田村正徳（2005）効果的な講習方法の開発に関する研究―2―．平成16年度厚生労働科学研究費補助金分担研究報告書（藤村正哲編）121–126頁
6. 田辺創一，谷内昇一郎，渡辺　純（2005）減感作ペプチド．抗アレルギーハンドブック（36）175–180頁，サイエンスフォーラム，東京

外科学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Azhipa O, Kimizuka K, Nakao S, Toyokawa H, Okuda T, Neto JS, Alber SM, Kaizu T, Thomson AW, Demetris AJ and Murase N（2005）Comparative analysis of the fate of donor dendritic cells and B cells and their influence on alloreactive T cell responses under tacrolimus. Clinical Immunology 114（2）: 199–209
2. Egawa H, Kasahara M, Kuramitsu K, Sirouzu Y, Uchida Y, Arakawa K and Tanaka K（2005）Impact of Severity of Hepato-Pulmonary Syndrome（HPS）on Postoperative Complications in 34 HPS Patients in 1000 Consecutive Living Donor Liver Transplantation. American Journal of Transplantation 11（5）Suppl: 550–551
3. Fukumoto K, Nagaoka I, Yamataka A, Kobayashi H, Yanai T, Kato Y and Miyano T（2005）Effect of antibacterial cathelicidin peptide CAP18/LL-37 on sepsis in neonatal rats. Pediatr Surg Int 21: 20–24
4. Kaizu T, Nakao A, Tsung A, Toyokawa H, Sahai R, Geller DA and Murase N（2005）Carbon monoxide inhalation ameliorates cold ischemia/reperfusion injury after rat liver transplantation. Surgery 138（2）: 229–235
5. Kasahara M, Sakamoto S, Ogawa K, Uryuhara K, Matsuoka J, Uchida Y, Ito T, Ueda M and Tanaka K（2005）The Use of a Mesenteric Artery of Roux-en-Y limb for Hepatic Arterial Reconstruction after Living-Donor Liver Transplantation. Transplantation 80: 4
6. Kwon A-H, Inoue T and SK Ha-Kawa（2005）Characterization of the Asialoglycoprotein Receptor Under Hypoxic Conditions in Primary Cultured Rat Hepatocytes. The Journal of Nuclear Medicine 46（2）: 321–325
7. Nakao A, Murase N, Ho C, Toyokawa H, Billiar TR and Kanno S（2005）Biliverdin administration prevents the formation of intimal hyperplasia induced by vascular injury. Circulation 112（4）: 587–591
8. Okugawa H, Yamamoto D, Uemura Y, Sakaida N, Tanano A, Tanaka K and Kamiyama Y（2005）Effect of perductal paclitaxel exposure on the development of MNU-induced mammary carcinoma in female S-D rats. Breast Cancer Research and Treatment 91: 29–34
9. Pirenne J, Kitade H, Kawai M, Koshiba T, Van Damme B, Mathieu C and Waer M（2005）Regulatory Cells, Th1/Th2 Unbalance, and Antibody-Induced Chronic Rejection in Operational Tolerance Induced by Donor-Specific Blood Transfusion. Transplantation 79（3）: S25–S27
10. Tokuhara K, Hamada Y, Yui R, Tanano A, Takada K and Kamiyama Y（2005）Congenital biliary dilatation in dizygotic twins. Pediatr Surg Int 21: 17–19
11. Tsuji K, Kwon AH, Yoshida H, Qiu Z, Kaibori M, Okumura T and Kamiyama Y（2005）Free radical scavenger（edaravone）prevents endotoxin-induced liver injury after partial hepatectomy. J Hepatol 42（1）: 94–101
12. Uchida Y, Kasahara M, Ogura Y, Ogawa K, Fujimoto Y, Uryuhara K, Ueda M, Takada Y, Egawa H and Tanaka K（2005）Long-term Outcome of Adult-to-Adult Living Donor Liver Transplantation for Post Kasai Bilialy Atresia:Kyoto University Experience. American Transplant Congress 5: 21–25

13. Uchida Y, Kasahara M, Ogura Y, Ogawa K, Fujimoto Y, Uryuhara K, Ueda M, Takada Y, Egawa H and Tanaka K (2005) Long-term Outcome of Adult-to-Adult Living Donor Liver Transplantation for Post Kasai Bilialy Atresia:Kyoto University Experience. American Journal of Transplantation 11(5)Suppl: 400
14. Yanagimoto H, Takai S, Satoi S, Toyokawa H, Takahashi K, Terakawa N, Kwon A-H and Kamiyama Y (2005) Impaired function of circulating dendritic cells in patients with pancreatic cancer. Clinical Immunology 114: 52–60
15. Yonekura Y, Yamamoto D, Okugawa H, Tanaka K and Kamiyama Y (2005) Loss of heterozygosity in ductal lavage for breast tumor and the contralateral breast. Oncology Reports 13: 739–743
16. Tanano A, Hamada Y, Takamido S, Kataoka Y, Watanabe J, Kamiyama Y and Yamada H (2005) Structural development of PGP9.5-immunopositive myenteric plexus in embryonic rats. Anat Embryol 209: 341–348
17. Okugawa H, Yamamoto D, Uemura Y, Sakaida N, Yamada M, Tanaka K and Kamiyama Y (2005) Prognostic Factors in Breast Cancer: The Value of the Nottingham Prognostic Index for Patients Treated in a Single Institution. Surg Today 35: 907–911
18. Takahashi K, Toyokawa H, Takai S, Satoi S, Yanagimoto H, Terakawa N, Araki H, Kwon AH and Kamiyama Y (2005) Surgical influence of pancreatectomy on the function and count of circulating dendritic cells in patients with pancreatic cancer. Cancer 16: 1–10
19. Sato M, Hamada Y, Takada K, Tanano A, Tokuhara K and Hatano T (2005) Thoracoscopic diaphragmatic procedures under artificial pneumothorax. Pediatr Surg Int 21: 34–38
20. 吉岡和彦，森田美佳，岩本慈能，中野雅貴，中根恭司（2005）Dynamic gracilplasty. 手術 59(8): 1155–1159
21. 今村 敦，斎藤隆道，尾崎 岳，田中宏典，奥野雅史，上山泰男（2005）感染・汚染術野での腹部大動脈人工血管置換術 -e-PTFE 人工血管，強酸性水洗浄，大網被覆の有用性. 日本血管外科学会雑誌（Jpn.J.Vasc.Surg） 14: 645–652
22. 佐藤正人，浜田吉則，高田晃平，畑埜武彦（2005）特集 小児に対する内視鏡下手術 -up to date- 腸重積症治療における腹腔鏡下手術. 日本内視鏡外科学会雑誌 10(3): 284–288
23. 山田正法，山本大悟，坂井田紀子（2005）乳腺線維腺腫に合併した非浸潤性乳癌の1例. 日本臨床外科学会雑誌 66(3): 583–586
24. 中根恭司（2005）胃全摘後の再建方法について パウチ間置法を優先させる立場から. Frontiers in Gastroenterology 10(4): 22(304)–27(309)
25. 中根恭司，道浦 拓，神原達也，田中義人，井上健太郎，山道啓吾（2005）神経温存噴門側胃切除後の空腸間置再建術. 手術 59(1): 13–18
26. 浜田吉則(2005)Report 第15回近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会. 泌尿器ケア 10(2): 4(112)–6(114)
27. 浜田吉則（2005）包括医療の導入による影響と対策 7. 小児外科領域における包括医療の影響と対策. 日本外科学会雑誌 106(10): 654–658
28. 山道啓吾，小松優治，坂井田紀子，中井宏治，中根恭司，上山泰男（2005）食道アカラシアに合併した広範な多発食道癌の1例. 手術 59(13): 2001–2005
29. 尾崎 岳，里井壮平，末平智子，由井倫太郎，井上健太郎，岩本慈能，山田 斉，高井惣一郎，浅井 晃，山道啓吾，吉岡和彦，上山泰男（2005）ハイドロファイバーによる術後離開創の治療効果. 日本臨床外科学会雑誌 66(12): 2893–2898

学会発表

1. Inoue K, Kanbara T, Michiura T, Nakai K, Yamamichi K and Nakane Y (2005) Efficacy of Intraperitoneal Chemotherapy Using Floxuridine-loaded Microspheres. 6th International Gastric Cancer Congress, 横浜
2. Nakai K, Kanbara T, Habara K, Michiura T, Inoue K, Yamamichi K and Nakane Y (2005) Neoadjuvant Chemotherapy Combined S-1 and Cisplatin for Advanced Gastric Cancer Patients. 6th Inter-

national Gastric Cancer Congress, 横浜
3. Nakane Y, Michiura T, Kanbara T, Tanaka Y, Nakai K, Inoue K, Yamamichi K and Osawa T（2005）Role of Pyloroplasty after Proximal Gastrectomy for Cancer. 6th International Gastric Cancer Congress, 横浜
4. Yamamichi K, Inoue K, Matsuura T, Habara K, Kanbara T, Tanaka Y, Michiura T, Nakai K and Nakane Y（2005）Technical Contrivance of Laparoscopy assisted Distal Gastrectomy for Early Gastric Cancer. 6th International Gastric Cancer Congress, 横浜
5. Hamada Y, Tanano A, Takada K, Tokuhara K, Sato M, Kamiyama Y（2005）Total excision of the extrahepatic bile duct should be performed for pancreaticobiliary maljunction with nondilated common bile duct. British Association of paediatric surgeons 52nd Annual International Congress, Dublin, Ireland
6. Habara K, Kanbara T, Michiura T, Nakai K, Inoue K, Yamamichi K and Nakane Y（2005）Feasibility Study for Postgastrectomy Patients with S-1; 2 Weeks Administration and 1 Week Withdrawal Interval Protocol. 6th International Gastric Cancer Congress, 横浜
7. Michiura T, Kanbara T, Nakai K, Inoue K, Sato M, Yamamichi K and Nakane Y（2005）Jejunal Interposition after Distal Gastrectomy. 6th International Gastric Cancer Congress, 横浜
8. 吉岡和彦，中野雅貴，森田美佳，岩本慈能，中根恭司，上山泰男（2005）骨格筋刺激装置は必要か？直腸癌と重度便失禁に対するDynamic graciloplastyの検討．第105回日本外科学会，名古屋
9. 山道啓吾，道浦　拓，中井宏治，小松優治，田中義人，神原達也，金　成泰，井上健太郎，浅井　晃，中根恭司（2005）食道癌化学放射線療法施行症例における三領域郭清術の意義．第67回日本臨床外科学会総会，東京
10. 岩本慈能，吉岡和彦，森田美佳，向出裕美，岡崎　智，中根恭司，上山泰男（2005）外来での大腸癌化学療法．第67回日本臨床外科学会総会，東京
11. 今村博司，古河　洋，滝内比呂也，木村　豊，石田秀之，今野元博，中根恭司，楢原啓之，辻仲利政，森本　卓（2005）TS-1抵抗性進行・再発胃癌に対するPaclitaxel/Doxifluridine併用療法の第Ⅱ相試験（OGSG 0302・中間報告）．第77回日本胃癌学会総会
12. 中井宏治，山道啓吾，三宅　岳，神原達也，田中義人，金　成泰，道浦　拓，井上健太郎，浅井　晃，中根恭司（2005）自動吻合器を用いた頸部食道胃吻合の治療成績．第67回日本臨床外科学会総会，東京
13. 中根恭司，道浦　拓，松浦　節，神原達也，田中義人，井上健太郎，山道啓吾（2005）神経温存噴門側胃切除術後の空腸間置再建術．第60回日本消化器外科学会定期学術総会，東京
14. 吉岡和彦，畑　嘉高，中野雅貴，岩本慈能，森田美佳，中根恭司（2005）下部進行直腸癌におけるDynamic graciloplastyの位置づけ．第67回日本臨床外科学会総会，東京
15. 佐藤正人，浜田吉則，高田晃平，棚野晃秀，畑埜武彦（2005）小児腸重積症に対する腹腔鏡下手術．第67回日本臨床外科学会総会，東京
16. 山道啓吾，井上健太郎，松浦　節，羽原弘造，神原達也，田中義人，道浦　拓，中井宏治，中根恭司（2005）早期胃癌に対する腹腔鏡手術の適応と限界．第77回日本胃癌学会総会
17. 中根恭司（2005）腹腔鏡手術における新しい工夫　センチネル・ラパロ下．第77回日本胃癌学会総会
18. 里井壯平，高井惣一郎，上山泰男（2005）膵癌外科治療におけるMultidetector row CT（MDCT）の役割．第36回日本膵臓学会，東京
19. 井上健太郎，神原達也，田中義人，松浦　節，道浦　拓，中井宏治，山道啓吾，中根恭司（2005）胃癌手術における閉鎖式吸引ドレインの第2相臨床試験．第60回日本消化器外科学会定期学術総会，東京
20. 井上健太郎，神原達也，道浦　拓，中井宏治，山道啓吾，中根恭司（2005）胃癌手術におけるJ-VACドレナージシステムの有用性と安全性を検討する前向き臨床試験．第77回日本胃癌学会総会
21. 海堀昌樹，松井陽一，内田洋一朗，肱川　健，權　雅憲，上山泰男（2005）C型肝炎関連肝機能細胞癌に対する系統および非系統的肝切除

の検討．第60回日本消化器外科学会定期学術総会，東京

22. 海堀昌樹，森田美佳，田中宏典，内田洋一朗，石崎守彦，田中義人，川口雄才，吉岡和彦，上山泰男（2005）肝切除後皮膚転移，大腸転移をきたした肝細胞癌の1例．第67回日本臨床外科学会総会，東京
23. 海堀昌樹，柳田英佐，肱川　健，内田洋一朗，石崎守彦，奥村忠芳，上山泰男（2005）ラット肝虚血再灌流モデルにおける培養幹細胞を用いたiNOS誘導の解析．第42回日本外科代謝栄養学会総会，大阪
24. 海堀昌樹，柳田英佐，肱川　健，内田洋一朗，石崎守彦，權 雅憲，奥村忠芳，上山泰男（2005）硬変肝部分切除モデルにおけるrhHGF activatorによる肝内HGFの活性化及び，肝再生促進効果の解析．第42回日本外科代謝栄養学会総会，大阪
25. 岩本慈能，吉岡和彦，森田美佳，向出裕美，岡崎　智，中根恭司（2005）当院における大腸癌に対する腹腔鏡補助下大腸切除術．第60回日本大腸肛門病学会総会，東京
26. 岩本慈能，吉岡和彦，森田美佳，向出裕美，岡崎　智，中根恭司，上山泰男（2005）進行・再発大腸癌に対するUFT/LV+CPT-11（24時間持続）併用療法の第1/2相試験（第1報）．第43回日本癌治療学会総会，名古屋
27. 吉岡和彦，中野雅貴，畑　嘉高，岩本慈能，森田美佳，中根恭司（2005）下部直腸癌の術式選択における効用値の測定とAnalytic hierarchy process（AHP）を用いた意思決定の検討．第60回日本大腸肛門病学会総会，東京
28. 吉岡和彦，畑　嘉高，中野雅貴，森田美佳，岩本慈能，中根恭司，上山泰男（2005）有茎薄筋移植における骨格筋刺激装置は排便機能障害の改善に寄与するか？　第60回日本消化器外科学会定期学術総会，東京
29. 吉田　良，大道道大，吉岡和彦，中根恭司，高田秀穂（2005）S状結腸憩室炎に起因した，結腸膀胱瘻の3手術例．第60回日本大腸肛門病学会総会，東京
30. 高井惣一郎，里井壮平，柳本泰明，高橋完治，寺川直良，豊川秀吉，荒木　浩，松井陽一，上山泰男（2005）進行膵癌の集学的治療戦略．第60回日本消化器外科学会，東京
31. 里井壮平，高井惣一郎，松井陽一，寺川直良，福井淳一，岩城隆二，柳本泰明，高橋完治，權　雅憲，上山泰男（2005）膵頭十二指腸切除術198例における術後合併症の検討．第105回日本外科学会，名古屋
32. 川口雄才，山田　斉，石崎守彦，岩本慈能，森田美佳，吉岡和彦，中根恭司，上山泰男（2005）腹膜播種に伴う大腸癌の治療．第105回日本外科学会，名古屋
33. 棚野晃秀，浜田吉則，高田晃平，徳原克治，上山泰男（2005）術後治療に難渋した遅発性横隔膜ヘルニアの1例．第67回日本臨床外科学会総会，東京
34. 棚野晃秀，浜田吉則，渡辺健太郎，徳原克治，高田晃平，上山泰男，片岡洋祐，渡辺　淳，山田久夫（2005）腸管壁内神経叢の発生学的研究：ラット胎児期腸管におけるPGP9.5とp75NGFRの発現について．第42回日本小児外科学会総会，幕張
35. 高田晃平，浜田吉則，渡辺健太郎，棚野晃秀，徳原克治，上山泰男（2005）胆道拡張症術後における胃内胆汁逆流の検討―第2報―．第42回日本小児外科学会総会，幕張
36. 佐藤正人，浜田吉則，高田晃平，小切匡史，畑埜武彦（2005）腹腔鏡下脾臓摘出術における合併症予防．第42回日本小児外科学会総会，幕張
37. 高井惣一郎，里井壮平，柳本泰明，高橋完治，寺川直良，杉本直俊，辻　勝成，荒木　浩，松井陽一，上山泰男（2005）切除不能膵癌に対する補助化学療法の検討．第105回日本外科学会，名古屋
38. 岩本慈能，吉岡和彦，森田美佳，岡崎　智，向出裕美，松浦　節，中根恭司（2005）直腸癌に対する腹腔鏡補助下前方切除術．第60回日本消化器外科学会定期学術総会，東京
39. 岩本慈能，寒川光治，吉岡和彦，森田美佳，向出裕美，岡崎　智，中根恭司，上山泰男（2005）進行直腸癌に対する5′-DFURと放射線の術前併用療法　第1/2相試験（第1報）．第43回日本癌治療学会総会，名古屋
40. 岩本慈能，三嶋秀行，吉岡和彦，森田美佳，向出裕美，岡崎　智，中根恭司，上山泰男（2005）

日常診療におけるCPT-11+5FU/I-LV（JIFL）療法．第43回日本癌治療学会総会，名古屋
41. 里井壮平，高井惣一郎，松井陽一，大久保遊平，柳本泰明，寺川直良，高橋完治，豊川秀吉，權　雅憲，上山泰男（2005）膵頭部領域の悪性腫瘍に対する膵頭十二指腸切除術後合併症の臨床的検討．第67回日本臨床外科学会総会，東京
42. 里井壮平，高井惣一郎，松井陽一，米虫　敦，谷川　昇，柳本泰明，豊川秀吉，岩城隆二，權　雅憲，澤田　敏，上山泰男（2005）Multidetector row CT（MDCT）導入は膵癌切除率に影響を与えるか？　第43回日本癌治療学会総会，名古屋
43. 權　雅憲，松井陽一（2005）腹腔鏡下胆嚢摘出術時および術後に診断された胆嚢癌症例の検討．第67回日本臨床外科学会総会，東京
44. 權　雅憲，辻　勝成，邱　澤雨，吉田秀行．海堀昌樹，松井陽一，上山泰男（2005）肝切除後肝不全の予防とラジカルスカベンジャーを用いた実験的治療の検討．第60回日本消化器外科学会定期学術総会，東京
45. 中井宏治，神原達也，田中義人，道浦　拓，井上健太郎，山道啓吾，上山泰男，中根恭司（2005）ICGを用いた早期胃癌センチネルリンパ節の検討：現状と今後．第60回日本消化器外科学会定期学術総会，東京
46. 森田美佳，畑　嘉高，中野雅貴，岩本慈能，米倉康博，吉岡和彦，中根恭司（2005）ストマ造設の標準的手術手技．第60回日本大腸肛門病学会総会，東京
47. 山道啓吾，浅井 晃，道浦　拓，小松優治，田中義人，神原達也，中野雅貴，中井宏治，井上健太郎，中根恭司（2005）胸部下部食道癌に対する外科治療．第60回日本消化器外科学会定期学術総会，東京
48. 高田晃平，浜田吉則，徳原克治，棚野晃秀（2005）腹壁異常に対する出生前MRI：脱出比は閉鎖術式選択の指標となりうるか？　第41回日本周産期・新生児医学会総会総会および学術集会，福岡
49. 高田晃平，浜田吉則，徳原克治，棚野晃秀，上山泰男（2005）継続的に観察しえた大網脂肪織炎の1例．第67回日本臨床外科学会総会，東京
50. 權　雅憲，邱　澤雨，平尾　豊，上山泰男（2005）フィブロネクチンの創傷治癒促進効果の検討．第105回日本外科学会，名古屋
51. 今野元博，今本治彦，今村博司，瀧内比呂也，石田秀之，木村　豊，辻仲利政，楢原啓之，田村孝雄，中根恭司，原　章倫，福永浩紀，松本繁己，森本　卓，古河　洋（2005）TS-1治療抵抗性の進行・再発胃癌に対するPaclitaxel/Doxifluridine併用療法の第Ⅱ相臨床試験（OGSG0302）．第43回日本癌治療学会総会，名古屋
52. 太田博文，加藤健志，池永雅一，三嶋秀行，福永　睦，村田幸平，富永修盛，加納寿之，池田公正，天野正弘，池田正孝，森田俊治，勝本善弘，石田秀之，関本貢嗣，瀧内比呂也，吉岡和彦，古河　洋，森田智視，坂本純一，門田守人（2005）進行・再発大腸癌に対するCPT-11と5′-DFUR併用化学療法の第Ⅱ相臨床試験（第2報）．第43回日本癌治療学会総会，名古屋
53. 佐藤正人，浜田吉則，高田晃平，畑埜武彦（2005）胸腔鏡下横隔膜縫縮術経験例の標準術式と中期成績．第18回日本内視鏡外科学会，東京
54. 山道啓吾，浅井 晃，道浦　拓，小松優治，田中義人，神原達也，中野雅貴，中井宏治，井上健太郎，中根恭司（2005）Stage II,III食道癌に対する治療法の選択．第59回日本食道学会学術集会，千葉
55. 寺川直良，里井壮平，高井惣一郎，柳本泰明，高橋完治，豊川秀吉，由井倫太郎，山木　壮，權　雅憲，上山泰男（2005）膵癌症例における化学療法前後のTNFα産生能の臨床的意義．第60回日本消化器外科学会，東京
56. 寺川直良，里井壮平，高井惣一郎，柳本泰明，高橋完治，豊川秀吉，權　雅憲，上山泰男（2005）膵癌患者の化学療法施行時におけるTNF-alpha産生能変化．第36回日本膵臓学会，東京
57. 石崎守彦，内田洋一朗，海堀昌樹，肱川　健，柳田英佐，今村　敦，權　雅憲，河　相吉，上山泰男（2005）肝移植後再発C型肝炎の肝アシアロシンチによる機能評価．第41回日本移植学会，新潟

58. 山田正法，浜田吉則，羽原弘造，吉田秀行．松井康輔，尾崎　岳，西澤幹夫，海堀昌樹，上山泰男，奥村忠芳（2005）α-リポ酸の幹細胞における一酸化窒素の産生誘導への効果．第42回日本外科代謝栄養学会総会，大阪
59. 高橋完治，里井壮平，高井惣一郎，柳本泰明，豊川秀吉，寺川直良，宮宗武史，權　雅憲，上山泰男（2005）膵癌の術後合併症発生のリスクと末梢血樹状細胞を中心とした免疫機能の評価．第41回日本腹部救急医学会総会，名古屋
60. 高橋完治，里井壮平，高井惣一郎，柳本泰明，豊川秀吉，寺川直良，山本智久，權　雅憲，上山泰男（2005）膵癌術後Sepsisを伴う合併症発生の予知因子としての末梢血樹状細胞数の有用性について．第36回日本膵臓学会，東京
61. 内田洋一朗，海堀昌樹，石崎守彦，肱川　健，斎藤隆道，今村　敦，廣原純子，上山泰男（2005）自己免疫性溶血性貧血を合併した原発性胆汁性肝硬変に対する生体部分肝移植術の1例．第41回日本移植学会，新潟
62. 羽原弘造，海堀昌樹，山田正法，吉田秀行，尾崎　岳，松井康輔，浜田吉則，西澤幹雄，奥村忠芳，上山泰男（2005）肝障害に対するスタチンpitavastainの保護作用．第105回日本外科学会，名古屋
63. 高橋完治，里井壮平，高井惣一郎，柳本泰明，豊川秀吉，寺川直良，石崎守彦，權　雅憲，上山泰男（2005）膵癌術後における感染性合併症発生の予知因子の検討．第105回日本外科学会，名古屋
64. 徳原克治，浜田吉則，棚野晃秀，高田晃平，上山泰男（2005）小児の急性虫垂炎に対する腹腔鏡下虫垂切除術―その有用性と包括評価による診療報酬制度導入後の医療経済的検討―．第42回日本小児外科学会総会，幕張
65. 柳田英佐，海堀昌樹，内田洋一朗，肱川　健，權　雅憲，奥村忠芳，上山泰男（2005）ラット肝虚血再灌流モデルにおける培養肝細胞を用いたiNOS誘導の解析．第105回日本外科学会，名古屋
66. 山田正法，海堀昌樹，羽原弘造，吉田秀行，松井康輔，尾崎　岳，浜田吉則，奥村忠芳，上山泰男（2005）肝臓のiNOS誘導に対する天然の抗酸化剤α-リポ酸の効果．第105回日本外科学会，名古屋
67. 吉田秀行，權　雅憲，海堀昌樹，辻　勝成，羽原弘造，山田正法，尾崎　岳，松井康輔，奥村忠芳，上山泰男（2005）肝細胞の誘導型一酸化窒素合成酵素に対するedaravoneの効果．第105回日本外科学会，名古屋
68. 内田洋一朗，笠原群生，小倉靖弘，小川晃平，藤本康弘，瓜生原健嗣，上田幹子，高田泰次，江川裕人，田中紘一（2005）成人胆道閉鎖症に対する生体肝移植の成績．第105回日本外科学会，名古屋
69. 羽原弘造，浜田吉則，山田正法，吉田秀行．尾崎　岳，松井康輔，西澤幹夫，海堀昌樹，上山泰男，奥村忠芳（2005）幹細胞におけるiNOS誘導に対するスタチン pitavastaion の効果．第42回日本外科代謝栄養学会総会，大阪
70. 大久保遊平，里井壮平，高井惣一郎，松井陽一，柳本泰明，寺川直良，高橋完治，豊川秀吉，權　雅憲，上山泰男（2005）膵切除術における閉鎖式吸引ドレナージの使用経験．第67回日本臨床外科学会総会，東京
71. 山木　壮，岩本慈能，吉岡和彦，森田美佳，向出裕美，岡崎　智，中根恭司（2005）腹直筋皮弁にて会陰形成を施行した肛門管癌の1切除例．第60回日本大腸肛門病学会総会，東京
72. 神原達也，中井宏治，岡本真由美，三宅　岳，道浦　拓，金　成泰，井上健太郎，山道啓吾，中根恭司，上山泰男（2005）早期胃癌におけるセンチネルリンパ節同定の検討．第67回日本臨床外科学会総会，東京
73. 道浦　拓，三宅　岳，神原達也，田中義人，中井宏治，井上健太郎，中根恭司（2005）機能温存胃切除後の術後機能評価．第67回日本臨床外科学会総会，東京
74. 柳本泰明，高井惣一郎，里井壮平，豊川秀吉，高橋完治，寺川直良，權　雅憲，上山泰男（2005）切除不能膵癌における末梢血樹状細胞の予後予知因子としての有用性．第105回日本外科学会，名古屋
75. 渡辺健太郎，松川泰廣，水上　陽，廣岡　智，田上修一（2005）Split Notochord 症候群（thoracoabdominal duplication）の新生児症例．第42回日本小児外科学会総会，幕張
76. 道浦　拓，羽原弘造，神原達也，田中義人，中

井宏治，井上健太郎，山道啓吾，中根恭司（2005）RI胃排出機能検査をもちいたPPG術後の機能評価．第60回日本消化器外科学会定期学術総会，東京
77. 岡本真由美，中井宏治，三宅　岳，神原達也，道浦　拓，金　成泰，井上健太郎，高田晃平，山道啓吾，上山泰男，中根恭司（2005）放射線療法が有効であった胃癌再発の1例．第67回日本臨床外科学会総会，東京
78. 岩城隆二，里井壮平，川口雄才，高橋完治，荒木吉朗，高井惣一郎，權　雅憲，上山泰男（2005）消化管出血にて発症した十二指腸動静脈奇形の一例．第41回日本腹部救急医学会総会，名古屋
79. 山木　壮，里井壮平，高井惣一郎，坂井田紀子，岩城隆二，大石賢玄，福安厚子，由井倫太郎，權　雅憲，上山泰男（2005）膵lymphoepithelial cystの1例．第36回日本膵臓学会，東京
80. 小松優治，佐藤正人，二階堂任，畑埜武彦（2005）完全直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術．第67回日本臨床外科学会総会，東京
81. 神原達也，中井宏治，羽原弘造，道浦　拓，井上健太郎，山道啓吾，中根恭司，上山泰男（2005）当科における胃切除後症例に対するTS-1（2週投薬1週休薬）の使用経験．第77回日本胃癌学会総会，横浜
82. 中本博之，小田道夫，箕浦俊之（2005）総胆管に発生した有茎性のpapillary adenomaの1例．第67回日本臨床外科学会総会，東京
83. 荒木吉朗，里井壮平，松井康輔，寺川直良，高橋完治，柳本泰明，岩城隆二，高井惣一郎，吉岡和彦，中根恭司，上山泰男（2005）Sepsisに伴うacute lung injuryに対して好中球エラスターゼ阻害剤が奏効した3例．第41回日本腹部救急医学会総会，名古屋
84. 柳本泰明，高井惣一郎，山本光太郎，峯　孝志，里井壮平，寺川直良，山田　亮，岡　正朗，伊東恭悟，上山泰男（2005）進行膵癌に対するテーラーメイド癌ペプチドワクチン及びgemcitabine併用第1相試験の検討．第60回日本消化器外科学会，東京
85. 柳本泰明，高井惣一郎，山本光太郎，峯　孝志，里井壮平，高橋完治，寺川直良，山田亮，岡　正朗，伊東恭悟，上山泰男（2005）膵臓癌へのペプチド化学療法．第43回日本癌治療学会総会，名古屋
86. 桜本和人，山道啓吾，植村芳子，中野雅貴，浅井晃，道浦　拓，小松優治，田中義人，中井宏治，神原達也，井上健太郎，中根恭司（2005）胃転移を伴った進行食道癌の1例．第59回日本食道学会学術集会，千葉
87. 田中義人，山道啓吾，小松優治，石崎守彦，道浦　拓，浅井晃，中根恭司（2005）サルベージ手術を施行後に気管壊死をきたした頸部食道癌の2症例．第59回日本食道学会学術集会，千葉
88. 道浦　拓，小松優治，神原達也，田中義人，中井宏治，井上健太郎，山道啓吾，中根恭司（2005）当科における局所進行食道癌の治療成績．第59回日本食道学会学術集会，千葉
89. 中野誠人，山道啓吾，植村芳子，道浦　拓，小松優治，田中義人，中野雅貴，中井宏治，井上健太郎，浅井晃，中根恭司，上山泰男（2005）傍食道気管支嚢腫の1例．第59回日本食道学会学術集会，千葉
90. 松岡洋一郎，二階堂泰資，北川陽子，高取聡，宇派　明，大石裕司，堀伸二郎，畑埜武彦，螺良愛郎（2005）植物エストロゲンの乳癌抑制効果に関する基礎的研究．第13回日本乳癌学会総会，倉敷
91. 二階堂任，小松優治，二階堂泰資，小路徹二，是枝　敬，松岡洋一郎，植村芳子，畑埜武彦，螺良愛郎（2005）乳腺葉状腫瘍の臨床病理学的検討．第13回日本乳癌学会総会，倉敷
92. 森　毅，山本大悟，田中完児（2005）乳癌の副鼻腔転移から髄膜播種に至りながらカペシタビン投与で長期生存を得ている一例．第13回日本乳癌学会総会，倉敷
93. 奥川帆麻，山本大悟，植村芳子，坂井田紀子，棚野晃秀，川西　洋，小路徹二，田中完児（2005）N-methyl-N-nitorosoureaによる乳癌発生ラットにおけるパクリタキセル経乳管投与の効果．第13回日本乳癌学会総会，倉敷
94. 山本大悟，岩瀬　哲，北村　薫，小田桐弘毅（2005）地域密着型医師主導型治験．第13回日本乳癌学会総会，倉敷
95. 山本智寿子，山本大悟，兼松清果，川西　洋，小路徹二，田中完児（2005）局所放射線療法

の治療歴のある乳癌骨転移患者における経口ビスホスホネートの役割．第13回日本乳癌学会総会，倉敷
96. Habara K, Hamada Y, Yamada M, Tokuhara K, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S, Okumura T（2005）Effect of pitavastatin on the production of nitric oxide in hepatocytes. 第78回日本生化学学会大会，神戸
97. Yoshida H, Kwon A-H, Tsuji K, Kaibori M, Habara K, Yamada M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S, Okumura T（2005）Effect of edaravone iNOS gene expression stimulated by interleukin-1β in hepatocytes. 第78回日本生化学学会大会，神戸
98. Yamada M, Nishizawa M, Nakatake R, Yoshida H, Ozaki T, Matsui K, Hamada Y, Kamiyama Y, Ito S, Okumura T（2005）Effect of type 1 interleukin-1 receptor isoforms on iNOS induction in rat hepatocytes. 第78回日本生化学学会大会，神戸
99. 小松優治，佐藤正人，二階堂任，畑埜武彦（2005）完全直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術．第67回日本臨床外科学会総会，東京
100. 高田晃平，浜田吉則，徳原克治，棚野晃秀，上山泰男（2005）継続的に観察しえた大網脂肪織炎の1例．第67回日本臨床外科学会総会，東京

著　書

1. 中根恭司，道浦　拓，井上健太郎（2005）胃切除と再建術式．9．空腸嚢を用いた胃全摘後再建術（三輪晃一監修，今村幹雄編）268–275頁，医学図書出版

胸部心臓血管外科学講座

〈研究概要〉

胸部心臓血管外科は，心臓血管外科と呼吸器外科に大別される．心臓血管外科は心臓血管病センターの外科部門として，循環器内科や小児科循環器グループとともに，先天性心疾患，虚血性心疾患，弁膜症，大動脈疾患等の心大血管疾患に対し，内科と外科が一体となって研究活動を行っている．また，呼吸器外科は，肺癌の外科治療を中心として，第一内科呼吸器グループ，放射線科，病態検査科病理部門と研究グループを作り，協力して研究活動を行っている．

心臓血管外科部門では，手術件数は300例を超え，手術内容も含めて，大学病院としての標準的レベルを維持している．先天性心疾患の治療は心臓血管外科医の基本である．小児科循環器グループやNICUと密接な関係を保ち，術前より互いに協力して治療を行っており，今後も，成績向上のため，術前状態の改善，迅速で正確な手術，きめ細かい術後管理が必要である．虚血性心疾患の治療方針は，動脈グラフトを用いた完全血行再建である．術中の心停止時間の短縮，長年の心筋保護法の研究成果が実り，安全に手術が行えるようになり，最近9年間の予定手術例に死亡例がなく，良好な成績を維持している．再生医療として，循環器内科での基礎的研究の臨床への応用として，本学倫理委員会の許可を得て，骨髄幹細胞移殖による血管再生治療を他施設に先駆けて臨床に試みている．また無輸血手術遂行のための研究も行い，最近9年間の成人予定手術の約90%が無輸血手術であった．弁膜症の治療方針は，可能な限り自己弁温存をはかる弁形成，弁輪形成術を第一選択とし，不可能な例に人工弁置換術を行う方針である．経食道エコーの術中導入により適切な弁機能の判定が可能となった．大血管疾患は，破裂性大動脈瘤や急性大動脈解離が含まれ，脳合併症や多臓器不全，感染による死亡例が多いが，大動脈弓部3分枝置換も超低体温循環停止法と選択的脳灌流法の併用により，安全に手術が可能になった．すべての動脈瘤は破裂するものと考え，今後も，早期の適切な外科治療により，成績向上の努力が必要である．また，大動脈遮断に伴う脊髄麻痺予防の問題も極めて重要であり，その予防法の研究をすすめている．昨年は，海外での研修や研究を終えた若い心臓血管外科医の導入をはかり，新しい治療法も積極的に取り入れ，成績向上に努めている．

呼吸器外科は，年間ほぼ200例前後の手術症例があり，その約半数が，原発性肺癌，悪性縦隔腫瘍，転

移性腫瘍である．肺癌は，地域医師会の協力も受け，早期発見例も増加しており，治療成績は向上し，その成績を逐次公表している．悪性縦隔腫瘍に対しては手術前後の化学療法等の併用により著明な成績向上をみた．また自然気胸，転移性肺腫瘍，開胸肺生検等において，胸腔鏡下手術を多用している．

平成17年度も，心臓血管外科，呼吸器外科ともに，これらの臨床経験に基づいた研究発表が行いえた．

実験的研究では，平成17年度日本学術振興会科学研究費，再生医学難病治療センター，癌治療センターの補助により，1）組織培養装置の導入により，分子生物学的側面からの研究に基づいた心筋保護に関する臨床的，基礎的研究（心筋細胞特異的心筋保護法に関する研究，統合的薬理学 Preconditioning に関する研究），2）心，肺移植に関する基礎的研究，3）肺癌に関する細胞免疫学的研究，4）吸収性気管支ステントの開発とその臨床応用，5）冬眠を応用した臓器保存の研究，6）虚血性心疾患に対する系統的治療戦略として，骨髄幹細胞移殖による再生医療の研究（虚血心の血管新生療法における自家骨髄細胞移植の有効性と安全性に関する研究，自家骨髄幹細胞移植を用いた不全心筋の再生に関する研究）などを行っている．

また，大阪工業大学生体システム研究室とともに1）赤血球変形能，2）磁界の生体への影響，3）生体細胞インピーダンス測定，4）心筋再生の医工学的応用，などの共同研究も進めている．

〈研究業績〉

原　著

1. Yukihito Saito（2005）Histopathologic prognostic factors in resected colorectal lung metastases. Ann Thorac Surg 79: 283–283
2. Yukihito Saito and Hiroji Imamura（2005）Airway Stent. Surgery Today 35: 265–270
3. Wakeno-Takahashi M, Otani H, Nakao S, Imamura H and Shingu K（2005）Isoflurane induces second window of preconditioning through upregulation of inducible nitric oxide synthase in rat heart. Am J Physiology 289: H2585–H2591
4. Okada T, Otani H, Wu Y, Uchiyama T, Kyoi S, Hattori R, Sumida T, Fujiwara H and Imamura H（2005）Integrated pharmacological preconditioning and memory of cardioprotection: role of protein kinase C and phosphatidylinositol 3-kinase. Am J Physiol Heart Circ Physiol 289: H761–H767
5. Kaneda H, Adachi Y, Saito Y, Ikebukuro K, Machida H, Suzuki Y, Minamino K, Zhang Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Wang J, Imamura H and Ikehara S（2005）Long-term observation after simultaneous lung and intra-bone marrow - bone marrow transplantation. J Heart Lung Transplant 24:1415–1423
6. Yamane M, Liu M, Kaneda H, Uhlig S, Waddell TK and Keshavjee S（2005）Reperfusion-induced gene expression profiles in rat lung transplantation. Am J Transplant 5: 2160–2169
7. Okada T, Otani H, Wu Y, Kyoi S, Enoki C, Fujiwara H, Sumida T, Hattori R and Imamura H（2005）Role of F-actin organization in p38 MAP kinase-mediated apoptosis and necrosis in neonatal rat cardiomyocytes subjected to simulated ischemia and reoxygenation. Am J Physiol Heart Circ Physiol 289: H2310–H2318

学会発表

1. Kaneda H, Thomas K, Waddell TK, Lui M and Keshavjee S（2005）Dynamic changes in cytokine gene expression during cold ischemia predicts outcome after lung trasnplantation in humans. 25th International Society of Heart and Lung Transplantation, Toronto
2. Kaneda H, Bai X, Thomas K, Waddell TK, Lui M and Keshavjee S（2005）Rapid donor lung analysis in human lung transplantation with quantitative multiplex rapid RT-PCR assay. 25th International Society of Heart and Lung Transplantation, Toronto
3. Okada T, Nemoto S, Choo Kok Kuan, Hamdan Leman, Maeba S, Geetha A/P Kandavello, Haifa Abdoul Latiff, Hasri Samion, Azhari Yakub and Mazeni Alwi（2005）The impact of percutaneous radiofrequency-assisted valvotomy and balloon dilation and stent implantation of patent ductus arteriosusu. 8th Malaysian assiciation for tho-

racic and cardiovascular surgery, Kuala Lumpur
4. Hattori R (2005) International standard cardiac Surgery with acculturation. 8th Malaysian assiciation for thoracic and cardiovascular surgery, Kuala Lumpur
5. Okada T, Nemoto S, Choo Kok Kuan, Hamdan Leman, Maeba S, Geetha A/P Kandavello, Haifa Abdoul Latiff, Hasri Samion, Azhari Yakub and Mazeni Alwi (2005) Does surgeoa still play an important role in the treatment of pulmonary atresia with intact ventricular septum (PA/IVS) in the advanced catheter-intervention era? 4th World Congress of Pediatric Cardiology and Surgery, Buenos Aires
6. Saito Y, Maniwa T, Kaneda H, Minami K and, Imamura H (2005) Single institution expeience of induction therapy followed by surgery for locally advanced NSCLC in 102 consecutive patients. Chest, Monteal
7. Otani H, Okada T, Wu T, Enoki C, Tatsumi K, Matsuhisa S, Akita Y, Kyoi S, Imamura H and Iwasaka T (2005) Role of phosphatidyl inositol 3-kinase-p7056 kinase cascade in self-renewal of bone marrow derived mesenchymal stem cells. 78th Am Heart Association, Dallas
8. Tatumi K, Otani H, Enoki C, Adachi Y, Taniuchi S, Kaneko K and Imamura H (2005) Granulocyte colony stimulating factor inceases donor mesenchymal stem cells in bone marrow and their mobilization into peripheral circulation but does not repair destrophic heart after bone marrow transplantation. 78th Am Heart Association, Dallas
9. Kyoi S, Otani H, Matsuhisa S, Akita Y, Enoki C, Kamihata H, Imamura H and Iwasaka T (2005) Dystrophin is an end-target of cardioprotection mediated by ischemic presentation. 78th Am Heart Association, Dallas
10. 金田浩由紀，斎藤幸人，今村洋二，Shaf Keshavjee (2005) Multiple cytokine mRNA analysis in donor lung predicts survival after lung transprantation. 第22回日本呼吸器外科学会総会 特別講演，京都
11. Matsuhisa S, Otani H, Kyoi S, Akita Y, Manabe K, Fujiwara H, Sumida T, Enoki C, Imamura H, Kanihata H and Iwasaka T (2005) Inhibition of p38 MAP kinase ameliorates heart failure but dissipates ischemic torelance in cardiomyopathic heart. 第69回日本循環器学会学術集会，横浜
12. Otani H, Manabe K, Kyoi S, Nakao Y, Fujiwara H, Kido M, Iwasaka T and Imamura H (2005) Reintroduction of contractile force during reperfusion converts myocyte apoptosis to necrosis. 第69回日本循環器学会学術集会，横浜
13. Kyoi S, Otani H, Sumida T, Fujiwara H, Enoki C, Kido M, Imamura H, Akita Y, Matsuhisa S, Manabe K, Kamihata H and Iwasaka T (2005) Dystrophin is an end-target of cardioprotection mediated by ischemic preconditioning. 第69回日本循環器学会学術集会，横浜
14. Akita Y, Otani H, Kyoi S, Matsuhisa S, Manabe K, Fujiwara H, Sumida T, Enoki C, Kido M, Imamura H, Kamihata H, Kimura Y and Iwasaka T (2005) Regular exercise promote ischemic tolerance by upregulating iNOS. 第69回日本循環器学会学術集会，横浜
15. Kyoi S, Otani H, Sumida T, Fujiwara H, Enoki C, Kido M, Imamura H, Akita Y, Matsuhisa S, Manabe K, Kamihata H and Iwasaka T (2005) Oxidative stress triggers iNOS mediated tolerance to ischemia/reperfusion injury in cardiomyopathic heart. 第69回日本循環器学会学術集会，横浜
16. Kyoi S, Otani H, Sumida T, Fujiwara H, Enoki C, Kido M, Imamura H, Akita Y, Matsuhisa S, Manabe K, Kamihata H and Iwasaka T (2005) Chronic treatment with p38MAP kinase inhibits and JNK inhibitor exerts an opposite effect on heart failure in cardiomyopathic hamster. 第69回日本循環器学会学術集会，横浜
17. 金田浩由紀，足立　靖，馬庭知弘，斎藤幸人，今村洋二，池原　進 (2005) Tolerance induction in lung transplantation with intra-bone marrow transplantation. 第22回日本呼吸器外科学会総会，京都
18. 馬庭知弘，斎藤幸人，金田浩由紀，南健一郎，今村洋二 (2005) 術後非小細胞肺癌の補助療法―weekly Paclitaxel+CBDCA併用療法―．第

22回日本呼吸器外科学会総会，京都
19. 藤原弘佳，藤井弘史，梶本心太郎，斎藤福樹，平川昭彦，山本　透，北澤康秀，武山直志，田中孝也，今村洋二，中谷寿男（2005）四肢塞栓症を初発とした心房細動に伴う塞栓症例の血行再建術後経過．第33回日本救急医学会総会，大宮
20. 梶本心太郎，田中孝也，武山直志，藤井弘史，平川昭彦，山本　透，村尾佳則，中谷寿男（2005）腹部大動脈瘤破裂における腸管虚血症の内視鏡的検討．第33回日本救急医学会総会，大宮
21. 藤井弘史，田中孝也，武山直志，山本　透，北澤康秀，梶本心太郎，岩瀬正顕，斎藤福樹，宮崎秀行，平川昭彦，中谷寿男（2005）急性A型大動脈解離に対する腋窩動脈送血と大腿動脈送血の比較．第33回日本救急医学会総会，大宮
22. 榎木千春，大谷　肇，呉　　越，辰巳貴美子，服部玲治，木戸政訓，今村洋二（2005）Insulin-like growth factor-1は心筋内に移植した骨髄間葉系細胞を促し心筋梗塞後の心機能を改善する．58回日本胸部外科学会，岡山
23. 岡田隆之，根本慎太郎，Choo Kok Kuan, Hamdan Leman, 前　場覚，Geetha Kandavello, Haifa Abdul Latiff（2005）高周波カテーテル焼灼肺動脈弁形成（RF-PVP）・動脈管ステント（PDA-stent）時代の純型肺動脈閉鎖症の外科治療．58回日本胸部外科学会，岡山
24. 金田浩由紀，斎藤幸人，馬庭知弘，南健一郎，今村洋二（2005）術前肺癌患者のおける腫瘍マーカーのプロファイリングによる組織型診断と病期分類の可能性の検討．第46回日本肺癌学会，千葉
25. 馬庭知弘，斎藤幸人，金田浩由紀，南健一郎，今村洋二（2005）下葉切除・中下葉切除における肋間筋弁の有用性．第46回日本肺癌学会，千葉

脳神経外科学講座

〈研究概要〉

脳腫瘍では悪性グリオーマに対する集学的治療を行い，手術材料は全例に電顕，組織培養を試みている．株化細胞を基礎にして，フローサイトメトリー（FACS can購入），レーザースキャニングサイトメーターによるDNA histgramの解析，サイクリンによるcell kinetics, 無菌的細胞分取，更に分子生物学的手法による解析などを行っている．また，透過型，走査型電顕による形態学的観察も行っている．最近では，脳腫瘍の遺伝子治療の基礎実験を行っている．脳血管障害では臨床的に血管内手術とを組み合わせた最先端の治療を行っている．小児脳外科では先天性奇形の実験的作成や，水頭症の発生機序について研究をしている．脳死研究では，平坦脳波の自動解析を法医学・救急科・精神科と合同で研究を行っている．頭蓋底外科では，耳鼻科・形成外科とのチームにより困難な手術例に対する種々のアプローチを研究している．

虚血脳や脊髄損傷における骨髄移植による神経再生の基礎実験を臨床応用に向けて研究中である．

〈研究業績〉

原　著

1. Kato T, Tsuchida T and Kawamoto K（2005）Blood tumor permeability of experimental brain tumor: An electron microscopic study using lanthanum. Neuropathology 25: 21–26
2. Ohshige H, Kasai H, Imahori T, Ryu T, Azuma K, Yoshimura K, Yamanouchi Y and Kawamoto K（2005）A case of petrous bone myxoid chondrosarcoma associated with cerebellar hemorrhage. Brain Tumor Pathol 22: 41–44
3. Kawamoto K, Azuma K, Ryu T, Sakurai Y, Li Q and Numa Y（2005）Clinical application for cytometric analysis of DNA-ploidy in glioma. 13th World Congress of Neurological Surgery Proceeding 647–652
4. 瀬野敏孝，吉村晋一，稲垣隆介，笠井治文，川上勝弘，山内康雄，河本圭司（2005）眼窩内

腫瘍の外科的治療．小児の脳神経　30 : 25–25
5. 久徳茂雄，富野祐里，井上唯史，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司，小川　豊（2005）頭蓋冠拡大術における延長器の小さな問題点．日本頭蓋顎顔面外科学会誌　21 : 1–7
6. 沼　義博，辻　雅之，大石哲也，川口琢也，山内康雄，河本圭司（2005）下垂体卒中の臨床経過，病理，DNA 量の検討．日本内分泌学会雑誌　Vol. 81 Suppl 114–117
7. 我妻敬一，龍　尭志，櫻井靖夫，大重英行，笠井治文，沼　義博，山内康雄，河本圭司（2005）頭蓋骨外進展を認めた髄膜腫の浸潤能についての検討．Neuro-Oncologyの進歩　14 : 30–37
8. 沖井　裕，河本圭司，赤根　敦，岩瀬正顕，吉岡正太郎，大石哲也，中谷壽男（2005）脳波自動解析システムを用いた平坦脳波の経時的に解析した一例. Neurosurgical Emergency　10 : 107–111
9. 河本圭司，中嶋安彬（2005）原発性頭蓋骨腫瘍．Clinical Neuroscience　23 : 556–561
10. 上坂達郎，稲垣隆介，川口琢也，今堀　巧，吉村晋一，李　　強，山内康雄，河本圭司（2005）小児未分化腫瘍の一例．Neuro-Oncology の進歩　14 : 44–45
11. 大石哲也，櫻井靖夫，笠井治文，今堀　巧，龍　尭志，李　　強，山内康雄，河本圭司，坂井田紀子（2005）Peteroclival tumor の一例．Neuro-Oncologyの進歩　14 : 47–48
12. 龍　尭志，沼　義博，笠井治文，李　　強，山原崇弘，河本圭司，坂井田紀子，植村芳子（2005）頭蓋骨腫瘍と髄膜腫がみられた励 Skull tumor と secretary meningioma の一例．Neuro-Oncologyの進歩　14 : 52–53
13. 我妻敬一，笠井治文，龍　尭志，李　　強，吉村晋一，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）脳室内腫瘍の一例．Neuro-Oncology の進歩 14 : 57
14. 山内康雄，稲垣隆介（2005）広範囲かつ LAN を使用した脊髄髄膜瘤クリニックの構築―多診療科・多施設間の共有するための二分脊椎症患児データベース作成の試みとデータ共有の可能性についての検討も含めて―．厚生労働省精神・神経疾患研究委託（14 指 -4）二分脊椎症の診断・治療及び予防システムに関する研究平成16年度研究報告　105–109
15. 河本圭司（2005）骨髄幹細胞を用いた虚血脳における神経再生の基礎的研究．平成 15 年度～平成 16 年度科学研究費補助金基盤研究（C）(2) 研究成果報告書

総　説

1. 白根礼造，林　俊哲，稲垣隆介（2005）進行性骨折．Clinical Neuroscience 23 : 554–555
2. 河本圭司，李　　強，我妻敬一，龍　尭志，櫻井靖夫（2005）脳腫瘍の診断と治療―最新の研究動向―．日本臨床　63増刊号9 : 105–109

学会発表

1. 稲垣隆介（2005）脳神経外科最近の話題．第10回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
2. 稲垣隆介（2005）水頭症治療：シャント術と神経内視鏡．Treatment for Hydrocephalus-Updated, 大阪
3. 稲垣隆介（2005）頭蓋縫合早期癒合症の治療．第25回日本脳神経外科コングレス，山口
4. 河本圭司（2005）文化講演　シャレコーベの謎．第64回日本脳神経外科学会総会，横浜
5. 河本圭司（2005）シャレコーベは語る．第 17 回日本頭蓋底外科学会，大阪
6. 山内康雄（2005）二分脊椎，水頭症児の見逃してはならない症状．「夏の研修会」財団法人二分脊椎・水頭症研究振興財団，神戸
7. 河本圭司（2005）脳腫瘍病理の先人との出会い．第37回日本臨床分子形態学会，大阪
8. Kawamoto K（2005）Cellular proliferation in cases of the autopsy comparing with neuro-imaging in glioblastoma. Harbin International Neurosurgical Conference 2005, Harbin
9. 沼　義博（2005）前頭蓋底腫瘍，及び近傍腫瘍に対する頭蓋底アプローチ．第 10 回日本脳腫瘍の外科学会，佐賀
10. 河本圭司（2005）悪性グリオーマの手術範囲の決定―形態と cell kinetics．第10回日本脳腫瘍の外科学会，佐賀
11. 河本圭司（2005）先端医工学機器（LSC）を用いた脳腫瘍診断及び治療への応用．第6回脳腫瘍フォーラム in Nagoya，名古屋
12. Kawamoto K（2005）Recent evaluation of malig-

nancy in glioma. The 2rd annual meeting of the Chinese Society of Neuro-oncology, Cheng-Du
13. Yamanouchi Y（2005）Posterior Fossa Cysts and Dandy Walker malformation. Asia Pacific Course in Pediatric Neurosurgery 2nd part, Kobe
14. Inagaki T, Yamanouchi Y and Kawamoto K（2005）The neural tube and heart defects: our experience. Society for Research into Hydrocephalus and Spina Bifida 49th Annual Scientific Meeting, Barcelona
15. Kawamoto K, Azuma K, Ryu T, Sakurai Y, Li Q and Numa Y（2005）Clinical application for cytometric analysis of DNA-ploidy in glioma. WFNS, Marrakesh
16. Inagaki T（2005）The intracranial pressure in mild craniosynostosis. 55th Annual Meeting of Congress of Neurological Surgeons, Boston
17. Iwase M, Yoshioka S, Kanzaki S, Tanaka T, Nakatani T and Kawamoto K（2005）Intensive care for the severe closed head injury. 3rd World Congress of the Academy for Multidisciplinary Neurotraumatology, Nagoya
18. Li Q, Zhang J, Zhao S and Kawamoto K（2005）Expression of Rb2/p130 protein correlates with the degree of malignant gliomas. Harbin International Neurosurgical Conference 2005, Harbin
19. Li Q, Ryu T, Azuma K, Ohshige H, Murakami T, Numa Y, Yamanouchi Y, Chen Z, Zhao S and Kawamoto K（2005）Analysis of six cytokines in cystic fluids associated with cystic brain tumors measured by cytometric bead array. The 2rd annual meeting of the Chinese Society of Neuro-oncology, Cheng-Du
20. 河本圭司，櫻井靖夫，龍　尭志，我妻敬一，李　　強，沼　義博，笠井治文，稲垣隆介，山内康雄（2005）Glioblastomaにおける画像・剖検脳から腫瘍細胞浸潤の検討．第28回日本脳神経CI学会，高松
21. 河本圭司，櫻井靖夫，龍　尭志，我妻敬一，李　　強，沼　義博，笠井治文，稲垣隆介，山内康雄（2005）Glioblastomaと正常脳とのインターフェース―画像と剖検脳の比較．第23回日本脳腫瘍病理学会，東京
22. 岩瀬正顕，矢吹　輝，中谷健治，吉岡正太郎，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2005）重症脊髄損傷例の急性期管理．第10回日本脳神経外科救急学会，名古屋
23. 沖井　裕，河本圭司，赤根　敦，岩瀬正顕，吉岡正太郎，中谷壽男（2005）32例の平坦脳波の自動解析．第10回日本脳神経外科救急学会，名古屋
24. 沼　義博，吉村晋一，笠井治文，辻　雅之，川口琢也，山内康雄，河本圭司（2005）下垂体卒中の臨床経過，病理，DNA量の検討．第15回日本間脳下垂体腫瘍学会，東京
25. 岩瀬正顕，松島貴志，吉岡正太郎，中谷健治，中村誠也，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2005）頭皮・頭蓋欠損例に対する急性期頭蓋再建術の術式と問題点．第8回日本臨床救急医学会総会，東京
26. 河本圭司（2005）LSCを用いたglioma切除部位決定への臨床応用．厚生労働科学研究費補助金がん治療のための革新的新技術の開発「がんの診断・治療における計量細胞学の役割」，東京
27. 瀬野敏孝，吉村晋一，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司　小脳未熟奇形腫の一例．第33回日本小児神経外科学会，奈良
28. 沖井　裕，赤根　敦，河本圭司，岩瀬正顕，吉田　学，吉村澄孝，時安太久麿，綿引利充（2005）脳波自動解析システムで解析した平坦脳波．第89回日本法医学会，高松
29. 吉村晋一，塚崎裕司，今堀　巧，我妻敬一，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）椎骨動脈閉塞を行った椎骨動脈瘤の検討．第34回日本脳卒中の外科学会，岩手
30. 岩瀬正顕，吉岡正太郎，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2005）高血圧性脳出血を発症した慢性維持透析患者治療の現状．第30回日本脳卒中学会，岩手
31. 河本圭司（2005）頭蓋骨からみた人類の進化．第17回日本頭蓋底外科学会，大阪
32. 沼　義博，塚崎裕司，山内康雄，河本圭司（2005）眼窩内腫瘍の手術．第17回日本頭蓋底外科学会，大阪
33. 加藤隆行，龍　尭志，李　　強，我妻敬一，河本圭司（2005）ランタナムを用いた脳腫瘍の血液腫瘍透過性の検討．第37回日本臨床分子

形態学会，大阪
34. 山田明史，龍 尭志，李 強，我妻敬一，河本圭司（2005）コラーゲンゲルによる脳腫瘍の培養および微細構造の検討．第37回日本臨床分子形態学会，大阪
35. 瀬野敏孝，稲垣隆介，川口琢也，我妻敬一，大石哲也，山原崇弘，塚崎裕司，吉村晋一，山内康雄，河本圭司，久徳茂雄（2005）軽度狭頭症の頭蓋内圧の検討．第64回日本脳神経外科学会総会，横浜
36. 沼 義博，川口琢也，吉村晋一，山内康雄，河本圭司（2005）下垂体卒中の臨床病理学的検討．第64回日本脳神経外科学会総会，横浜
37. 岩瀬正顕，吉岡正太郎，神嵜清一郎，中谷壽男，河本圭司（2005）高度救命救急センターにおける複合外傷救急体制の現状―脳神経外科医に求められるもの―．第64回日本脳神経外科学会総会，横浜
38. 瀬野敏孝，吉村晋一，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）乳児小児奇形種の1例．第49回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会，千里
39. 笠井治文，大石哲也，吉村晋一，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）頭蓋内伸展を認めた頭蓋底chondroid chordomaの一例．第62回近畿脳腫瘍研究会，京都
40. 山原崇弘，櫻井靖夫，稲垣隆介，瀬野敏孝，吉村晋一，山内康雄，河本圭司（2005）小脳腫瘍を合併した頚髄腫瘍の小児例．第28回日本脳神経CI学会，高松
41. 我妻敬一，吉村晋一，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）椎骨脳底動脈の蛇行が原因と考えられた三叉神経痛．第28回日本脳神経CI学会，高松
42. 李 強，龍 尭志，我妻敬一，櫻井靖夫，笠井治文，沼 義博，山内康雄，村上知之，河本圭司（2005）脳腫瘍cyst液のサイトカインの動態．第23回日本脳腫瘍病理学会，東京
43. 我妻敬一，吉村晋一，笠井治文，塚崎裕司，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）痙攣で発症した天幕上毛細血管拡張症の一例．第33回日本小児神経外科学会，奈良
44. 我妻敬一，吉村晋一，大石哲也，川口琢也，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）小児小脳膠芽腫の1例．第33回日本小児神経外科学会，奈良
45. 我妻敬一，仙波都志香，龍 尭志，李 強，櫻井靖夫，沼 義博，河本圭司（2005）Sortingによる微量細胞の電顕用試料作成法―その2―．第15回日本サイトメトリー学会，名古屋
46. 李 強，龍 尭志，我妻敬一，保坂直樹，池原 進，河本圭司 CD34-bone marrow cells in adult mice appear as neuron-like cells by ex vivo treatment. 第23回日本ヒト細胞学会，筑波
47. 李 強，龍 尭志，我妻敬一，保坂直樹，池原 進，河本圭司（2005）ex vivoでlin-CD34-骨髄細胞の神経細胞への誘導文化について．第6回日本分子脳神経外科学会，大阪
48. 李 強，櫻井靖夫，龍 尭志，我妻敬一，笠井治文，沼 義博，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）Immunohistochemical and flow cytometric analysis of p53 and DNA content in glioma. 第37回日本臨床分子形態学会，大阪
49. 我妻敬一，龍 尭志，李 強，櫻井靖夫，吉村晋一，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）AT/RTの免疫組織学的，電子顕微鏡学的検討．第37回日本臨床分子形態学会，大阪
50. Li Q, Ryu T, Azuma K, Hosaka N, Ikehara S and Kawamoto K（2005）Neuronal differentiation of CD34 bone marrow cell in adult mice by ex vivo treatment. 第64回日本脳神経外科学会総会，横浜
51. 我妻敬一，吉村晋一，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）椎骨脳底動脈の蛇行が原因と考えられた三叉神経痛．第28回日本脳神経CI学会，高松
52. 李 強，我妻敬一，龍 尭志，大重英行，沼義博，村上知之，河本圭司（2005）脳腫瘍cyst液のサイトカインのマルチ解析．第15回日本サイトメトリー学会，名古屋
53. 我妻敬一，吉村晋一，今堀 巧，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）高度に拡張蛇行した椎骨脳底動脈により発症した三叉神経痛および顔面痙攣の1例．第49回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会，千里
54. 我妻敬一，瀬野敏孝，山原崇弘，櫻井靖夫，吉村晋一，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）AT/RTの免疫組織学的，電子顕微鏡学的検討．第50回日本脳神経外科学会近畿支部学術集

会，京都

55. 川口琢也，稲垣隆介，山原崇弘，大石哲也，辻　雅之，龍　尭志，櫻井靖夫，山内康雄，河本圭司，北村直行，木下　洋（2005）低体重出生児の脳室内出血後水頭症の検討．第8回日本水頭症治療シンポジウム，北九州
56. 川口琢也，山原崇弘，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司，北村直行（2005）骨形成不全症（IIc）に合併する水頭症．第33回日本小児神経外科学会，奈良
57. 龍　尭志，保坂直樹，崔文昊，李　　強，西田晃久，稲葉宗男，河本圭司，池原　進（2005）胸腺移植を併用した新しい骨髄移植の開発―超致死量放射線照射したマウスを用いて―．第94回日本病理学会総会，横浜
58. 龍　尭志，吉村晋一，我妻敬一，李　　強，保坂直樹，稲垣隆介，沼　義博，山内康雄，久米利明，赤池昭紀，池原　進，河本圭司（2005）神経保護物質を用いた脊髄損傷に対する機能的評価．第64回日本脳神経外科学会総会，横浜
59. 川口琢也，稲垣隆介，瀬野敏孝，大石哲也，山原崇弘，龍　尭志，櫻井靖夫，山内康雄，河本圭司（2005）低体重出生児脳室内出血の治療方針．第64回日本脳神経外科学会総会，横浜
60. 笠井治文，今堀　巧，稲垣隆介，塚崎裕司，山内康雄，河本圭司（2005）転移性脳腫瘍に対する外科治療の役割．第64回日本脳神経外科学会総会，横浜
61. 吉村晋一，川口琢也，瀬野敏孝，上坂達郎，大石哲也，山原崇弘，我妻敬一，大重英行，龍　尭志，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）外来受診時無症候であったラクナ梗塞の検討―TIAからいかに脳梗塞への進行を防ぐか―．第64回日本脳神経外科学会総会，横浜
62. 岩瀬正顕，浅井　悌，吉岡正太郎，梶本心太郎，平川昭彦，中谷壽男，河本圭司（2005）院外心肺停止に対する脳低温療法の現状．第33回日本救急医学会，埼玉
63. 川口琢也，塚崎裕司，今堀　巧，笠井治文，大重英行，瀬野敏孝，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）結節性多発動脈炎に合併した内頸動脈解離性動脈瘤に対しての治療経験．第62回近畿脳腫瘍研究会，京都
64. 辻　雅之，沼　義博，川口琢也，吉村晋一，山内康雄，河本圭司（2005）下垂体卒中の臨床病理学的検討．第61回近畿脳腫瘍研究会，千里

著　書

1. 稲垣隆介（2005）胎児期水頭症　診断と治療ガイドライン　山崎麻美（編集責任者）1–213頁，金芳堂，京都
2. 河本圭司（2005）アトラス頭蓋骨学　基礎と臨床　メディカ出版，大阪
3. 河本圭司，久徳茂雄（2005）第1章　頭蓋骨の発生・成長．アトラス頭蓋骨学　基礎と臨床（河本圭司編著）1–12頁，メディカ出版，大阪
4. 河本圭司（2005）第2章　頭蓋骨の細胞・組織・解剖．アトラス頭蓋骨学　基礎と臨床（河本圭司編著）17–53頁，メディカ出版，大阪
5. 河本圭司（2005）第3章　頭蓋骨の放射線診断．アトラス頭蓋骨学　基礎と臨床（河本圭司編著）59–103頁，メディカ出版，大阪
6. 河本圭司，岩瀬正顕，久徳茂雄，川上勝弘（2005）第4章　頭蓋骨の外傷．アトラス頭蓋骨学　基礎と臨床（河本圭司編著）115–143頁，メディカ出版，大阪
7. 河本圭司，中嶋安彬（2005）第5章　頭蓋骨の腫瘍．アトラス頭蓋骨学　基礎と臨床（河本圭司編著）147–215頁，メディカ出版，大阪
8. 河本圭司，稲垣隆介（2005）第6章　頭蓋骨の奇形．アトラス頭蓋骨学　基礎と臨床（河本圭司編著）225–247頁，メディカ出版，大阪
9. 河本圭司，河本光平（2005）第7章　頭蓋骨の感染．アトラス頭蓋骨学　基礎と臨床（河本圭司編著）253–260頁，メディカ出版，大阪
10. 河本圭司，久徳茂雄（2005）第8章　頭蓋骨の手術，形成術，拡大術．アトラス頭蓋骨学基礎と臨床（河本圭司編著）271–293頁，メディカ出版，大阪
11. 河本圭司，久徳茂雄，稲垣隆介，山内康雄（2005）第8章　頭蓋骨の手術，形成術，拡大術．アトラス頭蓋骨学　基礎と臨床（河本圭司編著）294–304頁，メディカ出版，大阪
12. 河本圭司，沼　義博，久徳茂雄，川上勝弘（2005）第9章　頭蓋底の外科．アトラス頭蓋骨学　基礎と臨床（河本圭司編著）311–348頁，メディカ出版，大阪

整形外科学講座

〈研究概要〉

〈手の外科〉

リウマチ手の変形や腱損傷，外傷による手の障害に対し外科的治療を行うと共に種々の手関節疾患に対し，手関節鏡等を用いその病態の解明を行っている．手だけでなく上肢全般に外傷等での手術の工夫や手指の短縮に対する仮骨延長を用いた手指の延長も行い良好な成績を得ている．また，腱移行や腱を用いた手の再建手術に対しハンドセラピストと密接に連携を保ち，術後早期よりの運動療法を行いこれらの臨床成績について報告の機会を得た．

〈電気生理診断学〉

電気生理学的手法を用いて，中枢・末梢神経を対象とした基礎的・臨床的研究を行ってきた．臨床面では術中脊髄モニタリングの臨床応用，脊髄症術中診断に用い，その成果を上げた．基礎的研究では，末梢神経有連続性損傷に対する端側吻合の原理を引用したbypass移植術の有用性，末梢神経端側吻合後の再生軸索の起源をウサギ腓骨神経損傷モデルを用いて証明し，国内外の末梢神経関連学会，雑誌に発表した．

〈関節疾患〉

関節炎，関節症に対して，人工関節置換術，主にその術後成績を検討してきた．特に人工関節では新しいタイプのインプラントの使用や開発を行いセメントテクニックについて追求しつつ臨床応用している．また，人工関節術後の緩みや感染に広範囲に骨欠損を認める場合，同種骨を併用し様々な角度からの再建を行っている．種々の鏡視下手術も行い検討を行っている．

〈脊椎外科〉

脊椎外科全般に関して，臨床的研究を行っている．主たる内容は，脊椎外科における低侵襲手術，頚髄症に対する後方支持組織温存術式の開発，頚椎椎間板ヘルニアに対する後方からの摘出術，術後C5麻痺の発生メカニズム，脊椎感染症の外科的治療，骨粗鬆症性の脊椎骨折後の遅発性神経障害の病態，胸腰椎に対する脊椎インストルメンテーションの合併症，脊椎固定術後の隣接椎障害等であり，手術成績の向上に努めている．特に顕微鏡下の脊椎手術を積極的に行ない，侵襲の少ない術式の開発に取り組んでいる．研究面では，一昨年に引き続き，腰椎前方固定術式のバイオメカニカルな検討を行なっている．

〈研究業績〉

原　著

1. Fujita H, Kitaori T, Iida H, Shimizu K, Hirosima Y, Kawanabe K and Nakamura T（2005）Novel Intramedullary Plug with Sliding Mechanism Used in Revision Total Knee Arthroplasty. J Biomed Mater Res（part B）: Appl Biomater 74B: 419–422
2. Kawanabe K, Tanaka K, Tamura J, Shimizu M, Onishi E, Iida H and Nakamura T（2005）Effect of alumina femoral head on clinical results in cemented total hip arthroplasty: old versus current alumina. J Orthop Sci 10: 378–384
3. Sasai K, Saito T, Ohnari H, Yamamoto T, Kasuya T, Wakabayashi E, Akagi S and Iida H（2005）Microsurgical Posterior Herniotomy With En Bloc Laminoplasty Alternative Method for Treating Cervical Disc Herniation. J Spinal Disord Tech 18: 171–177
4. Takemura S, Sasai K, Ohnari H, Ichikawa N, Akagi S and Iida H（2005）Brown-Sequard-plus syndrome due to stab injury: a case report. Spinal Cord 6; [Epub ahead of print]
5. Taira M, Inaba M, Takada K, Baba S, Hukui J, Ueda Y, Kwon AH, Kamiyama Y and Ikehara S（2005）Treatment of Streptozotocin-Induced

Diabetes Mellitus in Rats by Transplantation of Islet Cells from Two Major Histocompatibility Complex Disparate Rats in Combination with Intra Bone Marrow Injection of Allogeneic Bone Marrow Cells. Transplantation 79(6): 680–687
6. Baba S, Inaba M, Iwai H, Taira M, Takada K, Hisha H, Yamashita T and Ikehara S（2005）Intra-bone marrow-bone marrow transplantation facilitates hemopoietic recovery including dendritic cells. Immunobiology 210: 33–42
7. Takada K, Inaba M, Ichioka N, Ueda Y, Taira M, Baba S, Mizokami T, Wang X, Hisha H, Iida H and Ikehara S（2006）Treatment of senile osteoporosis in SAMP6 mice by intra-bone marrow injection of allogeneic bone marrow cells. Stem Cells 2006 24: 399–405
8. 福田　登，児島　新，今田直紀，飯田寛和（2005）鎖骨遠位端切除術後に腕神経叢麻痺を発症した1例．肩関節　29: 465–468
9. おおえ賢一，千束福司，池田　登，三木堯明，上尾豊二（2005）腰椎変性すべり症に対する椎間板切除術の有用性．整形・災害外科　48: 1663–1067
10. 中村誠也，重栖　孝，宮島茂夫，飯田寛和（2005）抗生物質混入骨セメント髄内釘・ロットによる長管骨骨髄炎の治療．整形外科　56: 766–769
11. 小津　敏，笹井邦彦，梅田眞志，飯田寛和，安原由美子，螺良愛郎（2005）馬尾に発生した傍神経節腫の1例．整形外科　56: 406–409
12. 岡本泰三，松田康孝，梁瀬義章（2005）腰椎変性疾患の再手術例に対する後方侵入椎体間固定術の検討．整形外科　56: 1548–1552
13. おおえ賢一，上尾豊二（2005）関節リウマチに伴う特異な足部変形の1例．整形外科　56: 1605–1608
14. おおえ賢一，千束福司，池田　登，三木堯明，上尾豊二（2005）腰椎変性辷り症に対する非固定術の中間成績．中部整災誌　48: 61–62
15. 中村知寿，和田孝彦，徳永裕彦，飯田寛和（2005）制御型カップを用いた人工股関節置換術の治療経験．中部整災誌　48: 739–740
16. 小室　元，村田光正，村田　実，大貫正秀，小林和彦（2005）高齢者大腿骨頚部骨折における乳幼児モデルを使用した転倒動作の再現．中部整災誌　48: 655–656
17. 村田　実，村田光正，小室　元（2005）大腿骨転子部骨折CHS法におけるガイドピン刺入用アングルガイドの工夫．中部整災誌　48: 747–748
18. おおえ賢一，池田　登，小谷博信，上尾豊二（2005）手指MP関節部伸筋腱脱臼の検討．中部整災誌　48: 955–956
19. 佐々木万弓，浅野大洋，前川　徹，三木孝人，脇田重明（2005）CHSにおける前捻プレートの有用性について．中部整災誌　48: 1045–1046
20. 山本　慶，大野博史，和田孝彦，飯田寛和（2005）膝窩部嚢腫により絞扼性脛骨神経障害をきたした一例．中部整災誌　48: 1033–1034
21. 佐々木万弓，脇田重明（2005）Modified Trans-gluteal Approach（Dall）によるTHAにおける大転子部切離骨片の検討．Hip Joint 31: 573–576
22. 檀野祥三，地崎竜介，福井勝一，松田公志，松矢浩暉，飯田寛和（2005）M-VAC療法中に合併したMRSA化膿性脊椎炎の1例．泌尿紀要 51: 389–392
23. 中村誠也，飯田寛和，浅井聖子，南川義隆（2004）リウマチ手の術後におけるスプリント療法の工夫．日本手の外科学会雑誌　21(4): 364–368
24. 中村誠也，飯田寛和，児島　新（2005）中手骨に対する仮骨延長法の検討．日本手の外科学会誌　22(3): 246–249
25. 中村誠也，飯田寛和，中谷健治，中谷寿男（2005）上肢の骨接合に対するLimited Contact-LCP plateを用いた治療経験．骨折　27(1): 289–291
26. 加藤勇司（2005）腰椎前方固定に用いる新しいinterlocking deviceの開発と初期固定性について．日本脊椎インストゥルメンテーション学会誌　4(1): 51–55
27. 飯田寛和（2005）人工股関節に関わる諸問題．骨・関節・靱帯　18: 351–358
28. 山本龍範，高　英卓（2005）半月板損傷．SEIKEI-GEKA KANGO 10: 76–84
29. 坂井田稔（2005）変形性膝関節症．SEIKEI-

GEKA KANGO 10: 77–86
30. 竹村清介（2005）外反母趾. SEIKEI-GEKA KANGO 10: 79–83
31. 斉藤貴徳（2005）胸郭出口症候群. SEIKEI-GEKA KANGO 10: 50–58
32. 徳永裕彦（2005）臼蓋形成不全. SEIKEI-GEKA KANGO 10: 74–78
33. 加藤勇司（2005）大腿骨骨幹部骨折. SEIKEI-GEKA KANGO 10: 489–495

学会発表

1. 笹井邦彦.大成浩征，若林　英，梅田眞志，赤木繁夫, 飯田寛和(2005)Microsurgical unilateral total flavectomy for lumbar spinal canal stenosis. 第16回日韓合同整形外科会議，岐阜
2. 若林　英,笹井邦彦，梅田眞志，赤木繁夫，飯田寛和（2005）The anterior floating method using intraoperative three-dimensional fluoroscopy for a patient with cervical myelopathy due to OPLL. 第16回日韓合同整形外科会議，岐阜
3. Iida H, Wada T and Matsuya H（2005）Total Hip Arthroplasty for Crowe 4 Dislocation Using Direct Lateral Approach. The 18th Annual Symposium of the International Society for Technology in Arthroplasty（ISTA2005）, 京都
4. Oe K, Miki T and Ueo T（2005）Long-term Results of Charnley low-friction arthroplasty after a minimum follow-up of 20 years. The 18th Annual Symposium of the International Society for Technology in Arthroplasty（ISTA2005）, 京都
5. Ohno H, Miyashima S and Iida H（2005）A case report: Why did the high flex insert come out of the tibial baseplate in Genesis II? The 18th Annual Symposium of the International Society for Technology in Arthroplasty（ISTA2005）, 京都
6. Wada T, Matsuya H, Tokunaga H and Iida H（2005）Treatment of infected arthroplastic hip using antibiotics loaded acryl cement. The 18th Annual Symposium of the International Society for Technology in Arthroplasty（ISTA2005）, 京都
7. Matsuya H, Wada T, Suzuki F and Iida H（2005）Short-term results of impacted cancellous allograft and cement for revision total hip arthroplasty — with smooth surface long stem —. The 18th Annual Symposium of the International Society for Technology in Arthroplasty（ISTA2005）, 京都
8. 梅田眞志,笹井邦彦，若林　英，赤木繁夫，飯田寛和（2005）Meatastasis to the cauda equina originated from carcinoma of the prostate. 第16回日韓合同整形外科会議，岐阜
9. 井上　豪，和田孝彦，飯田寛和（2005）臀筋内脱臼股関節症に対する大腿骨転子下短縮骨切り術併用THAの経験. 第35回日本人工関節学会，沖縄
10. 飯田寛和，和田孝彦，松矢浩暉（2005）セメントステムの正確な挿入のためのデバイスについて. 第35回日本人工関節学会，沖縄
11. 和田孝彦, 飯田寛和(2005)当院で行った Triple Taper Polished Stem（C-Stem）の短期成績. 第35回日本人工関節学会，沖縄
12. 森　康治，和田孝彦，飯田寛和（2005）股臼再建に対するKTプレート使用の短期成績. 第35回日本人工関節学会，沖縄
13. おおえ賢一，池田　登，齊籐　晋，大西　勉，小谷博信，三木尭明，上尾豊二（2005）Charnley式人工股関節置換術後20年以上の長期成績. 第35回日本人工関節学会，沖縄
14. 小室　元，村田光正，村田　実（2005）高齢者大腿骨頚部骨折における乳幼児モデルを使用した転倒動作の再現. 第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
15. 黒井亜弥，二宮俊憲，中島保典，長谷川充子，小川浩司（2005）肩鎖関節プレートを用いた鎖骨遠位端骨折の治療経験. 第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
16. 笹井邦彦，斉藤貴徳，大成浩征，赤木繁夫，飯田寛和（2005）頚椎椎間板ヘルニアに対する椎弓形成術と椎間孔拡大術を併用した顕微鏡視下後方摘出術. 第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
17. 小林義輝，和田孝彦，飯田寛和（2005）当院における人工股関節置換術後の脱臼例の検討. 第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪

18. 中村知寿，和田孝彦，飯田寛和，徳永裕彦（2005）制御型カップを用いた全人工股関節置換術の治療経験．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
19. 松矢浩暉，和田孝彦，飯田寛和（2005）特発性骨壊死症に対する自家骨髄細胞移植の効果―ステロイド性骨壊死家兎を用いて―．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
20. 村田　実，村田光正，小室　元（2005）大腿骨転子部骨折CHS法におけるガイドピン刺入用アングルガイドの工夫．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
21. 竹村清介，高　英卓，山本龍範，浜田智志，飯田寛和（2005）前十字靱帯再建術後に感染を来しスポーツ復帰した一例．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
22. 栂野弘毅，大成浩征，赤木繁夫，笹井邦彦，飯田寛和（2005）成人で脊髄症状を発症したモルキオ病の一例．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
23. 前川　徹，脇田重明，浅野太洋，佐々木万弓，三木孝人（2005）椎骨動脈不全症を呈したリウマチ性頚椎環軸椎亜脱臼の3例．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
24. 宮島茂夫，赤木繁夫，和田孝彦，竹村清介，飯田寛和（2005）関節リウマチにおける膝関節滑膜切除術の今日的意義―森式滑膜切除術の長期経過例を振り返って―．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
25. 和田孝彦，宮島茂夫，飯田寛和（2005）関節リウマチ患者へのビスフォスホネート剤の抗炎症効果の検討―エチドロネートとアレンドロネートの比較―．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
26. 鈴木史和，和田孝彦，飯田寛和（2005）ロングステムと同種骨による大腿骨再置換術の短期成績．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
27. 井上　豪，和田孝彦，飯田寛和（2005）感染人工関節置換術に対して行った再置換術の経験．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
28. 斉藤貴徳，足立　崇，藤澤礼子，市岡直也，森　良樹（2005）梨状筋症候群の診断と治療．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
29. 大野博史，中村誠也，赤木繁夫，飯田寛和（2005）交通外傷による膝関節後外側支持機構損傷の治療経験．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
30. おおえ賢一，池田　登，小谷博信，上尾豊二（2005）手指MP関節部伸筋腱脱臼の検討．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
31. 児島　新，坂根正則，中村誠也，守屋　円，飯田寛和（2005）小児上腕骨顆上骨折骨接合法について．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
32. 三木孝人，脇田重明，浅野太洋，前川　徹，佐々木万弓（2005）大腿骨頚部骨折に対して早期荷重させたセメントレス人工骨頭置換術後3年以上経過例の検討．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
33. 山本　慶，大野博史，和田孝彦，飯田寛和（2005）膝窩部嚢腫により絞扼性脛骨神経障害をきたした1例．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
34. 小川浩司，黒井亜弥，中島保典，長谷川充子，二宮俊憲（2005）大腿骨転子部骨折に対するガンマネイルの治療成績．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
35. 佐々木万弓，浅野太洋，前川　徹，三木孝人，脇田重明（2005）Compression Hip Screwにおける前捻付プレートの有用性について．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
36. 串田剛俊，大成浩征，田中善章，飯田寛和（2005）経腟的子宮摘出後に急速に発症した化膿性椎間板炎の一例．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
37. 大成浩征，笹井邦彦，若林　英，赤木繁夫，飯田寛和（2005）腰椎椎間板嚢腫の4例．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
38. 松岡成康，玉置譲二，橋谷　実，森　裕之，芦田一彌（2005）大腿骨転子部骨折におけるPFN（proximal femoral nail）の短期治療成績．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
39. 飯田寛和（2005）リウマチ股関節症の手術適応―股関節―．第49回日本リウマチ学会．横浜
40. 宮島茂夫（2005）当科でのレフルノミド登録例．第49回日本リウマチ学会．横浜

41. 谷川暢之，斉藤貴徳，市岡直也，藤澤礼子，飯田寛和（2005）肘部管症候群に対するサージエアトームを用いた上腕骨内上顆切除術．第48回日本手の外科学会，下関市
42. 中村誠也，飯田寛和，児島　新，南川義隆（2005）中手骨に対する仮骨延長法の検討．第48回日本手の外科学会，下関市
43. 斉藤貴徳，市岡直也，藤澤礼子，森　良樹，飯田寛和（2005）全型腕神経叢損傷に対する神経移行術．第48回日本手の外科学会，下関市
44. 松矢浩暉，和田孝彦，串田剛俊，浅田　卓，飯田寛和（2005）特発性骨壊死症に対する自家骨髄細胞移植の効果―ステロイド性骨壊死家兎を用いて―．第78回日本整形外科学会学術総会，横浜市
45. 飯田寛和（2005）人工股関節における温故知新．第78回日本整形外科学会，横浜市
46. 飯田寛和，川那辺圭一，中村孝志，和田孝彦，松矢浩暉（2005）日本人に適したセメント人工股関節の開発と歴史．第78回日本整形外科学会，横浜市
47. 飯田寛和，中村誠也（2005）骨接合，人工関節における金属材料の問題点．第78回日本整形外科学会，横浜市
48. 中村誠也，飯田寛和，中谷壽男（2005）術後の骨，関節感染に対するイリザロフ法を用いた一期的短縮，漸次延長による治療．第18回日本創外固定学会，お台場
49. 菅　俊光，沖井　明（2005）周術期呼吸リハビリテーションとそのシステム．第42回日本リハビリテーション医学会，金沢
50. おおえ賢一，池田　登，小谷博信，三木堯明，上尾豊二（2005）Charnley式人工股関節の長期成績と影響因子．第42回日本リハビリテーション医学会，金沢
51. 笹井邦彦，斉藤貴徳，赤木繁夫，大成浩征，若林　英，梅田眞志，飯田寛和（2005）頚椎症性脊髄神経根症に対する椎弓形成術併用顕微鏡視下椎間孔拡大術．第34回日本脊椎脊髄病学会，仙台市
52. 斉藤貴徳，市岡直也，藤澤礼子，足立　崇，森　良樹，笹井邦彦，飯田寛和（2005）脊髄症を呈した胸椎椎間板ヘルニアの手術療法―後方アプローチによる顕微鏡下椎間板摘出術．第34回日本脊椎脊髄病学会，仙台市
53. 中村誠也，飯田寛和，中谷健二，中谷壽男（2005）本院救命センターにおけるcircular型創外固定器を用いた開放骨折治療について．第31回日本骨折治療学会，富山市
54. 笹井邦彦，吉田雄吾，大成浩征，若林　英，飯田寛和（2005）再発砂時計腫摘出術後に椎骨動脈の仮性動脈瘤破裂を生じた1例．第38回脊椎外科同好会，愛知
55. 福田　登，今田直紀，児島　新，坂根正則，小津　敏，飯田寛和（2005）化膿性肩関節炎に対する上腕骨頭切除・抗生剤含有セメントを用いた治療経験．第32回日本肩関節学会，千葉
56. 笹井邦彦，若林　英，赤木繁夫，飯田寛和，斉藤貴徳，大成浩征（2005）顕微鏡視下胸椎後方片側進入椎弓切除術．第12回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会（JPSTSS），東京
57. 若林　英，笹井邦彦，大成浩征，梅田眞志，赤木繁夫，飯田寛和（2005）術中3DCTを用いた頚椎後縦靱帯骨化症に対する骨化巣浮上術．第12回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会（JPSTSS），東京
58. 大成浩征，笹井邦彦，赤木繁夫，若林　英，梅田眞志，飯田寛和（2005）著しい脊髄萎縮を示した特発性脊椎硬膜外血腫の1例．第12回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会（JPSTSS），東京
59. 小室　元，村田光正，村田実，飯田寛和，大貫正秀，小林和彦，中島聖子（2005）高齢者大腿骨頚部骨折における乳幼児モデルを使用した転倒動作の再現．第7回日本骨粗鬆症学会，大阪
60. 橋谷　実，玉置譲二，松岡成康，森　裕之，芦田一彌（2005）母趾末節骨に発生したカンジタ性骨髄炎の一例．第105回中部日本整形外科災害外科学会，米子
61. 飯田寛和，和田孝彦，松矢浩暉（2005）棚形成術（Spitzy）の適応とその限界．第32回日本股関節学会，新潟
62. 松矢浩暉，和田孝彦，鈴木史和，徳永裕彦，飯田寛和（2005）ロングステムを用いたimpaction allograft法による大腿骨再置換術の短期成績．第32回日本股関節学会，新潟
63. 中村知寿，和田孝彦，徳永裕彦，飯田寛和（2005）制御型カップを用いた人工股関節置換

術の使用経験．第32回日本股関節学会，新潟
64. 和田孝彦，松矢浩暉，徳永裕彦，中村知寿，飯田寛和（2005）寛骨臼に一過性骨萎縮をきたした一例．第32回日本股関節学会，新潟
65. 串田剛俊，Nader G Abraham，池原　進，飯田寛和（2005）血管内皮細胞へ遺伝子導入したHuman heme oxygenase-1 geneのapoptosis抑制効果．第24回日本運動器移植再生医学研究会，横浜
66. 重栖　孝，山田一人，水木伸一，仲田三平（2005）若年関節リウマチ患者への人工膝関節置換術．第33回日本リウマチ・関節外科学会，東京
67. 鈴木史和，大成浩征，笹井邦彦，赤木繁夫，飯田寛和，中谷健治，中村誠也（2005）著しい脊髄萎縮を来した急性胸椎硬膜外血腫の1例．第403回整形外科集談会京阪神地方会，大阪
68. 小林義輝，大野博史，今田直紀，飯田寛和，巽　孝彦（2005）右人工膝関節置換術後に右大腿骨頸部脆弱性骨折を生じた関節リウマチの1例．第404回整形外科集談会京阪神地方会，大阪
69. 浅田　卓，今田直紀，大野博史，宮島茂夫，飯田寛和（2005）単顆型人工膝関節置換術後早期に脛骨プラトー骨折を来した一例．第405回整形外科集談会京阪神地方会，大阪
70. 飯田寛和（2005）臼蓋形成術の適応・手技と長期成績．第17回新潟下肢関節研究会，新潟
71. 飯田寛和（2005）股関節手術のサルベージ．第9回天の川整形外科懇話会，守口市
72. 飯田寛和（2005）人工股関節置換術―前外側アプローチ―．第28回阪神地区整形外科を語る会，兵庫県尼崎市
73. 飯田寛和（2005）股関節手術のサルベージ．第3回広島Bone&Jointセミナー，広島
74. 飯田寛和（2005）人工関節を中心とした臨床上の問題点．シンポジウム「インプラントの力学的評価法の標準化を目指して」，東京
75. 飯田寛和（2005）股関節外科の諸問題．島根整形外科医会，横浜市
76. 飯田寛和（2005）人工股関節に関わる諸問題．福井整形外科医会，福井
77. 飯田寛和（2005）股関節手術のサルベージ．第2回滋賀運動器フロンティア，大津市
78. 飯田寛和（2005）股関節外科のサルベージ．第1回はりま臨床整形外科セミナー，姫路
79. 飯田寛和（2005）股関節手術のサルベージ．京都整形外科医会，京都
80. 松岡成康，森　裕之，橋谷　実，芦田一彌，玉置譲二（2005）治療に難渋した骨盤骨折の一例．第29回阪神地区整形外科を語る会，尼崎
81. 大成浩征，笹井邦彦，赤木繁夫，飯田寛和（2005）腰部脊柱管狭窄症に対する片側進入全周性除圧術．平成17年度（社）西京医師会症例報告会，京都
82. 笹井邦彦（2005）低侵襲脊椎手術．第161回大阪臨床整形外科医会研修会，大阪
83. 笹井邦彦（2005）後縦靱帯骨化症に対する最近の知見について．大阪府寝屋川保健所，大阪
84. 和田孝彦（2005）骨粗鬆症の最近の治療について．北河内学術講演会，大阪
85. 和田孝彦（2005）膠原病リウマチと骨合併症について．膠原病勉強会，大阪
86. 和田孝彦（2005）股関節の病気あれこれ．関西医科大学市民公開講座，寝屋川市
87. 大野博史（2005）関節の病気とその予防について．講演会，守口市
88. 赤木繁夫（2005）高齢者の腰痛・関節痛について．講演会，守口市
89. 梅田眞志，笹井邦彦，大成浩征，赤木繁夫，飯田寛和（2005）Goldenhar症候群による環軸椎亜脱臼を伴った1症例．第104回中部日本整形外科災害外科学会，大阪
90. 浅田　卓，今田直紀，大野博史，宮島茂夫，飯田寛和（2005）単顆型人工膝関節置換術後早期に脛骨プラトー骨折を来した一例．第405回整形外科集談会京阪神地方会，大阪
91. 高田敬蔵，稲葉宗夫，上田祐輔，平　充，馬場　奨，福井淳一，津田雅庸，郭　可泉，李　銘，飯田寛和，池原　進（2005）骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症の治療：SAMP6マウスを用いて．第94回日本病理学会総会，横浜
92. 高田敬蔵，稲葉宗夫，上田祐輔，福井淳一，津田雅庸，坂口雄沢，郭　可泉，李　銘，飯田寛和，池原　進（2005）骨髄内骨髄移植によるSAMP6マウスの老人性骨粗鬆症の治療．第20回老化促進モデルマウス（SAM）研究協議会，東京

93. 高田敬蔵，稲葉宗夫，上田祐輔，福井淳一，津田雅庸，坂口雄沢，郭　可泉，李　　銘，飯田寛和，池原　進（2005）SAMP6マウスを用いた，正常系統からの骨髄内骨髄移植による老人性骨粗鬆症の治療．日本免疫学会総会，学術総会，横浜

著　書

1. 飯田寛和（2005）人工骨頭置換術，人工股関節置換術．整形外科術前・術後のマネジメント　第2版（伊藤達雄，大塚隆信，久保俊一編）195–195頁，医学書院，東京
2. 飯田寛和（2005）インプラント抜去法．股関節外科の要点と盲点（久保俊一編）302–306頁，文光堂，東京
3. 飯田寛和（2005）股関節への側方アプローチDall法（transgluteal approach）．新OS NOW 28 Useful Surgical Approach―定型からオリジナルまで（岩本幸英編）204–210頁，メジカルビュー社，東京
4. 飯田寛和（2005）臼蓋形成術．下肢手術完全マスター（松井宣夫，立石博臣編）58–62頁，メジカルビュー社，東京
5. 笹井邦彦（2005）頚椎椎間板ヘルニアに対する後方ヘルニア摘出術．新OS NOW 27整形外科最新技術―手術のポイントとコツ（高岡邦夫編）177–183頁，メジカルビュー社，東京
6. 斉藤貴徳（2005）頚椎椎弓形成術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）14–25頁，メディカ出版，大阪
7. 赤木繁夫（2005）頚椎前方固定術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）26–34頁，メディカ出版，大阪
8. 大成浩征（2005）腰椎部分椎弓切除術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）35–44頁，メディカ出版，大阪
9. 加藤勇司（2005）腰椎後方侵入椎体間固定術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）45–53頁，メディカ出版，大阪
10. 赤木繁夫（2005）脊椎インストゥルメンテーション．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）54–65頁，メディカ出版，大阪
11. 笹井邦彦（2005）脊椎に対する顕微鏡手術（腰椎後方ヘルニア摘出術）．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）66–76頁，メディカ出版，大阪
12. 二宮俊憲（2005）鎖骨骨折に対する手術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）78–84頁，メディカ出版，大阪
13. 福田　登，橋口淳一（2005）肩鎖関節脱臼に対する手術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）84–91頁，メディカ出版，大阪
14. 福田　登，橋口淳一（2005）腱板修復術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）94–101頁，メディカ出版，大阪
15. 福田　登，橋口淳一（2005）反復性肩関節前方脱臼に対する手術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）102–108頁，メディカ出版，大阪
16. 小室　元（2005）成人上腕骨骨幹部骨折に対する観血的骨接合術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）110–119頁，メディカ出版，大阪
17. 坂根正則（2005）小児上腕骨顆上骨折に対する観血的骨接合術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）120–126頁，メディカ出版，大阪
18. 坂根正則（2005）小児上腕骨外顆骨折に対する観血的骨接合術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）127–132頁，メディカ出版，大阪
19. 児島　新（2005）肘部管症候群に対する観血的手術．OPE NURSING 2005年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）134–144頁，メディカ出版，大阪

20. 中村誠也（2005）両前腕骨骨折に対する観血的骨接合術．OPE NURSING 2005 年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）146–154 頁，メディカ出版，大阪
21. 中村誠也（2005）橈骨遠位端骨折に対する観血的骨接合術．OPE NURSING 2005 年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）155–162 頁，メディカ出版，大阪
22. 児島　新（2005）屈筋腱・伸筋腱断裂に対する手術．OPE NURSING 2005 年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）164–173 頁，メディカ出版，大阪
23. 菅野　博（2005）バネ指に対する手術．OPE NURSING 2005 年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）172–182 頁，メディカ出版，大阪
24. 菅野　博（2005）手指の骨折に対する観血的骨接合術．OPE NURSING 2005 年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）183–189 頁，メディカ出版，大阪
25. 菅野　博（2005）ガングリオンに対する手術．OPE NURSING 2005 年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）190–197 頁，メディカ出版，大阪
26. 児島　新（2005）手根管症候群に対する手術．OPE NURSING 2005 年春季増刊「実践　整形外科手術マニュアル脊椎・上肢編」（飯田寛和編）198–207 頁，メディカ出版，大阪
27. 和田孝彦（2005）人工骨頭置換術（バイポーラ型）．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）12–21 頁，メディカ出版，大阪
28. 和田孝彦（2005）人工股関節置換術．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）22–36 頁，メディカ出版，大阪
29. 山本龍範（2005）大腿骨頸部骨折に対する観血的骨接合術．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）37–54 頁，メディカ出版，大阪
30. 吉栖和仁（2005）大腿骨骨幹部骨折に対する観血的　　骨接合術．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）56–64 頁，メディカ出版，大阪
31. 吉栖和仁（2005）大腿骨遠位部骨折に対する骨接合術．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）65–73 頁，メディカ出版，大阪
32. 宮島茂夫（2005）人工膝関節置換術．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）76–85 頁，メディカ出版，大阪
33. 大野博史（2005）半月板に対する手術．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）86–95 頁，メディカ出版，大阪
34. 大野博史（2005）前十字靱帯再建術（ハムストリングス）．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）96–104 頁，メディカ出版，大阪
35. 高　英卓（2005）前十字靱帯再建術．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）105–113 頁，メディカ出版，大阪
36. 宮島茂夫（2005）膝蓋骨骨折に対するテンションバンド・ワイヤリング法．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）114–120 頁，メディカ出版，大阪
37. 丸山東勲（2005）脛腓骨骨幹部骨折に対する観血的骨接合術．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）122–131 頁，メディカ出版，大阪
38. 丸山東勲（2005）足関節部骨折に対する骨接合術．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）132–141 頁，メディカ出版，大阪
39. 中村誠也（2005）創外固定法による骨折治療．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田寛和編）142–150 頁，メディカ出版，大阪
40. 藤原正富（2005）アキレス腱断裂に対する腱縫合術．OPE NURSING 2005 年秋季増刊「実践　整形外科手術マニュアル　下肢編」（飯田

寛和編）151–159頁，メディカ出版，大阪
41. 坂根正則（2005）足関節外側側副靭帯断裂に対する靱帯縫合術．OPE NURSING 2005年秋季増刊「実践 整形外科手術マニュアル 下肢編」（飯田寛和編）162–170頁，メディカ出版，大阪
42. 玉置譲二（2005）踵骨骨折に対する手術．OPE NURSING 2005年秋季増刊「実践 整形外科手術マニュアル 下肢編」（飯田寛和編）171–179頁，メディカ出版，大阪
43. 竹村清介（2005）外反母趾に対する手術．OPE NURSING 2005年秋季増刊「実践 整形外科手術マニュアル 下肢編」（飯田寛和編）180–186頁，メディカ出版，大阪
44. 若林 英（2005）下腿切断術．OPE NURSING 2005年秋季増刊「実践 整形外科手術マニュアル 下肢編」（飯田寛和編）188–198頁，メディカ出版，大阪
45. 赤木繁夫（2005）腸骨からの移植骨採取術．OPE NURSING 2005年秋季増刊「実践 整形外科手術マニュアル 下肢編」（飯田寛和編）199–206頁，メディカ出版，大阪
46. 児島 新（2005）移植腱採取術．OPE NURSING 2005年秋季増刊「実践 整形外科手術マニュアル 下肢編」（飯田寛和編）207–216頁，メディカ出版，大阪

形成外科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Kusumoto K, Bessho K, Fujimura K, Okubo Y, Wang Y, Kakudo N, Ogawa Y (2005) Tissue reaction at the implantation of recombinant human bone morphogenetic protein-2 into the skeletal muscle. Int J Tissue React 27(4): 181–188
2. Kurokawa I, Mizutani H, Nishijima S, Kusumoto K, Tsubura A (2005) Keratinizing squamous epithelium associated with Syringocystadenoma papilliferum differentiates towards infrainfundibulum: case report with immunohistochemical study of cytokeratins. J Int Med Res 33(5): 590–593
3. Kurokawa I, Nishijima S, Kusumoto K, Senzaki H, Shikata N, Tsubura A (2005) A case report of hidroacanthoma simplex with an immunohistochemical study of cytokeratins. Int J Dermatol 44(9): 775–776
4. Danbara N, Yuri T and Tsujita-Kyutoku M, et al (2005) Enterolactone induces apoptosis and inhibits growth of Colo 201 human colon cancer cells both in vitro and in vivo. Anticancer Res 25: 2269–2276
5. Tsujita-Kyutoku M, Uehara N and Matsuoka Y, et al (2005) Comparison of transformig growth factor-beta/Smad signaling between normal dermal fibroblasts and fibroblasts derived from central and peripheral areas of keloid lesions. In Vivo 19: 959–963
6. Nikaido Y, Danbara N and Tsujita-Kyutoku M, et al (2005) Effects of prepubertal exposure to xenoestrogenon development estrogen target organs in female CD-1 mice. In Vivo 19: 487–494
7. Tsujita-Kyutoku M, Danbara N and Yuri T, et al (2005) Basal cell carcinoma arising from a keratinous cyst of the skin: a case report and review of literature. Med Mol Morphol 38: 130–133
8. Wang YB, Matushima T, Kusumoto K, Ogawa Y (2005) Transplantation of a whole ear allograft by immunological induction of donor-specific tolerance by bone marrow transplantation: an experimental study in rabbits. Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 39(2): 73–76
9. 小川 豊（2005）軽・中等度熱傷の治療．外科 67: 57–63
10. 小川 豊（2005）眼瞼の再建．PEPARS 6: 16–25
11. 小川 豊（2005）下眼瞼の変形に対する再建術．形成外科 48: 527–536
12. 久徳茂雄，河本圭司（2005）頭蓋の発生．Clinical Neuroscience 23: 492–495
13. 久徳茂雄，富野祐里，井上唯史，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司，小川 豊（2005）頭蓋冠

拡大術における延長器の小さな問題点．頭蓋顎顔面外科学会誌　21: 1–7
14. 久徳茂雄（2005）顔面外傷のBlowout fractureと視神経管骨折の治療．痛みと臨床　5(2): 10–16
15. 高橋あんず，才田　聡，河合朋樹，大村馨代，後藤幹生，瀬戸嗣郎，富野祐里，黒岡定浩，久徳茂雄（2005）姉妹けんかで発症した帽状腱膜下血腫．小児科　46: 907–908
16. 大前麻理子，南野雅之，辻　裕之，永田基樹，湯川尚哉，川上勝弘，久徳茂雄，山下敏夫（2005）前頭蓋底手術を施行した腎癌篩骨洞転移症例．頭頸部外科　15: 109–112
17. 田辺敦子，三宅省吾，中島大毅，楠本健司，小川　豊（2005）外鼻変形に対する脂肪注入・移植．洛和会病院医学雑誌　16: 81–83
18. 辻田（久徳）美樹，段原直行，圦　貴司，上原範久，高田秀穂，羽田尚彦，螺良愛郎（2005）共役ドコサヘキサエン酸によるKPL-1ヒト乳癌細胞株における増殖抑制効果．乳癌基礎研　14: 31–35
19. 圦　貴司，段原直行，辻田（久徳）美樹，上原範久，松岡洋一郎，四方伸明，螺良愛郎（2005）Perillyl alcoholのヒト乳癌細胞株に対する増殖抑制効果．乳癌基礎研　14: 17–21
20. 國吉京子，楠本健司，山本一朗，小川　豊（2005）口蓋裂術後の構音指導における軟口蓋挙上装置の効果の検討．形成外科　48(3): 271–279
21. 楠本健司，國吉京子，小川　豊（2005）構音時側方頭部X線規格撮影による鼻咽腔閉鎖能の判定―鼻咽腔閉鎖機能改善の言語治療と手術適応との関係について―．日本頭蓋顎顔面外科学会誌　21(4): 271–278
22. 伊藤文人，菅　豊明，小川　豊（2005）顔面原発メルケル細胞癌6例の臨床経過，治療経過についての検討．日本頭蓋顎顔面外科学会誌　21(1): 14–21
23. 森　雄大，楠本健司，小川　豊，他（2005）熱傷潰瘍に対するフィブラストスプレーの検討．熱傷　32(1): 33–39

学会発表

1. Kyutoku S, Inagaki T, Yamanouchi Y, Inoue T and Tomino Y（2005）Comparison between distraction and conventional procedure for the treatment of craniosynostosis; Outcomes and opinions. XI International Congress / ISCS, Queensland, Australia
2. Takemoto T, Sasao T, Matsushima T, Kuro A, Mori Y and Ogawa Y（2005）A case of maxillary reconstruction with a vascularized iliac osteocutaneous flap after resection of maxillary cancer. 10th International Congress On Oral Cancer, Crete
3. Hisano A, Kasai K, Sakai M and Yamamura Y（2005）A study of the distribution on the face of 509 patients with Acquired Dermal Melanocytosis. The 16th World Congress of the international Society for Laser Surgery and Medicine（Dermatology Plastic Surgery Symposium），東京
4. 葛西健一郎（2005）黒子とシミのレーザー治療の実際．メディカルビューティーフォーラム2005 spring/summer（特別講演），東京
5. 葛西健一郎（2005）Fraxel（Reliant社）を用いたFractional Resurfacingの理論と臨床．第48回日本形成外科学会総会　イブニングセミナー「Non-Surgicalな次世代美容治療」，東京
6. 葛西健一郎（2005）何から始めてどこへ行く．第104回日本皮膚科学会総会　教育講演「skin rejuvenation」，横浜
7. 山村有美，葛西健一郎（2005）いわゆるシミとその治療．第104回日本皮膚科学会総会　教育講演「skin rejuvenation」，横浜
8. 葛西健一郎（2005）美容外科的アプローチ．第4回女性のための抗加齢医学研究会（シンポジウム），大阪
9. Kenichiro Kasai（2005）Laser treatment of Asian facial pigmented disorders. 中華医学会第4回中青年医学美学与美容学術集会（特別講演），中国・大連
10. 葛西健一郎（2005）色素性疾患に対するルビーレーザー治療の実際．第6回トータルアンチエイジングセミナー，東京
11. Kenichiro Kasai（2005）Strategic treatment for acquired pigmented disorders on Asian face. The 16th World Congress of the international Society for Laser Surgery and Medicine（Dermatology

Plastic Surgery Symposium), 東京

12. Yutaka Ogawa（2005）Reconstruction of the Eyelid and Eyesocket. 中国医学会　第4回全国青年医学美学及び美容学術大会　特別講演，中国・大連
13. 南野雅之，辻　裕之，永田基樹，湯川尚哉，大前麻理子，山下敏夫，川上勝弘，久徳茂雄（2005）篩骨洞に転移した腎癌症例．第15回日本頭頚部外科学会
14. 久徳茂雄，富野祐里，井上唯史，安井浩司，中村晶彦（2005）前頭蓋底顔面外傷後の鼻前頭管閉塞による合併症の2例. 第10回日本脳神経外科救急学会，名古屋
15. 上野正人，高垣　寿，萩原　靖，溝端康光，松岡哲也，横田順一郎，富野祐里，久徳茂雄（2005）頭蓋内血流の変動により臨床症状が変化した外傷性頚動脈海面静脈洞瘻の1例. 第10回日本脳神経外科救急学会，名古屋
16. 井上唯史，久徳茂雄，富野祐里，脇田重明，前川　徹（2005）足切断の1例．第20回大阪マイクロサージャリー研究会，大阪
17. 井上唯史，久徳茂雄，富野祐里，元村尚嗣（2005）眼球内転位を呈した眼窩下壁骨折の1例．第16回義眼床手術研究会，浜松
18. 久徳茂雄，井上唯史，富野祐里，川上勝弘，稲垣隆介，山内康雄（2005）頭蓋拡大のための骨延長法と従来法の比較―適応と評価．第48回日本形成外科学会総会，東京
19. 井上唯史，久徳茂雄，富野祐里，森　雄大（2005）整容目的の顔面埋入物の5例．第48回日本形成外科学会総会，東京
20. 稲垣隆介，久徳茂雄，山内康雄（2005）頭蓋縫合早期癒合症の手術について．第25回日本脳神経外科コングレス総会，小倉
21. 久徳茂雄，富野祐里，井上唯史，稲垣隆介，山内康雄（2005）診断が遅れた頭蓋縫合早期癒合症の治療経験．第33回日本小児神経外科学会，奈良
22. 富野祐里，久徳茂雄，井上唯史，中島正明（2005）前頭蓋底眼窩部fibrous dysplasiaの1治療例．第17回日本頭蓋底外科学会，千里
23. 井上唯史，久徳茂雄，富野祐里，辻　裕之，川上勝弘（2005）Supraorbital barを骨切りしない前頭蓋底腫瘍一塊切除法．第17回日本頭蓋底外科学会，千里
24. 加藤裕子，佐藤美香，北野らん子，池田京子，久徳茂雄，富野祐里，井上唯史（2005）がん終末期患者における褥瘡予防の問題点と対策．第7回日本褥瘡学会，横浜
25. 久徳茂雄，加藤裕子，佐藤美香，北野らん子，富野祐里，井上唯史，山中英治（2005）当院における褥瘡対策の医療者教育について．第7回日本褥瘡学会，横浜
26. 佐藤美香，加藤裕子，北野らん子，久徳茂雄，富野祐里，井上唯史（2005）褥瘡対策チーム活動における創傷被覆材の整備と使用法啓発の効果．第7回日本褥瘡学会，横浜
27. 井上唯史，久徳茂雄，富野祐里，三木田直哉，島影達也（2005）フルニエ壊疽を合併した褥瘡4例の治療経験．第7回日本褥瘡学会，横浜
28. 瀬野敏孝，稲垣隆介，川口琢也，我妻敬一，大石哲也，山原崇弘，塚崎裕司，吉村晋一，山内康雄，河本圭司，久徳茂雄（2005）軽度狭頭症の頭蓋内圧の検討．第64回日本脳神経外科学会総会，横浜
29. 辻田（久徳）美樹，安井浩司，竹本剛司，小川豊，久徳茂雄（2005）ケロイド周辺部，ケロイド中央部ならびに正常皮膚由来の線維芽細胞におけるTGFβ/Smadシグナル伝達．第14回日本形成外科学会基礎学術集会，東京
30. 久徳茂雄，瀬野敏孝，稲垣隆介，山内康雄，富野祐里，井上唯史，河本圭司（2005）頭蓋縫合早期癒合軽症例における頭蓋内圧の測定の意義. 第23回日本頭蓋顔面外科学会総会，徳島
31. 久徳茂雄，富野祐里，井上唯史，三木正毅（2005）One flap DCR32例の検討．第23回日本頭蓋顔面外科学会総会，徳島
32. 井上唯史，久徳茂雄，富野祐里，島　盛隆，赤松栄之，佐野寿哉（2005）過去8年間の顎口腔底再建手術について．第32回日本マイクロサージャリー学会，仙台
33. 井上唯史，久徳茂雄，富野祐里，三宅ヨシカズ（2005）動物咬傷に対する再接着術の4例．第32回日本マイクロサージャリー学会，仙台
34. 田辺敦子，三宅省吾，中島大毅，小川　豊（2005）ヒトパピローマウィルスと皮膚癌についての検討．第48回日本形成外科学会総会・学術集会，東京

35. 田辺敦子，小川　豊，楠本健司，王　毅彪，竹本剛司（2005）創傷治癒因子IL6の毛成長への影響．第14回形成外科基礎学術集会，東京
36. 辻田（久徳）美樹，安井浩司，竹本剛司，小川　豊（2005）眼瞼再建を伴う義眼床の再建―lateral orbital flapを中心に―．第23回日本頭蓋顎顔面外科学会，徳島
37. 大西早百合，福田　智（2005）頬骨骨折後に失明を来した外傷性視神経症の1例．第48回日本形成外科学会総会・学術集会，東京
38. 福田　智，大西早百合，奥田大造，錦織吉郎，鶴園浩一郎（2005）成人のNOE Fracに口蓋骨正中矢状骨折を合併した患者の1例．第84回日本形成外科学会関西地方会，大阪
39. 大西早百合，福田　智，小川　豊，笹尾卓史，楠本健司（2005）一般病院で出来る赤外線吸光度による異物（シリコン）検索の1法．第28回日本美容外科学会総会
40. 福田　智，大西早百合，楠本健司，小川　豊（2005）球後部の瘢痕線維性組織にて眼球突出を来した1例．第23回日本頭蓋顔面外科学会総会，徳島
41. 福田　智，大西早百合，小川　豊，三井秀也（2005）MDT後に分層植皮術にて救済し得た糖尿病性足壊死の1例．第35回日本創傷治癒学会
42. 福田　智，大西早百合，小川　豊，三井秀也（2005）MDT後に分層植皮術にて救済し得た糖尿病性足壊死の治療経験．第85回日本形成外科学会関西地方会，大阪
43. 竹本剛司，小川　豊（2005）開瞼縦径（瞼裂高）の体位による変化についての検討．第48回日本形成外科学会総会学術集会，東京
44. 竹本剛司，小川　豊，田辺敦子（2005）マウスにおけるIL-6の毛周期に及ぼす効果に関する実験的研究．第14回日本形成外科学会基礎学術集会，東京
45. 松島貴志，小川　豊，王　毅彪，南方竜也，井上唯史，中村隆之，和田洋巳（2005）トレハロース含有組織保存液を用いた再接着指の術後成績．第48回日本形成外科学会総会・学術集会，東京
46. 國吉京子，楠本健司（2005）鰓弓由来症候群の構音．第29回日本口蓋裂学会，東京
47. 國吉京子，楠本健司，城本　修，讃岐徹治，一色信彦（2005）開鼻声を伴った変声障害症例の治療経験．第50回日本音声言語医学会，横浜
48. 日比野英子，萩尾藤江，余語真夫，國吉京子，山本一郎，楠本健司（2005）唇裂口蓋裂の女性の化粧行動と人格特性の検討．第29回日本口蓋裂学会総会・学術集会，東京
49. 萩尾藤江，日比野英子，楠本健司，國吉京子，山本一郎，タミー木村，余語真夫（2005）青年唇裂患者に対する化粧の心理効果と課題．第29回日本口蓋裂学会総会・学術集会，東京
50. 王　毅彪，楠本健司，小川　豊（2005）動物モデルにおける超早期皮膚移植，早期皮膚移植の生着度の検討．第31回日本熱傷学会総会・学術集会，横浜
51. 下間亜由子，楠本健司，小川　豊（2005）側方頭部X線規格撮影を応用した重度顔面熱傷後の顔面側貌の評価．第31回日本熱傷学会総会・学術集会，横浜
52. 楠本健司，覚道奈津子，小川　豊（2005）人工骨による骨再建とその展望　―ハイドロキシアパタイトを中心に―．第22回日本頭蓋顎顔面外科学会，徳島
53. 久徳美樹，竹本剛司，安井浩司，楠本健司，小川　豊（2005）Lateral orbital flapによる義眼床再建．第22回日本頭蓋顎顔面外科学会，徳島
54. 福田　智，大西早百合，楠本健司，小川　豊（2005）眼窩線維症の1例．第22回日本頭蓋顎顔面外科学会，徳島
55. 南方竜也，楠本健司，松島貴志，竹本剛司，安井浩司，木下慎介，小川　豊（2005）眼窩，頬部に広範に進行性に浸潤した線維症の1例．第22回日本頭蓋顎顔面外科学会，徳島
56. 楠本健司，山本一郎，國吉京子，小川　豊（2005）非接触性光学的動作解析システムによる唇裂例による口唇運動の記録と解析　―片側唇裂術後の健側と患側口唇の動きの比較検討―．第15回日本シミュレーション外科学会，東京
57. 伊藤文人，菅　豊明（2005）眼窩・眼瞼部粉砕異物2例．第16回義眼床手術研究会，浜松
58. 伊藤文人，菅　豊明（2005）眉毛部へのステロイド懸濁液注射による網膜動脈閉塞症―ステロイド懸濁液による重篤な合併症について―．第48回日本形成外科学会総会・学術集会，

東京

59. 伊藤文人，菅 豊明（2005）当院における脂腺母斑28例の検討．第84回日本形成外科学会関西地方会，大阪
60. 伊藤文人，菅 豊明（2005）仙尾部褥瘡に大腿部壊死性筋膜炎，硬膜外膿瘍，腸腰筋膿瘍を合併し死亡にいたった1例．第7回日本褥瘡学会学術集会，横浜
61. 伊藤文人，菅 豊明，田中義人（2005）多発性の基底細胞癌に多発性骨髄腫を合併した1例．第85回日本形成外科学会関西支部学術集会，大阪
62. 伊藤文人，菅 豊明，田中義人（2005）顔面皮膚腫瘍切除後V-Y皮下茎皮弁による再建25例の検討．第22回日本頭蓋顎顔面外科学会，徳島
63. 伊藤文人，菅 豊明，田中義人（2005）坐骨部褥瘡より敗血症にいたり死亡した脊髄損傷患者の1例．第34回KC会，大阪
64. 覚道奈津子，楠本健司，辻田美樹，畔 熱行，小川 豊（2005）BMP-2による異所性骨誘導におけるbFGFの影響．第14回日本形成外科学会基礎学術集会，東京
65. 覚道奈津子，楠本健司，小川 豊（2005）rhBMP-2の異所性骨誘導におけるVEGFの免疫組織学的局在．第35回日本創傷治癒学会，東京
66. 覚道奈津子，楠本健司，畔 熱行，小川 豊（2005）遺伝子組み換えヒト骨形成因子によるラット下腿筋肉内骨誘導におけるbFGFの促進効果．第85回日本形成外科学会関西支部学術集会，大阪

著 書

1. 久徳茂雄，河本圭司（2005）頭蓋骨の発生・成長．アトラス頭蓋骨学（河本圭司編）2–12頁，メディカ出版，大阪
2. 岩瀬正顕，久徳茂雄，川上勝弘，河本圭司（2005）頭蓋骨の外傷．アトラス頭蓋骨学（河本圭司編）116–143頁，メディカ出版，大阪
3. 河本圭司，久徳茂雄（2005）頭蓋骨の手術，形成術．アトラス頭蓋骨学（河本圭司編）272–293頁，メディカ出版，大阪
4. 久徳茂雄，稲垣隆介，山内康雄，河本圭司（2005）頭蓋骨の拡大術．アトラス頭蓋骨学（河本圭司編）293–304頁，メディカ出版，大阪
5. 河本圭司，沼 義博，久徳茂雄，川上勝弘（2005）頭蓋底の外科．アトラス頭蓋骨学（河本圭司編）312–348頁，メディカ出版，大阪

皮膚科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Sasaki H, Itoh T, Akamatsu H, Okamoto H and Horio T（2005）Effect of calcium concentration on the SOD activity and UVB-induced cytotoxicity in cultured human keratinocytes. Photodermatol Photoimmunol Phohotomed 21: 9–14
2. Miyauchi-Hashimoto H, Okamoto H, Sugihara A and Horio T（2005）Therapeutic and prophylactic effects of PUVA photo chemotherapy on atopic dermatitis-like lesions in Nc/Nga mice. Photodermatol Photoimmunol Phohotomed 21: 125–130
3. Miyauchi-Hashimoto H, Sugihara A, Tanaka K and Horio T（2005）Ultraviolet radiation-induced impairment of tumor rejection is enhanced in xeroderma pigmentosum A gene-deficient mice. J Invest Dermatol 124: 1313–1317
4. Yamazaki F, Okamoto H, Matsumura Y, Tanaka K, Kunisada T and Horio T（2005）Development of a new mouse model（xeroderma pigmentosum A-deficient, stem cell factor-transgenic）of ultraviolet B-induced melanoma. J Invest Dermatol 125: 521–525
5. Itoh T, Miyauchi-Hashimoto H, Sugihara A, Tanaka K and Horio T（2005）The photocarcinogenesis of antibiotic lomefloxacin and UVA radiation in enhanced in xeroderma pigmentosum A gene-deficient mice. J Invest Dermatol 125: 554–559

6. Sugihara A, Okamoto H and Horio T（2005）Effect of UVB on fascin expression in dendritic cells and Langerhans cells. J Dermatol Sci 40: 177–185
7. 阿曽沼由香，堀尾　武（2005）孤立性局面を呈したtransient acantholytic dermatosisの1例．皮膚の科学　4: 36–39
8. 太田安紀，水野可魚，杉原　昭，岡本祐之，堀尾　武（2005）Narrow-band UVB療法が奏効した汎発型環状肉芽腫．日皮会誌　115: 893–896
9. 土井理左，橋本洋子，河合修三，堀尾　武（2005）イソプロピルアンチピリンによる固定薬疹の1例．日皮アレルギー　13: 85–88

総　説

1. Horio T, Miyauchi-Hashimoto H and Okamoto H（2005）DNA damage initiates photobiologic reactions in the skin. Photochem Photobiol Sci 4: 709–714
2. 堀尾　武（2005）アスピリン不耐症と皮膚症状．医薬ジャーナル　41: 5–9
3. 堀尾　武（2005）多形日光疹．MB Derma　96: 25–29
4. 上津直子，堀尾　武（2005）日光蕁麻疹．皮膚アレルギーフロンティア　3: 21–24
5. 堀尾　武（2005）日光蕁麻疹．Visual Dermatology　7: 70–71
6. 堀尾　武（2005）光発癌―紫外線免疫抑制と遺伝子変異．Biotherapy　19: 382–389

学会発表

1. Sugihara A, Hayami J, Okamoto H and Horio T（2005）Involvement of cytoskeletal elements in the migration of murine Langerhans cells. 9th International Workshop on Langerhans Cells, Funchal, Portugal
2. Hayami J, Sugihara A, Okamoto H and Horio T（2005）Immunosuppressive effect of photodynamic therapy. 9th International Workshop on Langerhans Cells, Funchal, Portugal
3. 堀尾　武（2005）光発癌―紫外線免疫抑制と遺伝子変異．シンポジウム（第68回日本皮膚科学会東部支部学術大会），東京
4. 上津直子，堀尾　武（2005）日光蕁麻疹．第104回日本皮膚科学会総会，横浜
5. 堀尾　武（2005）光免疫学入門．第104回日本皮膚科学会総会，横浜

著　書

1. 岡本祐之（2005）サルコイドーシス．実践，皮膚病変のみかた（西岡　清，片山一朗，勝岡憲生，川名誠司，斉藤隆三編）195–196頁，日本医師会，東京
2. 岡本祐之（2005）顔面播種状粟粒性狼瘡．2005–2006皮膚疾患最新治療（滝川雅浩，渡辺晋一編）98頁，南江堂，東京
3. 岡本祐之（2005）サルコイドーシス．てこずる外来皮膚疾患100の対処法（宮地良樹編）138–139頁，メジカルレビュー社，東京
4. 岡本祐之（2005）P. acnesとサルコイドーシス．皮膚科診療プラクティス（古川福実，宮地良樹，滝川雅浩編）39–40頁，文光堂，東京
5. 岡本祐之（2005）光線過敏症．今日の診療治療2005年版（山口　徹，水原光夫編），医学書院，東京

泌尿器科学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Minamino K, Adachi Y, Okamura A, Kushida T, Sugi M, Watanabe M, Muguruma K, Sugao H, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Wang J, Mukaide H, Zhang Y, Matsuda T, Matsumura M and Ikehara S（2005）Autopsy case of primary choriocarcinoma of the urinary bladder. Pathology International 55: 216–222
2. Komai Y, Kawakita M, Shimada O, Muguruma K, Sakaida N and Matsuda T（2005）Colonic adenocarcinoma and stones in an Indiana pouch. International Journal of Urology 12: 412–413
3. 松田公志，河　　源，大口尚基，岡田日佳，室

田卓之，木下秀文（2005）腎動脈阻血下実質縫合による腹腔鏡下腎部分切除術の経験：腫瘍部位別手術手技を中心に．Jpn J Endourol ESWL 18: 80–86
4. 檀野祥三，地崎竜介，福井勝一，松田公志，松矢浩輝，飯田寛和（2005）M-VAC 療法中に合併したMRSA 化膿性脊椎炎の1例．泌尿紀要 51: 389–392
5. 木下秀文，賀本敏行，清川岳彦，河源，六車光英，松田公志，小川 修（2005）前立腺全摘除後のPSA（prostate specific antigen）再発とPSA nadir．泌尿器外科 18: 986–989
6. 河 源（2005）Hem-o-lokを用いた腎動脈クリッピング後，同部の離断をみた一例．Video Journal of JUA 11: 3
7. 松田公志（2005）第24回国内医科大学視察と討論の会報告．J.M.E.F 25: 107–113

総 説

1. 松田公志，河 源，巽一啓，六車光英，木下秀文（2005）男性更年期障害に対するAndrogen療法の意義．老年医学 43: 251–257
2. 平尾佳彦，松田公志（2005）腎部分切除術開放手術か，腹腔鏡手術か．Urology View 3: 98–109
3. 松田公志（2005）内分泌外科領域における内視鏡手術の現況と展望 腹腔鏡下副腎摘除術の現況と技術認定．内分泌外科 22: 12–17
4. 松田公志（2005）泌尿器腹腔鏡手術の進歩と安全性．腎と透析 58: 821–825
5. 松田公志，室田卓之，木下秀文（2005）副腎腫瘍．medicina 42: 1214–1216
6. 木下秀文，松田公志（2005）特集 前立腺癌スクリーニングの新しい展開 PSA のオーバービュー．Urology View 3: 22–28
7. 松田公志（2005）泌尿器腹腔鏡手術の現状―その長所・短所と安全な手術に向けての取り組み．薬の知識 56: 177–181
8. 松田公志（2005）泌尿器科体腔鏡下手術を安全に行うための基本操作．臨床泌尿器科 59: 623–628
9. 六車光英，日浦義仁，松田公志（2005）ART 時代の男性不妊症医療：泌尿器科の役割―産婦人科の世界 57: 665–670
10. 六車光英，日浦義仁，松田公志（2005）精巣内精子回収法．臨床泌尿器科 59: 37–41
11. 松田公志，河 源，巽 一啓，六車光英，木下秀文（2005）男性更年期障害とホルモン補充療法．産婦人科治療 90: 904–910
12. 松田公志，河 源，巽 一啓，六車光英，木下秀文（2005）男性更年期障害に対するホルモン補充療法．日本更年期医学会雑誌 13: 122–132
13. 松田公志（2005）男性更年期障害．内科 95: 1875
14. 松田公志（2005）ART 時代の男性不妊症診断―泌尿器科医の役割―．IVF news 31: 6
15. 松田公志（2005）前立腺生検方法 経直腸的か，経会陰的か．Urology View 3: 92–104

学会発表

1. Matsuda T, Ono Y, Oshima S, Terachi T, Baba S, Suzuki K, Kawauchi A, Miki T, Mizoguchi H, Naito S and Kamidono S（2005）Laparoscopic surgical skill qualification system in urology:A japanese experience. The 100th AUA annual meeting, アメリカ サンアントニオ
2. Kawa G, Hiura Y, Muguruma K, Kinoshita H and Matsuda T（2005）Clinical experience with retroperitoneoscopic partial nephrectomy for renal tumor. 23rd World Congress on Endourology & SWL, アムステルダム（オランダ）
3. Matsuda T, Ono Y, Terachi T, Baba S, Miki T, Naito S, Suzuki k, Mizoguchi H, Kawauchi A, Higashihara E, Oshima S, Hiura Y and Kamidono S（2005）An endoscopic surgical skill qualification system in urological laparoscopy:A novel system in japan. 23rd World Congress on Endourology & SWL, アムステルダム（オランダ）
4. Matsuda T, Kawa G, Oguchi N, Okada H, Murota T and Kinoshita H（2005）（Symposium 2）（Advanced Laparoscopic Surgery）Laparoscopic Partial Nephrectomy with Transient Occlusion of the Rena Artery:A TechniqueBased on Tumor Location. 2nd East Asian Society of Endourology Annual Meeting, 韓国
5. Yasuda K, Kinoshita H, Chizaki R, Kawa G,

Muguruma K and Matsuda T（2005）Laparoscopic partial cystectomy for an urachal tumor: An initial experience. 2nd East Asian Society of Endourology Annual Meeting, 韓国
6. Matsuda T（2005）Varicocele treatment in the light of evidence based medicine. The 15th Seoul Urological Symposium, 韓国
7. Matsuda T（2005）（Memorial Lecture）Epididymovasostomy: past, present, and future. The 15th Seoul Urological Symposium, 韓国
8. Matsuda T（2005）Surgical tips and tricks for epididymovasostomy. The 15th Seoul Urological Symposium, 韓国
9. 松田公志（2005）男性更年期障害：何がどこまでわかった．筑後泌尿器科医会第46回研修会，福岡
10. 松田公志（2005）（泌尿器腹腔鏡技術認定制度/ビデオ審査基準　その傾向と対策）ビデオ審査基準．第1回大分泌尿器科内視鏡フォーラム，大分
11. 松田公志（2005）（講演）男性更年期障害:ホルモン補充療法を中心に．第15回臨床内分泌代謝Updateランチョンセミナー Ⅲ，北海道
12. 松田公志（2005）（講演）腹腔鏡下腎部分切除術～腹腔鏡基本手技を含めて～．第3回泌尿器科手術セミナー，大分
13. 松田公志（2005）腹腔鏡下腎部分切除術：術式の詳細を中心に．第49回倉敷泌尿器科カンファレンス，岡山
14. 川喜多繁誠，河源，大口尚基，木下秀文，松田公志，川喜田睦司（2005）頻尿・尿失禁患者を介護する家族におけるQOL評価の試み．第18回日本老年泌尿器科学会，岩手
15. 高谷明美，森田玲子，丸尾野八重子，大口尚基，日浦義仁，木下秀文，松田公志（2005）女性泌尿器外来受診患者の意識調査．第18回日本老年泌尿器科学会，岩手
16. 河源，日浦義仁，岡田日佳，六車光英，木下秀文，松田公志（2005）副腎または腎茎部に近接する後腹膜腫瘍に対する腹腔鏡下手術の経験．第17回日本内分泌外科学会総会，東京
17. 岡田日佳，川喜多繁誠，乾　秀和，福井勝也，河源，木下秀文，松田公志（2005）前立腺生検における精度管理―生検長に関して―．第93回日本泌尿器科学会総会，東京
18. 吉田健志，西田晃久，日浦義仁，河源，六車光英，木下秀文，松田公志（2005）回腸新膀胱造設後尿道再発に対し，尿道全摘除術，虫垂利用導尿路造設術を施行した2例．第93回日本泌尿器科学会総会，東京
19. 川喜多繁誠，河源，福井勝也，吉田健志，巽一啓，日浦義仁，岡田日佳，六車光英，木下秀文，松田公志（2005）前立腺癌ホルモン療法（LH－RHアナログ）による男性更年期症状の検討．第93回日本泌尿器科学会総会，東京
20. 松田公志，河源，日浦義仁，巽　一啓，佐藤仁彦，六車光英，木下秀文（2005）腹腔鏡下腎摘除術における腎血管処理：クリップ使用法のPitfall．第93回日本泌尿器科学会総会，東京
21. 室田卓之，川端和史，大口尚基，土井　浩，松田公志（2005）腹腔鏡下膀胱部分切除術の経験．第93回日本泌尿器科学会総会，東京
22. 木下秀文，岡田日佳，川喜多繁誠，清川岳彦，河源，六車光英，賀本敏行，小川修，松田公志（2005）PSA20 g/ml以上の前立腺生検陰性例はどのようなものか．第93回日本泌尿器科学会総会，東京
23. 河源，谷口久哲，吉田健志，日浦義仁，佐藤仁彦，巽　一啓，六車光英，木下秀文，松田公志（2005）後腹膜鏡下dismembered pyeloplastyの経験―我々が最近用いてる方法．第93回日本泌尿器科学会総会，東京
24. 松田公志，Suzuki Kazuo（2005）（Video Workshop）Endoscopic live Donor Nephrectomy. 第93回日本泌尿器科学会総会，東京
25. 六車光英，巽　一啓，河源，松田公志（2005）男性更年期障害に対する男性ホルモン補充療法．第78回日本内分泌学会学術総会，東京
26. 河源，佐野　匠，川喜多繁誠，巽　一啓，六車光英，松田公志，浦上昌也，椹木　勇（2005）健康中年男性の回答からみたPADAM診断用各種質問紙の有用性に関する検討．第24回日本アンドロロジー学会総会，神奈川
27. 木下秀文，河源，安田鐘樹，川喜多繁誠，大口尚基，六車光英，松田公志（2005）関西医大泌尿器科におけるsalvage radiotherapyの治療成績．第21回前立腺シンポジウム，東京

28. 六車光英，日浦義仁，松田公志（2005）電気射精法の臨床的検討．第51回日本不妊学会総会，大阪
29. 大口尚基，井上貴昭，川喜多繁誠，日浦義仁，木下秀文，松田公志（2005）女性性器脱に対する腹腔鏡下手術．第18回日本内視鏡外科学会総会，東京
30. 松田公志，寺地敏郎，小野佳成（2005）泌尿器腹腔鏡技術認定制度：手術の質の向上を目指して．第18回日本内視鏡外科学会総会，東京
31. 増田朋子，地崎竜介，安田鐘樹，川喜多繁誠，日浦義仁，河源，大口尚基，六車光英，木下秀文，松田公志（2005）関西医大における腹腔鏡下前立腺全摘除術の治療成績．第19回日本Endourology・ESWL学会総会，東京
32. 大口尚基，川喜多繁誠，井上貴昭，木下秀文，嘉村康邦，松田公志（2005）膀胱瘤（paravaginal defect）に対し腹腔鏡下paravaginal repairを施行した1例．第19回日本Endourology・ESWL学会総会，東京
33. 河源，川喜多繁誠，安田鐘樹，日浦義仁，六車光英，木下秀文，松田公志，藤山千里（2005）腎動脈阻血による腹腔鏡下腎部分切除術における腎実質縫合法の検討．第19回日本Endourology・ESWL学会総会，東京
34. 木下秀文（2005）腎動脈阻血下実質縫合による腹腔鏡下腎部分切除術の治療成績．第19回日本Endourology・ESWL学会総会，東京
35. 地崎竜介，福井勝也，三島崇生，安田鐘樹，巽 一啓，佐藤仁彦，川喜多繁誠，日浦義仁，大口尚基，河源，六車光英，木下秀文，松田公志（2005）当院における前立腺生検の検討：術前MRIの有用性について．第55回日本泌尿器科学会中部総会，兵庫
36. 安田鐘樹，河源，地崎竜介，佐藤仁彦，川喜多繁誠，六車光英，室田卓之，木下秀文，松田公志（2005）腎部分切除術の検討：腹腔鏡下腎部分切除術と開放手術との比較．第55回日本泌尿器科学会中部総会，兵庫
37. 川喜多繁誠，木下秀文，吉田健志，井上貴昭，日浦義仁，大口尚基，河源，六車光英，松田公志（2005）関西医科大学病院における膀胱全摘除術症例の検討．第55回日本泌尿器科学会中部総会，兵庫
38. 日浦義仁，川喜多繁誠，井上貴昭，大口尚基，木下秀文，松田公志（2005）当教室における女性性器脱症例の検討．第55回日本泌尿器科学会中部総会，兵庫

著 書

1. 日浦義仁，松田公志（2005）5 不妊症と手術 3）男性不妊症の手術．不妊ケアABC 125–130頁，医歯薬出版株式会社，東京
2. 後山尚久，石蔵文信，中田敬吾，松田公志（2005）女性と男性の更年期Q＆A．女性と男性の更年期Q＆A（後山尚久編）1–214頁，ミネルヴァ書房，京都
3. 松田公志（2005）第18章 腎・泌尿器系 C. 腎・泌尿器系の疾患 C-7.前立腺肥大症，前立腺がん．人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 各論Ⅱ 78–79頁，南江堂，東京
4. 六車光英（2005）第18章 腎・泌尿器系 C. 腎・泌尿器系の疾患 C-8.尿路感染症．人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 各論Ⅱ 80頁，南江堂，東京
5. 松田公志（2005）第18章 腎・泌尿器系 C. 腎・泌尿器系の疾患 C-9.尿路結石．人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 各論Ⅱ 80–81頁，南江堂，東京
6. 松田公志（2005）第18章 腎・泌尿器系 C. 腎・泌尿器系の疾患 C-10.腎盂尿管がん，膀胱がん．人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 各論Ⅱ 81–82頁，南江堂，東京

眼科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Ida H, Ishibashi K, Reiser K, Hjelmeland LM and Handa JT（2004）Ultrastructural Aging of the RPE-Bruch's Membrane-Choriocapillaris Complex in the D-Galactose-Treated Mouse. Ivest

Ophthalmol Visual Sciense 45: 2348–2354
2. Ida H, Boylan SA, Weigel AL, Smit-McBride Z, Chao A, Gao J, Buchoff P, Wistow G and Hjelmeland LM（2004）EST analysis of mouse retina and RPE/choroids cDNA libraries. Molecular Vision 10: 439–444
3. Ogata N, Imaizumi M, Kurokawa H, Arichi M and Matsumura M（2005）Optic Nerve Compression by Normal Carotid Artery in Patients with Normal Tension Glaucoma. Brit. J Ophthalmol 89: 174–179
4. Ogata N, Imaizumi M, Nomura S, Shouzu A, Arichi M, Matsuoka M and Matsumura M（2005）Increased levels of platelet-derived microparticles in patients with diabetic retinopathy. Diabetes Research and Clinical Practice 68: 193–201
5. Sho K, Takahashi K, Fukuchi T and Matsumura M（2005）Quantitative Evaluation of Ischemia — Reperfusion Injury by Optical Coherence Tomography in the Rat Retina. Jpn J Ophthalmol 49: 109–113
6. Minamino K, Adachi Y, Okigaki M, Ito H, Togawa Y, Fujita K, Tomita M, Suzuki Y, Zhang Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Matsubara H, Iwasaka T, Matsumura M and Ikehara S（2005）Macrophage Colony-Stimulating Factor（M-CSF）, As Well As Granulocyte Colony-Stimulating Factor（G-CSF）, Accelerates Neovascularization. Stem Cells 23: 347–354
7. Minamino K, Adachi Y, Okamura A, Kushida T, Sugi M, Watanabe M, Muguruma K, Sugao H, Suzuki Y, Iwasaki M, Nakano K, Koike Y, Wang J, Mukaide H, Zhang Y, Matsuda T, Matsumura M and Ikehara S（2005）Autopsy case of primary choriocarcinoma of the urinary bladder. Pathology International 55: 216–222
8. Ando A, Yamazaki Y, Kaneko S, Miyake M, Nambu R, Taomoto M, Unezaki S, Okuda-Ashitaka E, Okumura T, Ito S and Matsumura M（2005）Cytoprotection by nipradilol, an anti-glaucomatous agent, via down-regulation of apoptosis related gene expression and activation of NF-κB . Experimental Eye Research 80: 501–507
9. Yoshikawa T, Ogata N, Takahashi K, Mori S, Uemura Y and Matsumura M（2005）Bilateral Orbital Tumor as Initial Presenting Sign in Human T-cell Leukemia Virus-1 Associated Adult T-Cell Leukemia/Lymphoma. Am J Ophthalmol 140: 327–329
10. Harino S, Nagaya C, Matsuda S, Iwahashi Y, Uyama M, Cekic O and Hashimoto M（2004）Indocyanine green angiographic findings in A case of Acute annular outer retinopathy. Retina 24（5）: 796–799
11. Yamada H, Yamada E, Higuchi A and Matsumura M（2005）Retinal neovascularization without ischaemia in the spontaneously diabetic Torii rat. Diabetologia 48: 1663–1668
12. Ogata N, Imaizumi M, Miyashiro M, Arichi M, Matsuoka M, Anndou A and Matsumura M（2005）Low levels of pigment epithelium-derived factor in highly myopic eyes with chorioretinal atrophy. Am J Ophthalmol 140（5）: 937–939
13. Wada M, Ogata N, Minamino K, Koriyama M, Higuchi A and Matsumura M（2005）Trans-Tenon's retrobulbar injection of triamcinolone acetonide for diffuse diabetic macular edema. Jpn J Ophthalmol 49（6）: 509–515
14. Ogata N, Imaizumi M, Miyashiro M, Arichi M, Matsuoka M, Ando A and Matsumura M.（2005）Low levels of pigment epithelium-derived factor in highly myopic eyes with chorioretinal atrophy.. Am J Ophthalmol 140: 937–939
15. 中内正志，石郷岡均（2004）血管新生緑内障に対する線維柱帯切除術の手術成績．あたらしい眼科　21 : 1089–1092
16. 伊田宜史，戸部隆雄，宇山昌延（2005）血管内皮細胞増殖因子トランスジェニックマウスの網膜下新生血管に対する網膜色素上皮細胞の作用．日本眼科学会雑誌　109 : 5–11
17. 樋口暁子，山田晴彦，河合江実，藤関義人，和田光正，木内克治，内田宜子，南野桂三，松村美代（2005）増殖糖尿病網膜症の硝子体手術成績―10 年前との比較―．日本眼科学会雑誌　109 : 134–141
18. 日本ポリープ状脈絡膜血管症研究会（飯島裕幸，飯田知弘，石橋達朗，大路正人，白神史

雄，高橋寛二，竹田宗泰，張野正誉，湯沢美都子，吉村長久）（2005）ポリープ状脈絡膜血管症の診断基準．日本眼科学会雑誌 109：417–427
19. 永井由巳，安藤 彰，岸本直子，福島伊知郎（2005）ニプラジロール点眼で軽減した糖尿病黄斑浮腫の1例．臨床眼科 59：41–46
20. 星野 健，松原 孝，福島伊知郎，福地俊雄，桐山直子，藤関義人，河原澄枝，高橋寛二，緒方奈保子，西村哲哉，宇山昌延，松村美代（2005）ハイドロジェル（MIRAgel®）を使用した網膜剥離手術の術後晩期合併症とその発症頻度についての検討．臨床眼科 59：47–53
21. 舘野寛子，高橋寛二，福地俊雄，山崎有加里，正健一郎，松村美代（2005）近視眼の視神経乳頭周囲にみられる脈絡膜分離のOCT3所見．臨床眼科 59：327–331
22. 松原敬忠，竹内正光，垰本 慎，福地俊雄，松村美代（2005）外傷性毛様体解離と脈絡膜剥離のUBM所見の検討．臨床眼科 59：507-511
23. 久保木香織，永井由巳，高橋寛二，正健一郎，松村美代（2005）網膜色素上皮下出血から生じた網膜色素上皮裂孔の2例．臨床眼科 59：1345–1350
24. 安藤 彰，宮崎秀行，福井智恵子，南部裕之，松村美代（2005）炭酸脱水酵素阻害薬点眼後に不可逆的な角膜浮腫をきたした1例．臨床眼科 59：1571–1573
25. 二階堂潤，保倉 透，平本裕盛，西信昭子，神本英徳，北村拓也，今泉正仁（2005）臨床症状を欠いたため診断に苦慮したうっ血乳頭の1例．臨床眼科 59：1883–1888
26. 福井智恵子，桑原敦子，南部裕之，城 信雄，山崎有加里，湖崎 淳，竹内正光，寺内博夫，松村美代（2005）下方サイヌソトミー併用トラベクロトミーの術後角膜乱視．あたらしい眼科 22：235–237
27. 松本泰明，三間由美子，河原澄枝，松村美代（2005）緑膿菌性壊死性強膜炎の1例．あたらしい眼科 22：1253–1258
28. 髙橋寛二，永井由巳，正健一郎，有澤章子（2005）加齢黄斑変性に対する光線力学的療法（PDT）の短期治療効果．眼科手術 18：189–192
29. 石黒利充，尾辻 剛，小林かおる，国富 薫，松原敬忠，松村美代（2005）眼圧が回復しても軽快しなかった低眼圧黄斑症に硝子体手術が著効を示した2例．日本眼科紀要 56：368–372

総 説

1. 高橋寛二（2005）滲出型加齢黄斑変性に対する光線力学的療法．臨床眼科 59：789–798
2. 永井由巳（2004）2部4章「網膜疾患」1光干渉断層計（OCT）．眼科ケア 2004年増刊号：64–66
3. 松村美代（2005）手術教育とインフォームドコンセント．IOL & RS 19: 10–12
4. 松村美代（2005）訴訟に至らない手術を目指して「安全確実な手術教育」．IOL & RS 19: 106–109
5. 高橋寛二（2005）特集 加齢黄斑変性に対する新しいレーザー治療の現況 論点．眼科手術 18：311
6. 永井由巳、正健一郎、高橋寛二（2005）加齢黄斑変性に対する光線力学的療法（PDT）―短期臨床効果と問題点―．眼科手術 18：319–323
7. 松村美代（2005）流出路再建術（トラベクロトミー，ビスコキャナルストミーなど）．あたらしい眼科 22：199–201
8. 髙橋寛二（2005）滲出型加齢黄斑変性の治療選択．あたらしい眼科 22：621–629

学会発表

1. Ando A, Matsuyama K, Nambu H, Kuwahara A, Takeuchi M, Kokawa Y and Matsumura M（2005）Intraocular pressure Reduction by Latanoprost for Normal Tension Glaucoma: Result over Two Years Compared between High-Tension and Low-tension Japnaese Patients. 5th International Glaucoma Symposium, Cape Town
2. Ogata N, Imaizumi M, Nomura S, Shozu A, Arichi M, Matsuoka M and Matsumura M（2005）Increased Levels of Platelet Derived Microparticles in Patients With Diabetic Retinopathy. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2005 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida

3. Ando A, Kaneko A, Okuda-Ashitaka E, Ito A, Nishimura T, Taomoto T and Matsumura M (2005) Urokinase Gene Expression in Cultured Human Trabecular Meshwork Cells and Gene Transfer to Porcine Cells. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2005 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
4. Jo N, Mailhos C, Nishijima K, Ju M, Cheung E, Robinson GS, Adamis AP and Shima DT (2005) Mural Cell Loss Following Inhibition of PDGF Signaling Enhances the Effect of Anti-VEGF Therapy on Corneal Neovasculariton. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2005 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
5. Nagai Y (2005) Clinical Features of Malignant Polypoidal Choroidal Vasculopathy. 8th Michaelson Symposium, Ghent Gelgium
6. Nambu H, Kuwata M, Koriyama M, Ando A, Terauchi H and Matsumura M (2005) Efficacy of combined trabeculotomy with deep sclerectomy and sinusotomy. World glaucoma congress, Vienna, Austria
7. Matsuoka M, Ogata O and Matsumura M (2005) Leukostasis and Expression of Pigment Epithelium-Derived Factor in Retinopathy of Diabetic Rats. Association for Research in Vision and Ophthalmology 2005 Annual Meeting, Fort Lauderdale, Florida
8. Matsuyama K, Ando A, Kitagawa C, Matsubara T and Matsumura M (2005) Dramatic Alteration in Optic Disc Topography following Filtering Surgery in an Adult Patient with Traumatic Glaucoma. 5th International Glaucoma Symposium, Cape Town
9. 松村美代（2005）教育セミナー．トラベクロトミー2．第28回日本眼科手術学会総会，大阪
10. Amano M, Takaseki S, Kimoto T, Ando A, Baum LG, Iino H and Yamaki K (2005) T cell Apoptosis induced by galectin-1 expressed in retinal pigment epithelial cell.. 第78回日本生化学会大会，神戸
11. 高橋寛二（2005）光線力学療法．第28回日本眼科手術学会総会，大阪
12. 福島伊知郎（2005）教育セミナー．ジアテルミー凝固を用いたエクソプラントpart2．第28回日本眼科手術学会総会，大阪
13. 市岡　博，石郷岡　均，岡田守生，荻野誠周，木村英也，松村美代，山川良治，風間成泰（2005）手術基本手技の習得“切開，縫合”．第28回日本眼科手術学会総会，大阪
14. 山本佳乃，三好　和，山川良治，松村美代，木村英也，黒田真一郎（2005）血管新生緑内障における緑内障・硝子体同時手術の成績．第28回日本眼科手術学会総会，大阪
15. 郡山昌敬，南部裕之，桑田満喜，安藤　彰，寺内博夫，松村美代（2005）網膜剥離の硝子体手術後に生じた黄斑円孔の2症例．第28回日本眼科手術学会総会，大阪
16. 尾辻　剛，宮代美樹，畑埜浩子（2005）隅角癒着解離術後のレーザー隅角形成術の効果．第28回日本眼科手術学会総会，大阪
17. 國富　薫，垰本　慎，松原　孝，有澤章子，松原敬忠，松山加耶子，西村哲哉，松村美代（2005）下方から行ったトラベクロトミー＋シヌソトミーの術後長期成績．第31回日本眼科手術学会総会，大阪
18. 佐々木奈穂，高橋寛二，松永裕史，南部理江，大山奈美，岡見豊一，畑埜浩子（2005）個々の病態にあった上眼瞼睫毛内反症に対する手術加療．第31回日本眼科手術学会総会，大阪
19. 桑田満喜，垰本　慎，松原　孝，西村哲哉，松村美代（2005）先天性網膜分離症から生じた網膜剥離に硝子体手術を行い長期に経過観察できた一例．第31回日本眼科手術学会総会，大阪
20. 西村哲哉（2005）シンポジウム．増殖糖尿病網膜症の手術適応．第11回日本糖尿病眼学会総会，名古屋
21. 松村美代（2005）シンポジウム．安全確実な手術教育．第109回日本眼科学会総会，京都
22. 安藤　彰（2005）アポトーシス関連遺伝子と神経保護作用．第109回日本眼科学会総会，京都
23. 松村美代（2005）パネルディスカッション．日本の眼科を語ろう―次の世代のために―．第109回日本眼科学会総会，京都
24. 緒方奈保子（2005）PEDFと糖尿病網膜症．第109回日本眼科学会総会，京都

25. 安藤　彰，尾辻　剛，福井智恵子，大中誠之，桑原敦子，竹内正光，南部裕之，松村美代（2005）ラタノプロスト投与後1年以上の正常眼圧緑内障に対するニプラジロールの眼圧下降効果．第109回日本眼科学会総会，京都
26. 正健一郎，高橋寛二，永井由巳，有澤章子，津村晶子，尾辻　剛，和田光正，松村美代（2005）ポリープ状脈絡膜血管症所見を示す滲出型加齢黄斑変性に対する光線力学療法の短期成績．第109回日本眼科学会総会，京都
27. 永井由巳，高橋寛二，正健一郎，有澤章子，津村晶子，尾辻　剛，和田光正，松村美代（2005）滲出型加齢黄斑変性に対する光線力学療法（PDT）の短期成績．第 109 回日本眼科学会総会，京都
28. 松岡雅人，緒方奈保子，松村美代（2005）2型糖尿病モデルラットにおける　PEDF　と Leukostasis．第109回日本眼科学会総会，京都
29. 正健一郎，高橋寛二，永井由巳，有澤章子，津村晶子，尾辻　剛，松村美代（2005）関西医大における滲出型加齢黄斑変性に対する光線力学的療法の短期成績．第111回京都眼科学会（平成17年度），京都
30. 樋口暁子，和田光正，城　信雄，高橋寛二，松村美代（2005）網膜・網膜色素上皮過誤腫に脈絡膜新生血管を合併した1例．第111回京都眼科学会（平成17年度），京都
31. 桑田満喜，南部裕之，郡山昌敬，松村美代，粉川弥栄子（2005）高血圧が関与したと思われる網膜神経線維層欠損の三症例．第111回京都眼科学会（平成17年度），京都
32. 松村美代（2005）小切開ECCEか古典的ECCEか．第44回日本白内障学会総会・第20回日本眼内レンズ屈折手術学会総会，京都
33. 新井英子，安藤　彰，北川誠彦，河合江実，秋岡真砂子，松井淑江，松村美代（2005）神経梅毒の5症例．フォーサム・イン横浜（第42回日本眼感染症学会・第 39 回日本眼炎症学会・第25回日本眼薬理学会・第48回日本コンタクト学会総会），横浜
34. 城　信雄，樋口暁子，緒方奈保子，松村美代，西嶋一晃，Maihos C, Shima DT, Adamis AP（2005）PDGF シグナル阻害による角膜新生血管における抗VEGF療法の増強効果．フォーサム・イン横浜（第 42 回日本眼感染症学会・第39回日本眼炎症学会・第25回日本眼薬理学会・第48回日本コンタクト学会総会），横浜
35. 松岡雅人，緒方奈保子，松村美代（2005）Pigment Epithelium-derived factor と Leukostasis．フォーサム・イン横浜（第 42 回日本眼感染症学会・第39回日本眼炎症学会・第25回日本眼薬理学会・第 48 回日本コンタクト学会総会），横浜
36. 上田義朗，木本高志，正健一郎，中内正志，松岡雅人，松村美代（2005）片眼性原田病と思われる1例．フォーサム・イン横浜（第42回日本眼感染症学会・第 39 回日本眼炎症学会・第25回日本眼薬理学会・第48回日本コンタクト学会総会），横浜
37. 高橋寛二（2005）ポリープ状脈絡膜血管症．第22回日本眼循環学会，淡路島
38. 正健一郎，高橋寛二，永井由巳，有澤章子，津村晶子，尾辻　剛，松村美代（2005）ポリープ状脈絡膜血管症に対する光線力学的療法の光干渉断層計所見の検討．第 22 回日本眼循環学会，淡路島
39. 永井由巳（2005）光線力学的療法（PDT）の短期成績と自覚症状の変化・満足度．第 22 回日本眼循環学会，淡路島
40. 高橋寛二（2005）ポリープ状脈絡膜血管症に対する光線力学療法．Japan Macula Club第7回総会，蒲郡
41. 松村美代（2005）色素上皮がとんでしまったYAG レーザーによる外傷性黄斑円孔．Japan Macula Club第7回総会，蒲郡
42. 松村美代（2005）眼科医師数の動向とその将来像．第59回日本臨床眼科学会，札幌
43. 高橋寛二（2005）PDT のためのフルオレセイン蛍光眼底造影．第 59 回日本臨床眼科学会，札幌
44. 加藤　聡，高橋京一，緒方奈保子，須藤史子，安藤伸朗（2005）インストラクションコース．糖尿病患者の眼科的管理A to Z. 第59回日本臨床眼科学会，札幌
45. 永井由巳，高橋寛二，沢　美喜，五味　文，喜田照代，張野正誉，佐藤孝樹（2005）インストラクションコース．上方流『黄斑塾』第2講．第59回日本臨床眼科学会，札幌

46. 白神史雄，大路正人，松本容子，湯沢美都子，五味　文，田野保雄，斉藤昌晃，飯田知弘，永井由巳，高橋寛二，白神千恵子，野田佳宏，石橋達朗（2005）加齢黄斑変性に対する光線力学的療法後の出血．第59回日本臨床眼科学会，札幌
47. 高橋寛二，永井由巳，正健一郎（2005）PDTの問題点―大きい病変とRAP―．第59回日本臨床眼科学会，札幌
48. 有澤章子，高橋寛二，正健一郎，永井由巳，松村美代，濱田尚子（2005）経瞳孔温熱療法後に特異な網膜色素上皮萎縮の拡大を認めたポリープ状脈絡膜血管症の一例．第59回日本臨床眼科学会，札幌
49. 正健一郎，高橋寛二，永井由巳，有澤章子，津村晶子，尾辻　剛，松村美代（2005）滲出型加齢黄斑変性に対する光線力学的療法の再治療例の特徴．第59回日本臨床眼科学会，札幌
50. 加賀郁子，正井宏和，柏井　聡（2005）Three-piece foldable lens 毛様溝縫着術後 5 年を経て，誘因なく眼内脱臼を認めた症例．第 59 回日本臨床眼科学会，札幌
51. 舘野寛子，高橋寛二，垰本　慎，松村美代，坂井田紀子（2005）著名な視神経浸潤をきたした網膜芽細胞腫の症例．第 59 回日本臨床眼科学会，札幌
52. 城　信雄，南部裕之，松村美代（関西医大）（2005）不定愁訴とみなされていた眼瞼手術後の2例．第345回大阪眼科集談会，大阪
53. 木本高志，上田義朗，正健一郎，中内正志，松岡雅人，松村美代（関西医大）（2005）片眼性原田病と思われる1例．第346回大阪眼科集談会，大阪
54. 南部裕之，竹内正光，松原敬忠，城　信雄，樋口暁子，北川チエミ，郡山昌敬，安藤　彰，松村美代（2005）サイヌソトミー併用トラベクロトミー術後のUBM所見．第347回大阪眼科集談会，大阪
55. 城　信雄，和田光正，樋口暁子，嶋　千絵子，武田俊彦，緒方奈保子，西村哲哉，松村美代（2005）糖尿病網膜症による血管新生緑内障に対する濾過手術併用硝子体手術の成績．第349回大阪眼科集談会，大阪
56. 松村美代（2005）開放隅角緑内障の治療戦略―手術治療を中心に．大阪市立大学眼科同窓会水虹会，大阪
57. 松村美代（2005）トラベクロトミー適応の広がり．第2回ODAIBA Basic Clinical Ophthalmology Series, 東京
58. 森口佳映（2005）ドコサヘキサエン酸による N-methyl-N-nitrosourea 誘発ラット網膜変性症の制御．第 121 回関西医科大学学内学術集談会，大阪
59. 安藤　彰（2005）線維柱帯細胞における線溶系酵素過剰発現によるケミカルトラベクロトミーの可能性．第 9 回眼科分子生物学研究会，大津
60. 緒方奈保子（2005）PEDF（Pigment Epithelium-derived Factor：色素上皮由来因子）と眼．第7回ボーダレス眼科臨床研究会，大阪
61. 松村美代（2005）緑膿菌性強膜膿瘍の1例．第7回ボーダレス眼科臨床研究会，大阪
62. 松村美代（2005）キサラタン以降の緑内障治療～トラベクロトミー，適応の広がり～．第7回ボーダレス眼科臨床研究会，大阪
63. 松村美代（2005）特別講演Ⅱ　黄斑疾患のみかた．第 3 回大阪赤十字病院眼科フォーラム，大阪
64. 新井英子（2005）ドーナツ状滲出斑を明瞭にOCTで観察できたMPPEの症例．第5回上方黄斑研究会，大阪
65. 有澤章子（2005）PDTを行ったRAPの症例～PDT後の経過～．第5回上方黄斑研究会，大阪
66. 松村美代（2005）解放隅角緑内障の治療戦略．第20回沖縄緑内障研究会，沖縄
67. 松村美代（2005）正常眼圧緑内障の治療．北東北緑内障シンポジウム，盛岡
68. 松村美代（2005）緑内障手術治療の考え方．第12回房総眼科セミナー，千葉
69. 松村美代（2005）老化と目．守口市明るい選挙啓発講演会，大阪
70. 垰本　慎（2005）シンポジウム．強度近視黄斑分離・網膜剥離の黄斑部機能と形態．第 44 回日本網膜硝子体学会総会，大阪
71. 木本高志（2005）シンポジウム．硝子体可視化のためにトリアムシノロンを使用した硝子体手術．第44回日本網膜硝子体学会総会，大阪
72. 木本高志（2005）シンポジウム．硝子体手術

非施行例の経過．第44回日本網膜硝子体学会総会，大阪
73. 西村哲哉（2005）ランチョンセミナー．はじめよう！硝子体手術のファーストステップ．第44回日本網膜硝子体学会総会，大阪
74. 和田光正，南野桂三，城　信雄，樋口暁子，嶋千絵子，緒方奈保子，松村美代（2005）糖尿病黄斑浮腫に対するトリアムシノロン後部テノン嚢下投与の長期経過．第44回日本網膜硝子体学会総会，大阪
75. 永井由巳，高橋寛二，正健一郎，有澤章子，津村晶子，尾辻　剛，和田光正，松村美代（2005）加齢黄斑変性に対する光線力学的療法（PDT）の成績．第44回日本網膜硝子体学会総会，大阪
76. 高橋寛二（2005）光線力学的療法の問題点と対策．第44回日本網膜硝子体学会総会，大阪
77. 上田義朗，有澤章子，垰本　慎，和田光正，木本高志，高橋寛二，緒方奈保子，西村哲哉，松村美代（2005）裂孔原性網膜剥離5年間の手術成績と術式の変化．第44回日本網膜硝子体学会総会，大阪
78. 高橋寛二（2005）加齢黄斑変性．第44回日本網膜硝子体学会総会　市民公開講座，大阪
79. 南野桂三，足立　靖，鈴木康弘，岩崎真佳，中野景司，小池保志，王　剣峰，向出裕美，松村美代，池原　進（2005）M-CSFによる虚血肢血流増加の機序．第4回日本再生医療学会総会，大阪
80. 樋口暁子，和田光正，緒方奈保子，郡山昌敬，南野桂三，松村美代（2005）トリアムシノロン後部テノン嚢下投与無効例の検討．第4回日本再生医療学会総会，大阪
81. 小林　敦，安藤　彰，北川誠彦，河合江実，秋岡真砂子，新井英子，松井淑江，松村美代（2005）ジクロロメタン中毒の1例．第344回大阪眼科集談会，大阪
82. 樋口暁子，和田光正，緒方奈保子，郡山昌敬，南野桂三，松村美代（関西医大）（2005）トリアムシノロン後部テノン嚢下投与無効例の検討．第344回大阪眼科集談会，大阪
83. 樋口暁子，和田光正，城　信雄，高橋寛二，松村美代（2005）網膜過誤腫の1例．第345回大阪眼科集談会，大阪
84. 松山加耶子，西村哲哉，南部裕之，和田光正，松村美代（2005）虹彩のbiopsyで診断が確定した悪性リンパ腫の一例．第346回大阪眼科集談会，大阪
85. 大山奈美，松原敬忠，星野　健，南部理江，松永裕史（2005）眼瞼痙攣のボツリヌス治療成績．第347回大阪眼科集談会，大阪
86. 南野桂三，緒方奈保子，吉川匡宣，和田光正，郡山昌敬，城　信雄，樋口暁子，松村美代（2005）糖尿病黄斑浮腫に対するトリアムシノロンと網膜光凝固の併用療法．第347回大阪眼科集談会，大阪
87. 北川チエミ，緒方奈保子，西村哲哉，有澤章子，和田光正，松村美代（2005）細菌関西医科大学眼科で経験した駆出性出血症例の検討．第348回大阪眼科集談会，大阪
88. 畑埜浩子，尾辻　剛，宮代美樹（2005）黄斑浮腫に対するトリアムシノロン後部テノン嚢下投与の効果の検討．第348回大阪眼科集談会，大阪
89. 松原敬忠，大山奈美，星野　健，松永裕史（2005）網膜静脈閉塞症に対するワーファリン療法の検討．第349回大阪眼科集談会，大阪
90. 寺内博夫（2005）関西医大における白内障手術教育システムの現状．第34回大阪眼科手術の会，大阪

著　書

1. 松村美代（2005）Ⅱ糖尿病網膜症管理に必要な眼科的知識　E血管新生緑内障の治療　2手術療法．NEW MOOK眼科8糖尿病網膜症（大野重昭，吉田晃敏，水流忠彦編集主幹，池田恒彦，北野滋彦，吉田晃敏編）173–177頁，金原出版，東京
2. 高橋寛二（2005）Ⅱ治療・手術①レーザー眼底光凝固・原理，機器，波長．すぐに役立つ眼科診療の知識 網膜・硝子体（吉田晃敏編）81–87頁，金原出版，東京
3. 松村美代（2005）Ⅱ治療・手術⑥手術室内での作業（助手以外の仕事）．すぐに役立つ眼科診療の知識 網膜・硝子体（吉田晃敏編）156–160頁，金原出版，東京
4. 松村美代（2005）Ⅰ．眼科手術の基本　2. 臨床家を育てるシステム．眼科マイクロサージェリー第5版（永田　誠監修，松村美代，黒田真

一郎，溝口尚則，木村英也編）7–11 頁，エルゼビア・ジャパン，東京
5. 寺内博夫（2005）Ⅰ. 眼科手術の基本　3. 眼科手術の教育. 眼科マイクロサージェリー第5版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）14–16 頁，エルゼビア・ジャパン，東京
6. 松村美代（2005）Ⅰ. 眼科手術の基本　4. 手術室関連職員の教育. 眼科マイクロサージェリー第5版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）19–22頁，エルゼビア・ジャパン，東京
7. 寺内博夫（2005）Ⅰ. 眼科手術の基本　5. 超音波水晶体乳化吸引術 + 眼内レンズ挿入術の教育の実際. 眼科マイクロサージェリー第 5 版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）24–33 頁，エルゼビア・ジャパン，東京
8. 寺内博夫（2005）Ⅰ. 眼科手術の基本　6. 手術用顕微鏡：基本構造. 眼科マイクロサージェリー第5版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）34–39頁，エルゼビア・ジャパン，東京
9. 寺内博夫，沖波　聡（2005）Ⅰ. 眼科手術の基本　9. 器具・縫合糸・特殊製剤. 眼科マイクロサージェリー第 5 版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）58–65頁，エルゼビア・ジャパン，東京
10. 寺内博夫，沖波　聡（2005）Ⅰ. 眼科手術の基本　10. 手術室のセッティング. 眼科マイクロサージェリー第 5 版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）67–69頁，エルゼビア・ジャパン，東京
11. 寺内博夫，沖波　聡（2005）Ⅰ. 眼科手術の基本　15. 眼科手術の画像記録法. 眼科マイクロサージェリー第 5 版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）92–95頁，エルゼビア・ジャパン，東京
12. 松村美代（2005）Ⅳ. 白内障手術・屈折矯正手術　36. 水晶体嚢内摘出術. 眼科マイクロサージェリー第5版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）286–293頁，エルゼビア・ジャパン，東京
13. 松村美代（2005）Ⅳ. 白内障手術・屈折矯正手術　37. 水晶体嚢外摘出術と眼内レンズ挿入術. 眼科マイクロサージェリー第 5 版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）295–303頁，エルゼビア・ジャパン，東京
14. 和田光正（2005）Ⅵ. 網膜・硝子体手術　66. レーザー光凝固による裂孔原性網膜剥離の予防手術. 眼科マイクロサージェリー第5版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）556–559頁，エルゼビア・ジャパン，東京
15. 松村美代（2005）Ⅵ. 網膜・硝子体手術　85. 眼内炎への硝子体手術　眼科マイクロサージェリー. 眼科マイクロサージェリー第 5 版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）720–724頁，エルゼビア・ジャパン，東京
16. 和田光正（2005）Ⅵ. 網膜・硝子体手術　87. 糖尿病網膜症に対するレーザー光凝固. 眼科マイクロサージェリー第5版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）730–737頁，エルゼビア・ジャパン，東京
17. 松原　孝（2005）Ⅵ. 網膜・硝子体手術　88. 網膜静脈閉塞症に対するレーザー光凝固. 眼科マイクロサージェリー第 5 版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）740–744頁，エルゼビア・ジャパン，東京
18. 高橋寛二（2005）Ⅵ. 網膜・硝子体手術　89. 黄斑疾患に対するレーザー治療. 眼科マイクロサージェリー第 5 版（永田　誠監修，松村美代，黒田真一郎，溝口尚則，木村英也編）746–769頁，エルゼビア・ジャパン，東京
19. 寺内博夫（2005）1.　硝子体手術の基本操作. DVD でみる硝子体手術（荻野誠周監修，沖波聡，松村美代編）1–11頁，銀海舎，東京
20. 沖波　聡，松村美代，寺内博夫（2005）. DVD（part1, part2）編集　DVD でみる硝子体手術（沖波　聡，松村美代，寺内博夫　DVD（part1, part2）編集），銀海舎製作，東京

耳鼻咽喉科学講座

〈研究業績〉

原 著

1. Doi T, Nakazawa H, Adachi M, Kaneko T, Munemoto Y, Komeda M, Ikeda H, Kitajiri M and Yamashita T（2005）Familial Isolated Stapea-Pyramidal Fixation by a Bone Bar With Normal Stapedius Tendon, Arch Otolaryngol Head Neck Surg 131: 349–352
2. Izumikawa M, Minoda R, Kwamoto K, Abrashkin KA, Swiderski DL, Dolan DF, Brough DE and Raphael Y（2005）Auditory hair cell replacement and hearing improvement by Atoh1 gene therapy in deaf mammals, Nat Med 11: 271–276
3. Izumikawa M, Miyazawa T and Raphael Y（2005）Gene Transfer applications for inner ear disease , Otol Jan 15: 119–127
4. Shimizu K, Iwai H, Ikeda H, Sakaida N and Sawada S（2005）Intraparotid facial nerve schwannoma : a report of five cases and an analyis of maganetic resonance imaging results, Am J Nueroradiol 26: 1328–1330
5. Iwai H and Yamashita T（2005）The local excision procedure for Warthin's tumor of the parotid gland, Otolaryngol Head Neck Surg 132: 577–580
6. Baba S, Inaba M, Iwai H, Taira M, Takeda K, Hisya H, Yamashita T and Ikehara S（2005）Intra-bone marrow-bone marrow transplantation facilitates hemopoietic recovery including dendritic cells, Immunobiol 210: 33–42
7. Iwai H, Lee S, Inaba M, Baba S, Yamashita T and Ikehara S（2005）Bone marrow transplantation as a strategy for the treatment of autommune hearing loss in MRL/Mp-Lpr/lpr mice, J Neuroimmumnol 168: 76–82
8. 赤木麻里，南野雅之，八木正夫，古川昌幸，山下敏夫（2005）副甲状腺摘出術後に発症した偽痛風例．耳鼻臨床 98 : 335–338
9. 大前麻理子，南野雅之，辻 裕之，永田基樹，湯川尚哉，川上勝弘，久徳茂雄，山下敏夫（2005）前頭蓋底手術を施行した腎癌篩骨洞転移症例．頭頸部外科 15 : 109–112
10. 小西将也，岩井 大，南野雅之，赤木麻里，足立真理，湯川尚哉，永田基樹，辻 裕之，山下敏夫（2005）唾液腺管癌8症例の検討．頭頸部外科 15 : 213–216
11. 宮本 真，柿本晋吾，井上俊哉，山下敏夫（2005）扁摘，軟口蓋形成術後の反射性交感神経性ジストロフィー例．耳鼻臨床 98 : 819–822
12. 古川昌幸，細田泰男，栗山博道，土井 直，金子明弘，米田元胤，宗本由美，大隅泰則，北尻雅則，友田幸一，山下敏夫（2005）5年以上経過観察できた真珠腫性中耳炎手術症例についての検討．OTL JAPAN 15: 133–138
13. 岩井 大（2005）頸部リンパ節結核．耳鼻咽喉科・頭頸部外科 77 : 551–555
14. 岩井 大，山下敏夫（2005）耳下腺ワルチン腫瘍の手術法．日耳鼻 108 : 679–683

学会発表

1. 中江 香，河本光平，姫野千恵美，原田成信，栗山博道，山下敏夫（2005）Osmotic mini-pump implantation into the mouse vestibular system. ARO
2. 大隅泰則，八木正夫，河本光平，栗山博道，米田元胤，朝子幹也，金子敏彦，山下敏夫（2005）Amitriptyline Attenuates Noise-Induced Trauma in Guinea Pig. ARO
3. 岩井 大，馬場 奨，金子敏彦，足立真理，山下敏夫（2005）Relation between accelerated presbycusis and systemic immune functions reconstituted with allogeneic bone marrow cells. International Federation of Oto-Rhinol-Laryngological Societies world Congress, Rome, Italy
4. 馬場 奨，岩井 大，李 進隆，河本光平，山下敏夫（2005）Accelerated presbycusis derived from the defect of bone marrow cells. International Federation of Oto-Rhinol-Laryngological Societies world Congress, Rome, Italy
5. 李 進隆，岩井 大，馬場 奨，金子敏彦，島野卓史，山下敏夫（2005）Efficiency of local excision dissecting peripheral branches of the facial nerve for Warthin's tumor of the parotid gland.

International Federation of Oto-Rhinol-Laryngological Societies world Congress, Rome, Italy
6. Izumikawa M, Batts S, Abrashkin K, Swiderski D, Dolan D and Raphael Y（2005）Auditory hair cell replacement and hearing improvemento after Math1 gene therapy in mature deafened guinea pigs. The Twenty-Eibhth Annual Mid winter Research Meeting of the Association for Research in Otolaryngology, New Orleans, USA
7. Izumikawa M, Batts S, Swiderski D, Crumling M, Miyazawa T, Doln D and Raphael Y（2005）The outcome of Atoh1 over-expression in deaf guinea pig cochlea. The 42nd Inner Ear Biology workshop, Tubingen, Germany
8. 大隅泰則，八木正夫，柴田清児，河本光平，朝子幹也，栗山博道，山下敏夫（2005）The Difference of Gene Expression by Aging in C57/BL6 Mouse Cochlea Nuclei and Inferior Colliculus with cDNA Microarray Analysis. ARO
9. 辻中良一，南　豊彦，井野千代徳，中川のぶ子，多田直樹，金　義慶，山下敏夫（2005）口腔疾患と肝疾患について．第18回日本口腔咽頭科学会，旭川
10. 宮本　真，南野雅之，近野哲史，八木正夫，山下敏夫（2005）多発性繊維性骨異形症の1症例．日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第294回例会，大阪
11. 宮本　真，湯川尚哉，八木正夫，中江　香，山道啓吾，山下敏夫（2005）Tチューブを用いた永久気管孔，気管狭窄症例に対する工夫．第57回日本気管食道科学会，京都
12. 浜野巨志，南　豊彦，多田直樹，井野千代徳，山下敏夫（2005）咽喉頭異常感症の下咽喉擦過細胞検査について．口腔咽頭科学会
13. 河本光平，中江　香，姫野千恵美，原田成信，栗山博道，山下敏夫（2005）浸透圧ポンプによるマウス前庭への薬物投与法．日本耳科学会
14. 永田基樹，辻　裕之，南野雅之，湯川尚哉，井上俊哉，山下敏夫（2005）上顎癌に対する皮切の工夫．第15回日本頭頸部外科学会，新潟
15. 井上俊哉，辻　裕之，南　豊彦，山下敏夫（2005）関西医大における遊離移植の臨床統計．日耳鼻大阪地方会第292回例会，大阪
16. 柿本晋吾，井上俊哉，島野卓史，宮本　真（2005）内視鏡下鼻内手術の術後成績．第16回済生会野江病院院内学術交流会，大阪
17. 永田基樹，辻　裕之，南野雅之，湯川尚哉，岩井　大，大西純夫，小椋　学，八木正夫，山下敏夫，南　豊彦，井上俊哉，永田憲司（2005）T2NO声門癌に対するTS-1を用いた放射線化学治療法―臨床第1相試験について―．第29回日本頭頸部癌学会，東京
18. 永田基樹，辻　裕之，南野雅之，湯川尚哉，小椋　学，山下敏夫，井上俊哉（2005）当科における上顎癌に対する皮切法．第29回日本頭頸部癌学会，東京
19. 小西将矢，岩井　大，南野雅之，永田基樹，大西純夫，赤木麻里，足立真理，辻　裕之，山下敏夫（2005）当科における唾液腺管癌7例の検討．第15回日本頭頸部外科学会，新潟
20. 蓮尾麻里，南野雅之，八木正夫，坂井田紀子，山下敏夫，辻　裕之，岩井　大（2005）HER-2蛋白を発現したSalivaryn dact carcinomaに対するトラスツズマブ使用の検討．第67回耳鼻咽喉科臨床学会，愛媛
21. 足立真理，八木正夫，永田基樹，南野雅之，岩井　大，島野卓史，山下敏夫（2005）当科における耳下腺腺様嚢胞癌の検討．日本耳鼻咽喉科学会，大阪
22. 島野卓史，金子敏彦，南野雅之，岩井　大，山下敏夫（2005）当科における頭頸部癌術後せん妄の検討．第67回耳鼻咽喉科臨床学会，愛媛
23. 岩井　大，南野雅之，永田基樹，湯川尚哉，大前麻理子，金子敏彦，足立真理，山下敏夫（2005）3，4期下咽頭癌に対する術前化学放射線同時併用療法の検討．第18回日本口腔咽頭科学会，旭川
24. 大前麻理子，岩井　大，池田耕史，金子敏彦，足立真理，永田基樹，山下敏夫（2005）耳下腺多形腺再発腫瘍のMRI．第18回日本口腔咽頭科学会，旭川
25. 池田浩己（2005）ペット飼育経験が血清総IgE値，特異的IgE抗体およびアレルギー疾患の有病率に及ぼす影響．第55回日本アレルギー学会，盛岡
26. 南野雅之，辻　裕之，永田基樹，湯川尚哉，山下敏夫（2005）篩骨洞に移転した肝腎癌症例．

第15回日本頭頸部外科学会，新潟
27. 小西将矢，南野雅之，辻 裕之，井上俊哉，山下敏夫（2005）再発耳下腺癌に対する中性子捕捉療法併用症例．第30回日本頭頸部癌学会，大阪

著 書
1. 河本光平，泉川雅彦（2005）内耳の再生（遺伝子導入）．耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の最新医療 10–14頁，先端医療技術研究所，東京
2. 河本光平，泉川雅彦，八木正夫，Yehoash R（2005）感音難聴の遺伝子治療．聴覚と遺伝子治療 537–539頁，ニューサイエンス社，東京
3. 河本光平，泉川雅彦（2005）耳の発生・再生．キーワードで理解する発生・再生イラストマップ 168–176頁，羊土社，東京
4. 岩井 大（2005）高悪性度癌のSafety marginの取扱いと顔面神経の取扱い．耳下腺悪性腫瘍の手術，イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科―咽喉頭頸部編 68–69頁，東京医学社，東京

放射線科学講座

〈研究業績〉

原 著
1. Komemushi A, Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Shomura Y and Sawada S（2005）Radiation Exposure to operators during vertebroplasty. J Vasc Interv Radiol 16: 1327–1332
2. Kariya S, Tanigawa N, Kojima H, Komemushi A, Shomura Y, Ueno Y, Siraishi T and Sawada S（2005）Radiofrequency ablation combined with CO_2 injection for treatment of retroperitoneal tumor: Protecting surrounding organs against thermal injural. Am J Roentgenol 4: 890–893
3. Nishida T, Saito T, Sawada S and Mori Y（2005）A rare location of arterial compression in Thoracic Outlet Syndrome（TOS）. EuroRad
4. Komemushi A, Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Shomura Y and Sawada S（2005）Percutaneous Vertebroplasty for compression fracture: Analysis of Vertebral Body Bolume by CT Volumetry. Acta Radiol 3: 276–279
5. Shimizu K, Iwai H, Ikeda K, Sakaida N and Sawada S（2005）Intraparotid facial nerve schwannoma: A report of five cases and an analysis of MR imaging results. Am J Neuroradiol 26: 1328–1330
6. Ikeda K, Kuroda M, Sakaida N, Maehara M, Ohmura N and Sawada S（2005）Cellular leiomyoma of the nasal cavity: Findings of CT and MRI imaging. Am J Neuroradiol 26: 1336–1338
7. Maehara M, Ikeda K, Ohmura N, Sugimoto T, Harima K, Ino C and Sawada S（2005）Multislice computed tomography of pneumoparodid: A case report. Radiat Med 23: 147–150
8. Jin E, Isoda H, Kawa SH., Uemura Y, Asakura T, Ikeda K, Tanigawa N, Liang Y, Sawada S（2005）MRI diagnosis of gallbladder adenomyomatosis: Optimization of various pulse sequences. Chin J Radiol 39: 418–422
9. Tanigawa N, Komemushi A, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Sawada S（2005）Radiological Follow-up of New Compression Fractures Following Percutaneous Vertebroplasty. Cardiovasc Inter Rad in print
10. Akai M, Isoda H, Sawada S, Matsuo I, Kanzaki H, Sakaida N, Okamura A, Kiyokawa T（2005）A case of struma uteri. Am J Roentgenol 185: 216–218
11. Kariya S, Tanigawa N, Kojima H, Komemushi A, Shiraishi T, Kawanaka T, Sawada S（2005）Residual stenosis after conventional balloon angioplasty for hemodialysis shunt failure: treatment with metallic stent placement and post-balloon dilatation. Radiat Med 23: 51–55
12. Tanigawa N, Komemushi A, Kariya S, Kojima H, Sawada S（2005）Intraosseous venography with carbon dioxide contrast agent in percutaneous vertebroplasty. Am J Roentgenol 184: 567–570
13. 山田龍作，澤田 敏，打田日出夫，隈崎達夫，

平松京一，石井裕正，中尾宣夫，中村仁信，田口鐵男（2005）肝動脈塞栓療法における多孔性ゼラチン粒（YM670）の臨床試験．癌と化学療法　32: 1431–1436
14. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，白石友邦，山越恭雄，渡邊美博，江崎和芳，川中俊明，坂口典子，澤田　敏（2005）人工血管　グラフトシャントの血栓性閉塞に対するウロキナーゼ併用バルーン PTA．腎と透析 59: 78–82
15. 鹿浦砂智子，箕浦俊之，萱谷　宏，澤田　敏（2005）原発性虫垂癌 2 例の画像診断．臨床放射線　50: 1087–1090
16. 里井壯平（関西医科大学 外科），高井惣一郎，米虫　敦，山本栄和，石崎守彦，柳本泰明，寺川直良，高橋完治，松井陽一，谷川　昇，澤田　敏，權　雅憲，上山泰男（2005）【どう使うマルチスライス CT（MDCT）】膵管癌の進展度診断．胆と膵　26: 239–244
17. 播磨洋子，今村正浩，寒川光治，澤田　敏（2005）子宮頸癌の温熱放射線治療抵抗性における遺伝子発現プロファイル．臨床放射線 50: 870–874
18. 池田耕士，前原　稔，大村直人，澤田　敏（2005）癌取扱い規約からみた悪性腫瘍の病期診断と画像診断　頭頸部癌．臨床放射線　50: 1314–1321
19. 谷川　昇，米虫　敦，狩谷秀治，小島博之，庄村裕三，澤田　敏（2005）骨粗鬆症による椎体圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術．Radiology Frontier　8: 150–151

学会発表

1. 里井壯平，高井惣一郎，松井陽一，米虫　敦，谷川　昇，柳本泰明，豊川秀吉，岩城隆二，權雅憲，澤田　敏，上山泰男（2005）Multidetector row CT（MDCT）導入は膵癌切除率に影響を与えるか？　日本癌治療学会，名古屋
2. 播磨洋子，今村正浩，寒川光治，澤田　敏（2005）進行期子宮頸癌の温熱放射線治療抵抗性に関与する遺伝子発現．日本癌治療学会，名古屋
3. 谷川　昇，小島博之，狩谷秀治，米虫　敦，庄村裕三，寒川光治，澤田　敏（2005）がん緩和医療における IVR　ラジオ波凝固療法による疼痛緩和．日本癌治療学会，名古屋
4. 播磨洋子，澤田　敏（2005）遠隔転移を認めた子宮頸癌と小細胞肺癌における血液中の腫瘍細胞発現（第 1 報）．日本癌学会 64 回総会，札幌
5. 森　　薫，西村俊博，亀田尚美，西村茂樹，谷川　昇，澤田　敏，今堀　巧，大沼香織（2005）ロードマップ機能を利用した血管径計測．日本放射線技術学会
6. 庄村裕三，谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，米虫　敦，澤田　敏（2005）ステンレス（SUS304）-ポリ乳酸（PLA）複合編製ステントの開発．気管支学会
7. 庄村裕三，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，狩谷秀治，澤田　敏，渋谷光夫，脇本信也（2005）水溶性 polyvinyl alcohol（PVA）の一時的血管塞栓物質への応用に関する検討．Interventional Radiology, 淡路
8. 米虫　敦，谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，庄村裕三，上埜泰寛，澤田　敏，宮田美好，宮内清秀（2005）経皮的椎体形成術の医療経済学的検討．Interventional Radiology, 淡路
9. 谷川　昇，米虫　敦，狩谷秀治，小島博之，庄村裕三，澤田　敏（2005）経皮的椎体形成術による呼吸機能の改善．Interventional Radiology, 淡路
10. 庄村裕三，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，狩谷秀治，澤田　敏，仲井朝美，浜田泰以，圓井　良（2005）ステンレス-ポリ乳酸複合編製ステントの開発．Interventional Radiology, 淡路
11. 金熙乾，黒川弘晶，宮代美樹，池田耕士，澤田　敏，今泉正仁，緒方奈保子，松村美代（2005）MRI を用いた視神経圧迫の評価　正常眼圧緑内障における血管による視神経圧迫の可能性．日本医学放射線学会，横浜
12. 前原　稔，池田耕士，大村直人，杉本達哉，澤田　敏，播磨敬三，志賀淑子，井野千代徳（2005）耳下腺気腫症の一例．日本医学放射線学会，横浜
13. 宮崎由貴，白石友邦，前原　稔，杉本達哉，大村直人，池田耕士，澤田　敏，坂井田紀子，植村芳子（2005）癌化を伴った鼻腔内反性乳頭腫の一例．日本医学放射線学会，横浜

14. 小島博之，谷川　昇，狩谷秀治，米虫　敦，庄村裕三，澤田　敏（2005）有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術．Interventional Radiology, 淡路
15. 米虫　敦，谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，庄村裕三，澤田　敏（2005）経皮的椎体形成術における術者被曝．Interventional Radiology, 淡路
16. 米虫　敦，谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，庄村裕三，澤田　敏（2005）経皮的椎体形成術後の再骨折発生の危険因子．Interventional Radiology, 淡路
17. 谷川　昇，米虫　敦，小島博之，狩谷秀治，庄村裕三，澤田　敏（2005）経皮的椎体形成術における治療椎体内bone marrow edema（BME）と治療効果との関係．Interventional Radiology, 淡路
18. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，庄村裕三，上埜泰寛，白石友邦，澤田　敏（2005）炭酸ガス注入併用ラジオ波凝固療法．Interventional Radiology, 淡路
19. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，澤田　敏，白石友邦，山越恭雄，渡邊美博，江崎和芳，川中俊明，坂口典子（2005）炭酸ガスを使用した血管造影法によるシャントPTA．大阪透析研究会，横浜
20. 池田耕士，谷川　昇，杉本達哉，河相吉，前原　稔，大村直人，米虫　敦，小島博之，狩谷秀治，澤田　敏（2005）ラインスキャン拡散強調像は経皮的椎体形成術の治療効果の先行指標となり得るか？　日本医学放射線学会，横浜
21. 前原　稔，谷川　昇，池田耕士，大村直人，狩谷秀治，小島博之，米虫　敦，杉本達哉，澤田　敏（2005）経皮的椎体形成術後の造影MRIの有用性についての検討．日本医学放射線学会　横浜
22. 黒川弘晶，金熙乾，尾辻　剛，畑埜浩子，宮代美樹，池田耕士，大村直人，澤田　敏，緒方奈保子（2005）視神経のMRI　視神経乳頭陥凹の程度とMR像における信号強度の比較検討．日本医学放射線学会，横浜
23. 小島博之，谷川　昇，狩谷秀治，米虫　敦，庄村裕三，澤田　敏（2005）有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波凝固術．日本医学放射線学会，横浜
24. 谷川　昇，米虫　敦，小島博之，狩谷秀治，庄村裕三，澤田　敏（2005）骨粗鬆症による椎体圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術の長期成績．日本医学放射線学会，横浜
25. 米虫　敦，谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，庄村裕三，上埜泰寛，澤田　敏（2005）経皮的椎体形成術における術者被曝．日本医学放射線学会，横浜
26. 米虫　敦，谷川　昇，狩谷秀治，小島博之，庄村裕三，上埜泰寛，米虫節夫，澤田　敏（2005）経皮的椎体形成術後の再骨折発生の危険因子．日本医学放射線学会，横浜
27. 大村直人，池田耕士，前原　稔，澤田　敏（2005）MR画像の表示に高精細液晶モニタは適しているのか．日本医学放射線学会，横浜
28. 河相吉，池田耕士，谷川　昇，澤田　敏（2005）良性脊椎圧迫骨折における椎弓根病変の骨SPECTによる検討．日本医学放射線学会，横浜
29. 播磨洋子，今村正浩，寒川光治，澤田　敏（2005）放射線治療後進行期子宮頸癌の遠隔転移に関与するマイクロアレイ解析．日本医学放射線学会，横浜
30. 狩谷秀治，谷川　昇，小島博之，米虫　敦，庄村裕三，上埜泰寛，白石友邦，川中俊明，澤田　敏（2005）炭酸ガスを使用した透析シャント造影法と経皮的血管形成術．日本医学放射線学会，横浜
31. 河相吉，谷川　昇，澤田　敏（2005）良性脊椎圧迫骨折の骨SPECT所見．日本画像医学会，東京

産科学・婦人科学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Nakamoto T, Yasuda K, Yasuhara M, Yoshimura T, Kinoshita T, Nakajima T, Okada H, Ikuta A and Kanzaki H（2005）Expression of the endothelial cell differentiation gene 7（EDG-7）, a lysophosphatidic acid receptor, in ovarian tumor. J Obstet Gynaecol Res 31: 344–351
2. T Nakamoto, H Okada, T Nakajima, A Ikuta, K Yasuda and H Kanzaki（2005）Progesterone induces the fibulin-1 expression in human endometrial stromal cells. Hum Reprod 20: 1447–1455
3. Okada, H, Nie, G, Salamonsen, L.A.（2005）Requirement for Proprotein Convertase 6 during Decidualization of Human Endometrial Stromal Cells in vitro. The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, 90: 1028–1034
4. Nie G, Li Y, Hale K, Okada H, Manuelpillai U, Wallace EM, Salamonsen LA.（2005）Serine Peptidase HTRA3 Is Closely Associated with Human Placental Development and Is Elevated in Pregnancy Serum. Biology of Reproduction, 74: 366–374
5. Yoon-Sun Kim, Masatoshi H, Katsuhiko Y, Hiroshi O（2005）Differences in the gestational pattern of mRNA expressions of the Rnds family in rat and human myometria. Comp Biochem Physiol A Mol Integr Physiol, 142: 410–415
6. Ikuta A, Saito J, Mizokami T, Nakamoto T, Yasuhara M, Nagata F, Nakajima M, Matsuo I, Yasuda K, Kanzaki H（2005）Correlation p53 expression and human papilloma virus deoxyribonucleic acid with clinical outcome in early uterine cervical carcinoma. Cancer Detect Prev 29: 28–536
7. 生田明子，田中善章，溝上友美，堤　明裕，田中マキ，佐藤正博，原田靖子，梶原初枝，神崎秀陽（2005）経膣超音波ガイド下卵巣脳腫エタノール固定術について．超音波医学　32: 1346–1176
8. 中嶋達也，中元　剛，中元章恵，中嶋真由美，安田勝彦，神崎秀陽（2005）本院における卵巣子宮内膜症性膿胞の術後再発率についての検討．エンドメトリオージス研究会会誌　26: 86–88
9. 神崎秀陽（2005）ホルモンQ＆A　逃げ込み療法の対象患者の選択や具体的な実施方法，留意点を教えてほしい．Hormon Frontier in Gynecology 12: 199–200
10. 神崎秀陽（2005）ホルモンQ＆A　不妊症の子宮内膜症患者に対する，子宮内膜症治療のポイントを教えてほしい．Hormon Frontier in Gynecology 12: 200–201
11. 安田勝彦（2005）子宮収縮抑制剤の開発に向けた基礎研究．Hormon Frontier in Gynecology 12: 82–93
12. 安田勝彦，神崎秀陽（2005）高プロラクチン血症（プライマリケア医のための内分泌疾患の診かた）．治療 87: 2540–2543
13. 神崎秀陽，安田勝彦，安原正浩（2005）子宮筋収縮に対する喫煙の影響．喫煙科学研究財団研究年報　平成16年度版　684–690
14. 松尾　泉（2005）性同一性障害の取り扱い．産婦人科の進歩　57: 365–366

学会発表

1. 中元　剛，岡田英孝，安田勝彦，神崎秀陽（2005）ヒト子宮内膜におけるプロゲステロンに依存したfibulin-1分子の発現とその意義について．第23回日本受精着床学会
2. 中元　剛，岡田英孝，中嶋達也，中元章恵，小野淑子，堤　明裕，高橋千春，生田明子，安田勝彦，神崎秀陽（2005）ヒト子宮内膜におけるプロゲステロンに依存したfibulin-1分子の発現とその意義について．第57回日本産科婦人科学会，京都
3. 溝上友美，比舎弘子，岡崎　智，宋昌華，神崎秀陽，池原　進（2005）ヒト子宮内膜の増殖・再生に関わる幹細胞同定の試み．第94回日本病理学会，横浜
4. 溝上友美，比舎弘子，岡崎　智，王暁麗，宋昌華，李清，神崎秀陽，池原　進（2005）Isolation and characterization of human endometrial mesenchmal stem cells. 第35回日本免疫学会，横浜

5. 溝上友美，比舎弘子，神崎秀陽，池原　進（2005）ヒト子宮内膜細胞からの間葉系幹細胞の分離とその性状の検討．第 20 回日本生殖免疫学会，守口
6. 斉藤淳子，中元　剛，生田明子，神崎秀陽（2005）子宮頸癌ペプチドワクチン投与方法についての検討．第 57 回日本産科婦人科学会，京都
7. 生田明子，田中善章，堤　明裕，田中マキ，神崎秀陽（2005）当科における膣式子宮全摘術式の工夫．　第57回日本産科婦人科学会
8. 安田勝彦，中元　剛，安原正浩，堤　明裕，溝上友美，中元章恵，小野淑子，中嶋達也，依岡寛和，神崎秀陽（2005）子宮筋収縮に対する喫煙の影響．第57回日本産科婦人科学会
9. 岡田英孝（2005）プロゲステロンによる子宮内膜で制御される分子の解明．第3回子宮内膜疾患研究会
10. 吉田桃子，奥野茜子，金森千春，堤　明裕，中嶋達也，岡田英孝，松岡　進，北田光美，安田勝彦，神崎秀陽（2005）水腎症をきたした卵巣子宮内膜症嚢胞の1例．第112回近畿産科婦人科学会
11. 依岡寛和，吉田桃子，金森千春，中元章恵，梶本めぐみ，小野淑子，山崎由紀子，堤　明裕，岡田英孝，松岡　進，北田光美，安田勝彦，神崎秀陽，永田文江，福田愛作，森本義晴（2005）IVF-ET（経筋層胚移植）にて妊娠成立したが，その周産期管理が困難であった 2 症例．第 112 回近畿産科婦人科学会
12. 奥野茜子，中元章恵，梶本めぐみ，小野淑子，中元　剛，中嶋達也，松尾　泉，斉藤淳子，安田勝彦，神崎秀陽（2005）大量腹水を伴った卵巣カルチノイドの1例．第112回近畿産科婦人科学会
13. 小野淑子，斉藤淳子，松尾　泉，中嶋達也，北田光美，安田勝彦，神崎秀陽，播磨洋子（2005）当科における進行子宮頸癌に対する concurrent chemoradiation．第 112 回近畿産科婦人科学会
14. 吉田桃子，奥野茜子，浅野雅美，堤　明裕，中嶋達也，依岡寛和，安田勝彦，神崎秀陽，佐藤仁彦，木下秀文，松田公志（2005）既往帝王切開後妊娠・穿通胎盤によって子宮後面に穿孔し出血性ショックをきたした 1 例．第 113 回近畿産科婦人科学会学術集会
15. 吉田桃子，奥野茜子，金森千春，山口昌美，梶本めぐみ，小野淑子，中嶋達也，安田勝彦，神崎秀陽（2005）臍転移（The Sister Mary Joseph Nodule）を認めた卵巣癌 Stage IV に対して TJ 療法が著効した 1 例．第 113 回近畿産科婦人科学会学術集会
16. 生田明子，田中善章，溝上友美，堤　明裕，田中マキ，佐藤正博，原田靖子，梶原初枝，神崎秀陽（2005）経膣超音波ガイド下卵巣嚢腫エタノール固定術について．第 78 回日本超音波医学会
17. 中嶋達也，中元剛，中元章恵，中嶋真由美，岡田英孝，安田勝彦，神崎秀陽（2005）卵巣子宮内膜症性嚢胞手術時の出血量，手術時間の予測．第27回エンドメトリオーシス研究会
18. 安田勝彦（2005）子宮内膜症に対する Combination-GnRHa 製剤投与による骨密度（BMD）及び骨吸収マーカー NTx の推移．京阪 GnRHa 治療研究会
19. 安田勝彦（2005）子宮筋腫の取り扱いと最近の治療戦略．大阪産婦人科医会 K 地区学術勉強会
20. 山口昌美，小野淑子，奥野茜子，吉田桃子，金森千春，梶本めぐみ，内田陽子，中元章恵，中元　剛，中嶋達也，安田勝彦，神崎秀陽（2005）腹式子宮筋腫核出術において手術時間，出血量に影響する因子の検討．第 16 回近畿エンドメトリオージス・GnRHa 研究会
21. 徳村彰，久米哲也，平尾恵利，藤近加奈子，青木淳賢，新井洋由，田原正浩，田坂慶一，安田勝彦，神崎秀陽（2005）種々の婦人科疾患患者の腹水はリゾ脂質リン酸メディエーターとコリンを産生するリゾホスホリパーゼ D 活性を示す．日本薬学会125年会
22. 生田明子，斉藤淳子，溝上友美，中元　剛，中嶋真由美，神崎秀陽（2005）婦人科検診にて発見された再発急性リンパ性白血病の1例．第46回日本臨床細胞学会
23. 岡崎　智，比舎弘子，溝上友美，宋　昌華，草深公秀，池原進（2005）十全大補湯（TJ-48）抽出物中の骨髄ストローマ細胞増殖刺激活性因子の解析　カニクイザルを用いて．第 94 回

日本病理学会

24. 宋　昌華，比舎弘子，李　　清，郭　可泉，李　　銘，岡崎　智，溝上友美，稲葉宗夫，池原　進（2005）造血回復に及ぼすIBM-BMT共移植ドナー骨の促進効果（Facilitating effect of co-grafted donor bones with IBM-BMT on Hematopoietic Recovery）．第94回日本病理学会
25. 比舎弘子，岡崎　智，溝上友美，宋　昌華，草深公秀，池原　進（2005）放射線照射後に産生される骨髄ストローマ細胞走化因子の解析（II）．第94回日本病理学会
26. 岡田英孝，中元　剛，中嶋達也，安田勝彦，神崎秀陽（2005）プロゲステロンで誘導されるヒト子宮内膜脱落膜化の早期に制御される遺伝子群の解析．第23回日本受精着床学会学術講演会
27. 岡田英孝，中元　剛，中嶋達也，安田勝彦，神崎秀陽（2005）子宮内膜間質細胞のIL-15発現調節における炎症性サイトカインIL-1の役割．第50回日本不妊学会
28. 中嶋達也，中元　剛，岡田英孝，安田勝彦，神崎秀陽（2005）本院における卵巣子宮内膜症性嚢胞術後の再発率．第50回日本不妊学会

麻酔科学講座

〈研究業績〉

原　著

1. Asai T（2005）Who is at increased risk of pulmonary aspiration. Br J Anaesth 94: 690–691
2. Asai T（2005）Who is at increased risk of aspiration. Br J Anaesth 94: 251–252
3. Asai T（2005）Airway obstruction due to a damage to the laryngeal mask. Anesth Analg 100: 1549
4. Asai T（2005）Use of the laryngeal tube for difficult fibreoptic tracheal intubation. Anaesthesia 60: 826
5. Asai T, Matsumoto S, Shingu K, Noguchi T and Koga K（2005）Use of the laryngeal tube after failed laryngeal mask airway. Anaesthesia 60: 825–826
6. Asai T, Murao K and Shingu K（2005）Laryngeal mask airway to prevent gasleak around a tracheal tube. Anaesthesia 60: 102
7. Asai T, Shingu K（2005）Appropriate cuff volumes of the laryngeal tube. Anaesthesia 60: 486–489
8. Fujise K, Inoue S, Okuno S, Asai T and Shingu K（2005）Damage to syringe pump by propofol. Anaesthesia 60: 1045–1046
9. Inada T, Shirane A, Hamano N, Yamada M, Kambara T and Shingu K（2005）Effect of subhypnotic doses of dexmedetomidine on antitumor immunity in mice. Immunopharmacol Immunotoxicol 27: 357–369
10. Kubo K, Murao K, Nakao S, Kanoda T, Yamada M and Shingu K（2005）Successful management of cesarean section in a patient with Romano-Ward syndrome using landiolol, a selective and short-acting β1 receptor antagonist. J Anesth 19: 174–176
11. Okuda Y, Inoue H, Arai T, Kuno Y and Asai T（2005）Video-recording of tracheal intubation. Anaesthesia 60: 1042–1043
12. Takabuchi S, Hirota K, Oda S, Nishi K, Oda T, Shingu K, Adachi T and Fukuda K（2005）Opioid receptor stimulation does not affect cellular hypoxia-induced gene responses mediated by hypoxia-inducible factor 1 in cultured cell lines. J Anesth 19: 263–265
13. Wakeno-Takahashi M, Nakao S, Ikeda S, Kaibori M, Yamamoto H, Yanagida H, Kamiyama Y and Shingu K（2005）A case of suspected severe pulmonary embolism in a living-related liver transplantation donor. J Clin Anesth 17: 218–220
14. Wakeno-Takahashi M, Otani H, Nakao S, Imamura H and Shingu K（2005）Isoflurane induces second window of preconditioning through upregulation of inducible nitric oxide synthase in the rat heart. American Journal of Physiology. Am J Physiol Heart Circ Physiol 289: 2585–2591

15. 浅井　隆, 宇田るみ子, 狩谷伸享, 北村里恵, 丹下和晃, 中村久美, 中村燈喜（2005）誌上討論会：ラリンジアルマスクの適応と限界―メーリングリストを使った討論から―. LISA　12: 615–626
16. 浅井　隆, 新宮　興（2005）気管支喘息や心不整脈により抜管困難の症例への覚醒時ラリンジアルマスクの使用経験. 麻酔　54: 1153–1155
17. 岩井鉄平, 大石敬子, 村尾浩平, 中尾慎一, 新宮　興（2005）胃食道逆流症を伴ったCornelia de Lange 症候群患者の麻酔経験. 臨床麻酔 29: 615–616
18. 宇田良子, 池田栄浩, 村尾浩平, 松本早苗, 中尾慎一, 新宮　興（2005）カルボプラチンの腹腔内投与直後にアナフィラキシー反応を呈した一例. 日本臨床麻酔学会誌　25: 18–21
19. 神原知子, 三宅　岳, 村尾浩平, 上村幸子, 山田麻起子, 佐登宣仁, 中尾慎一, 新宮　興（2005）三心房心を合併した帝王切開の麻酔. 麻酔 54: 160–162
20. 木本倫代, 村尾浩平, 白根温子, 阪本幸代, 山田麻起子, 中尾慎一, 新宮　興（2005）フェンタニル添加くも膜下麻酔のブピバカイン投与量の検討. 麻酔　54: 864–868
21. 木本倫代, 村尾浩平, 山田麻起子, 寺口正之, 大橋　敦, 竹安晶子, 中尾慎一, 新宮　興（2005）呼吸管理に難渋した 18 トリソミーを有する患者の臍帯ヘルニア根治術の麻酔経験. 麻酔 54: 295–297
22. 國司優美, 池田栄浩, 呉本善聡, 村尾浩平, 中尾慎一, 新宮　興（2005）気管チューブとLコネクタの脱着が不能であった症例. 麻酔　54: 518–521
23. 高橋麻由, 松本英夫, 稲田武文, 山田麻起子, 瀬藤容子, 大石敬子, 田口仁士, 新宮　興（2005）下肢末梢血幹細胞移植時の仙骨硬膜外ブロックによる疼痛コントロール. ペインクリニック　26: 70–74
24. 中尾慎一（2005）解説：麻酔剤による精神障害と帯状回. Clinical Neuroscience　23: 1311–1312
25. 濵野宣行, 山田　功, 村尾浩平, 廣瀬卓治, 中尾慎一, 新宮　興（2005）頚動脈遮断に対して低体温による脳保護を行った 1 症例. 麻酔　54: 1359–1361
26. 村尾浩平（2005）整形外科診療手技のうそ・まこと―手術に前投薬は必要かー. 整形・災害外科　48: 355
27. 山田麻起子, 増澤宗洋, 稲田武文, 高橋麻由, 神原知子, 瀬藤容子, 大石敬子, 田口仁士, 新宮　興（2005）腹腔鏡下腎尿管全摘除術後に生じた下腹部難治性疼痛の1症例. ペインクリニック　26: 211–214

総　説

1. Asai T（2005）Brimacombe JR. Laryngeal Mask Anesthesia: Principles and Practice, 2nd Edn. Bri J Anaesth 94: 694–695
2. Asai T, Shingu K（2005）Laryngeal tube. Br J Anaesth 95: 729–736
3. 浅井　隆（2005）LMA Fastrach を使いこなそう：LMA は気道確保の困難な症例で有用！ LISA　12: 596–600
4. 浅井　隆（2005）ラリンジアルマスクとラリンジアルチューブ. Anet　9: 20–26
5. 新宮　興（2005）臨床医学の展望　麻酔科学. 日本醫事新報　4217: 25–32

学会発表

1. Asai T（2005）Technical update: meet the expert sessions: the laryngeal tube. First international symposium on airway management in the adult, child and newborn Abano Terme-Padua, Italy（招待講演）
2. Asai T（2005）Extraglottic airway devices: my choice in difficult cases. First international symposium on airway management in the adult, child and newborn Abano Terme-Padua, Italy（招待講演）
3. Asai T（2005）Workshop: difficult airway hands-on workshop. First international symposium on airway management in the adult, child and newborn Abano Terme-Padua, Italy（招待講演）
4. 新宮　興（2005）25 周年特別企画　特別シンポジウム「医療界をリードする麻酔科：いま麻酔科医に求められているもの」―大学附属病院と麻酔科. 第25回日本臨床麻酔学会総会,

大阪（招待講演）
5. 中尾慎一（2005）新臨床研修における麻酔科の役割．第44回全国自治体病院学会，兵庫（招待講演）
6. Nakao S, Yamada M, Sakamoto S, Masuzawa M, Takahashi M and Shingu K（2005）Psychotropic and addictive effects of anesthetics. The 7th International Conference on Basic and Systemic Mechanisms of Anesthesia Nara, Japan
7. Sakamoto S, Murao K, Yamada M, Nakao S and Shingu K（2005）Minimum convulsive doses of bupivacaine, levobupivacaine, dextrobupivacaine and ropivacaine in cats. IARS 79th Clinical and Scientific Congress Hawaii, USA
8. Sakamoto S, Nakao S, Masuzawa M, Yamada M and Shingu K（2005）Differential effects of nitrous oxide and xenon on dopamine release in the rat nucleus accumbens: A microdialysis study. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists Atlanta, USA
9. Shirane A, Inada T, Yamada M and Shingu K（2005）Alterationn of the pattern of gastrointestinal transit after lipopoly saccharide injectionin mice. IARS 79th Clinical and Scientific Congress Hawaii, USA
10. Shirane A, Inada T and Shingu K（2005）Dexmedetomidine down-regulates anti-tumor immunity in mice. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists Atlanta, USA
11. Wakeno-Takahashi M, Otani H, Nakao S, Imamura H and Shingu K（2005）Isoflurane induces second window of preconditioning mediated by inducible nitric oxide synthase in the rat heart. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists Atlanta, USA
12. Yamada M, Nakao S, Sakamoto S, Takahashi M and Kanbara T（2005）Propofol is a sigma-1 receptor antagonist and inhibits pentazocine-induced c-Fos expression in the mouse posterior cingulate and retrosplenial cortices. Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists Atlanta, USA
13. 稲田武文，白根温子，新宮　興（2005）マウスエンドトキシン血症において，誘導型一酸化窒素合成酵素及び腫瘍壊死因子の胃・腸管運動に及ぼす影響．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
14. 稲田武文，蒋　時文，古田里佳，藤澤順一（2005）個体内でのHTLV-1遺伝子発現抑制機構における酸素分圧の関与．第64回日本癌学会学術総会，北海道
15. 井上昌子，奥野聡子，藤瀬久美子，浅井　隆，新宮　興（2005）プロポフォール投与時に使用したシリンジポンプにひび割れを生じた事例報告．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
16. 梅垣岳志，村尾浩平，坂井貴子，新宮　興，中尾慎一（2005）Dumon式ステント留置後の気道狭窄解除術の一症例．第25回日本臨床麻酔学会総会，大阪
17. 梅垣岳志，村尾浩平，中尾慎一，新宮　興（2005）上位頚椎腫瘍切除術後三日目に気道閉塞を来した一症例．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
18. 榎泰二郎，溝田敏幸，岡崎　俊，宮脇郁子，中尾慎一（2005）術後両側反回神経麻痺をきたした一症例．第25回日本臨床麻酔学会総会，大阪
19. 大石敬子，田口仁士，木本倫代，山崎悦子，松本英夫，新宮　興（2005）慢性肛門部痛の治療に関する検討．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
20. 大石敬子，田口仁士，木本倫代，山崎悦子，松本英夫，中尾みどり，新宮　興（2005）ペインクリニック外来診断治療マニュアル作成の試み．第10回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
21. 大石敬子，田口仁士，木本倫代，山崎悦子，松本英夫，中尾みどり，新宮　興（2005）帯状疱疹痛に対するクロナゼパムの効果．第39回日本ペインクリニック学会総会，栃木
22. 岡本明久，松本早苗，浅井　隆，新宮　興（2005）腰椎手術中の循環制御が困難であった未診断の褐色細胞腫の一例．第25回日本臨床麻酔学会総会，大阪
23. 奥田平治（2005）交通事故による上肢神経損傷の一例．第10回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
24. 尾田聖子，高淵聡史，福田和彦，西憲一郎，広

田喜一，足立健彦（2005）シルニジピンは酸素濃度依存的に低酸素誘導性遺伝子発現を抑制する．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
25. 叶多知子，亀井政孝，新澤正秀，吉永容子，畔　政和（2005）人工心肺非使用下冠動脈バイパス術術後心房細動発症に炎症反応が与える影響．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
26. 河嶋　朗，池田一雄，新宮　興（2005）帝王切開時メトクロプラミドにより高度の呼吸抑制を来した3例．第25回日本臨床麻酔学会総会，大阪
27. 神原知子，山田麻起子，稲田武文，中尾慎一，新宮　興，佐登宣仁（2005）ヒト単球様細胞においてプロポフォールはインターフェロンγのシクロオキシゲナーゼ2の発現を増強する．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
28. 木本倫代，田口仁士，大石敬子，山崎悦子，新宮　興（2005）局所静脈内神経ブロックと同時にリハビリテーションを行った3症例．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
29. 木本倫代，村尾浩平，國司優美，小島研太郎，岩井鉄平，新宮　興（2005）呼吸管理に難渋した18トリソミーを有する患児の臍帯ヘルニア根治術の麻酔経験．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
30. 姜　信許，松本早苗，浅井　隆，新宮　興（2005）トゥルービュー喉頭鏡が有用であった開口障害による挿管困難の一例．第25回日本臨床麻酔学会総会，大阪
31. 坂井貴子，浅井　隆，新宮　興（2005）挿管用ラリンジアルマスクにより歯牙損傷をきたした症例．第25回日本臨床麻酔学会総会，大阪
32. 阪本幸世，中尾慎一，増澤宗洋，山田麻起子，神原知子，新宮　興（2005）ケタミンによるラット脳側坐核ドパミン放出増加に対するキセノンと亜酸化窒素の影響．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
33. 下園崇弘，溝田敏幸，宮脇郁子，榎泰二郎，岡崎　俊，本田　葉，東別府直紀，中尾慎一（2005）ダントロレンが著効を示した2症例．第25回日本臨床麻酔学会総会，大阪
34. 白根温子，稲田武文，新宮　興（2005）マウスにおけるデクスメデトミジンの抗腫瘍免疫に及ぼす影響．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
35. 住吉直秀，中澤　直（2005）最近の症例から（外傷性大腿動静脈損傷の1例，他）．第11回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
36. 高橋麻由，中尾慎一，新宮　興（2005）イソフルランの晩期プレコンディショニング効果．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
37. 高淵聡史，尾田聖子，福田和彦，広田喜一，足立健彦，西憲一郎（2005）オピオイド受容体の選択的アゴニストはHIF-1の活性化に影響を及ぼさない．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
38. 田口仁士，大石敬子，木本倫代，山崎悦子，松本英夫，中尾みどり（2005）ペインクリニックにおける説明同意書．第11回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
39. 中尾慎一，宮本悦子，増澤宗洋，阪本幸世，高橋（分野）麻由，山田麻起子，新宮　興（2005）低二酸化炭素血症による脳白質病変悪化に対するケタミンの保護作用．第32回日本集中治療医学会学術集会，東京
40. 中尾みどり，田口仁士，大石敬子，松本英夫，木本倫代，山崎悦子，新宮　興（2005）下肢神経症状に対してステロイドを加えた硬膜外およびくも膜下ブロックが有効であった多発性硬化症の一例．第35回日本ペインクリニック学会関西地方会，大阪
41. 新津建樹（2005）在宅医療について．第10回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
42. 西憲一郎，新宮　興，広田喜一，足立健彦，高淵聡史，尾田聖子（2005）マクロファージにおけるLPS刺激の低酸素応答に及ぼす影響の検討．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
43. 西憲一郎，広田喜一，高淵聡史，尾田聖子，足立健彦，新宮　興（2005）LPS刺激がマクロファージの低酸素誘導性遺伝子発現に及ぼす影響の検討．第32回日本集中治療医学会学術集会，東京
44. 橋本明子，村尾浩平，國司優美，中尾慎一，新宮　興，竹安晶子（2005）Balloon Wedge Pressure Catheterを用いて一側肺換気を行った低体重児の一症例．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
45. 松本早苗（2005）星状神経節ブロックが有効

と思われたアトピー性皮膚炎の1例. 第11回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
46. 松本早苗，浅井　隆，加藤　晶，新宮　興（2005）星状神経節ブロックが有効と思われたアトピー性皮膚炎の一例．第51回日本麻酔科学会関西地方会，滋賀
47. 松本早苗，加藤　晶，浅井　隆，新宮　興（2005）ポーテックス社製新型カテーテルの挿入の容易度と合併症の検討．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
48. 山崎悦子，田口仁士，木本倫代，大石敬子，梅垣岳志，増澤宗洋，新宮　興（2005）進行性の四肢の運動麻痺と疼痛をきたし，モルヒネと手術により治療を行ったムコ多糖症の一例．第39回日本ペインクリニック学会総会，栃木
49. 山崎悦子，村尾浩平，新宮　興，西前博司，益子進也（2005）硬膜外投与薬物が術後の睡眠に与える影響．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
50. 山田麻起子，中尾慎一，阪本幸世，増澤宗洋，高橋麻由，新宮　興（2005）プロポフォールはシグマ1受容体拮抗薬であり，後帯状・後板状皮質のペンタゾシン誘導性c-Fos発現を抑制する．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫

著　書
1. Asai T（2005）New airway equipment. The year in anaesthesia and critical care（Hunter J, Cook T, Priebe HJ, Struys M eds）pp 251–274, Clinical publishing, oxford
2. 新宮　興（2005）プラン：第1章　周術期ケアのポイント．写真と図でわかる！　整形外科手術と術後ケア　手術を知れば看護が変わる（飯田寛和監修）14–30頁，メディカ出版，大阪
3. 浅井　隆（2005）ラリンジアルマスクの使用に必要な解剖および生理学的知識．最新ラリンジアルマスク（安本和正編）11–29頁，克誠堂出版，東京
4. 坂井貴子，新宮　興（2005）Ⅰ.術前：循環器に関するトラブル　35.心不全の複数回病歴がある．麻酔科診療プラクティス　第17巻「麻酔科トラブルシューティング」（弓削孟文編集，高崎眞弓，弓削孟文，稲田英一，岩崎　寛責任編集）54–55頁，文光堂，東京
5. 阪本幸世，新宮　興（2005）Ⅰ.術前：循環器に関するトラブル　32.収縮期雑音がある．麻酔科診療プラクティス　第17巻「麻酔科トラブルシューティング」（弓削孟文編集，高崎眞弓，弓削孟文，稲田英一，岩崎　寛責任編集）49–50頁，文光堂，東京
6. 阪本幸世，新宮　興（2005）Ⅰ.術前：循環器に関するトラブル　33.拡張期雑音がある．麻酔科診療プラクティス　第17巻「麻酔科トラブルシューティング」（弓削孟文編集，高崎眞弓，弓削孟文，稲田英一，岩崎　寛責任編集）50–51頁，文光堂，東京
7. 白根温子，新宮　興（2005）Ⅰ.術前：循環器に関するトラブル　34.心筋症がある．麻酔科診療プラクティス　第17巻「麻酔科トラブルシューティング」（弓削孟文編集，高崎眞弓，弓削孟文，稲田英一，岩崎　寛責任編集）52–53頁，文光堂，東京
8. 新宮　興，坂井貴子（2005）第3章　薬剤に関する最新情報：静脈麻酔薬．先端医療シリーズ33　麻酔科の新しい流れ（後藤文夫，並木昭義，島田康弘編集主幹）56–61頁，先端医療技術研究所，東京
9. 高橋麻由，新宮　興（2005）Ⅲ麻酔方法と周術期全身管理計画の立案―1麻酔方法．麻酔科術前管理ハンドブック2005（弓削孟文編集）136–144頁，真興交易，東京
10. 中尾慎一（2005）第5章　麻酔とプレコンディショニング：プレコンディショニングにおけるKATPの役割．先端医療シリーズ33　麻酔科の新しい流れ（後藤文夫，並木昭義，島田康弘編集主幹）106–109頁，先端医療技術研究所，東京
11. 廣瀬卓治，新宮　興（2005）知っておきたい麻酔の知識．写真と図でわかる！　整形外科手術と術後ケア　手術を知れば看護が変わる（飯田寛和監修）14–25頁，メディカ出版，大阪
12. 山田麻起子，新宮　興（2005）Ⅰ.術前：循環器に関するトラブル　36.Allenのテストが陽性である．麻酔科診療プラクティス　第17巻「麻酔科トラブルシューティング」（弓削孟文編集，高崎眞弓，弓削孟文，稲田英一，岩崎　寛責任編集）56頁，文光堂，東京

臨床検査医学講座

〈研究概要〉

病理部に関しては，特異的な症例に関する研究に限られるが，その他の面では基本的に循環器領域での研究に重点を置いている．高橋伯夫は小宮山豊講師，吉賀正亨大学院生などと内因性ジギタリスの研究を継続して実施している．ヒトが，ガマ蛙の持つ一種のジギタリスであるガマ毒（bufadienolide）を生体内で合成している可能性をつきとめて，その合成が副腎皮質でなされていることを明らかにした．これまで知られたmarinobufageninとは別に，それに水素原子が2個付いたtelocinobufaginの存在を世界で初めて明らかにし，前者にくらべて後者の方がヒトの血中濃度として約2倍高値であった．

さらに，telocinobufaginに対するモノクローナル抗体を作成してELISAを作成したが，抗体の特異性が悪く，実際にはmarinobufageninとの交差性の方が高い結果となった．そこで，残念ながらODSカラムを用いた高速液体クロマトグラフィと組み合わせて測定しないと特異物質の推移を測定することが不可能であった．最近になって，このELISA系を用いて副腎皮質細胞培養系で，培養上清中の成分を分析したところ，marinobufageninと同じ溶出部位にELISA陽性ピークがあるが，これとは別の部位にも同じく陽性ピークがあり，後者の方が濃度が著しく高いことが判明した．このピークを液体クロマトグラフィ/質量分析系で詳細に分析したところ，主成分はmarinobufotoxinであることが明らかになった．Marinobufotoxinはmarinobufageninと同様のNa, K-ATPase抑制活性を示すことが知られているので，現在，その生理活性について詳細な検討に取り掛かっている．

正木浩哉助教授は，第二内科と共同で慢性腎不全の病態と治療に関する臨床的な研究および動脈硬化症の骨髄単核球細胞移植による血管再生療法の研究と臨床にも取り組んでいる．

桝田講師は，一貫してimmunoglobulin受容体に関する研究を続けていて，小児科谷内助教授や整形外科のリューマチ診療部門などとの共同研究を実施している．概要は以下の通りである．

IgGレセプターIII（（FcγRIII: CD16）には，NK細胞とマクロファージ（Mϕ）に発現しているIIIa型と，好中球に発現しているIIIb型があり，両者とも細胞の活性化によって細胞表面から放出され，可溶型（sFcγRIII）として血漿中に存在している．すなわち，これら可溶型を個々に測定することにより，生体内での好中球，NK細胞あるいはMϕの活性化を知ることができる．そこでIIIa型およびMϕ由来のIIIa型に特異的なモノクロナル抗体を作成し，血漿中のsFcγRIIIaおよびsFcγRIIIaMϕ測定法を構築した．3種のsFcγRIIIs測定系の感度差より，正常プール血漿に含まれるsFcγRIIIaは大部分がNK細胞由来，総sFcγRIIIは大部分が好中球由来であった．現在，これら可溶型の絶対値を算出するために，リコンビナントsFcγRIIIaを精製中である．

sFcγRIIIs測定の臨床検査としての応用を目指し，種々の疾患で測定した．関節リウマチ（RA）患者血漿中の3種のsFcγRIIIsはすべて健常者に比して明らかに増加したが，sFcγRIIIaの値が最もよく病態を反映していた．また，抗TNFα抗体療法時の若年性関節リウマチ患者での可溶性FcγRIIIaの変化を測定したところ，抗体投与後経日的に低下し，全ての検査値の内で最もよく病態を反映していた．

Mϕが動脈硬化発症において重要な役割を果たしていることから，sFcγRIIIa$^{M\phi}$の動脈硬化診断法としての可能性を検討した．血漿sFcγRIIIa$^{M\phi}$は健常者では加齢とともに増加し，成人病検診症例では動脈硬化のリスクファクターが増すに従い増加し，頸動脈エコー検査の結果と有意に相関した．また，虚血性心疾患（CAD）症例では明らかな高値を示し，冠動脈の有意狭窄数が増すに従い増加した．今後，本検査法が不安定プラークの検出に応用できないか検討したいと考えている．

腎疾患においては糸球体や尿細管，間質の炎症により同部位に単球／Mϕの湿潤が認められ，その発症や進展に関与すると報告されている．実際，尿中のMϕ数およびFcγRIIIa陽性Mϕの有無で腎症の活動性を評価する事ができると言われている．そこで，血漿および尿中の3種のsFcγRIIIsを測定し，それらと腎症の重症度，活動性を比較検討する予定である．

Fcレセプターの多型タイプついては，糸球体腎炎，IgA腎症患者におけるFcγRIIB遺伝子の多型タイプ

を調べている.

〈研究業績〉

原　著

1. Komiyama Y, Dong XH, Nishimura N, Masaki H, Yoshika M, Masuda M and Takahashi H (2005) A novel endogenous digitalis, telocinobufagin, exhibits elevated plasma levels in patients with terminal renal failure. Clin Biochem 38: 36–45
2. Taniuchi S, Masuda M, Teraguchi M, Ikemoto Y, Komiyama Y, Takahashi H, Kino M and Kobayashi Y (2005) Polymorphism of FcγRIIa may affect the efficacy to γ-globulin therapy in Kawasaki desease. J Clin Immunol 25: 309–313
3. Taniuchi S, Masuda M, Fujii Y, Izawa K, Kanegane H and Kobayashi Y (2005) The role of a mutation of the CXCR4 gene in WHIM syndrome. Haematologica 90: 1271–1272
4. Nishimura M, Takahashi H, Ono T and Yoshimura M (2005) Chronic reductions in carotid blood flow cause salt-sensitive hypertension in rats. J Hypertens 23: 1173–1181
5. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Yamamoto N, Mashida C, Kawagoe K, Tahakashi H and Ono T (2005) Close association of Chlamydia pneumoniae IgA seropositivity by ELISA with the presence of coronary artery stenosis in haemodialysis patients. Nephrol Dial Transplant 20: 1944–1950
6. Nishimura M (2005) Parasympathetic neuropathy and LVH. Nephrol Dial Transplant 20: 1011–1012
7. Ishida O, Oku H, Ikeda T, Nishimura M, Kawagoe K and Nakamura K (2005) Increased specific antibody titers against Chlamydia pneumoniae in patients with age-related macular degeneration. Bull Osaka Med College 51: 17–22
8. Iwasaki M, Adachi Y, Minamino K, Suzuki Y, Zhang Y, Okigaki M, Nakano K, Koike Y, Wang J, Mukaide H, Taketani S, Mori Y, Takahashi H, Iwasaka T and Ikehara S (2005) Mobilization of bone marrow cells by G-CSF rescues mice from cisplatin-induced renal failure, and M-CSF enhances the effects of G-CSF. J Am Soc Nephrol 16: 658–666
9. Nakamura T and Takahashi H (2005) Screening of antibiotics resistance to Enterobacteriaceae, Pseudomonas aerginosa, and Acinetobacter baumannii by an advanced expert system. J Infect Chemother 11: 288–292
10. Fukui M, Mori Y, Takehana K, Masaki H, Motohiro M, Sakamoto N, Kitamura T, Yoshida S, Nakamura S, Baden M, Nishikawa M and Iwasaka T (2005) Assessment of coronary artery disease in hemodialysis patients with delayed systolic blood pressure response after exercise testing. Blood Purif 23: 466–472
11. Imada T, Tatsumi T, Mori Y, Nishiue T, Yoshida M, Masaki H, Okigaki M, Kojima H, Nozawa Y, Nishiwaki Y, Nitta N, Iwasaka T and Matsubara H (2005) Targeted delivery of bone marrow mononuclear cells by ultrasound destruction of microbubbles induces both angiogenesis and arteriogenesis response. Arterioscler Thromb Vasc Biol 25: 2128–2134
12. Shimizu K, Iwai H, Ikeda K, Sakaida N and Sawada S (2005) Intraparotid facial nerve schwannoma: A report of five cases and an analysis of MR imaging results. Am J Neuroradiol 26: 1328–1330
13. Ikeda K, Kuroda M, Sakaida N, Maehara M, Ohmura N and Sawada S (2005) Cellular leiomyoma of the nasal cavity: Findings of CT and MR Imaging. Am J Neuroradiol 26: 1336–1338
14. Komai Y, Kawakita M, Shimada O, Muguruma K, Sakaida N and Matsuda T (2005) Colonic adenocarcinoma and stones in an Indiana pouch. Int l J Urol 12: 412–413
15. Okugawa H, Yamamoto D, Uemura Y, Sakaida N, Yamada M, Tanaka K and Kamiyama Y (2005) Prognostic factors in breast cancer: The value of the Nottingham prognostic index for patients treated in a single institution. Surg Today 35: 907–911
16. Yoshikawa T, Ogata N, Takahashi K, Mori S, Uemura Y and Matsumura M (2005) Bilateral

orbital tumor as initial presenting sign in human T-cell leukemia virus-1 associated adult T-cell leukemia/lymphoma. Am J Ophthalmol 140: 327–329

17. Okugawa H, Yamamoto D, Uemura Y, Sakaida N, Tanano A, Tanaka K and Kamiyama Y（2005）Effect of perductal paclitaxel exposure on the development of MNU-induced mammary carcinoma in female S-D rats. Breast Cancer Res Treat 91: 29–34
18. Yamagata H, Matsuzaki K, Mori S, Yoshida K, Tahashi Y, Furukawa F, Sekimoto G, Watanabe T, Uemura Y, Sakaida N, Yoshioka K, Kamiyama Y, Seki T and Okazaki K（2005）Acceleration of Smad2 and Smad3 phosphorylation via c-Jun NH(2)-terminal kinase during human colorectal carcinogenesis. Cancer Res 65: 157–165
19. 西村眞人，小野利彦（2005）透析医療の循環器合併症．血液透析患者における心臓内血栓の危険性．日本透析医学会雑誌 38 : 177–179
20. 沖野攻次，西村真人，橋本哲也，小林裕之，山崎 悟，福田豊史，山本則之，小野利彦，村山祐一郎，中村昭光（2005）透析患者の感染性心内膜炎の1例．腎と透析 腎不全外科 2005 59 : 66–68
21. 川口雄才，荒木 浩，中川明彦，石崎守彦，上山泰男，西村典子，小宮山豊，高橋伯夫（2005）全血でのLPS刺激TNF–α産生能を用いた塩酸イリノテカンの免疫毒性の検討．臨床病理 53 : 594–598
22. 田中敬一郎，中村竜也，内田幸子，佐野みゆき，中田千代，平城 均，宗像真智子，高橋伯夫（2005）G群溶血性連鎖球菌による壊死性筋膜炎の1症例．医学検査 54 : 1400–1405
23. 岸本裕司，岡前文子，寺嶋由香利，有本美代子，細川美香，阿部 操，山岡 学，大谷哲司，寺岡節子，宗像眞智子，高橋伯夫，福原資郎（2005）交叉適合試験を実施しない時間外緊急輸血マニュアル．日本輸血学会雑誌 51 : 571–577
24. 福井政慶，森 泰清，井ノ上祥子，岸本典子，内山葉子，柴崎泰延，山原英樹，今田崇裕，来島泰秋，阪本憲彦，井庭 理，早川 敬，所敏子，正木浩哉，小崎篤志，中嶋章貴，長原正幸，西川光重，岩坂壽二（2005）慢性維持透析患者における十全大補湯の有用性の検討．日本透析医学会雑誌 38 : 273–278
25. 山道啓吾，小松優治，坂井田紀子，中井宏治，中根恭司，上山泰男（2005）食道アカラシアに合併した広範な多発食道癌の1例．手術 59 : 2001–2005
26. 山田正法，山本大吾，坂井田紀子，植村芳子，奥川帆麻，田中完児（2005）乳腺線維腺腫に合併した非浸潤性乳癌の1例．日本臨床外科学会雑誌 66 : 583–586
27. Yoshika M, Komiyama Y, Masuda M, Masaki H and Takahashi H（2005）Proceedings of the 40th annual scientific meeting of the society for the spontaneously hypertensive rat（SHR）.（meeting organizer）. Clin Exp Hypertens 7: 543–582

総 説

1. Mori Y, Kishimoto N, Yamahara H, Kijima Y, Nose A, Uchiyama-Tanaka Y, Fukui M, Kitamura T, Tokoro T, Masaki H, Nagata T, Umeda Y, Nishikawa M and Iwasaka T（2005）Predominant tubulointerstitial nephritis in a patient with systemic lupus nephritis. Clin Exp Nephrol 9: 79–84
2. 原 克子，小宮山豊，山本 透，高橋伯夫（2005）シリーズ最新医学講座 臨床現場における薬毒物検査の実際・7 確認分析（臨床現場におけるGC/MSの活用）．臨床検査 49 : 1027–1035
3. 小宮山豊，吉賀正亨，高橋伯夫（2005）シリーズ 病院検査部が行うコンサルティング業務の実際 凝固スクリーニング検査異常に対する解析と臨床への情報提供．臨床病理 53 : 514–521
4. 小宮山豊，吉賀正亨，高橋伯夫（2005）薬剤起因性血小板減少症の病態と検査（ITP, HIT, TTP） 付録：薬物依存性血小板減少症候補薬物のデータベース．臨床病理 53 : 658–667
5. 中谷壽男，新谷 裕，原 克子，小宮山豊，高橋伯夫（2005）急性中毒における高度救命救急センターの役割．日本職業・災害医学会会誌 50 : 331–334
6. 桝田 緑，高橋伯夫（2005）マクロファージ由来可溶性FcγRIIIa. Angiology Frontier 4: 303–

307
7. 高橋伯夫（2005）プライマリケア医のための内分泌疾患の診かた，褐色細胞腫．治療　87 : 2614–2621
8. 高橋伯夫（2005）ここだけは知っておきたい臨床検査のポイント：CRP（C-reactive protein）. Medicina 42: 158–159
9. 高橋伯夫（2005）高血圧は万病のもと，上手に付き合う方法．関西医科大学　白菊会報 25 : 27–37
10. 高橋伯夫（2005）高感度CRP（high sensitive C-reactive protein: hs-CRP）．血栓と循環　12 : 541–544
11. 高橋伯夫（2005）ストレスと血圧．血圧　12 : 530–531
12. 高橋伯夫（2005）新たな血小板・動脈硬化マーカーとしての血漿セロトニン濃度の意義．分子血管病　6 : 33–38
13. 正木浩哉（2005）【透析医療と漢方医学】透析患者の便秘と漢方薬．大阪透析研究会会誌 23 : 117–119
14. 渡辺清明，高橋伯夫（2005）第 18 回国際臨床化学会議記録集．臨床化学　52 : 22
15. 正木浩哉，今田崇裕，菊池早苗，酢谷保夫，高橋伯夫，松原弘明，岩坂壽二（2005）【糖尿病性細小血管症　基礎・臨床のアップデート】糖尿病性神経障害　予防，治療，管理　治療の進歩　骨髄・末梢血単核球細胞移植の有用性．日本臨床　63 : 627–633
16. 高橋伯夫（2005）特集　早期診断と臨床検査医学　臨床検査を早期診断に生かす．日本内科学会雑誌　94 : 2566–2586
17. 高橋伯夫（2005）第 15 回日本臨床検査専門医会春季大会を終えて．Lab CP 23: 57, 2005
18. 高橋伯夫（2005）降圧の重要性が証明されたValue 試験の結果から．Medical Tribune 紙 2 月 24 日
19. 原　克子，小宮山豊，五十野剛，神畠　宏，岩坂壽二，高橋伯夫（2005）経皮的冠動脈介入術（PCI）における心筋保護剤の有効性と血中total PAI-1の動態. 第5回TTMフォーラム記録: 11–17
20. 中村竜也，高橋伯夫（2005）PK/PD（Pharmacokinetics/Pharmacodynamics）理論を用いた経口セフェム系薬の有効性の検討．Physicians Therapy Manual 5

学会発表

1. 小宮山豊（2005）見せかけの異常値から臨床へのアドバイス―診療支援と臨床検査技師の関与―シンポジウム　救急医療のなかでの臨床検査―診療支援と臨床検査技師の関与―．第54回日本医学検査学会，京都
2. 高橋伯夫（2005）医療における臨床検査専門医の役割．大阪衛生臨床検査技師会フォーラム，大阪
3. 高橋伯夫（2005）救急医療のなかでの臨床検査　臨床検査技師が行う診療支援．第 54 回日本医学検査学会，京都
4. 高橋伯夫（2005）保険診療体制と臨床検査．第54回日本医学検査学会，京都
5. 小宮山豊，吉賀正亨，高橋伯夫（2005）ヘパリン起因性血小板減少症―抗体検査陰性症例を経験して―シンポジウム：凝固異常を引き起こす疾患の病態と検査．第 49 回日本臨床検査医学会　近畿支部例会，神戸
6. 高橋伯夫（2005）心不全の臨床化学的アプローチ. 第24回日本臨床化学会夏季セミナー, 山形
7. 高橋伯夫（2005）メタボリックシンドロームを浮き彫りにする臨床検査．第 24 回日本臨床化学会夏季セミナー，山形
8. 西村眞人（2005）心不全の臨床化学的アプローチ「心不全の生化学的指標としてのB型ナトリウム利尿ホルモン，BNP」．第24回日本臨床化学会夏季セミナー，山形
9. 高橋伯夫（2005）新しい循環器疾患のマーカー・血管障害とセロトニン．第 28 回日本血栓止血学会，福岡
10. Masuda M, Hasui M, Shi YH, Nishibu T, Nishimura N, Yoshika M, Komiyama Y, Tanaka T, Kobatake S, Kobayashi Y and Takahashi H（2005）Measurement of soluble Fcγ receptor type IIIa in plasma from a patient with juvenile rheumatoid arthritis during anti-tumor necrosis factor α therapy. FASEB 2005 夏季研究会議 Immunoreceptors, Arizona
11. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Fujita H, Inoue N and Ono T

(2005) Possible association of the circulating adiponectin concentration with coronary in-stent restenosis in hemodialysis patients. The 42nd European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Istanbul

12. Nishimura M, Takahashi H, Ono T and Yoshimura M (2005) Up-regulation of the renin-angiotensin system in the rat brain in chronic renal failure. The 42nd European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Istanbul
13. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K and Ono T (2005) Differential relationship between cardiac autonomic function and left ventricular geometry in diabetic hemodialysis patients. The 42nd European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Istanbul
14. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Fujita H, Inoue N and Ono T (2005) Diagnostic potential of iodine-123-BMIPP imaging for coronary artery disease in diabetic and nondiabetic hemodialysis patients. The 42nd European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Istanbul
15. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Fujita H, Inoue N and Ono T (2005) Association of insulin resistance with impaired cardiac fatty acid metabolism in maintenance hemodialysis patients with normal coronary artery (8 best abstracts award). The 42nd European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Istanbul
16. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Fujita H, Inoue N and Ono T (2005) Close association of Chlamydia pneumoniae IgA seropositivity by ELISA with the presence of coronary artery stenosis in hemodialysis patients. The 42nd European Renal Association-European Dialysis and Transplantation Association Congress, Istanbul
17. Nishimura M, Hashimoto T, Kobayashi H, Fukuda T, Okino K, Takahashi H and Ono T (2005) Association Between Cardiovascular Autonomic Neuropathy and Left Ventricular Hypertrophy in Diabetic Hemodialysis Patients. International Session of the Japan Kidney Week 2005, Yokohama
18. 桝田　緑，高橋伯夫（2005）成人病検診検体における可溶性FcγRIIIa-Mϕの変化．第37回日本動脈硬化学会総会，東京
19. 正木浩哉，能勢敦子，福井政慶，菊地早苗，今田崇裕，原　克子，森　泰清，岩坂壽二，高橋伯夫（2005）閉塞性動脈硬化症におけるベラプロストナトリウムの血管内皮機能改善効果の検討．第37回日本動脈硬化学会総会，東京
20. 桝田　緑，高橋伯夫（2005）FcγRIIIa特異的モノクロナル抗体を用いた可溶性FcγRIIIaの測定：関節リウマチ患者での検討．第65回日本血液学会総会，横浜
21. 桝田　緑，西村典子，小宮山豊，高橋伯夫（2005）関節リウマチ患者における可溶性FcγRIIIa値の変動．第52回日本臨床検査医学会総会，福岡
22. 小宮山豊，吉賀正亨，北澤康秀，中谷壽男，小亀浩市，宮田敏行，高橋伯夫（2005）FRETS-VWF73によるADAMTS13活性測定と臨床検査―プレートおよび標準血漿―．第52回日本臨床検査医学会総会，福岡
23. 桝田　緑，高橋伯夫（2005）関節リウマチ患者における可溶性FcγRIIIa値の変動．第35回日本免疫学会総会・学術集会，横浜
24. 吉賀正亨，小宮山豊，河村晃弘，神畠　宏，正木浩哉，岩坂壽二，高橋伯夫（2005）特異な発症様式を示したヘパリン起因性血小板減少症の1例．第102回内科学会総会，大阪
25. 吉賀正亨，小宮山豊，寺内里恵，寺岡安津子，宗像真智子，安田勝彦，尼川龍一，高橋伯夫（2005）最近当院で経験した異常フィブリノゲン症の2例．第6回検査血液学会学術集会，長崎
26. 吉賀正亨，小宮山豊，西村典子，桝田　緑，正木浩哉，高橋伯夫（2005）培養副腎細胞系における内因性ジギタリス様物質の分泌と分泌増強因子の検索．第28回日本高血圧学会総会，旭川

27. 吉賀正亨，小宮山豊，西村典子，小西元美，秋沢俊史，桝田　緑，正木浩哉，高橋伯夫（2005）培養副腎細胞から分泌される新規内因性ジギタリス様物質の発見．第52回日本臨床検査医学会総会，福岡
28. 富山　尚，門田洋一，徳原満雄，福井由理，山科雅央，中川新士，松本隆之，森　茂生，福島慎太郎，宮崎浩彰，中橋佳嗣，関　寿人，岡崎和一，坂井田紀子，植村芳子，尼川龍一（2005）単純ヘルペスウイルスによる血球貪食症候群を契機に劇症肝炎を発症した1例．第41回日本肝臓学会総会，大阪
29. 来島泰秋，福井政慶，森　泰清，辻本悟史，岸本典子，今田崇裕，能勢敦子，山原英樹，北村哲也，菊池早苗，阪本憲彦，早川　敬，所敏子，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二（2005）たこつぼ型心筋症を合併した維持透析患者の一例．第50回日本透析医学会学術集会，横浜
30. 内山葉子，森　泰清，小崎篤志，山原英樹，北村哲也，来島泰秋，今田崇裕，岸本典子，福井政慶，菊池早苗，所　敏子，正木浩哉，西川光重，長原正幸（2005）CAPD患者での血漿S100A12蛋白濃度の検討　腹膜機能との関連．第50回日本透析医学会学術集会，横浜
31. 森　泰清，岸本典子，山原英樹，中田　緑，福井政慶，来島泰秋，北村哲也，今田崇裕，内山葉子，能勢敦子，所　敏子，正木浩哉，丸山弘樹，西川光重，岩坂壽二（2005）腹膜線維症に対する超音波造影剤（マイクロバブル）によるHGF遺伝子導入効果．第50回日本透析医学会学術集会，横浜
32. 山原英樹，森　泰清，岸本典子，内山葉子，菊池早苗，北村哲也，来島泰秋，今田崇裕，福井政慶，能勢敦子，早川　敬，所　敏子，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二，向山政志，横井秀基（2005）腹膜中皮細胞におけるCTGF発現glucose,TGF-αによる刺激効果．第50回日本透析医学会学術集会，横浜
33. 岸本典子，森　泰清，中田　緑，山原英樹，来島泰秋，北村哲也，今田崇裕，福井政慶，能勢敦子，内山葉子，菊池早苗，早川　敬，所敏子，正木浩哉，西川光重，岩坂壽二（2005）腹膜線維症マウスにおける腹腔内シンバスタチン投与の検討．第50回日本透析医学会学術集会，横浜
34. 森　泰清，万木孝富，山原英樹，岸本典子，能勢敦子，内山葉子，所　敏子，正木浩哉，永田登志子，梅田幸久，松原弘明，岩坂壽二（2005）Waldenstrom's Macroglobulinemiaに合併した微小変化型ネフローゼ症候群の一例．第50回日本透析医学会学術集会，横浜
35. 小森敏彦，小宮山豊，寺岡安津子，寺内里恵，宗像真智子，高橋伯夫（2005）血漿FDP測定試薬の比較検討と問題点．第6回検査血液学会学術集会，長崎
36. 森眞一郎，植村芳子，木村　卓，中道尚人，市　吉浩，中井邦久，松本憲明，全　勝浩，尼川龍一，岸本裕司，福原資郎（2005）末梢血EBV-DNA増加を伴ったEBV関連リンパ増殖疾患．第45回日本リンパ網内系学会総会，福岡
37. 原　克子，朴　幸男，広渡裕史，高橋伯夫（2005）糖尿病患者における血中セロトニン（5-hydroxytryptamine: 5-HT）濃度の動態．第48回日本臨床検査医学会近畿支部総会，滋賀
38. 原　克子，永濱　要，高橋伯夫（2005）冠攣縮性狭心症の経過観察におけるリゾホスファチジルコリン（LPC）血中濃度の推移．第45回日本臨床化学会年会・第52回日本臨床検査医学会総会連合大会，福岡
39. 原　克子，神畠　宏，高橋伯夫（2005）虚血性心疾患におけるsmall dense LDL（sdLDL）の臨床的有用性．第45回日本臨床化学会年会・第52回日本臨床検査医学会総会連合大会，福岡
40. 原　克子，朴　幸男，高橋伯夫（2005）経皮的冠動脈介入術（PCI）における血性アミロイドA蛋白（SAA）動態（心筋保護剤ニコランジル投与の効果）．第16回日本臨床化学会近畿支部総会，大阪
41. 高橋伯夫（2005）生活習慣病と高血圧．浪速区医師会生涯教育講演会，大阪
42. 高橋伯夫（2005）生活習慣病と自律神経系．寝屋川市医師会講演会，大阪
43. 高橋伯夫（2005）メタボリックシンドロームとCRP．ファイザー製薬本社勉強会で講演，東京
44. 高橋伯夫（2005）循環器領域での臨床検査の

進歩．滋賀県湖北医師会生涯教育講演会，滋賀
45. 高橋伯夫（2005）メタボリックシンドロームの臨床像と治療戦略．大阪府北区医師会生涯教育講演会，大阪
46. 高橋伯夫（2005）メタボリックシンドロームの臨床像と治療戦略．北河内地区医師会講演会，大阪
47. 高橋伯夫（2005）臓器合併症と早朝高血圧．赤穂市医師会生涯教育講演会，兵庫県
48. 高橋伯夫（2005）メタボリックシンドロームの臨床像と治療戦略について．三重県津市生活習慣病フォーラム，三重
49. 高橋伯夫（2005）メタボリックシンドロームの臨床像と治療戦略について．京都府医師会生涯教育講演会，京都
50. 高橋伯夫（2005）メタボリックシンドロームと交感神経系．北陸循環器病フォーラム，金沢
51. 高橋伯夫（2005）メタボリックシンドロームの臨床像と治療戦略．城東区医師会生涯教育講演会，大阪
52. 高橋伯夫（2005）実効性のある臨床検査の利用と医療経済への影響．神戸大学寄附講座開講1周年記念講演会，神戸

著　書

1. 小宮山豊（2005）シリーズ最新医学講座―臨床現場における薬毒物検査の実際―エディトリアル．臨床検査（小宮山豊，屋敷幹雄編）330–332頁，医学書院，東京
2. 小宮山豊（2005）シリーズ「臨床現場における薬毒物検査」の実際　第1回「試料採取から保存まで」．臨床検査（小宮山豊，屋敷幹雄編）333–341頁，医学書院，東京
3. 高橋伯夫（2005）虚血性心疾患（狭心症，心筋梗塞）a）虚血性心疾患の早期診断の検査指標：その読み方と危険因子についての解説―臨床検査医の立場から―．健康管理と臨床検査―早期診断を目指して―（神辺眞之，渡辺清明編）86–89頁，宇宙堂八木書店，東京
4. 高橋伯夫（2005）高血圧性疾患.臨床検査のガイドライン2005/2006．症候編・疾患編・検査編（日本臨床検査医学会包括医療検討委員会，厚生労働省編）238–241頁，宇宙堂八木書店，東京

救急医学科

〈研究概要〉

出血性ショックにおける高張食塩液蘇生の臓器障害防御効果とアポトーシス発現に関する実験的研究

1）出血性ショックにおけるアポトーシス発現と高張食塩液の免疫賦活作用に関する研究―高張食塩液投与により免疫抑制状態をどのように回避できるか―

出血性ショック後の蘇生に成功しても，その後にARDS（急性呼吸窮迫症候群）やMOF（多臓器不全）が発生し，死亡する症例がしばしば見られる．これには，出血性ショック後の免疫抑制状態が深く関与していると考えられ，高張食塩液の抗アポトーシス作用が免疫抑制状態を回復または回避するメカニズムの解明を行い，治療に役立てることを目標とする．

出血性ショックモデルとして，Balb/cマウスの左大腿動脈より脱血して血圧を40 mmHgに90分保つ．蘇生方法として，高張食塩液と脱血血液，2倍量の脱血血液量のラクテートリンゲル液と脱血血液，Sham群，コントロール群での，胸腺，脾臓でのアポトーシス発現と免疫抑制状態の関係を蘇生後経時的に検討する．胸腺，脾臓でのアポトーシス発現をフローサイトメトリーを用いて測定する．①胸腺，脾臓でのアポトーシス発現を凍結切片を用いて測定する．②アポトーシスが発現している細胞が，CD4かCD8のどちらの細胞が発現しているかをアポタグ染色とCD4,CD8の2重染色で検討する．③出血性ショック後にどのように制御性T細胞（$CD25^+$, $CD4^+$）がどのように発現しているかを，凍結切片の2重染色などにより観察する．④ヘルパーT細胞Th1/Th2比の不均衡状態，すなわちTh2の優位状態への偏位などが起きていないかを時間経過によりどのように変化するかを検討する．

2) iNOSノックアウトマウスを用いた重度侵襲ストレス応答とアポトーシス発現のメカニズムの解析（出血性ショックモデルと熱傷モデルにおける検討）

出血性ショックや熱傷などの重度侵襲においては，しばしば全身の重要臓器に障害をもたらす．その臓器障害にアポトーシスが関与するといわれている．出血性ショックの蘇生液として高張食塩液を投与するとラクテートリンゲル液で蘇生したときと比較して肺傷害，小腸障害，肝障害などの臓器障害を軽減することが知られている．また，ラクテートリンゲル液に比較して各臓器でのアポトーシス発現を抑制することもわかってきた．当科では，従来，iNOSノックアウトマウスを用いてLPS投与の敗血症モデルでの免疫機能への影響に関する研究を行ってきたが，今回，iNOSノックアウトマウスを用いて，重度侵襲（ストレス）モデルでの，アポトーシス発現に関するメカニズムの解析を行うことにより，将来，これら，重度侵襲ストレス後の臓器障害，臓器不全に移行するのを防ぎ，救命率をあげることを目的として研究を行う．出血性ショック後に蘇生液として高張食塩液を用いた場合には，アポトーシス発現を抑制することが解ってきたが，一方，熱傷モデルにおいては，輸液として，高張食塩液を用いた場合には，ラクテートリンゲル液に比較してむしろ，肺障害を増悪させるといわれている．最近の研究では，高張食塩液を投与する前にiNOSのinhibitorを投与することにより，増悪させる効果を減少させることが報告された．すなわち，重度侵襲下においては，臓器障害とアポトーシス発現はNOを介して深く関連していると考えられる．これら侵襲の違うモデルでのアポトーシス発現のメカニズムの解明は，重度侵襲後の臓器障害を予防，改善させ，将来これらの患者の救命率をあげることに寄与するものと考えられる．

臨床研究

1）統合失調症における過大侵襲時の生体反応

重度外傷の受傷者の場合には，過大侵襲のために，例えばストレス潰瘍などのように，種々の過剰な生体反応の結果と見られる合併症を来し，治療に難渋することが少なくない．一方，統合失調症の患者は，自損行為により例えば高所から墜落して骨折や臓器損傷などの重度の外傷を受傷していても，あるいは自損行為による腹部刺創で腸管脱出を来していても，搬入時には疼痛を訴えず，入院後の経過が順調で，合併症を併発することも少ない．統合失調症患者では侵襲に対する過度の生体反応が起きないために，合併症が少なく，予後がよいのではないかと考えている．統合失調症患者で侵襲に伴って分泌されるストレスホルモン，サイトカインを追跡し，また，患者の重症度を評価し比較，検討するため損傷形態，重症度，経過中の合併症を評価する臨床研究を継続中である．

2）急性期脊髄損傷に対する培養自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の検討．第Ⅰ–Ⅱ相臨床試験

急性期脊髄損傷患者を対象にした培養自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の臨床効果および安全性を評価する．

脊髄損傷重症例では，生涯を対麻痺のために車椅子で，あるいは四肢麻痺のためにベッド上での生活が強いられる．さらに呼吸筋麻痺のために人工呼吸器すら外せない場合もある．平成13年6月1日に厚生労働省がおこなった調査において，18歳以上の脊髄損傷患者は約10万人で毎年5,000人の患者が発生している．脊髄損傷患者の多くは介護を必要とするため，その治療法の発展は，当事者のQOLや社会参加を大きく向上させるだけでなく，介護の社会的コストを大きく削減することに繋がるものと考えられる．

従来，何らかの外傷により損傷を受けた中枢神経組織は再生せず，その機能回復は不可能とされてきた．急性期にはその損傷の程度をできるだけ小範囲にとどめるためメチルプレドニゾロンが投与されている．また，慢性期にはその残存した神経機能をできるだけ引き出すリハビリテーションが行われている．

新しい治療法の可能性として，最近，骨髄間質細胞を移植することによって中枢神経の損傷部を修復させようとする試みが報告された．共同で研究を行う京都大学の研究グループもラットから採取した骨髄から間質細胞を分離培養し，胸髄 Th 8-9 レベルに挫滅損傷を加えた別のラットへ移植する実験を行っ

てきた．損傷後急性期に損傷部へ直接移植を行った群で歩行運動の著明な改善を認めた．しかし，ヒトへの応用を考えた場合には，脊髄の実質内に細胞を注入するのは危険性が高く，注入操作そのものにより新たな損傷が発生する可能性がある．一つの解決案として，細胞を脳脊髄液中に投与することが考えられる．ラット骨髄間質細胞を第四脳室内に投与する実験で，移植した群では神経学的な回復が認められており，組織学的にも脊髄損傷の程度が軽く損傷部位の空洞の形成が少ない結果が認められた．この回復は移植細胞からの活性物質によるものと考えられるが，その詳細は未だ不明である．移植された細胞は，初期には損傷部位内部に認められるが，1か月以上生存する細胞はごく少数しか存在せず，移植された細胞が長期間生着することが神経機能の回復にとって必須でないことが示唆される．また，移植された細胞は初期には脊髄の表面に広く分布していたが，それは時間とともに減少傾向にあったので，ES細胞移植時に問題となっているような腫瘍化などの危険性もほとんど考えられない．

骨髄間質細胞移植以外の脊髄損傷治療として諸外国においても細胞治療の開発が行われている．脳由来神経幹細胞を用いた治療法については，動物実験で，移植細胞が神経系の細胞に分化したという報告がある．臨床的な利用を考えると，本人からの中枢神経由来の幹細胞の採取は現実的には難しい．また中絶ヒト胎児由来の幹細胞や胚性幹細胞（ES cell）を利用する場合には，倫理的な問題や拒絶反応の問題は避けられず，免疫抑制薬が必要となれば二次的な副作用も生じうる．またウィルス，プリオン等の感染の危険性もある．また，患者自身のマクロファージを培養し活性化してから骨髄損傷部へ直接移植する方法や，鼻粘膜より採取し培養した嗅球の神経細胞を取り巻くグリア細胞（OEG）を骨髄損傷部へ直接移植する方法が，実際にヒトへの臨床応用として行われている．これらの治療法はまだ実験段階であり，有効性および安全性が検証されたものではない．加えて，これらの細胞の移植には，損傷部位の脊椎の椎弓切除を行って損傷部の脊髄実質内に直接，細胞を注入する方法が不可欠である．

一方，今回われわれが提案する骨髄間質細胞の移植は，“脳脊髄液中への培養細胞の投与が有効である”というこれまで京都大学の研究グループで行ってきた研究結果をふまえて，通常の腰椎穿刺の手技を使って脳脊髄液中に細胞を投与するため，諸外国で行われている臨床実験と比較しても，患者への侵襲が少なく，より危険性の少ない優れた方法であると考えている．

臨床応用に向けて，脊損ラットでの効果確認と健常サルでの安全試験は行ったものの，ヒトでの安全試験や当然ながら効果は未確認であることなどの倫理的な問題などを注意深く検討し，患者団体とも接触して膨大な計画書を作成してきた．倫理委員会の承認が2005年7月1日に得られたことから，患者団体への説明会などを経て，すでに臨床試験を開始している．

〈研究業績〉

原　著

1. Miki S, Takeyama N, Tanaka T and Nakatani T（2005）Immune dysfunction in endotoxicosis: Role of nitric oxide produced by inducible nitric oxide synthase. Critical Care Medicine 33: 716–720
2. 沖井　裕，河本圭司，赤根　敦，岩瀬正顕，吉岡正太郎，大石哲也，中谷壽男（2005）脳波自動解析システムを用いた平坦脳波の経時的に解析した一例．Neurosurgical Emergency 10: 107–110
3. 奈女良昭，屋敷幹雄，中谷壽男（2005）青酸化合物．中毒研究　18 : 87–90
4. 三木重樹，田中孝也，山本　透，津田雅庸，北澤康秀，中谷壽男（2005）嚢胞内出血と破裂を繰り返した脾嚢胞の1例．日本臨床救急医学会雑誌　8 : 13–16
5. 中谷壽男（2005）特集：緊急病態　外傷　命にかかわる損傷を見逃すな！　レジデントノート　7 : 64–69
6. 北澤康秀（2005）脾損傷．今日の治療方針 47 : 47
7. 中谷壽男（2005）AKBR．救急医学　29 : 390
8. 中谷壽男（2005）6・7・4 破傷風・ガス壊疽．研修医のための感染症クリニカルガイダンス　242–243
9. 平川昭彦，中谷壽男（2005）13A　重症患者のモニタリング．臨床医　増刊号　必携診療マニュアル　31 : 1120–1123

10. 平川昭彦，中谷壽男（2005）蘇生時の薬の使い方．臨床医　増刊号　必携診療マニュアル 31 : 1124–1127
11. 中谷壽男（2005）巻頭言　学会活動と委員会活動．日本外傷学会雑誌　19 : 巻頭
12. 中谷壽男（2005）巻頭言　救急救命士による薬剤投与への期待．救急医療ジャーナル　13 : 巻頭
13. 中谷壽男（2005）急性脊髄損傷に対する再生医療―臨床応用への取組の現状と課題．理学療法　22 : 1532–1538

総　説

1. 中谷壽男，山本保博（2005）急性中毒．今日の治療方針　47 : 1121–1149
2. 中谷壽男（2005）急性中毒の一般的治療法の進歩．Current Therapy　カレントテラピー 23 : 91–92
3. 中谷壽男（2005）特集・緊急時の気道確保の方法　気道の確保．ENTONI 1–6

学会発表

1. 中谷壽男（2005）急性中毒．平成17年度北河内・中河内ブロック合同救急医療研修会，大阪
2. 中谷壽男（2005）救命救急センターに於ける脊髄治療の現状．脊髄再生の臨床試験計画に関する懇談会，東京
3. 中谷壽男（2005）救命医療における最近の話題　(I) 心肺蘇生法　(II) 身近な中毒への対応．久世郡学術講演会，京都
4. 中谷壽男（2005）歯科治療緊急時の対応．守口歯科医師会「三支部役員連絡協議会」，守口
5. 中谷壽男（2005）救急医療―新しくなった心肺蘇生法と身近な中毒を中心に．平成17年度京都外科医会，京都
6. Iwase M, Yoshioka S, Kanzaki S, Tanaka T, Nakatani T and Kawamoto K（2005）Intensive care for the severe closed head injury. 3rd World Congress of the Academy for Multidisciplinary Neurotraumatology, 名古屋
7. 岩瀬正顕，矢吹　輝，中谷健治，吉岡正太郎，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2005）重症脊髄損傷例の急性期管理．第10回日本脳神経外科救急医学会，東京
8. 武山直志，三木重樹，矢吹　輝，田中孝也，中谷壽男（2005）Immunoparalysis に対する臨床ならびに基礎的検討．第32回日本集中治療医学会学術集会，東京
9. 石倉宏恭，梶本心太郎，平川昭彦，西田久史，山口高史，矢吹　輝，津田雅庸，中谷壽男（2005）胃十二指腸潰瘍穿孔保存療法の標準化―クリニカルパス導入による治療戦略―．第41回日本腹部救急医学会総会，名古屋
10. 岩瀬正顕，吉岡正太郎，田中孝也，中谷健治，中谷壽男，河本圭司（2005）一過性情動障害と側頭葉内側障害．第28回日本神経外傷学会，埼玉
11. 藤井弘史，梶本心太郎，齊藤福樹，宮崎秀行，津田雅庸，矢吹　輝，三木重樹，平川昭彦，中村誠也，岩瀬正顕，山本　透，武山直志，田中孝也，中谷健治，中谷壽男（2005）救急医療現場におけるA型急性大動脈解離治療の問題点．第91回近畿救急医学研究会，神戸
12. 中谷健治，中村誠也，吉岡正太郎，矢吹　輝，山本　透，田中孝也，中谷壽男（2005）小児両側大腿骨頸部内側骨折の1例．第8回日本臨床救急医学会総会，東京
13. 岩瀬正顕，松島貴志，吉岡正太郎，中谷健治，中村誠也，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2005）頭皮・頭蓋欠損例に対する急性期頭蓋再建術の術式と問題点．第8回日本臨床救急医学会総会，東京
14. 北澤康秀，山本　透，三木重樹，中谷健治，中谷壽男（2005）メディカルコントロール制度と病院選定．第8回日本臨床救急医学会総会，東京
15. 岩瀬正顕，吉岡正太郎，田中孝也，中谷壽男，河本圭司（2005）高血圧性脳出血を発症した慢性維持透析患者治療の現状．第30回日本脳卒中学会総会，岩手
16. 中谷健治，中村誠也，齊藤福樹，山本　透，田中孝也，中谷壽男（2005）外傷性多発肋骨骨折症例に対する観血的肋骨固定法の治療経験．第19回日本外傷学会，東京
17. 小宮山　豊，吉賀正亨，北澤康秀，中谷壽男，小亀浩市，宮田敏行，高橋伯夫（2005）FRETS-VWF73によるADAMTS13活性測定と臨床検査―プレートおよび標準血漿―．第52回日本臨

床検査医学会総会，福岡

18. 中村誠也，飯田寛和，中谷健治，中谷壽男（2005）本院救命センターにおけるcircular型創外固定器を用いた開放骨折治療について．第31回日本骨折治療学会，富山
19. 杉本達也，平川昭彦，村尾佳則，波柴尉充，梶本心太郎，岩瀬正顕，中谷壽男，吉田常孝，織田裕行，加藤正樹，木下利彦（2005）自殺企図図例における救命救急センター常勤精神科医の役割．第27回日本中毒学会総会・学術集会，東京
20. 中村誠也，飯田寛和，中谷健治（2005）術後の骨，間接感染に対するイリザロフ法を用いた一期的短縮，漸次延長による治療．第18回日本創外固定・骨延長学会，東京
21. 杉本達哉（2005）精神科救急医療．第1回北河内精神科救急研究会，守口
22. 岩瀬正顕，浅井　悌，吉岡正太郎，梶本心太郎，平川昭彦，中谷壽男，河本圭司（2005）院外心肺停止に対する脳低温療法の現状．第33回日本救急医学会総会・学術集会，東京
23. 岩瀬正顕（2005）高度救命センターにおける複合外傷救急体制の現状―脳神経外科医に求められるもの―．第64回日本脳神経外科学会総会，東京
24. 武山直志，矢吹　輝，中谷壽男，田中孝也，野口　宏（2005）侵襲状態下における免疫異常―基礎ならびに臨床的検討．第20回日本救命医療学会総会，東京
25. 梶本心太郎，平川昭彦，岩瀬正顕，山本　透，村尾佳則，中谷壽男（2005）特発性食道破裂に対し開腹的アプローチ経腹的Tチューブ留置，有茎大網弁被覆術が有効であった1例．第67回日本臨床外科学会総会，東京
26. 平川昭彦，梶本心太郎，岩瀬正顕，山本　透，村尾佳則，中谷壽男（2005）腹部刺創症例の検討．第67回日本臨床外科学会総会，東京
27. 杉本達哉，平川昭彦，織田裕行，波柴尉充，梶本心太郎，南 智久，吉田常孝，加藤正樹，岩瀬正顕，村尾佳則，木下利彦，中谷壽男（2005）救命救急センターにおける常勤精神科医（リエゾン医）の役割．第33回日本救急医学会総会・学術集会，埼玉
28. 藤原弘佳，藤井弘史，梶本心太郎，齊藤福樹，平川昭彦，山本　透，北澤康秀，武山直志，田中孝也，今村洋二，中谷壽男（2005）四肢塞栓症を初発とした心房細動に伴う塞栓症例の結構再建術後経過．第33回日本救急医学会総会・学術集会，埼玉
29. 平川昭彦，梶本心太郎，藤井弘史，岩瀬正顕，山本　透，村尾佳則，中谷壽男（2005）食道穿孔・破裂の診断と治療．第33回日本救急医学会総会・学術集会，埼玉
30. 梶本心太郎，田中孝也，武山直志，藤井弘史，平川昭彦，山本　透，村尾佳則，中谷壽男（2005）腹部大動脈瘤破壊における腸管虚血症の内視鏡的検討．第33回日本救急医学会総会・学術集会，埼玉
31. 村尾佳則，北澤康秀，山本　透，平川昭彦，矢吹　輝，齊藤福樹，中谷壽男，奥地一夫（2005）出血性ショックにおけるHypertonic salineの臓器障害防御果―臓器による時間的差異について―．第33回日本救急医学会総会・学術集会，埼玉
32. 藤井弘史，田中孝也，武山直志，山本　透，北澤康秀，梶本心太郎，岩瀬正顕，齊藤福樹，宮崎秀行，平川昭彦，中谷健治（2005）急性A型大動脈解離に対する腋窩動脈送血と大腿動脈送血の比較検討．第33回日本救急医学会総会・学術集会，埼玉
33. Tsuda M, Inaba M, Sakaguti Y, Fukui J, Ueda Y, Takada K, Ri M, Guo K.Nakatani T and Ikehara S（2005）Analyses of Mechanism Underlying Granulocyte Activation by Dendritic. 第35回日本免疫学会総会，横浜
34. 波柴尉充，梶本心太郎，平川昭彦，杉本達哉，村尾佳則，北澤康秀，中谷壽男（2005）上肢からのスタンドプラスターによるair injectionにより縦隔気腫を生じた1例．第12回河内救急医療懇談会，大阪

著　書

1. 中谷壽男（2005）I.学術研究活動への支援．病院前救護とメディカルコントロール（小林国男編）273–277頁，医学書院，東京

輸血部

〈研究概要〉

1. 同種血，自己血輸血に関する研究

緊急輸血症例を解析し，運用体制や臨床的な問題点を検討している．また，輸血副作用症例や自己血輸血症例の解析検討も実施している．

輸血検査の自動化システムを導入し，従来法と比較検討をすることにより，合理的な運用体制について検討している．また，不規則抗体検査などの輸血検査の標準化や合理化についても検討している．

これらの業務の電子カルテ化を構築したが，その運用上の問題点についても検討している．

2. 細胞療法やHLA検査に関する研究

同種および自己造血幹細胞移植の造血幹細胞の採取・評価・保存を実施しており，これらの所見と臨床経過との関連について検討している．また，移植症例の同種抗体（HLA抗体，血小板抗体）について，移植後の免疫能や臨床所見との関連から検討している．

〈研究業績〉

原　著

1. Kaibori M, Kishimoto Y, Yanagida H, Yokoigawa N, Yamamoto H, Kitade H, Fukuhara S, Egawa H, Tanaka K and Kamiyama Y（2005）Living donor liver transplantation in a recipient with anti-Fya and Jka antibodies. Hepato-Gastroenterology 52 : 610–612
2. Miyawaki S, Sakamaki H, Ohtake S, Emi N, Yagasaki F, Mitani K, Matsuda S, Kishimoto Y, Miyazaki Y, Asou N, Matsushima T, Takahashi M, Ogawa Y, Honda S and Ohno R（2005）A randomized, postremission comparison of four courses of standard-dose consolidation therapy without maintenance therapy versus three courses of standard-dose consolidation with maintenance therapy in adults with acute myeloid leukemia. Cancer 104 : 2726–2734
3. Nakamura K, Amakawa R, Takebayashi M, Son Y, Miyaji M, Tajima K, Nakai K, Ito T, Matsumoto N, Zen K, Kishimoto Y and Fukuhara S.（2005）IL-4-producing CD8+ T cells may be an immunological hallmark of chronic GVHD. Bone Marrow Transplantation 36 : 639–647
4. 岸本裕司，岡前文子，寺嶋由香利，有元美代子，細川美香，阿部　操，山岡　学，大谷哲司，寺西節子，宗像眞智子，高橋伯夫，福原資郎（2005）交差適合試験を実施しない時間外緊急輸血マニュアル．日本輸血学会雑誌 51 : 571–577
5. 細川美香，岸本裕司，阿部　操，山岡　学，大谷哲司，松崎龍典，寺西節子，福原資郎（2005）当院における貯血式自己血輸血の現況と課題．自己血輸血　18 : 84–90
6. 中道尚人，中井邦久，田嶋健一郎，谷川　昇，松本憲明，全　勝浩，野村昌作，岸本裕司，尼川龍一，澤田　敏，福原資郎（2005）ステロイド難反応性の急性移植片対宿主病（acute graft-versus-host disease: aGVHD）に対する局所的ステロイド動脈内注入療法．無菌生物 35 : 127–130

総　説

1. 岸本裕司（2005）慢性骨髄性白血病の最新治療．血液診療　3 : 32–37

学会発表

1. 岸本裕司，岡前文子，寺嶋由香利，有元美代子，細川美香，阿部　操，山岡　学，大谷哲司，寺西節子，福原資郎（2005）交差適合試験を実施しない時間外緊急輸血の検討．第53回日本輸血学会総会，千葉
2. 坂尾将幸，廣原淳子，高橋　悠，上ノ山由理，梅原秀人，池田耕造，是枝ちづ，関　寿人，岡崎和一，植村芳子，岸本裕司，海堀昌樹，上山泰男（2005）肝移植を施行した自己免疫性溶血性貧血合併原発性胆汁性肝硬変の1例．第36回日本肝臓学会西部会，三重

3. 森眞一郎，植村芳子，木村　卓，中道尚人，市　吉浩，中井邦久，松本憲明，全　勝弘，尼川龍一，岸本裕司，福原資郎（2005）末梢血EBV-DNA増加を伴った加齢性EBV関連リンパ増殖疾患．第45回日本リンパ網内系学会総会，福岡
4. 岸本裕司（2005）輸血副作用の現状とその対応　輸血後感染症と遡及調査．第49回日本輸血学会近畿支部総会　シンポジウム，豊中
5. 谷岡理恵，宮地理彦，森眞一郎，中道尚人，中井邦久，松本憲明，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2005）発症時より形質細胞腫を合併したCasleman病の1例．第177回日本内科学会近畿地方会，大阪
6. 中道尚人，尼川龍一，松崎恒一，植村芳子，中井邦久，松本憲明，森眞一郎，全　勝弘，岸本裕司，福原資郎（2005）H. Pylori除菌療法により消退した耳下腺MALTリンパ腫の1例．第67回日本血液学会総会・第47回日本臨床血液学会総会合同総会，横浜
7. 中道尚人，中井邦久，田嶋健一郎，谷川昇，松本憲明，全　勝浩，野村昌作，岸本裕司，尼川龍一，澤田　敏，福原資郎（2005）ステロイド難反応性の急性移植片対宿主病（acute graft-versus-host disease: aGVHD）に対する局所的ステロイド動脈内注入療法．第38回日本無菌生物ノートバイオロジー学会総会，大阪
8. 寺西節子，岸本裕司，寺嶋由香利，有元美代子，細川美香，阿部　操，岡前文子，山岡学，大谷哲司，松崎龍典，福原資郎（2005）ABO異型血小板輸血の経験．第53回日本輸血学会総会，千葉
9. 中村謙吾，森眞一郎，藤田真也，中道尚人，谷岡理恵，中井邦久，宮地理彦，松本憲明，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2005）間質性肺炎を伴ったリンパ形質細胞性リンパ腫の一例．第84回近畿血液学地方会，滋賀
10. 藤田真也，森眞一郎，中道尚人，谷岡理恵，中井邦久，宮地理彦，松本憲明，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2005）EBV関連肝原発リンパ腫の一剖検例．第83回近畿血液学地方会，大阪
11. 藤田真也，森眞一郎，中道尚人，谷岡理恵，中井邦久，宮地理彦，松本憲明，岸本裕司，尼川龍一，福原資郎（2005）局所放射線療法およびリツキシマブ維持療法が奏効した膿胸関連リンパ腫の一例．第178回日本内科学会近畿地方会，京都
12. 大谷哲司，岸本　司，寺嶋由香利，有元美代子，細川美香，阿部　操，岡前文子，山岡学，寺西節子，福原資郎（2005）細胞療法のオーダリング化と管理システムの導入．第49回日本輸血学会近畿支部総会，豊中

著　書

1. 岸本裕司（2005）濃厚血小板を輸血後，供血者がHBV NAT陽性と判明した症例．症例に学ぶEBM指向輸血検査・治療（大戸　斉編）177–180頁，医歯薬出版株式会社，東京

男山病院内科

〈研究概要〉

循環器・内分泌内科および消化器内科を研究テーマとし，現在，睡眠時無呼吸と心疾患，特に心不全と心房細動に関する研究を行っている．一つは心不全患者の非薬物治療として，中枢性無呼吸の改善目的で非侵襲的陽圧換気療法（Noninvasive positive pressure ventilation: NPPV）を行い，睡眠時無呼吸・心機能・交感神経活性等の改善効果を評価している．また，持続性心房細動患者における睡眠時無呼吸の頻度や重症度を携帯式長時間記録パルスオキシメーターを用いて評価している．

〈研究業績〉

総　説

1. 小糸仁史（2004）書評：循環器疾患治療スタンダード2004–2005．内科専門医会誌　16: 577
2. 小糸仁史（2005）心不全とNPPV．ICUとCCU 29: 189–199

3. 小糸仁史（2005）認定内科専門医のためのトピックシリーズ40　循環器　たこつぼ心筋障害（たこつぼ心筋症）．内科専門医会誌　17: 41–48

学会発表

1. Koito H, Kohno K, Maruyama K, Morita S and Yutaka H（2004）Long-term effects of domiciliary noninvasive positive pressure ventilation（NPPV）on sleep apnea, cardiac function and sympathetic nervous activity in stable congestive heart failure. 70th CHEST, Seatle, USA
2. Koito H, Kohno K, Morita S and Yutaka H（2005）Long-term effects of bilevel noninvasive positive pressure ventilation on sleep apnea and heart rate variability in stable congestive heart failure. 71th CHEST, Montreal, Canada
3. 小糸仁史，河野啓子，丸山勝也，森田　哲，豊　　紘，岩坂壽二（2004）ステロイド療法にて完全房室ブロックが改善した心サルコイドーシスの2症例―その病態と管理―．第52回　日本心臓病学会学術集会，京都
4. 小糸仁史，河野啓子，丸山勝也，森田　哲，豊　　紘，岩坂壽二（2004）安定うっ血性心不全患者における睡眠時無呼吸，交感神経活性，心拍変動に対する酸素療法，Bilevel NPPV，CPAPの急性効果．第52回　日本心臓病学会学術集会，京都
5. 小糸仁史，河野啓子，丸山勝也，森田　哲，豊　　紘，岩坂壽二（2004）安定うっ血性心不全患者におけるBilevel非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）の長期効果―中枢性および閉塞性無呼吸での検討―．第52回　日本心臓病学会学術集会，京都
6. 松井由美恵，吉長正博，荘田容志，片嶋　隆，佐藤大祐，唐川正洋，小糸仁史（2004）前中隔潜在性副伝導路に対して高周波カテーテル・アブレーションを施行した一例．第98回日本循環器学会近畿地方会，京都
7. 浮田千津子，宮崎浩志，手越久敬，田中　亨，福田　瓦，西川光重（2005）たこつぼ心筋障害を呈したACTH単独欠損症の1例．第78回日本内分泌学会学術総会，東京
8. 梅井菜央，小糸仁史，池上智子，河野啓子，浮田千津子，森田　哲，豊　　紘（2005）甲状腺機能低下症および大動脈炎を合併した混合性結合組織病．第177回　日本内科学会近畿地方会，大阪
9. 小糸仁史，河野啓子，森田　哲，豊　　紘，岩坂壽二（2005）安定うっ血性心不全患者における長期在宅NPPVの睡眠時無呼吸，心機能，心拍変動に対する効果．第53回　日本心臓病学会学術集会，大阪
10. 池上智子，浮田千津子，河野啓子，森田　哲，小糸仁史，豊　　紘（2005）未治療の糖尿病に合併した気腫性腎盂腎炎の1例．第178回日本内科学会近畿地方会，京都

著　書

1. 小糸仁史（2005）やってみようよ！ 心エコー．インターメデイカ　1–18頁，東京

男山病院外科

〈研究業績〉

原　著

1. Sato M, Hamada Y, Takada K, Tanano A, Tokuhara K and Hatano T（2005）Thoracoscopic diaphragmatic procedures under artifical preumothorax. Pediatr Surg Int 21: 34–38
2. Tsujita-Kyutoku M, Danbara N, Yuri T, Nikaido Y, Hatano T and Tsubura A（2005）The Japanese Society for Clinical Molecular Morphology Basal cell carcinoma arising from a keratinous cyst of the skin; a case report and review of the literature. Med. Mol. Morphol 38: 130–33
3. 佐藤正人，浜田吉則，高田晃平，畑埜武彦（2005）特集　小児に対する内視鏡下手術―up to date―腸重積症治療における腹腔鏡下手術．日本内視鏡外科学会雑誌　10(3): 284–288
4. 山道啓吾，小松優治，坂井田紀子，中井宏治，中根恭司，上山泰男（2005）食道アカラシア

に合併した広範な多発食道癌の1例．手術 59(13)：2001–2005

学会発表

1. Hamada Y, Tanano A, Takada K, Tokuhara K and Sato M（2005）Total excision of the extrahepatic bile duct should be performed for pancreaticobiliary maljunction with nondilated common bile duct. British Association of paediatric surgeons 52nd Annual International Congress, Dublin, Ireland
2. 佐藤正人，浜田吉則，高田晃平，小切匡史，畑埜武彦（2005）腹腔鏡下脾臓摘出術における合併症予防．第42回日本小児外科学会総会，幕張
3. 二階堂任，小松優治，二階堂泰資，小路徹二，是枝　敬，松岡洋一郎，植村芳子，畑埜武彦，螺良愛郎（2005）乳腺葉状腫瘍の臨床病理学的検討．第13回日本乳癌学会総会，倉敷
4. 山道啓吾，浅井　晃，道浦　拓，小松優治，田中義人，神原達也，中野雅貴，中井宏治，井上健太郎，中根恭司（2005）胸部下部食道癌に対する外科治療．第60回日本消化器外科学会定期学術総会，東京
5. 山道啓吾，浅井　晃，道浦　拓，小松優治，田中義人，神原達也，中野雅貴，中井宏治，井上健太郎，中根恭司（2005）Stage II，III食道癌に対する治療法の選択．第59回日本食道学会学術集会，千葉
6. 佐藤正人，小松優治，二階堂任，畑埜武彦，崔　信明，端　里香，中村彰利（2005）Congenital hemangiopericytomaの1例．第41回日本小児外科学会近畿地方会，和歌山
7. 佐藤正人，小松優治，二階堂任，畑埜武彦，小切匡史（2005）反復性腹痛に対する腹腔鏡手術．PSJM2005　第25回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会，新潟
8. 山道啓吾，道浦　拓，中井宏治，小松優治，田中義人，神原達也，金　成泰，井上健太郎，浅井　晃，中根恭司（2005）食道癌化学放射線療法施行症例における三領域郭清術の意義．第67回日本臨床外科学会総会，東京
9. 佐藤正人，浜田吉則，高田晃平，棚野晃秀，畑埜武彦（2005）小児腸重積症に対する腹腔鏡下手術．第67回日本臨床外科学会総会，東京
10. 佐藤正人，浜田吉則，高田晃平，畑埜武彦（2005）胸腔鏡下横隔膜経験例の標準術式と中期成績．第18回日本内視鏡外科学会，東京
11. 松岡洋一郎，二階堂泰資，北川陽子，高取聡，宇波　明，大石裕司，堀伸二郎，畑埜武彦，螺良愛郎（2005）植物エストロゲンの乳癌抑制効果に関する基礎的研究．第13回日本乳癌学会総会，倉敷
12. 増田慎三，古妻嘉一，中谷守一，松並展輝，古川順康，中島　直，竹川直哉，本田育子，田口哲也，西　敏夫，畑埜武彦，寺田　央，弥生恵司（2005）乳がん検診の現状と課題．第15回乳癌検診学会総会，倉敷
13. 桜本和人，山道啓吾，植村芳子，中野雅貴，浅井　晃，道浦　拓，小松優治，田中義人，中井宏治，神原達也，井上健太郎，中根恭司（2005）胃転移を伴った進行食道癌の1例．第59回日本食道学会学術集会，千葉
14. 田中義人，山道啓吾，小松優治，石崎守彦，道浦　拓，浅井　晃，中根恭司（2005）サルベージ手術を施行後に気管壊死をきたした頸部食道癌の2症例．第59回日本食道学会学術集会，千葉
15. 道浦　拓，小松優治，神原達也，田中義人，中井宏治，井上健太郎，山道啓吾，中根恭司（2005）当科における局所進行食道癌の治療成績．第59回日本食道学会学術集会，千葉
16. 中野誠人，山道啓吾，植村芳子，道浦　拓，小松優治，田中義人，中野雅貴，中井宏治，井上健太郎，浅井　晃，中根恭司，上山泰男（2005）傍食道気管支嚢腫の1例．第59回日本食道学会学術集会，千葉
17. 小松優治，佐藤正人，二階堂任，畑埜武彦（2005）完全直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術．第67回日本臨床外科学会総会，東京
18. 小松優治，佐藤正人，二階堂任，畑埜武彦（2005）胆嚢カルチノイドの一例．第178回近畿外科学会，大阪

男山病院眼科

〈研究業績〉

原　著

1. 小林香陽，藤関義人，高橋完二，松村美代（2006）B群溶連菌による心内膜炎が原因であった内因性転移性眼内炎．日眼会誌　110: 199–204

学会発表

1. Fujiseki Y, Nambu H, Matsunaga H, Nishimura T and Matsumura M（2005）A patient with Klebsiella endophthalmitis successfully treated by vitrectomy. 15th Congress of the European Society of Ophthalmology, Berlin
2. 小林香陽，酒井明美，藤関義人，松島正史（2005）経過中に脈絡膜新生血管を認めた原田病の1例．第34回関西医大眼科同窓会学会，大阪
3. 小林香陽，酒井明美，藤関義人，松島正史（2005）経過中に脈絡膜新生血管を認めた原田病の1例．関西医大眼科同窓会学会，大阪

男山病院麻酔科

〈研究業績〉

原　著

1. Asai T, Matsumoto S, Shingu K, Noguchi T and Koga K（2005）Use of the laryngeal tube after failed laryngeal mask airway. Anaesthesia 60: 825–826
2. 宇田良子，池田栄浩，村尾浩平，松本早苗，中尾慎一，新宮　興（2005）カルボプラチンの腹腔内投与直後にアナフィラキシー反応を呈した一例．日本臨床麻酔学会誌　25: 18–21
3. 國司優美，池田栄浩，呉本善聡，村尾浩平，中尾慎一，新宮　興（2005）気管チューブとLコネクタの脱着が不能であった症例．麻酔　54: 518–521

学会発表

1. 松本早苗，浅井　隆，加藤　晶，森山　享，新宮　興（2004）小児横隔膜疾患に対する胸腔鏡手術の麻酔管理経験．第51回日本麻酔科学会総会，愛知
2. 松本早苗，浅井　隆，加藤　晶，新宮　興（2004）Edward症候群の全身麻酔管理経験．第24回日本臨床麻酔学会総会，大阪
3. 松本早苗，加藤　晶，浅井　隆，新宮　興（2005）ポーテックス社製新型カテーテルの挿入の容易度と合併症の検討．第52回日本麻酔科学会総会，兵庫
4. 松本早苗（2005）星状神経節ブロックが有効と思われたアトピー性皮膚炎の1例. 第11回近畿ペインクリニック症例検討会，大阪
5. 松本早苗，浅井　隆，加藤　晶，新宮　興（2005）星状神経節ブロックが有効と思われたアトピー性皮膚炎の1例. 第51回日本麻酔科学会関西地方会，滋賀
6. 姜　信許，松本早苗，浅井　隆，新宮　興（2005）トゥルービュー喉頭鏡が有用であった開口障害による挿管困難の一例．第25回日本臨床麻酔学会総会，大阪
7. 岡本明久，松本早苗，浅井　隆，新宮　興（2005）腰椎手術中の循環制御が困難であった未診断の褐色細胞腫の一例．第25回日本臨床麻酔学会総会，大阪
8. 松本早苗，加藤　晶，池上智子（2005）救急救命士気管挿管実習の指導経験. 第3回関西医科大学男山病院勉強会，京都